



札幌医科大学教学 IR データブック 2023

札幌医科大学医療人育成センター統合 IR 部門

札幌医科大学教学 IR データブック 2023

札幌医科大学医療人育成センター統合 IR 部門

Table of contents

1. 巻頭に寄せて	5
2. 教員	6
2.1. 性別	6
2.1.1. 人数	6
2.1.2. 女性教員比率	7
2.2. 年齢	8
2.2.1. 人数	8
2.2.2. 若手教員比率	9
3. 教員学生比 (ST 比)	10
4. 入試	11
4.1. 性別ごと	11
4.1.1. 人数	11
4.1.2. 女子学生比率	12
4.1.3. 合格率	13
4.2. 道内外	14
4.2.1. 人数	14
4.2.2. 道内出身者比率	15
4.2.3. 合格率	16
4.3. 現役と既卒	17

4.3.1. 人数	17
4.3.2. 現役学生比率	18
4.3.3. 合格率	19
4.4. 共通テスト（センター試験）	20
4.4.1. 点数	20
4.4.2. 全国平均点との差	21
5. 在学生	22
5.1. 在籍人数	22
5.2. 女子学生比率	23
5.3. 定員充足率	24
5.4. 留年人数と留年率	25
5.5. 奨学金等人数と受給率	26
5.6. 卒業率	27
6. 国家試験	28
6.1. 人数	28
6.1.1. 新卒	28
6.1.2. 既卒	29
6.1.3. 新卒と既卒の合計	30
6.2. 合格率	31
6.2.1. 新卒	31
6.2.2. 既卒	32
6.2.3. 新卒と既卒の合計	33
7. 卒業後状況 初期研修・就職・進学先	34
7.1. 両学部	34

7.1.1 卒後進路の道内外（新卒者のみ）人数	34
7.1.2 卒後進路の道内比率（新卒者のみ）	35
7.2. 医学部	36
7.2.1. 初期研修先が道内の卒業生のみ、かつ新卒者のみのデータ	36
7.2.2. 初期研修先 一覧	38
7.3. 保健医療学部	39
7.3.1. 人数内訳	39
7.3.2. 就職・進学先 一覧（看護学科）	40
7.3.3. 就職・進学先 一覧（理学療法学科）	41
7.3.4. 就職・進学先 一覧（作業療法学科）	42
8. アンケート結果	43
8.1. 医学部	43
8.1.1. 新入生アンケート調査結果	43
8.1.2. 在学生アンケート調査結果	49
8.1.3. 卒業生（自己評価）アンケート調査結果	63
8.1.4. 卒業生（他者評価）アンケート調査結果	65
8.2. 保健医療学部	72
8.2.1. 新入生調査報告書	72
8.2.2. 在学生調査報告書	104
8.2.3. 卒業生・雇用者調査報告書	136
9. IR 活動年間スケジュール	167
10. 分野別作成担当者リスト	168
11. あとがき	169
索引	170

1. 巻頭に寄せて

データブックの2023年度版の出版にたどり着いた。まずはご尽力いただいた関係者に御礼申し上げます。

大学内に流れているデータをまとめるという作業には二つの意味がある。一つ目の意味は、現在の大学のありのままを明らかにすること、もう一つとしては、そのデータを集める事により、「大学として大切に思っていること」を伝える意味である。後者は特に大切である事から、大学の理念や精神との関係を整理して評価・測定項目は設定されなければいけない。

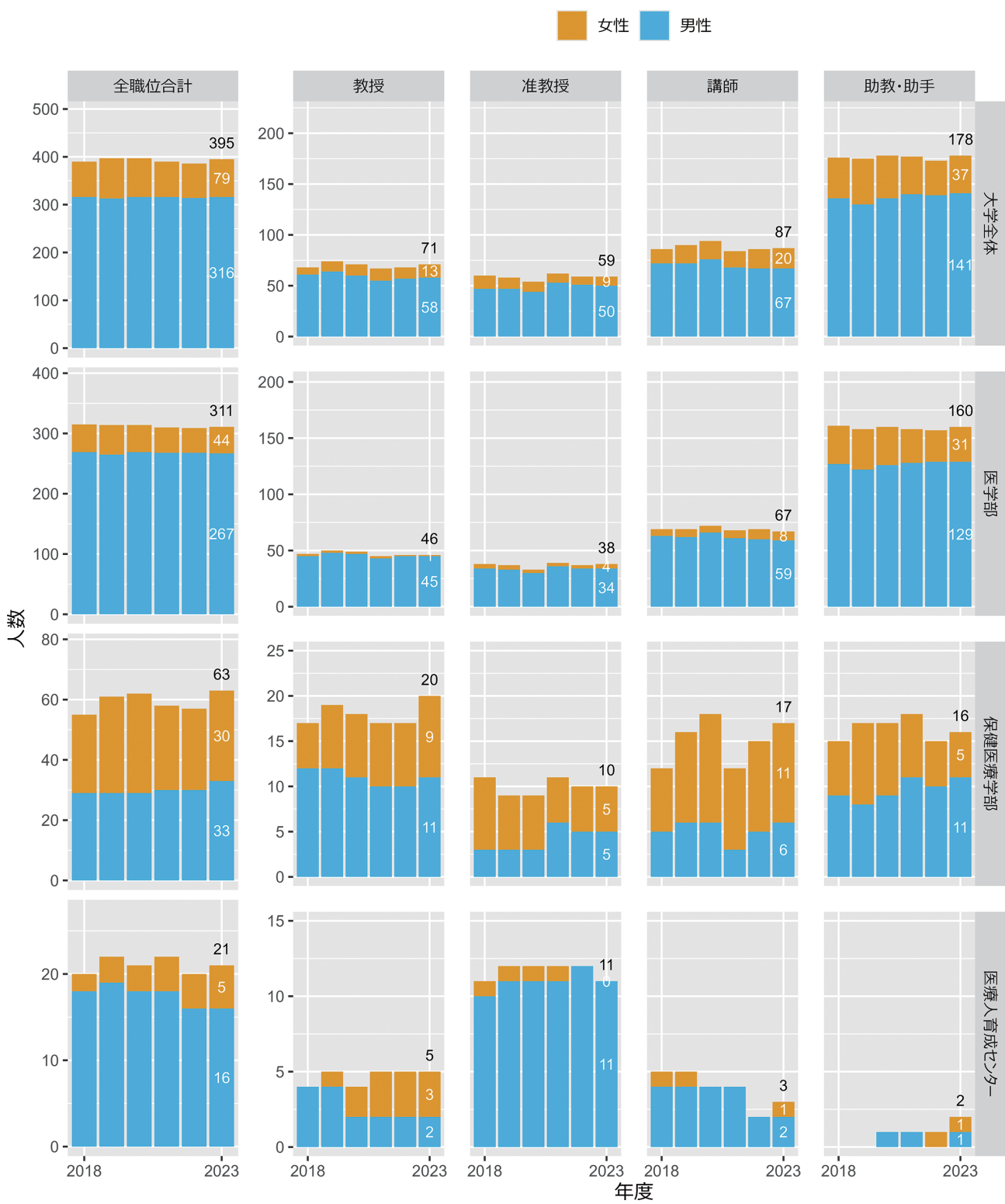
また、この2つの意味から言えば、IR組織や評価・測定に関する流れは公平性や透明性が担保されなければいけない。この事を踏まえて、今後も研鑽を重ね、より良いデータブックの出版へと繋げていきたい。

統合 IR 部門長 辻 喜久

2. 教員

2.1 性別

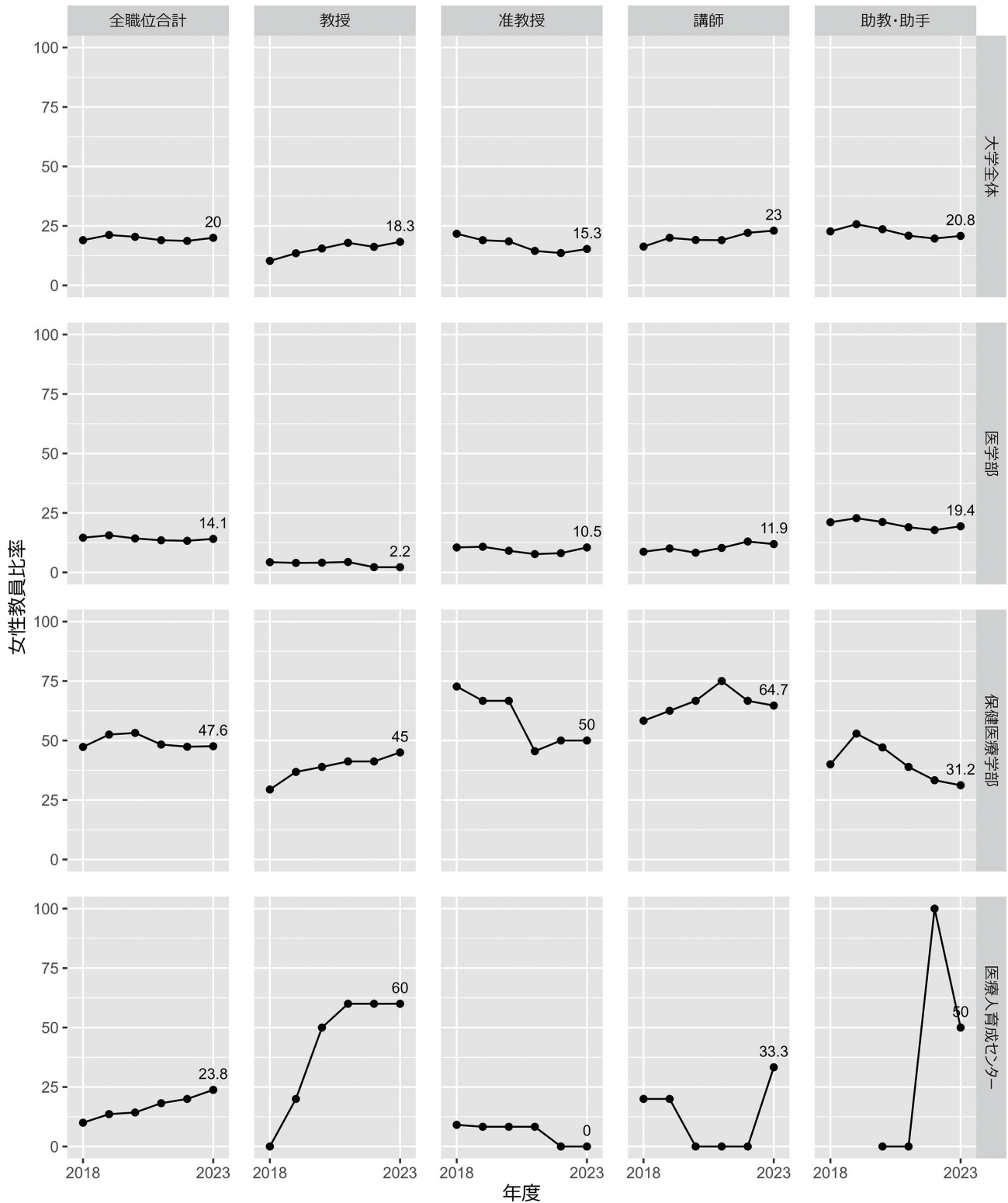
2.1.1 人数



2.1.2 女性教員比率

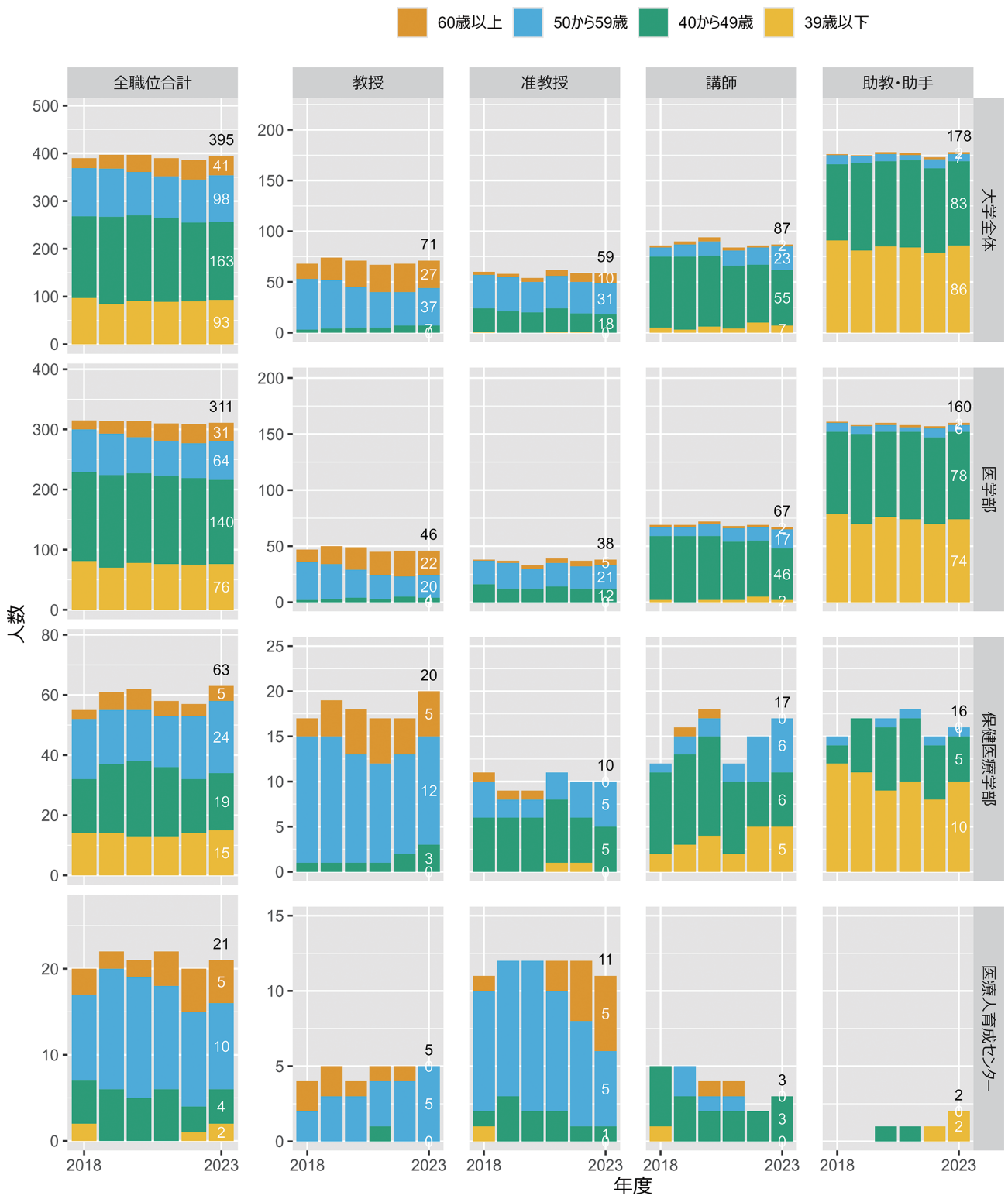
男女ともに0人の場合には、比率の計算ができないのでプロットしていない

$$\text{女性教員比率} = 100 \times \text{女性教員数} / \text{全教員数}$$



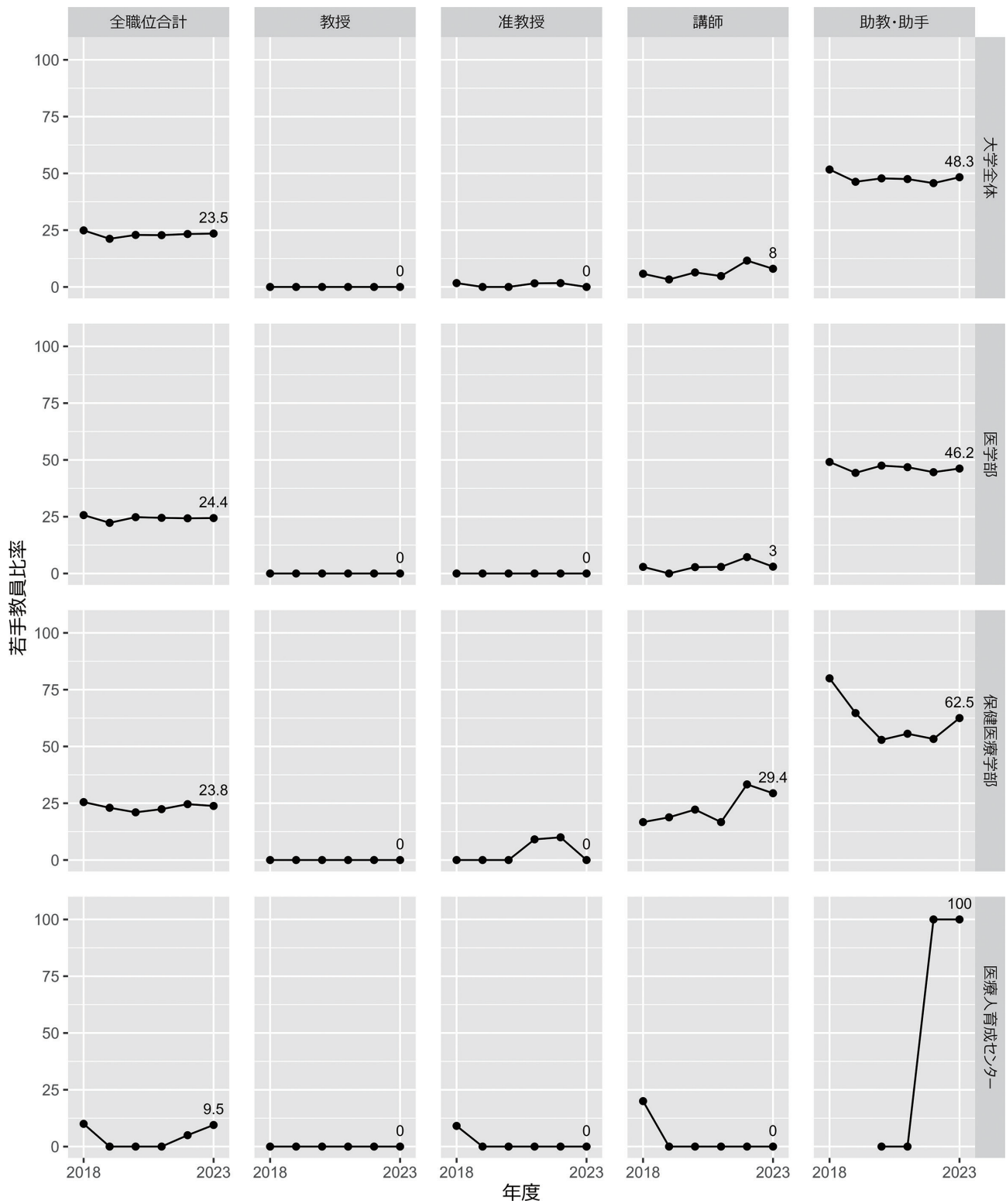
2.2 年齢

2.2.1 人数



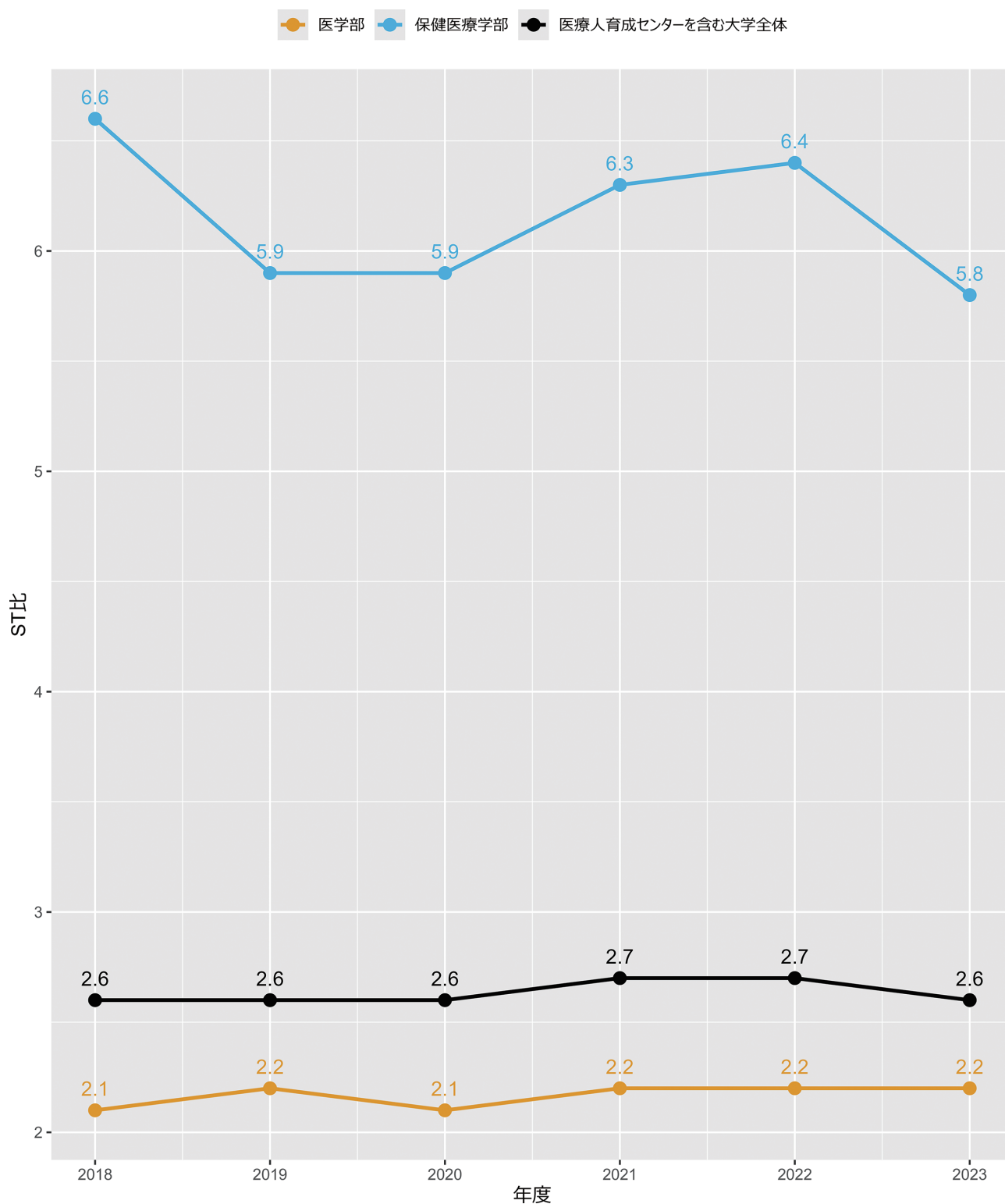
2.2.2 若手教員比率

若手教員比率 = 100×40 歳未満の教員数 / 全世代の教員数



3. 教員学生比（ST比）

ST比 = 学生数 / 教員数。教員数には助手を含む

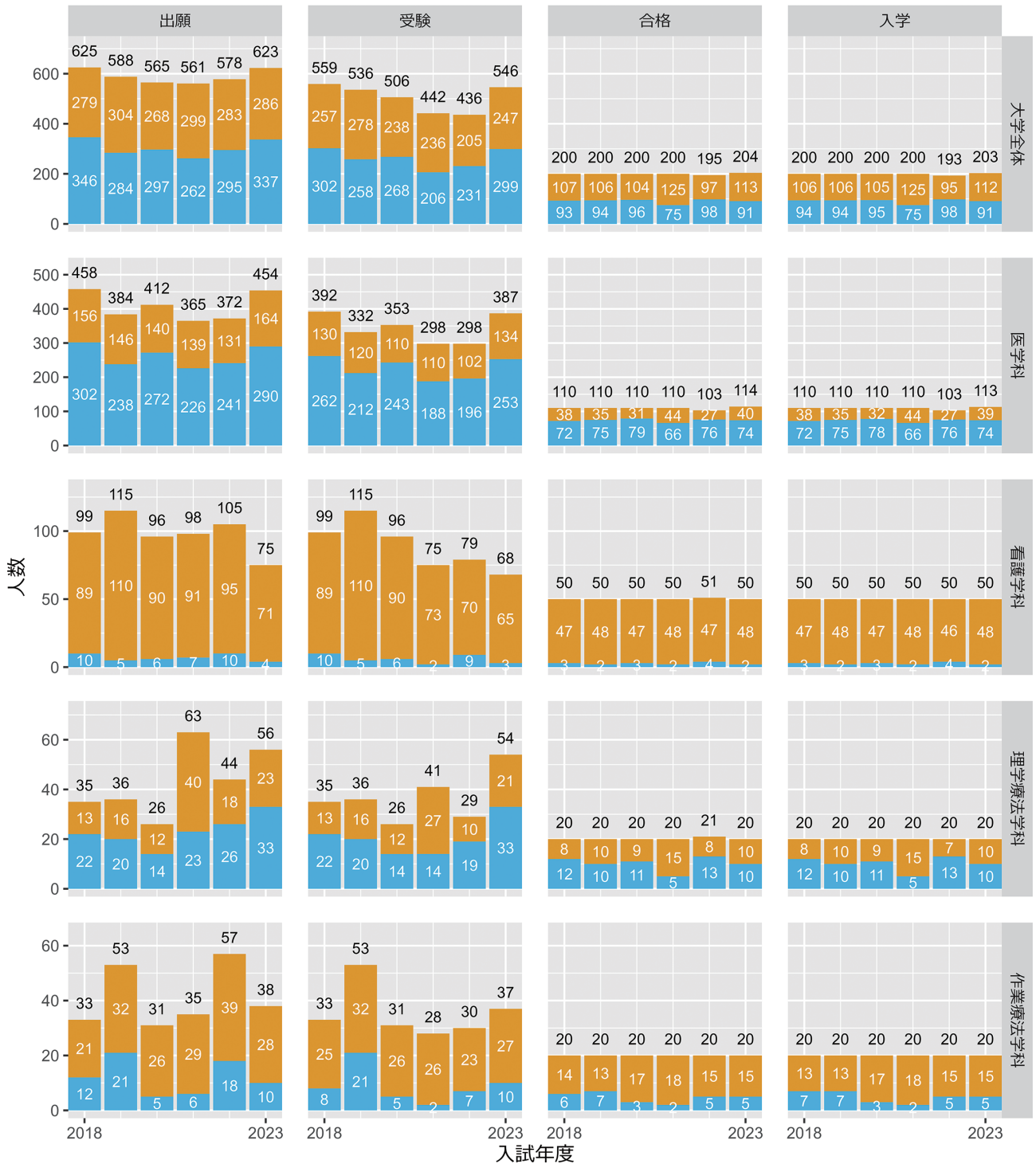


4. 入試

4.1 性別ごと

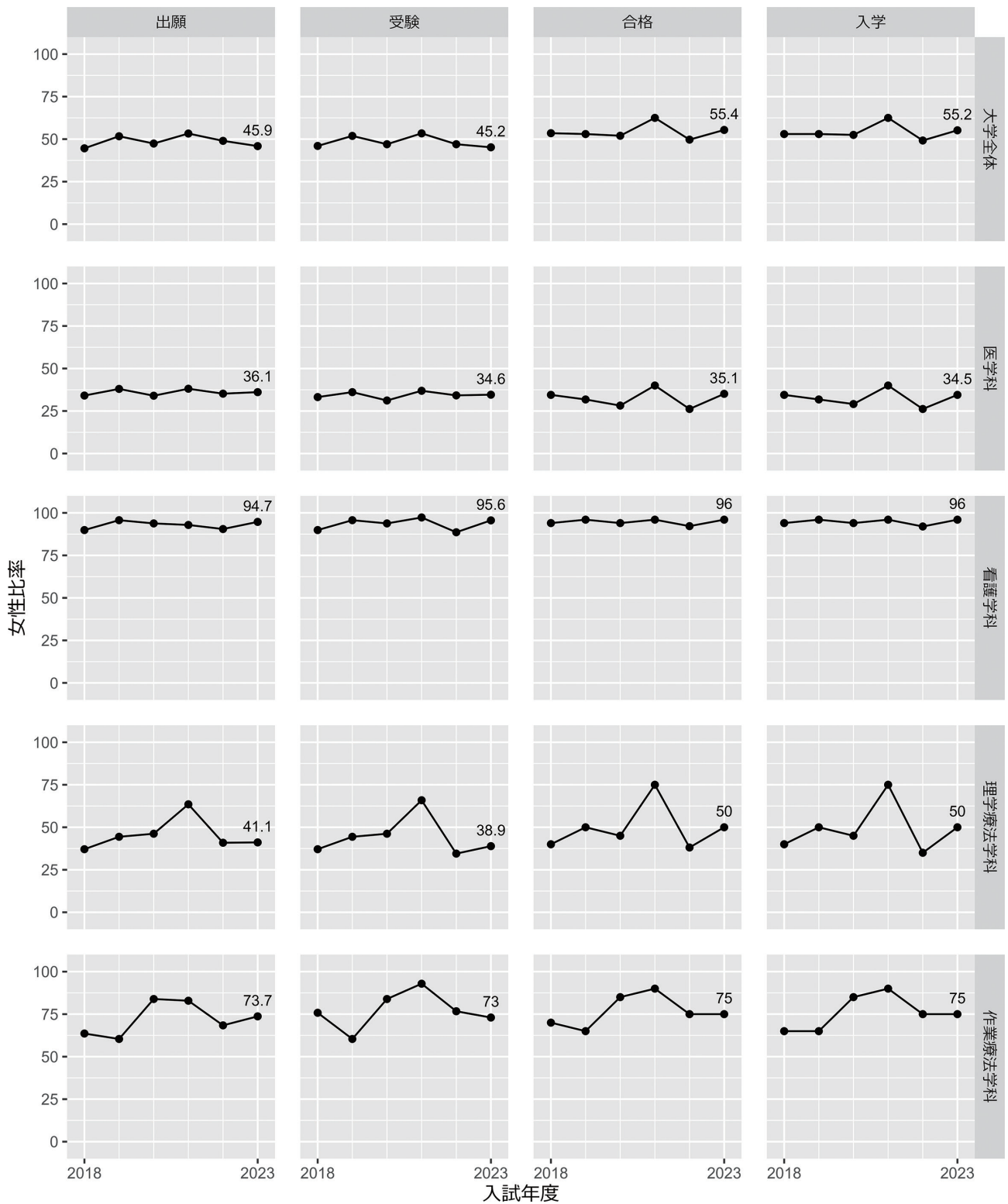
4.1.1 人数

女性 男性



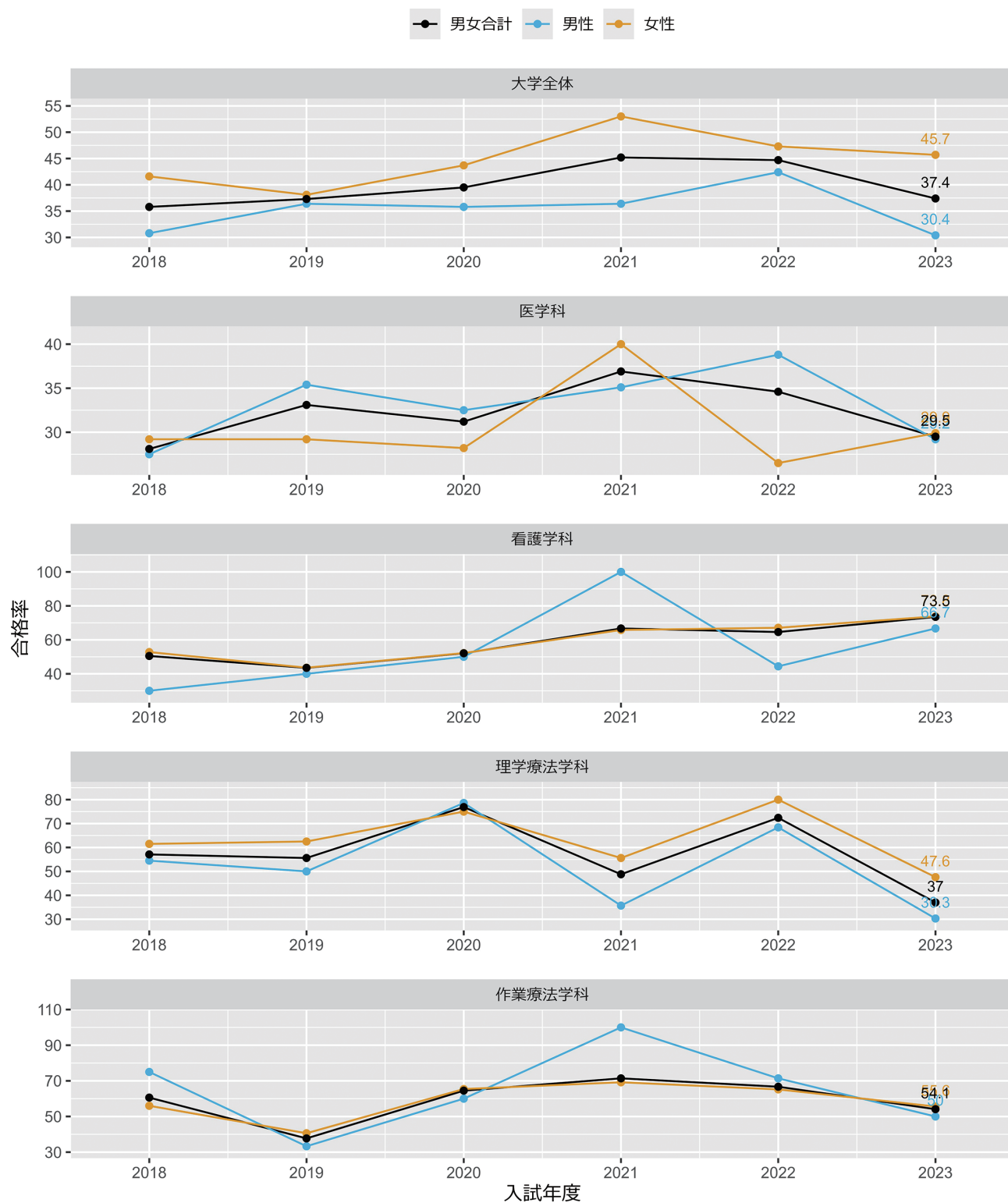
4.1.2 女子学生比率

女子学生比率 = $100 \times \text{女子学生数} / \text{総学生数}$



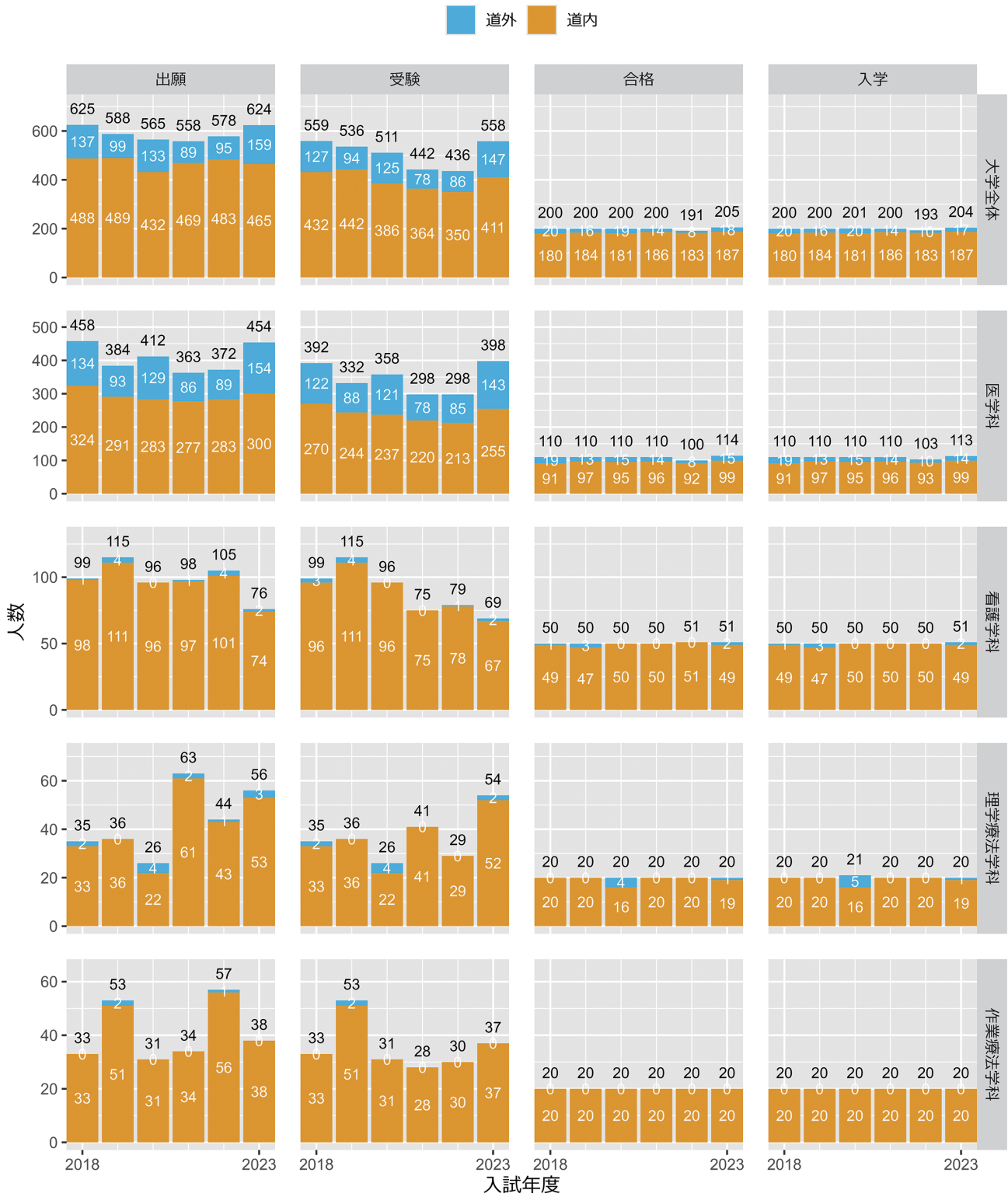
4.1.3 合格率

合格率 = 100 × 合格者数 / 受験者数



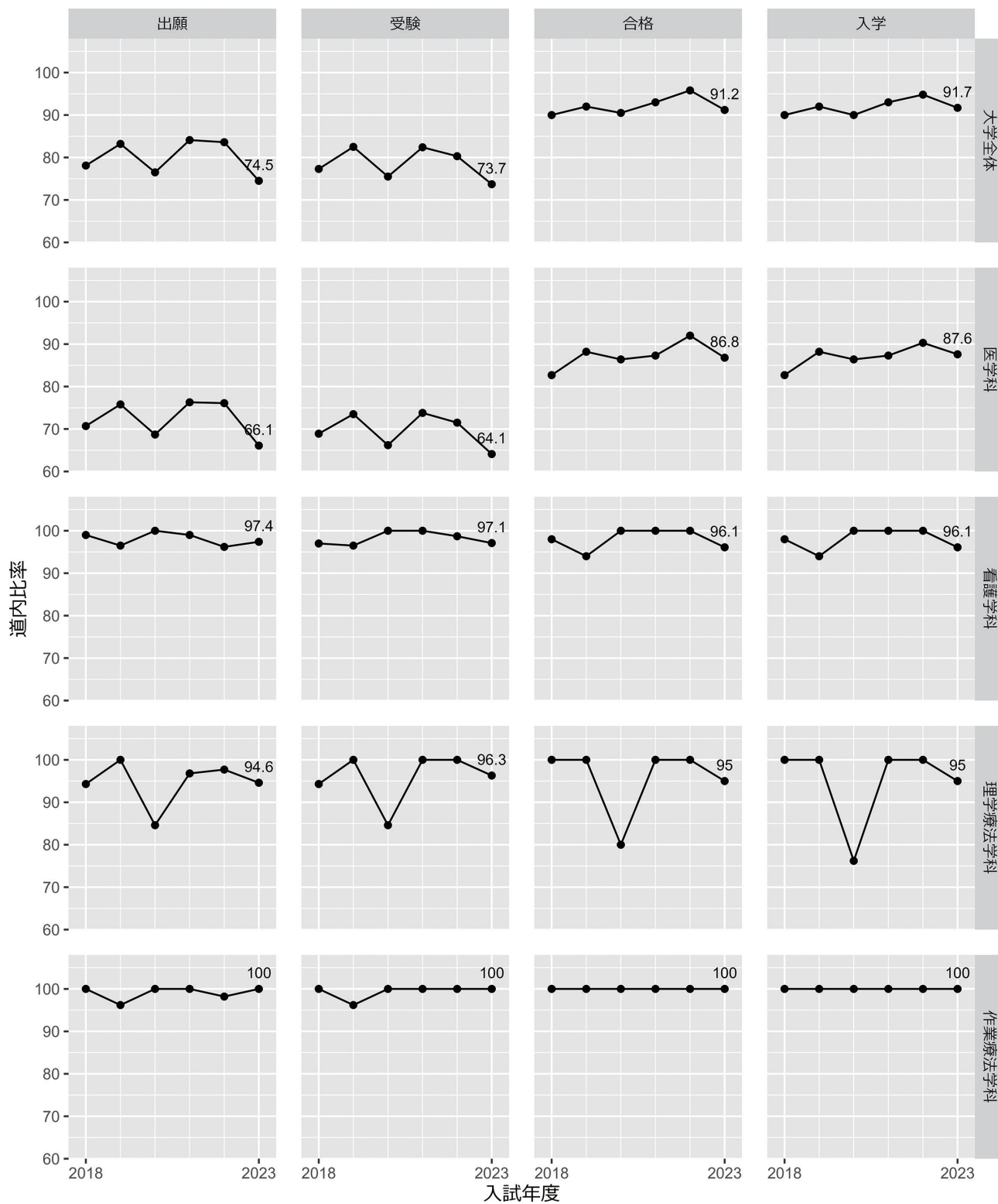
4.2 道内外

4.2.1 人数



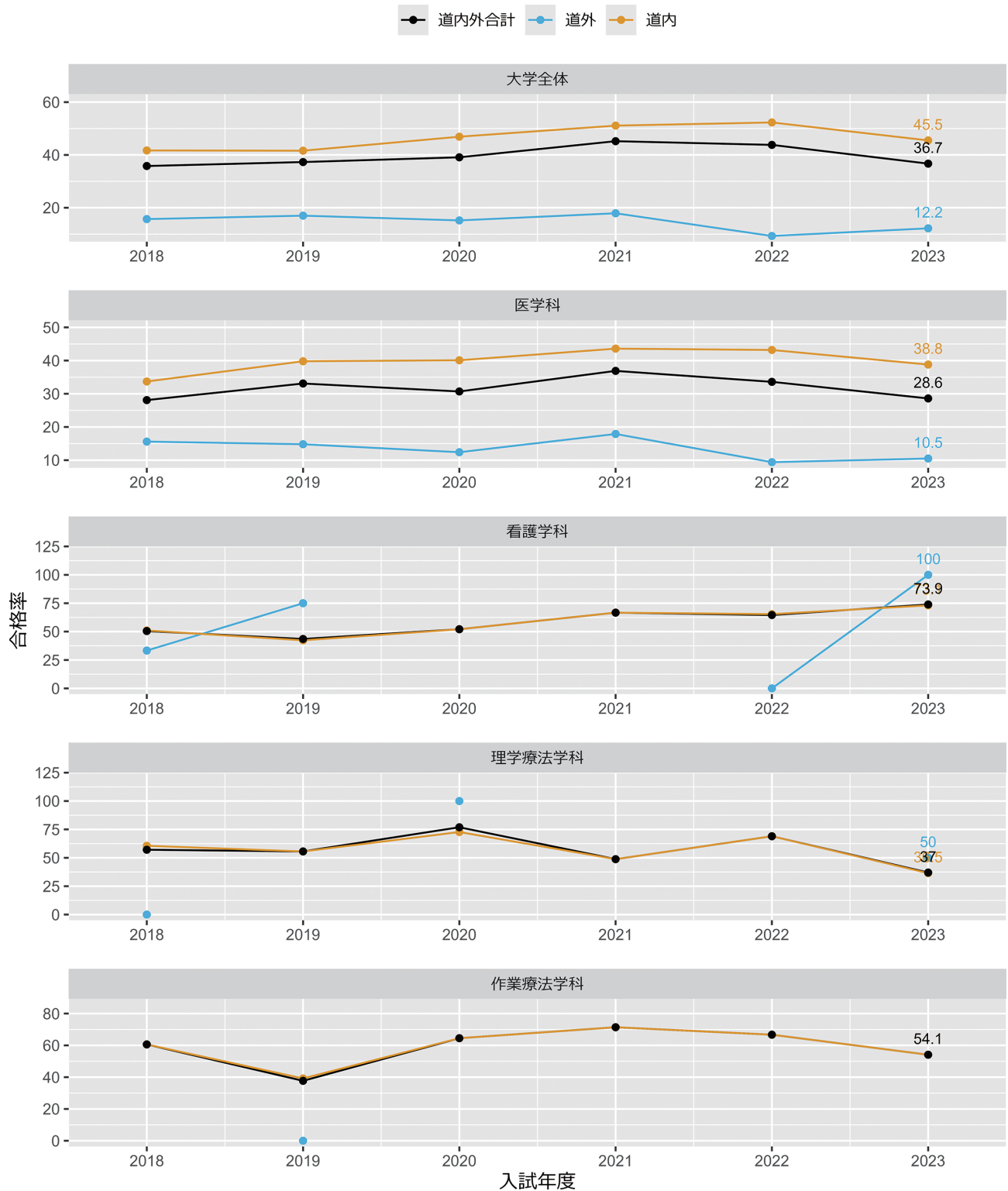
4.2.2 道内出身者比率

道内出身者率 = 100 × 道内出身者数 / 総学生数



4.2.3 合格率

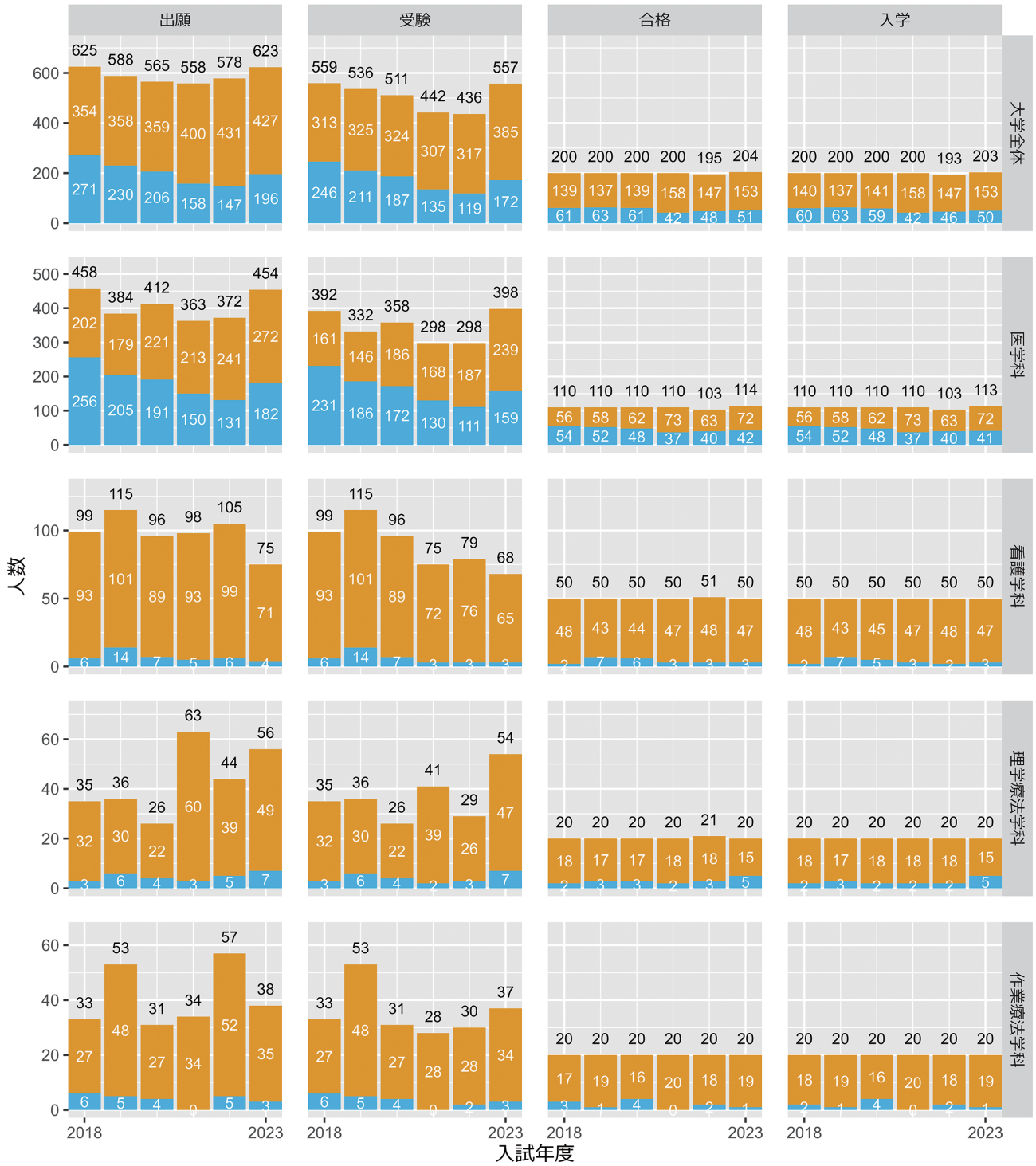
合格率 = 100 × 合格者数 / 受験者数



4.3 現役と既卒

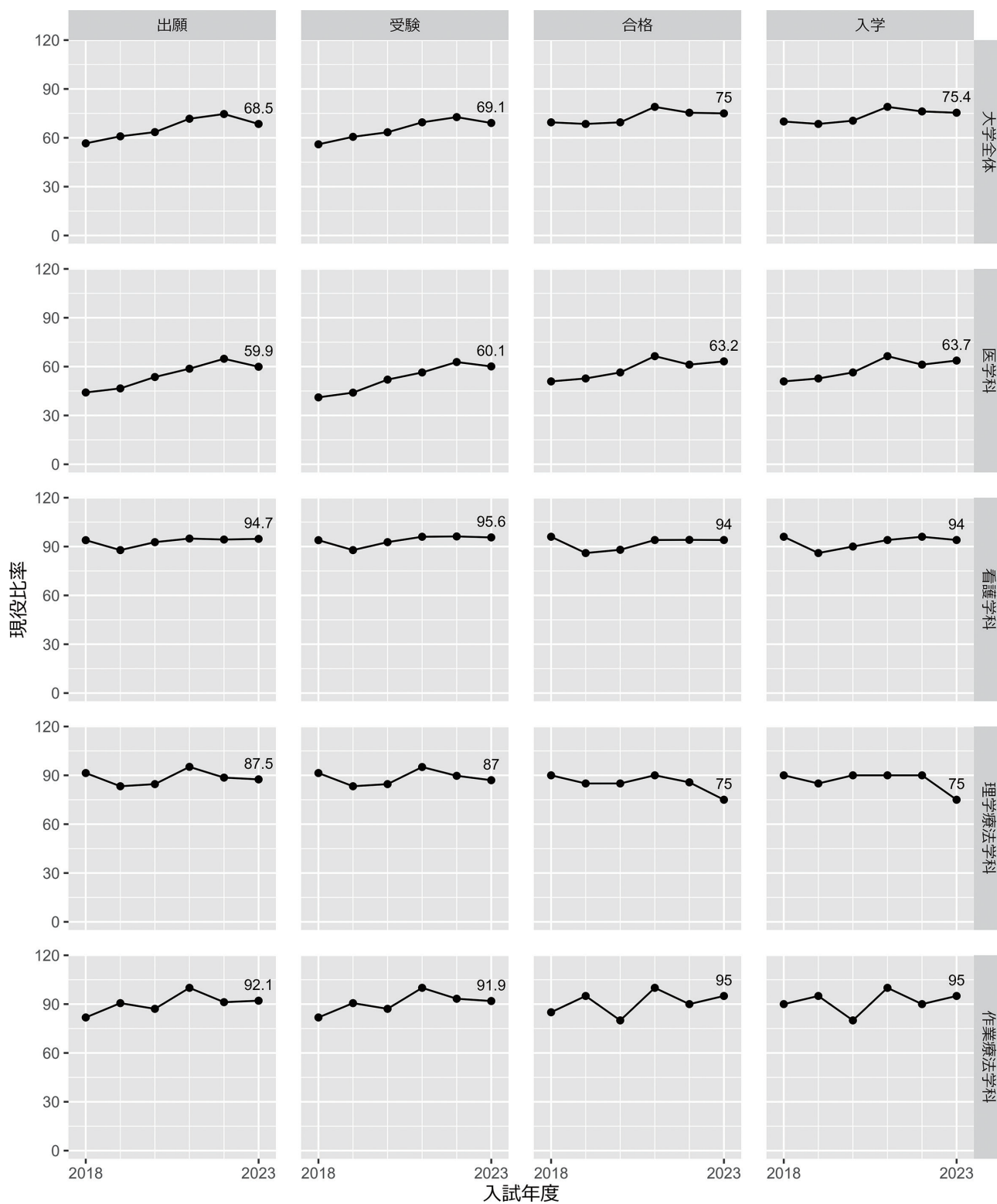
4.3.1 人数

■ 現役 ■ 既卒



4.3.2 現役学生比率

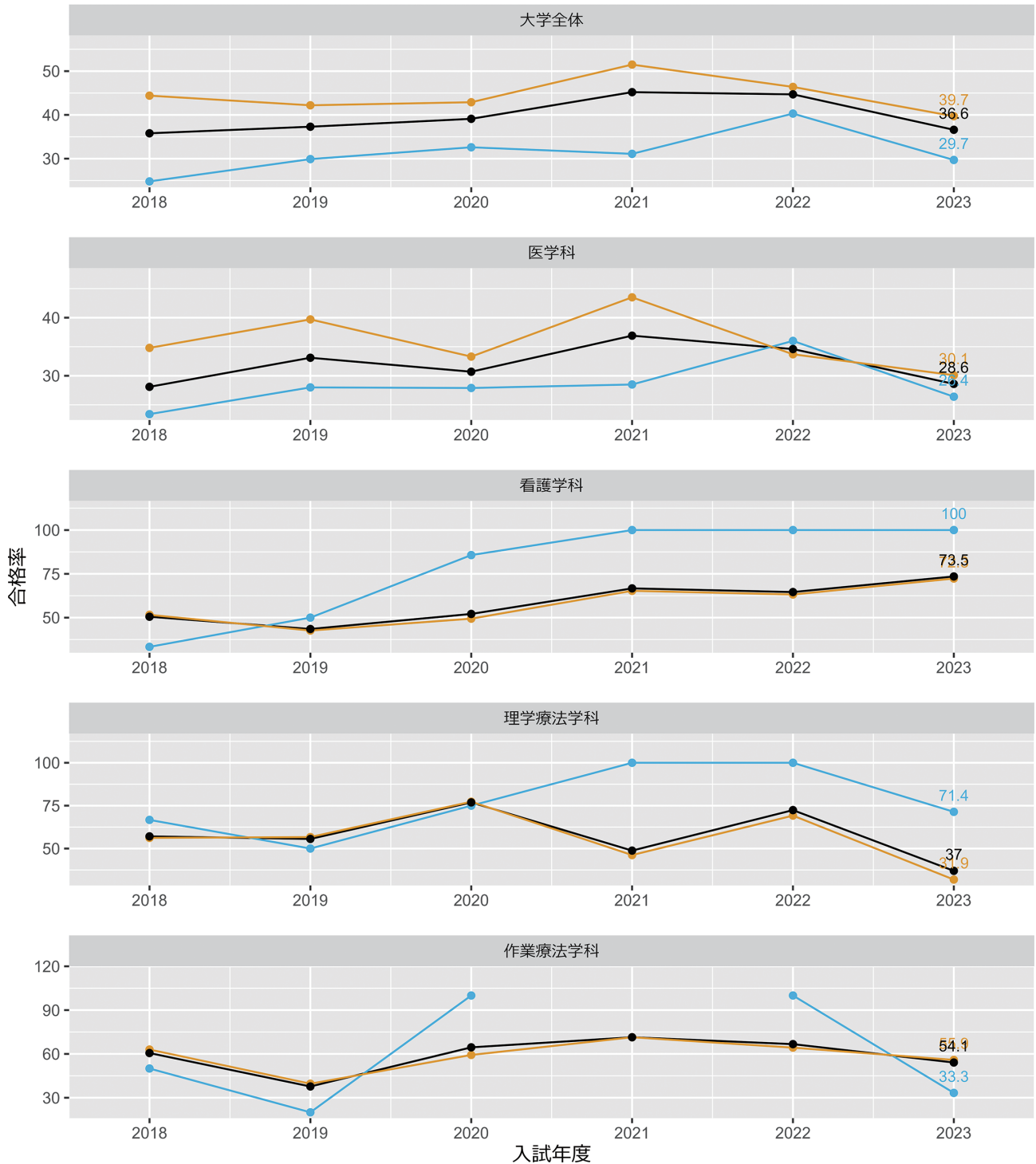
現役学生比率 = $100 \times \text{現役学生数} / \text{総学生数}$



4.3.3 合格率

合格率 = 100 × 合格者数 / 受験者数

● 現既合計 ● 既卒 ● 現役



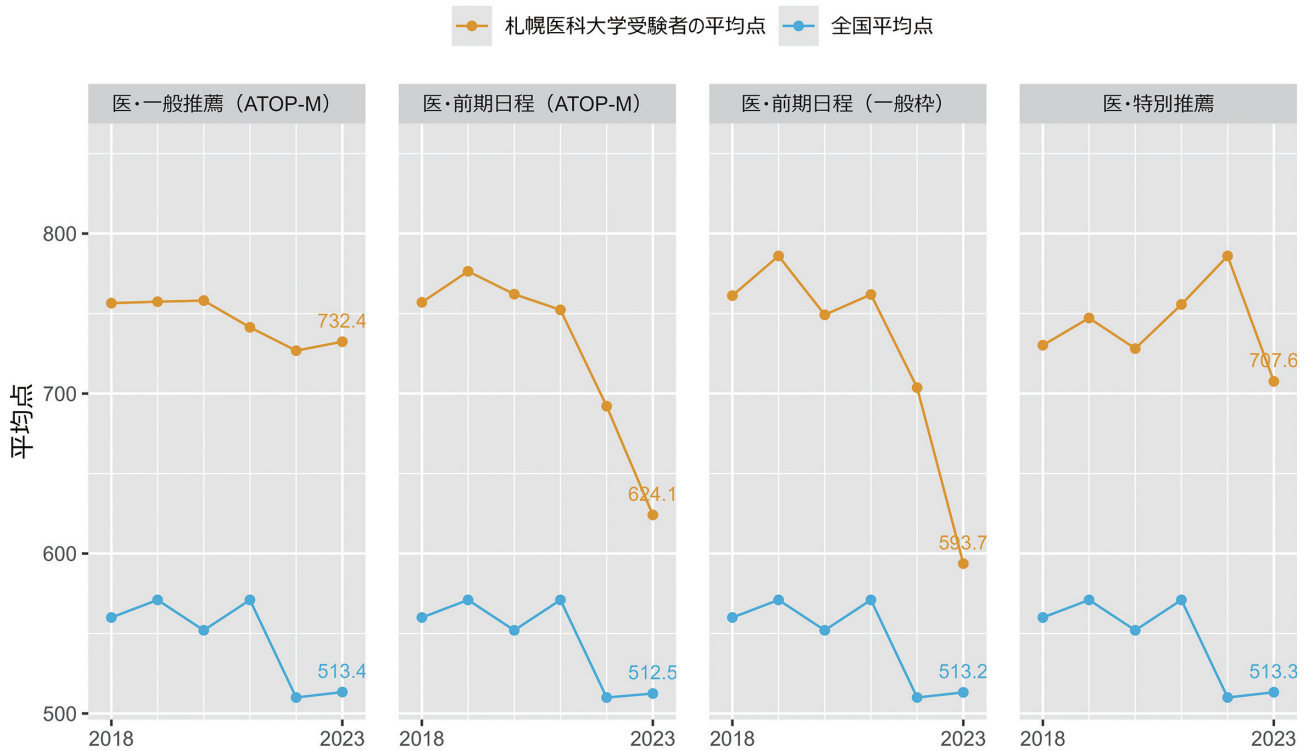
4.4 共通テスト（センター試験）

4.4.1 点数

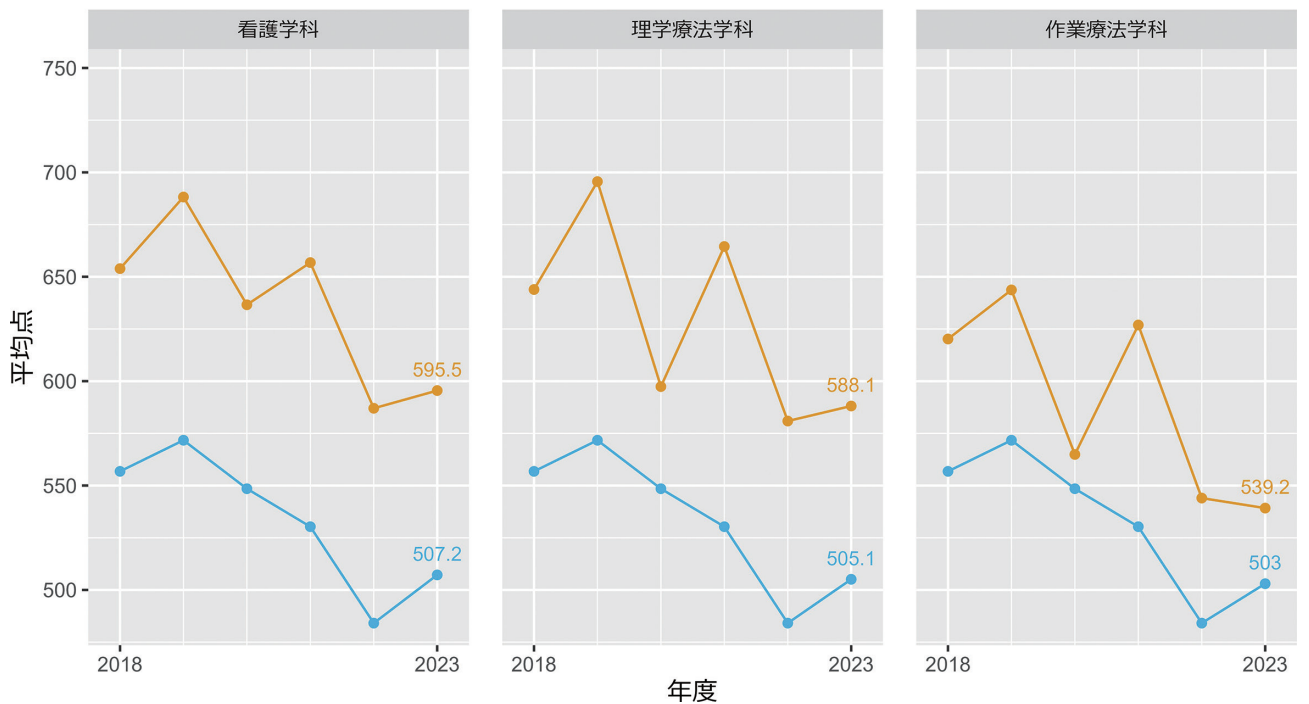
医学部：学科がひとつのみであるため、受験者ごとにくわけた。満点は 900 点に換算した。

保健医療学部：経過を追うことが可能なデータは一般枠のみであるため、学科ごとにくわけた。満点は 900 点。

医学部

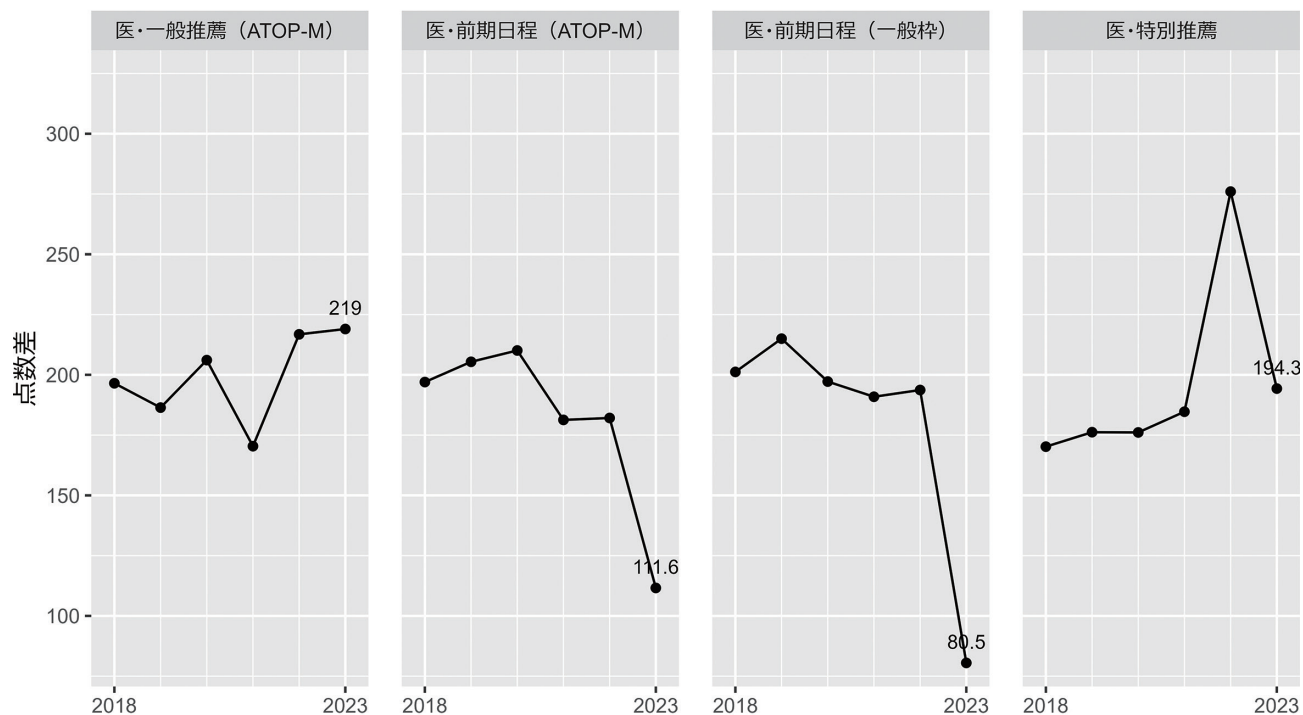


保健医療学部

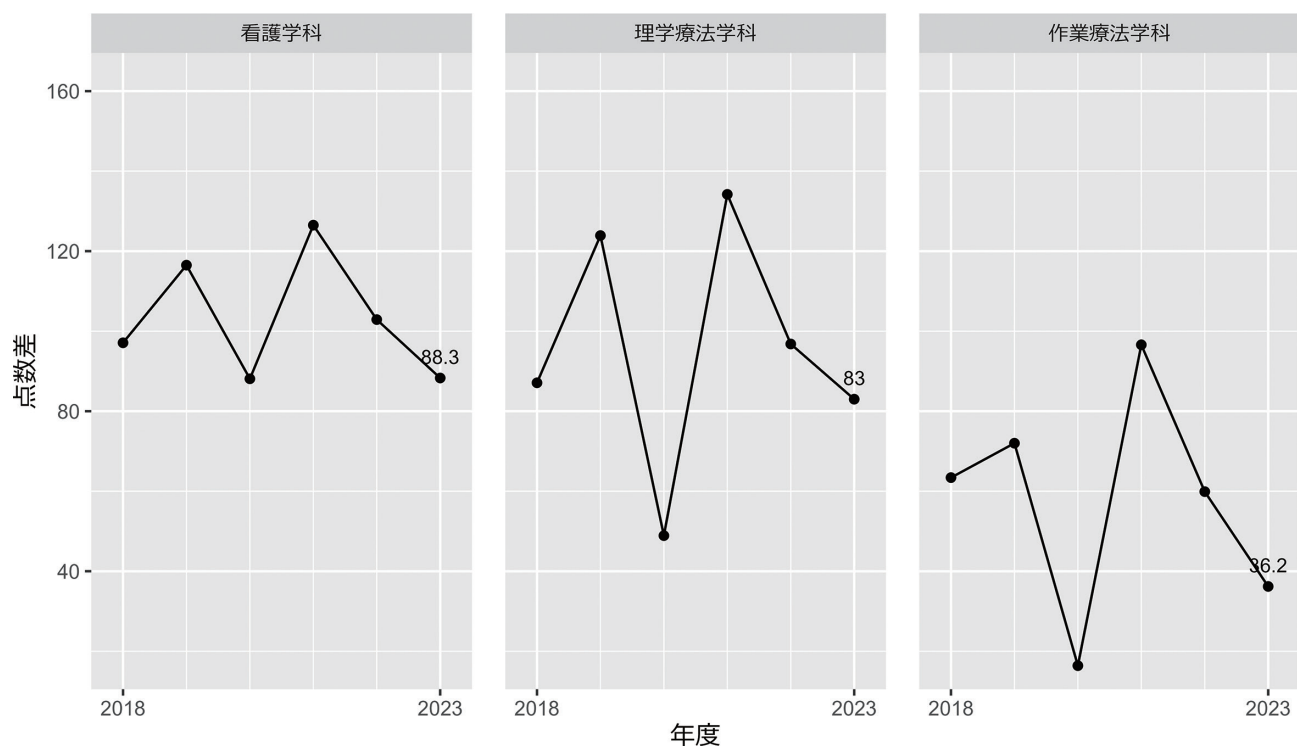


4.4.2 全国平均点との差

医学部

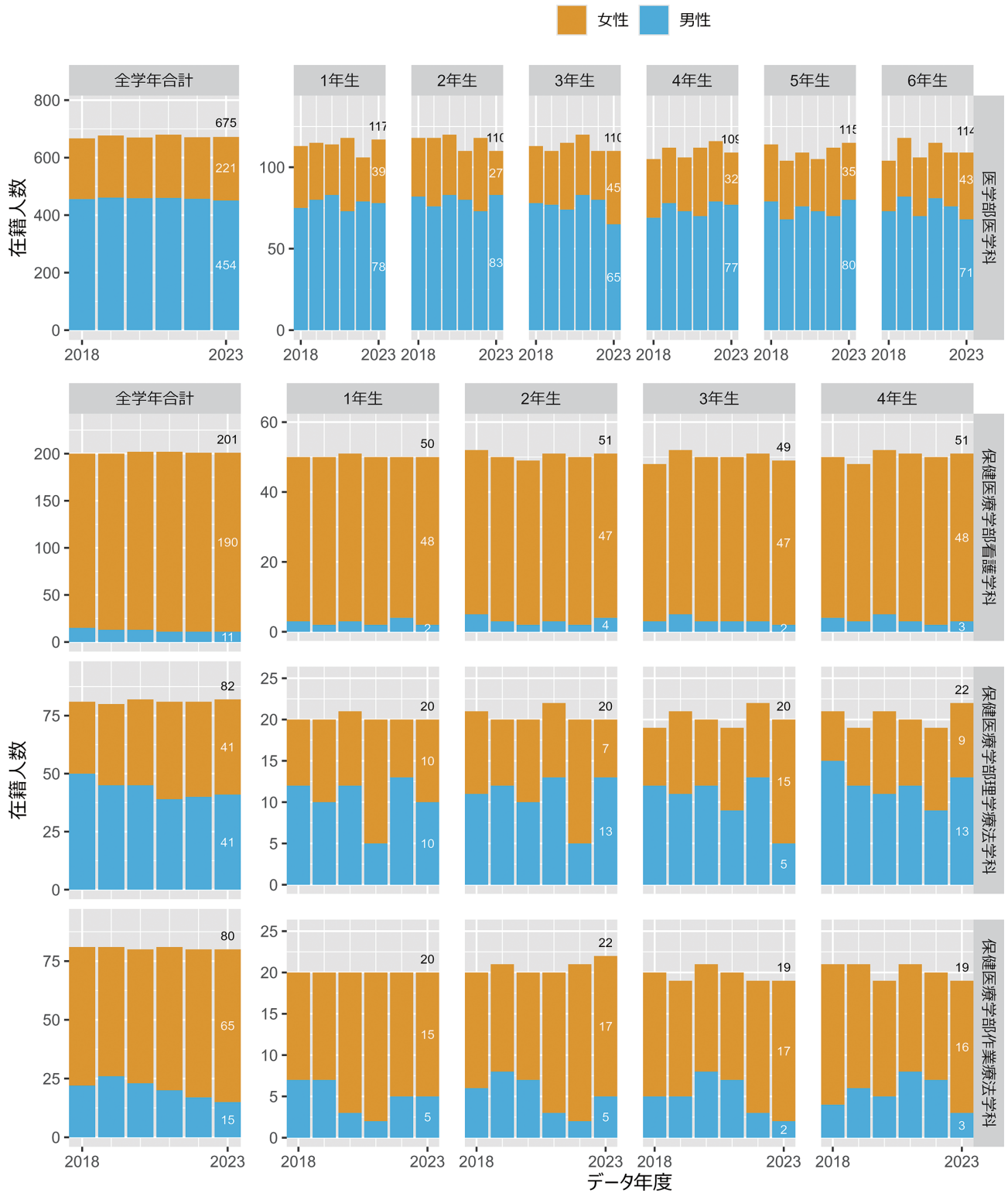


保健医療学部



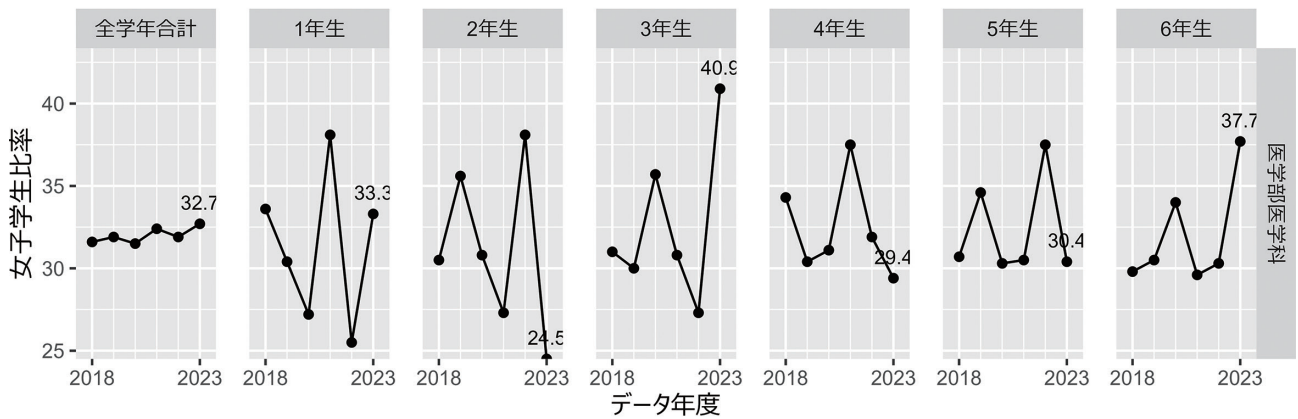
5. 在学生

5.1 在籍人数

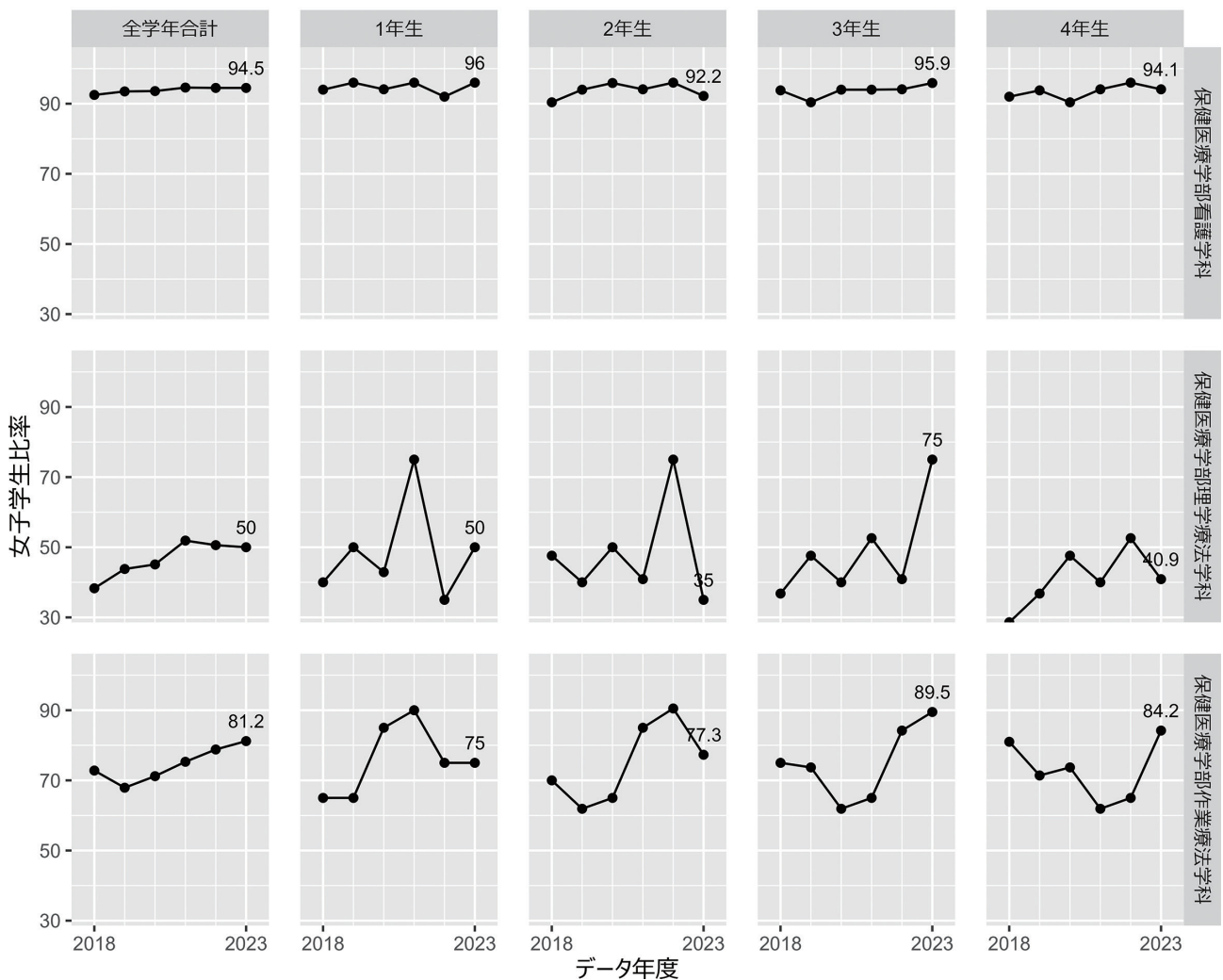


5.2 女子学生比率

医学部

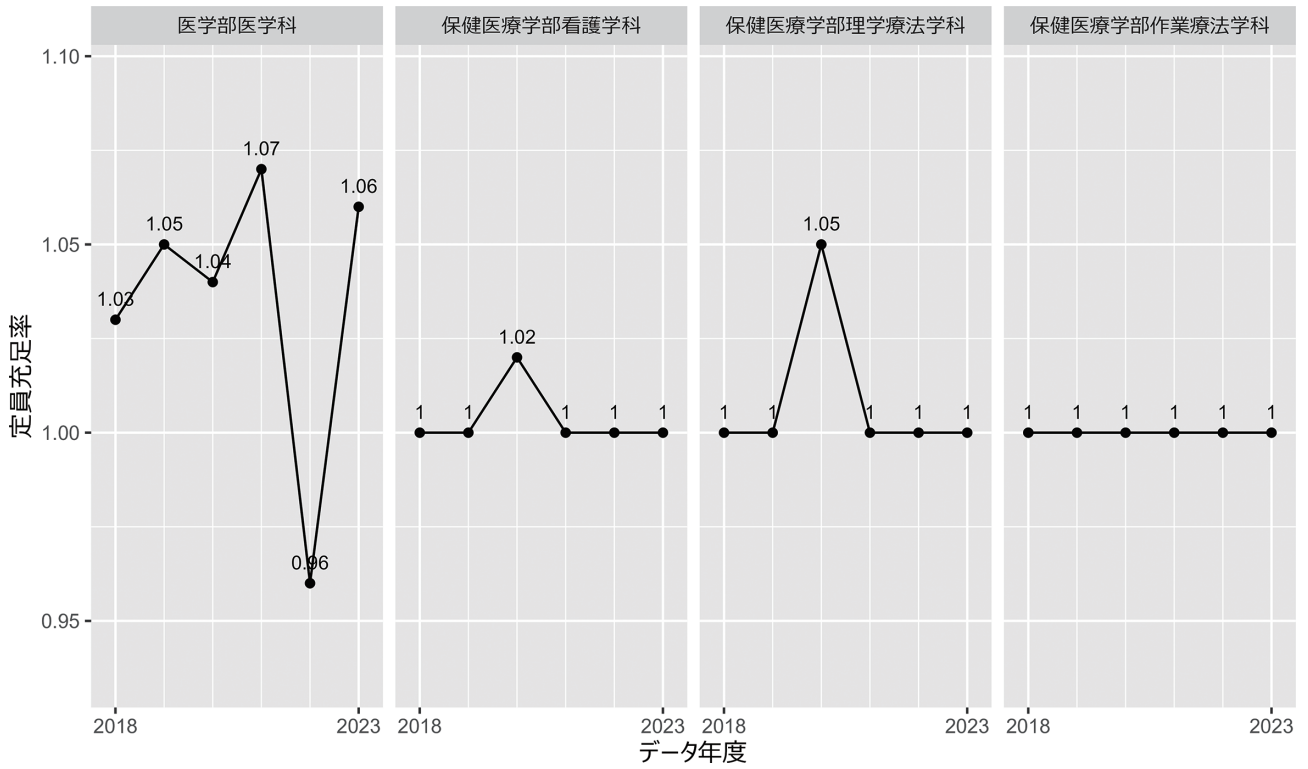


保健医療学部



5.3 定員充足率

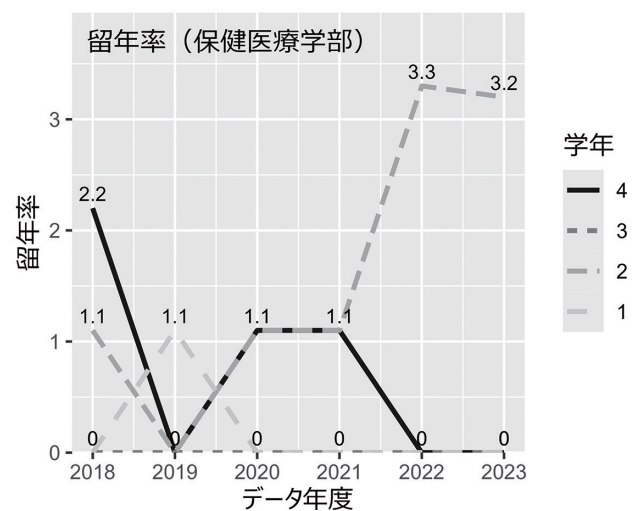
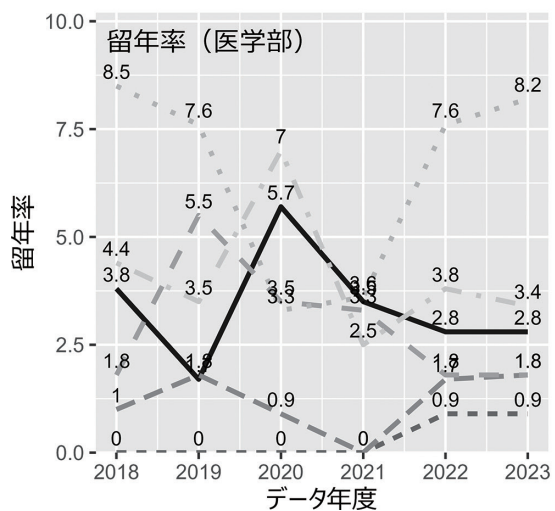
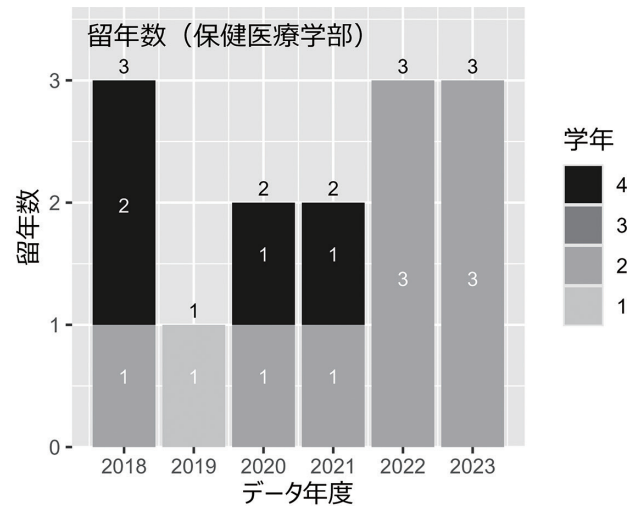
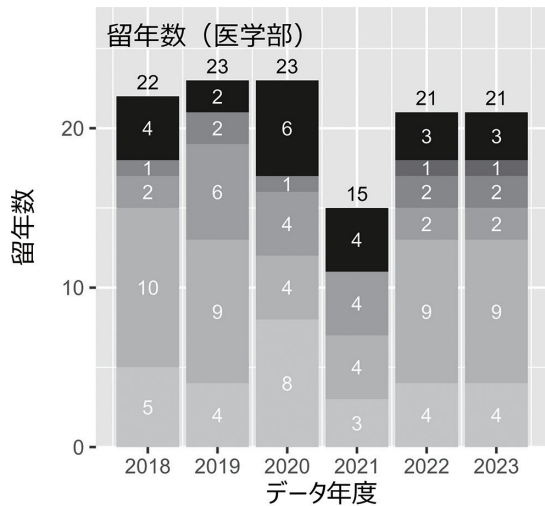
定員充足率 = 1年生の在籍人数 / 募集人数



5.4 留年人数と留年率

ここでの留年数とは、その年度に、次の年度へ進級できなかった学生数である。例えば、医学部では2023年度に1年生は117人が在籍しており、そのうち4人が2023年度から2024年度にかけて進級できなかったことを意味する。

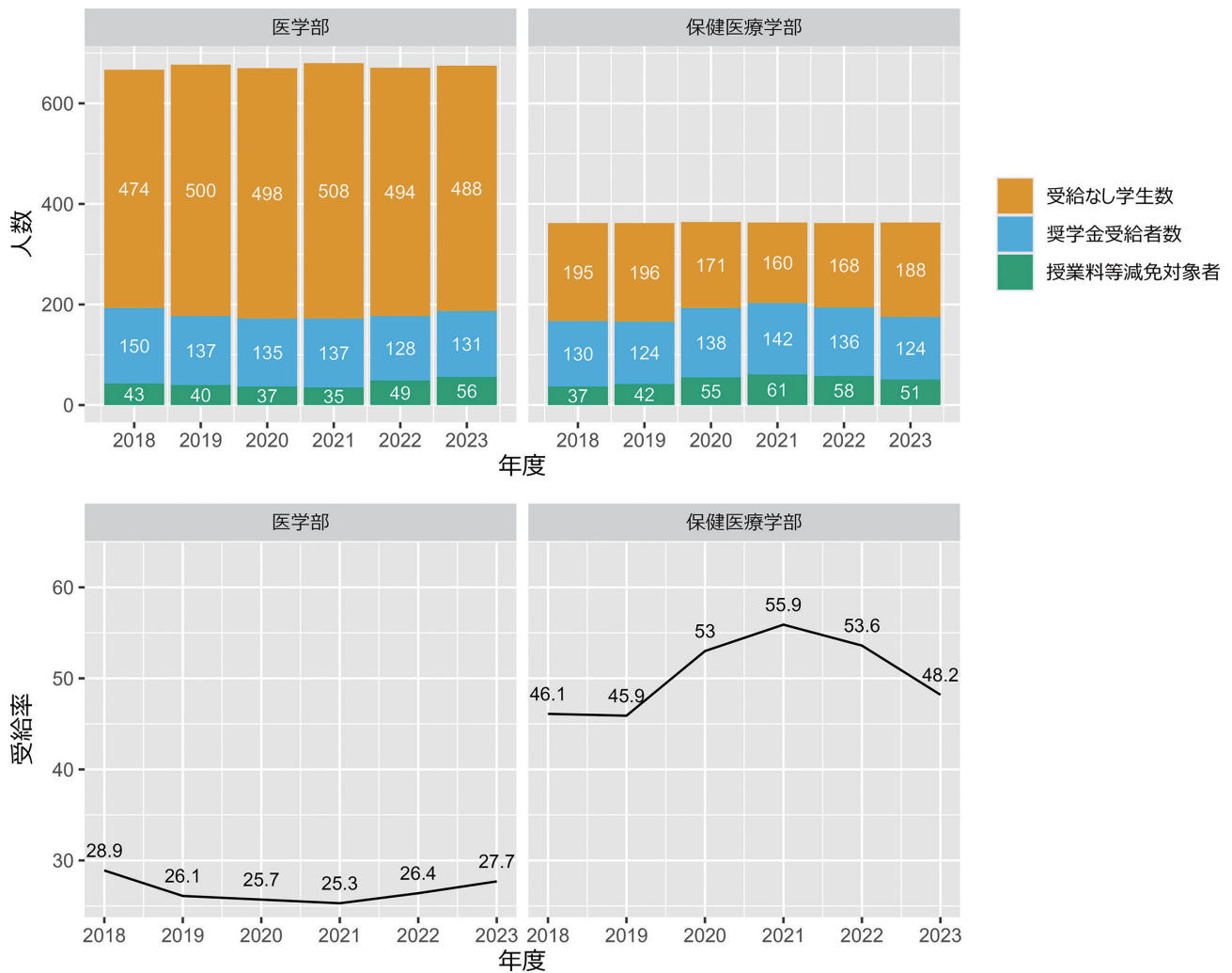
$$\text{留年率} = \text{留年数} / \text{在籍人数} \times 100$$



5.5 奨学金等人数と受給率

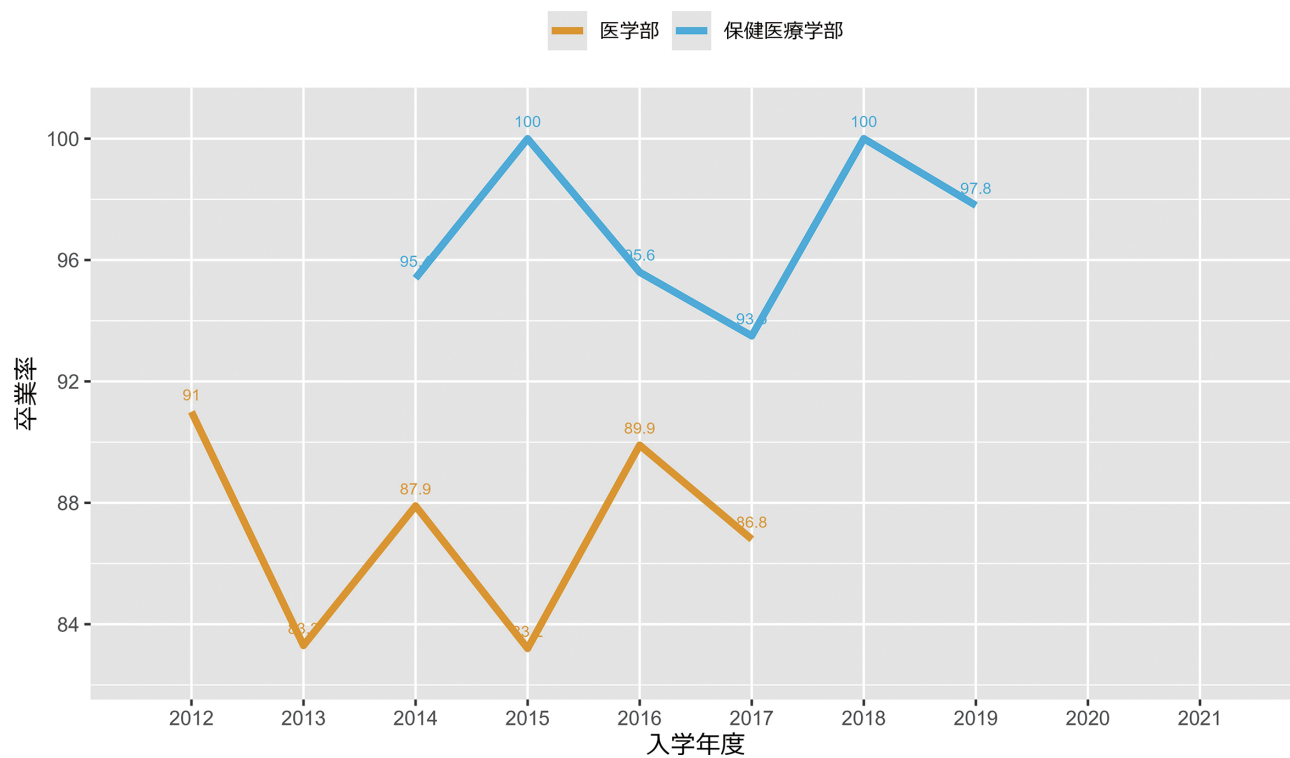
受給率 = 100 × (奨学金受給者数 + 授業料等減免対象者) / 全学生数

2020年度より高等教育の修学支援制度開始のため、授業料等減免対象者として、2020年度以降は独自と機構の合計の値を掲載した。



5.6 卒業率

卒業率 = $100 \times \text{卒業者数} / \text{6年生の人数}$ (保健医療学部は4年生の人数)



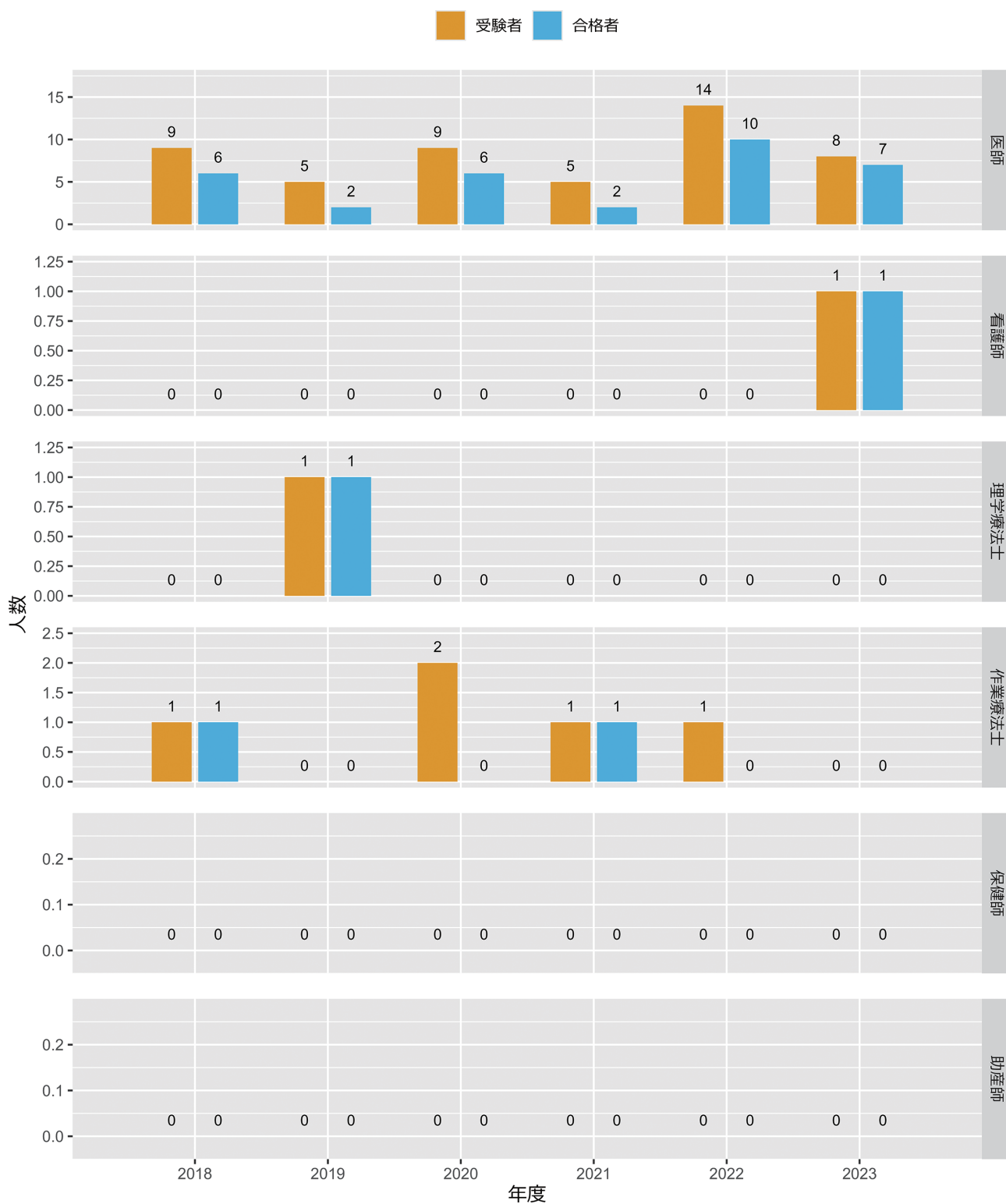
6. 国家試験

6.1 人数

6.1.1 新卒

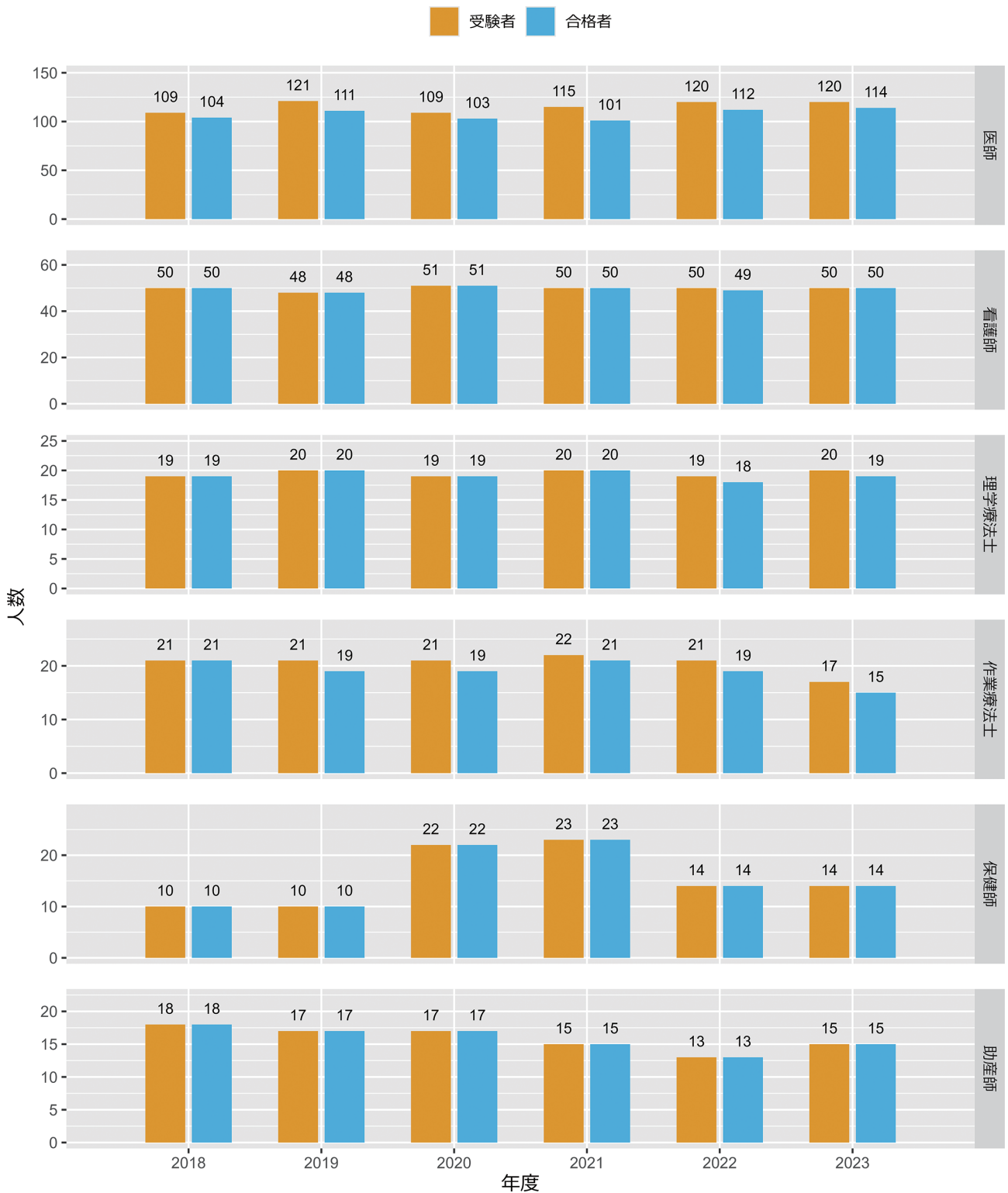


6.1.2 既卒



※看護師・保健師・助産師は既卒の受験者はおらず

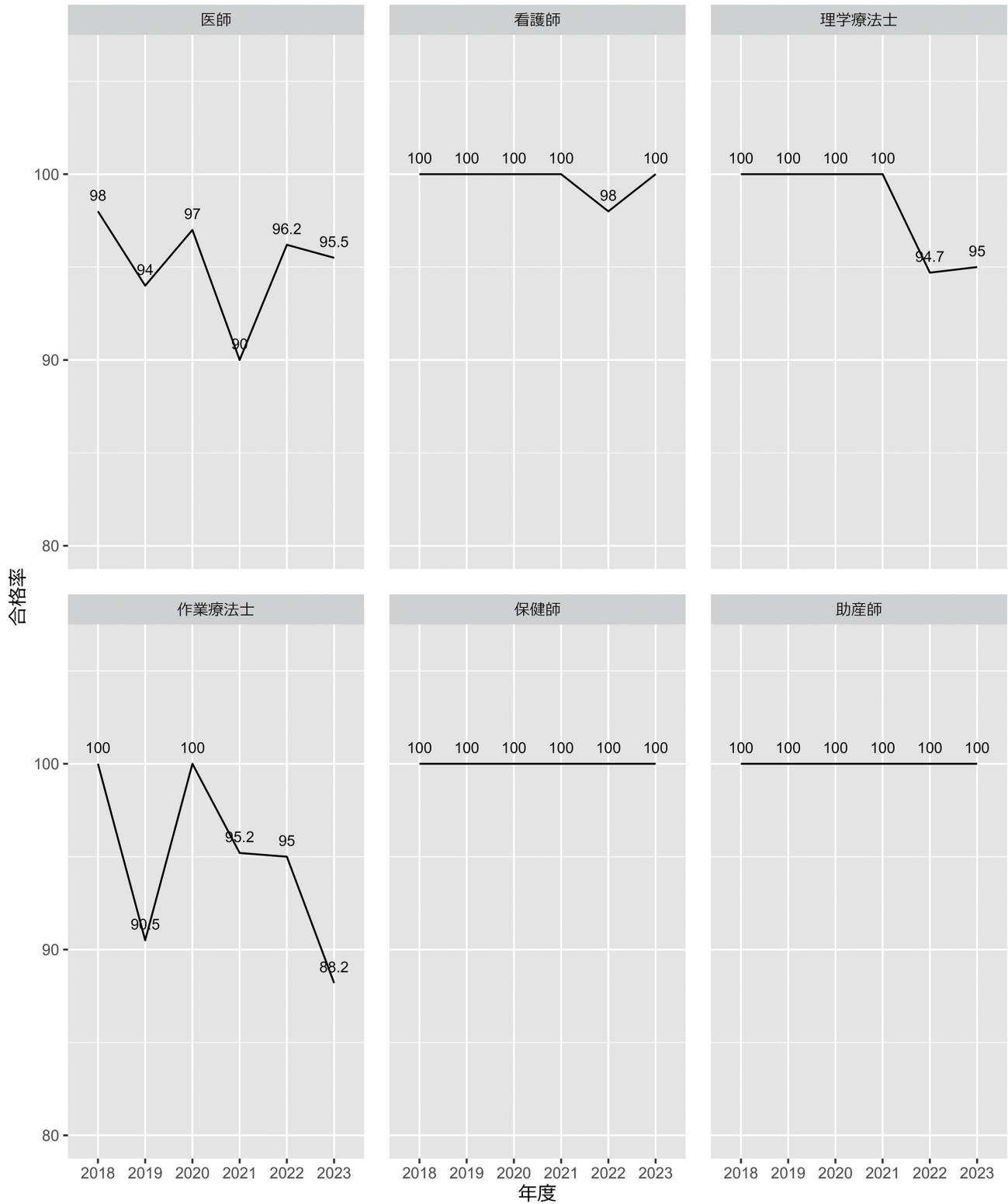
6.1.3 新卒と既卒の合計



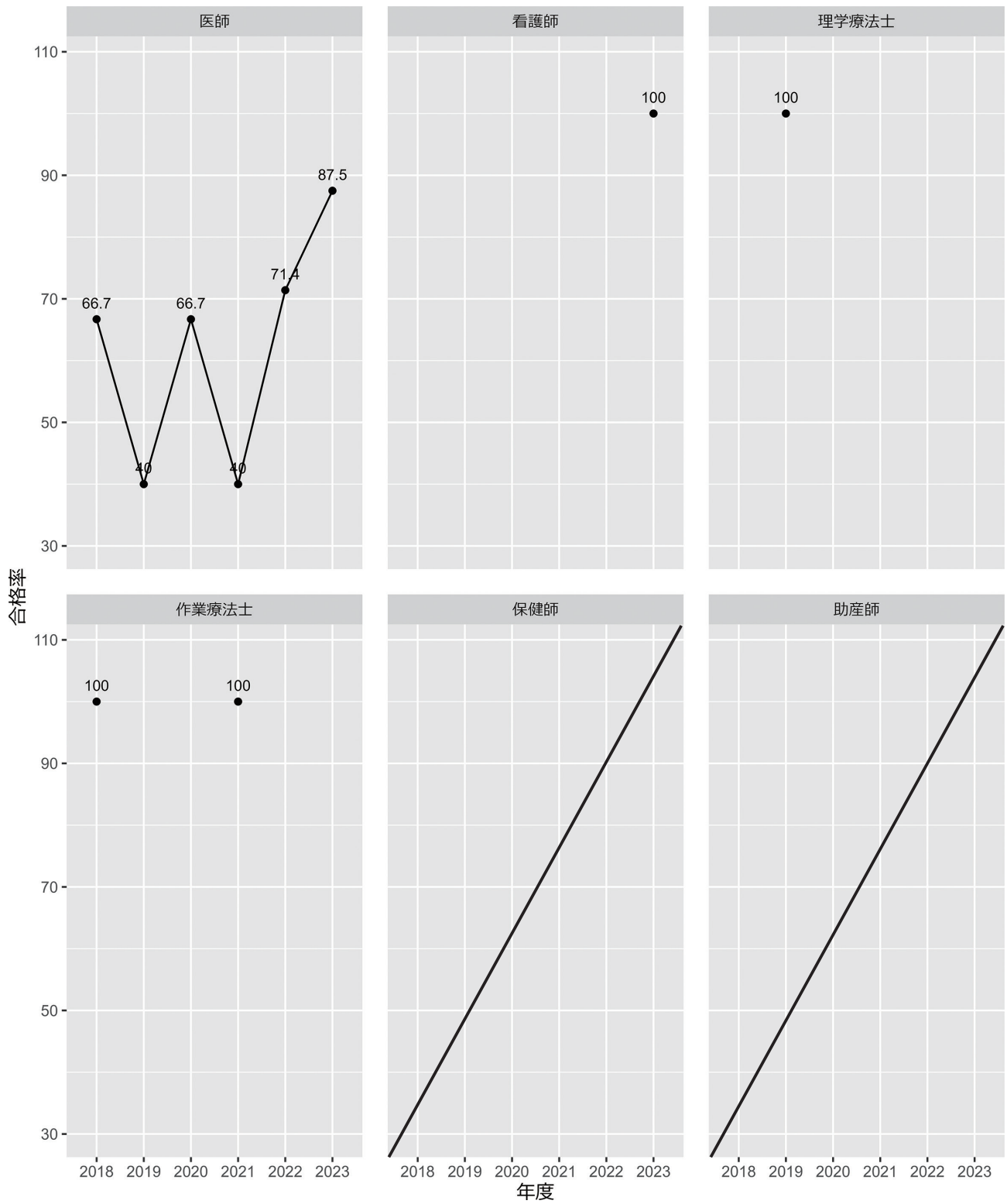
6.2 合格率

合格率 = $100 \times \text{合格者数} / \text{受験者数}$

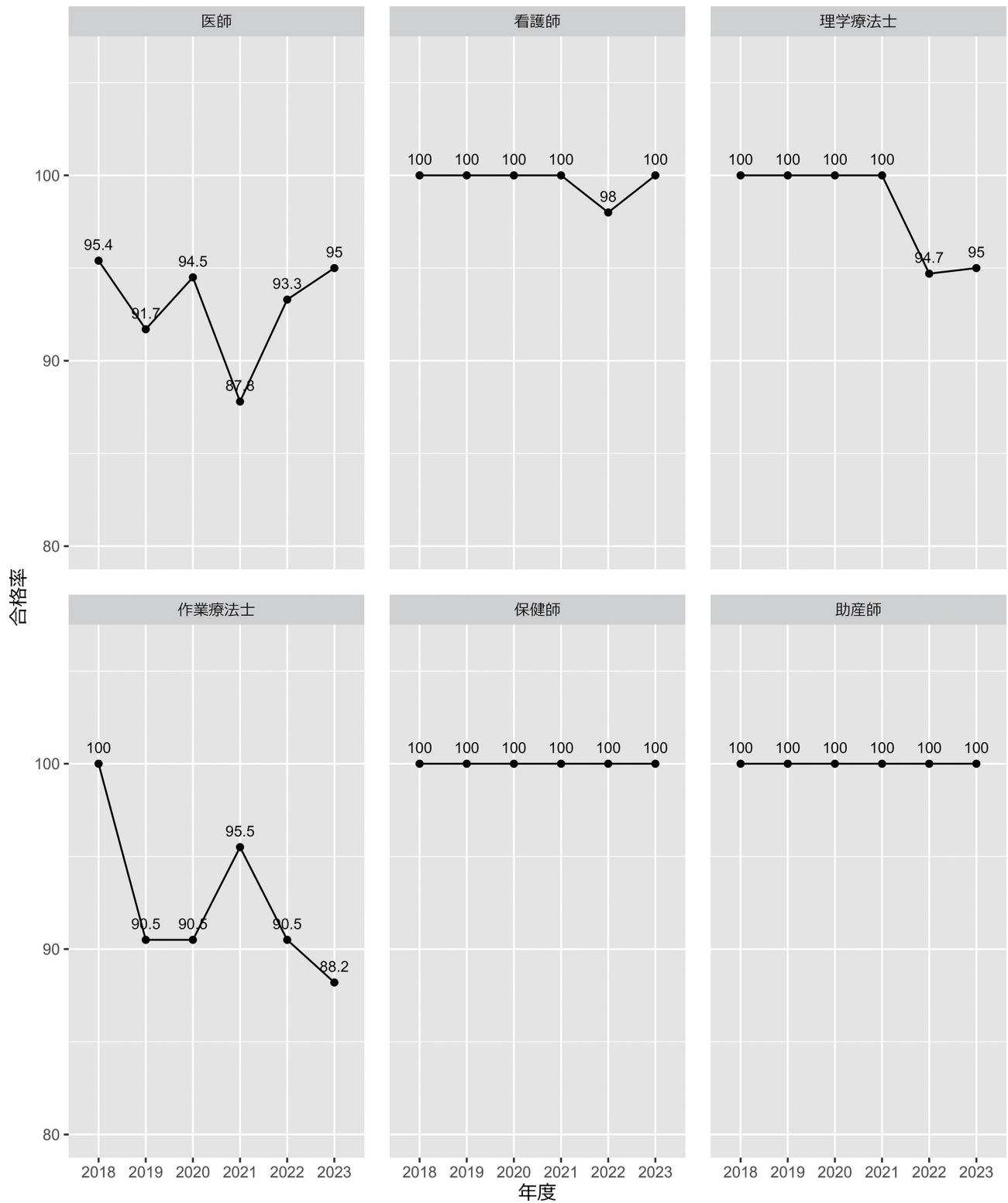
6.2.1 新卒



6.2.2 既卒



6.2.3 新卒と既卒の合計

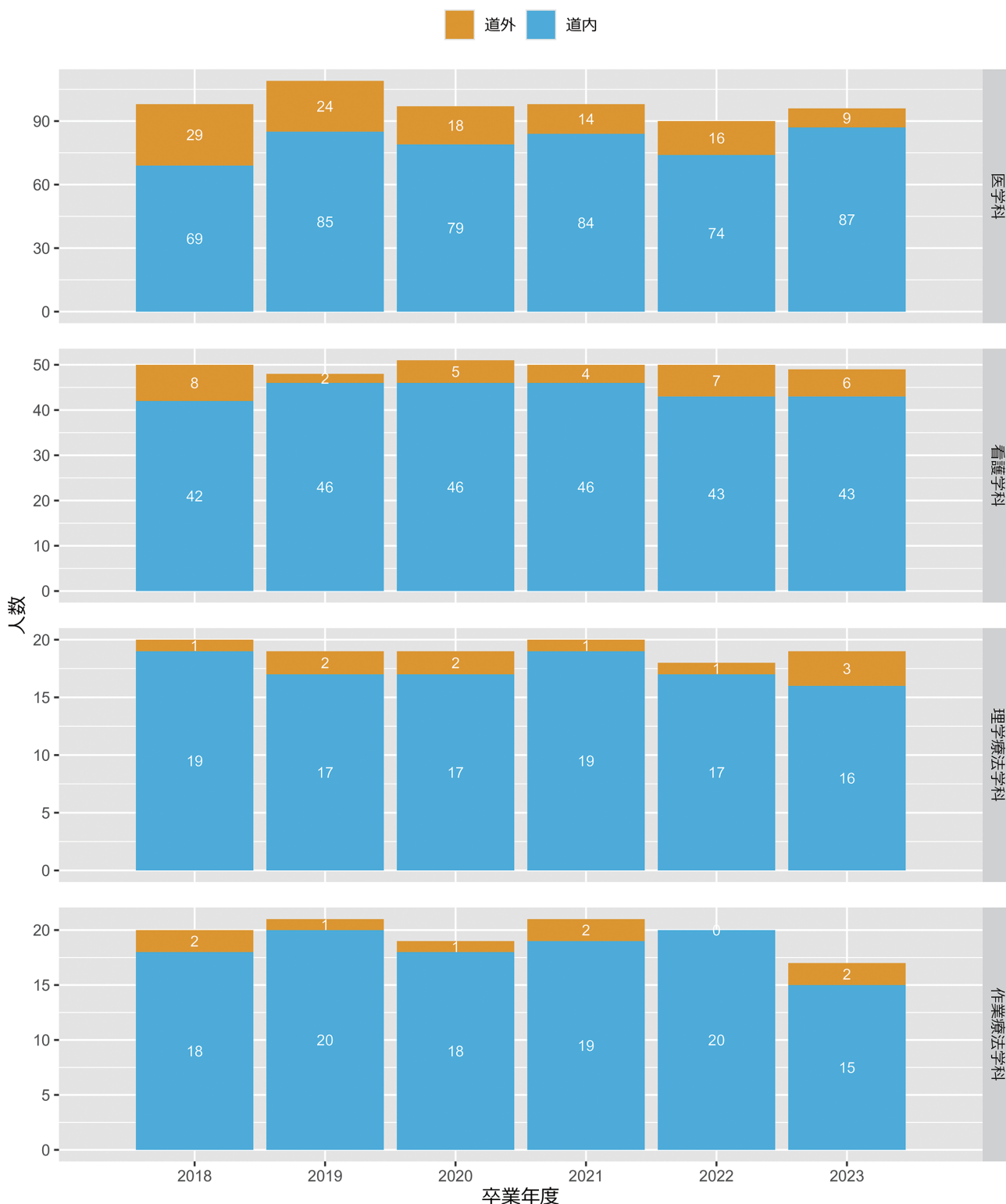


7. 卒後状況 初期研修・就職・進学先

7.1 両学部

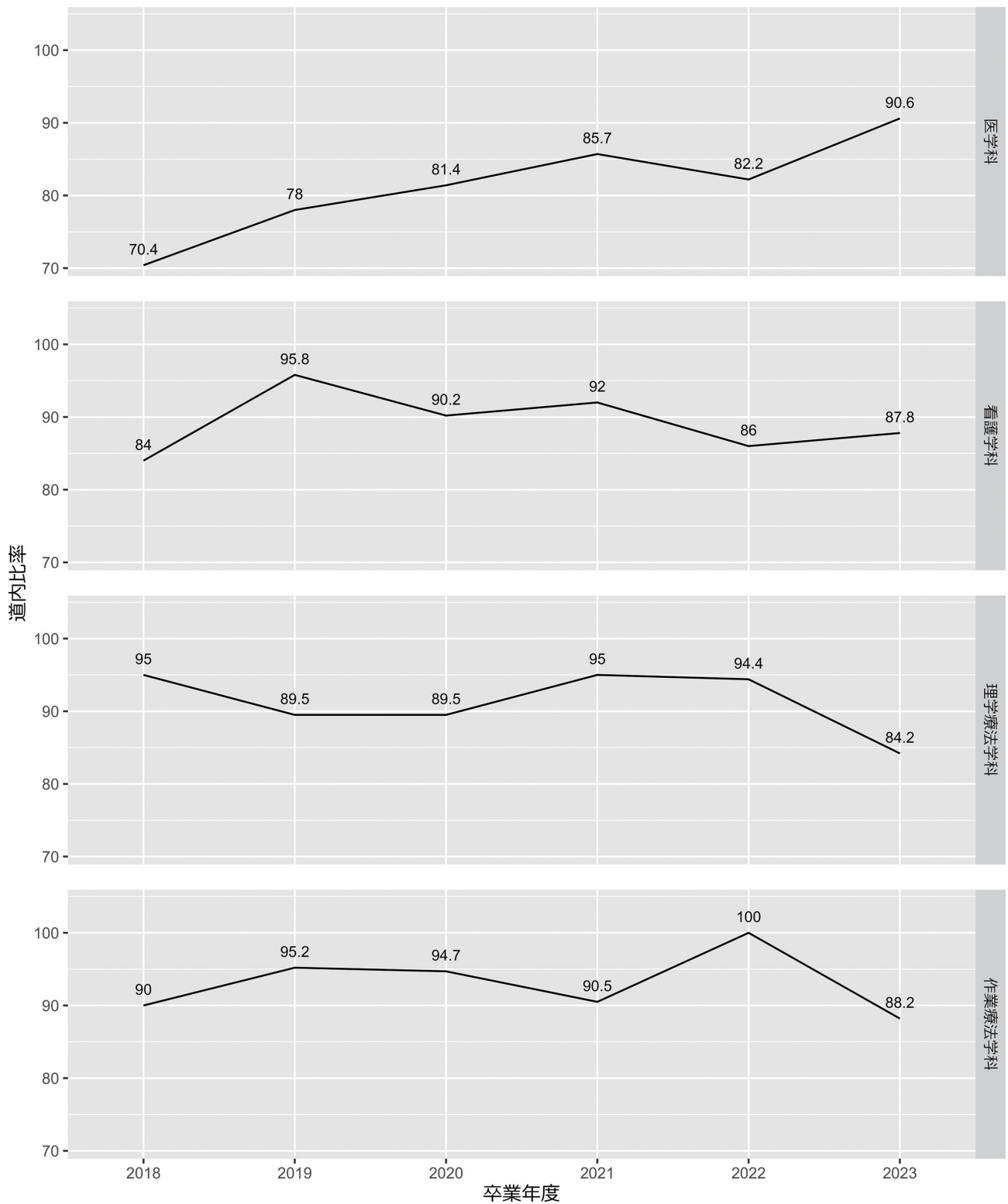
7.1.1 卒後進路の道内外（新卒者のみ）人数

進学も含めているため、進学先が道内の場合は「道内」に含めた。



7.1.2 卒後進路の道内比率（新卒者のみ）

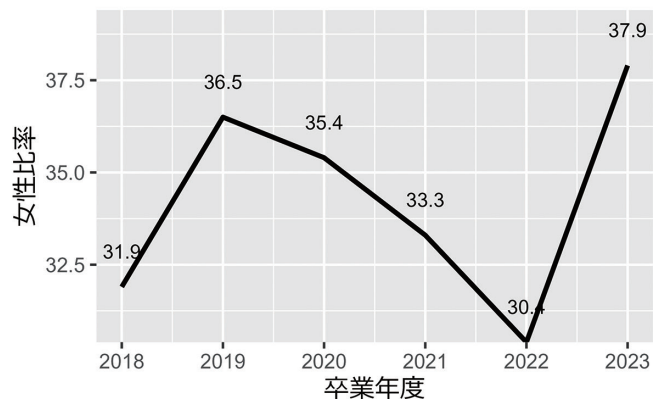
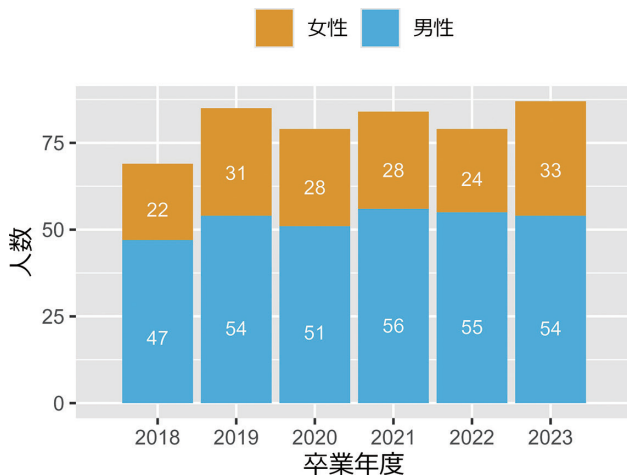
道内比率 = $100 \times \text{卒後進路が道内の人数} / \text{卒業生全員の人数}$



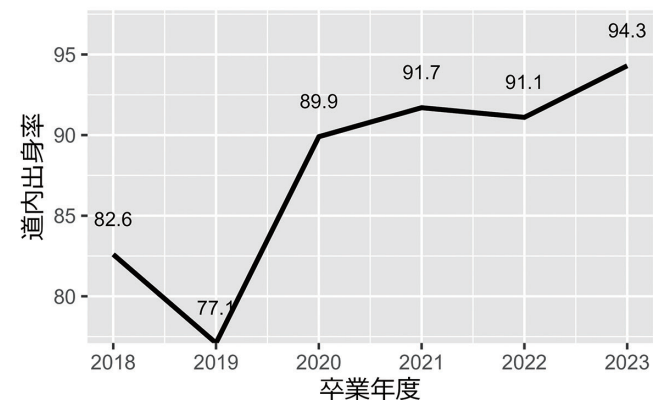
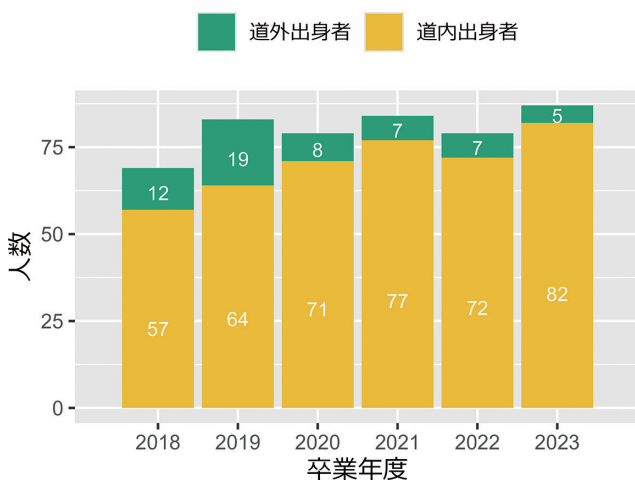
7.2 医学部

7.2.1 初期研修先が道内の卒業生のみ、かつ新卒者のみのデータ

性別ごとの人数とその比

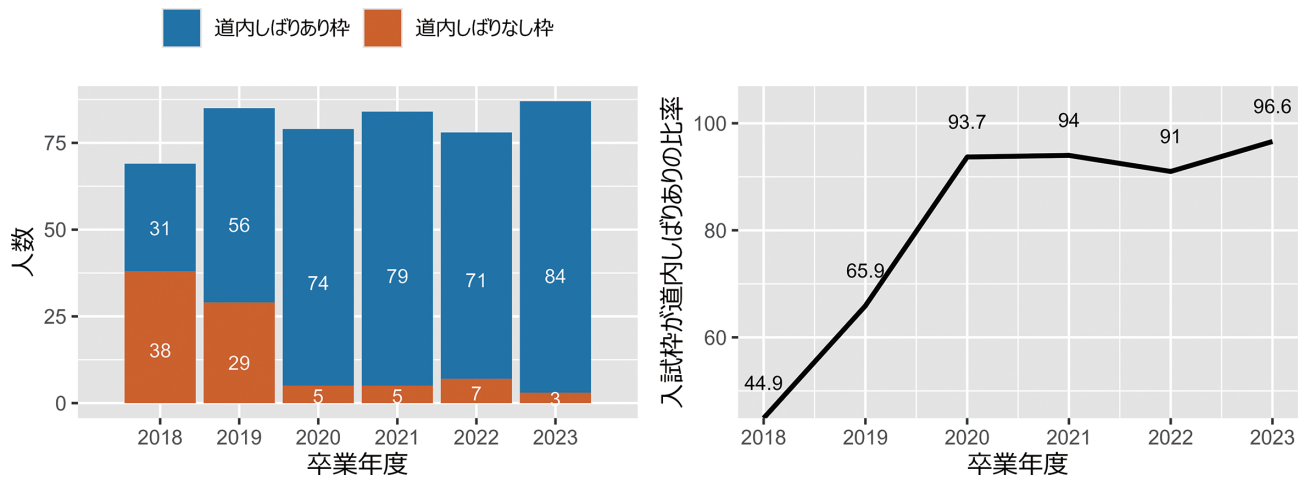


出身が道内か道外かの人数とその比



入試枠ごとの人数とその比（横軸が卒業年度であることに注意）

- 道内しほりあり枠 = 入試枠が、卒後に道内での研修を求めている枠（特別推薦、北海道医療枠、地域枠の合計）
- 道内しほりなし枠 = 求めているない枠（一般枠）

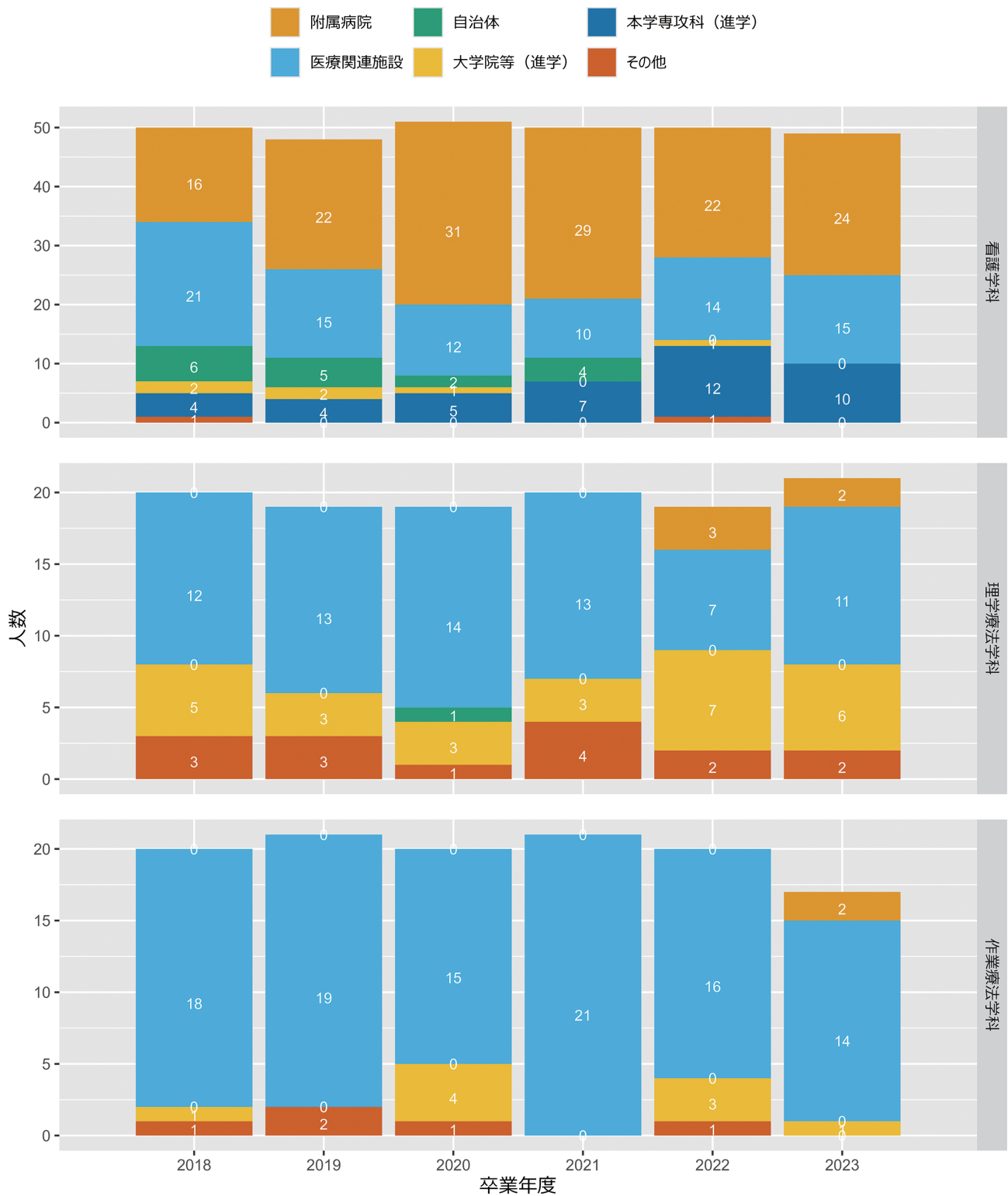


7.2.2 初期研修先 一覽

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>北海道内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北見赤十字病院 ・札幌医科大学附属病院 ・市立札幌病院 ・市立函館病院 ・製鉄記念室蘭病院 ・小樽市立病院 ・市立室蘭総合病院 ・王子総合病院 ・小樽協会病院 ・旭川赤十字病院 ・帯広厚生病院 ・NTT東日本札幌病院 ・札幌北辰病院 ・市立釧路総合病院 ・JCHO北海道病院 ・釧路日赤病院 ・砂川市立病院 ・倶知安厚生病院 ・手稲溪仁会病院 ・斗南病院 ・苫小牧市立病院 ・日鋼記念病院 ・函館五稜郭病院 ・北海道医療センター ・八雲総合病院 ・留萌市立病院 	<p>北海道内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JCHO札幌北辰病院 ・KKR札幌医療センター ・NTT東日本札幌病院 ・旭川赤十字病院 ・旭川日赤病院 ・王子総合病院 ・岩見沢市立総合病院 ・岩見沢市立病院 ・勤医協中央病院 ・恵み野病院 ・砂川市立病院 ・札幌医科大学附属病院 ・市立釧路総合病院 ・市立札幌病院 ・市立室蘭総合病院 ・市立函館病院 ・社会医療法人母恋天使病院 ・小樽市立病院 ・製鉄記念室蘭病院 ・帯広協会病院 ・帯広厚生病院 ・斗南病院 ・東徳州会病院 ・独立行政法人国立病院機構北海道医療センター ・函館五稜郭病院 ・北海道医療センター ・北見赤十字病院 	<p>北海道内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA北海道厚生連帯広厚生病院 ・NTT東日本札幌病院 ・旭川赤十字病院 ・医療法人王子総合病院 ・岩見沢市立病院 ・小樽市立病院 ・帯広協会病院 ・帯広厚生病院 ・北見赤十字病院 ・釧路赤十字病院 ・釧路労災病院 ・倶知安厚生病院 ・札幌医科大学附属病院 ・札幌東徳州会病院 ・市立釧路総合病院 ・市立札幌病院 ・市立函館病院 ・砂川市立病院 ・製鉄記念室蘭病院 ・地域医療機能推進機構札幌北辰病院 ・手稲溪仁会病院 ・独立行政法人国立病院機構北海道医療センター ・苫小牧市立病院 ・日鋼記念病院 ・函館五稜郭病院 ・深川市立病院 	<p>北海道内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・王子総合病院 ・斗南病院 ・函館五稜郭病院 ・小樽市立病院 ・市立函館病院 ・製鉄記念室蘭病院 ・北見赤十字病院 ・砂川市立病院 ・市立札幌病院 ・旭川赤十字病院 ・札幌東徳州会病院 ・市立釧路総合病院 ・済生会小樽病院 ・帯広協会病院 ・市立千歳市民病院 ・勤医協中央病院 ・NTT東日本札幌病院 ・留萌市立病院 ・北海道医療センター ・市立室蘭総合病院 ・帯広厚生病院 ・横須賀共済病院 ・天使病院 ・五稜郭病院 ・小樽協会病院 ・苫小牧市立病院 ・KKR札幌医療センター ・札幌医科大学附属病院 	<p>北海道内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JCHO札幌北辰病院 ・KKR札幌医療センター ・NTT東日本札幌病院 ・旭川赤十字病院 ・王子総合病院 ・勤医協中央病院 ・釧路市立病院 ・釧路赤十字病院 ・釧路労災病院 ・江別市立病院 ・砂川市立病院 ・札幌厚生病院 ・札幌孝仁会記念病院 ・札幌東徳州会病院 ・札幌北辰病院 ・市立釧路総合病院 ・市立札幌病院 ・市立室蘭総合病院 ・市立千歳市民病院 ・市立函館病院 ・小樽協会病院 ・小樽市立病院 ・製鉄記念室蘭病院 ・帯広協会病院 ・帯広厚生病院 ・天使病院 ・斗南病院 ・苫小牧市立病院 ・函館五稜郭病院 ・函館中央病院 ・北海道医療センター ・札幌医科大学附属病院
<p>北海道外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立国際医療研究センター病院 ・菊名記念病院 ・沖縄県立中部病院 ・順天堂大学医学部附属病院 ・浦安病院 ・藤沢市民病院 ・平塚市民病院 ・大和市立病院 ・京都市立病院 ・横浜旭中央総合病院 ・橋本市民病院 ・山梨県立中央病院 ・東京大学医学部附属病院 ・神戸大学医学部附属病院 ・長崎みなとメディカルセンター ・国立病院機構埼玉病院 ・横浜市立大学附属病院 ・湘南藤沢徳洲会病院 ・都立墨東病院 ・淀川キリスト教病院 ・立川総合病院 ・総合南東北病院 ・総合東京病院 ・北海道医療センター ・八雲総合病院 ・留萌市立病院 	<p>北海道外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦安病院 ・青梅市立総合病院 ・板橋中央総合病院 ・兵庫県立尼崎総合医療センター ・沖縄中部徳州会病院 ・沖縄赤十字病院 ・名古屋第二赤十字病院 ・湘南藤沢徳州会病院 ・東京医科大学市川総合病院 ・前橋赤十字病院 ・JCHO大阪病院 ・埼玉病院 ・独立行政法人国立病院機構姫路医療センター ・東京大学医学部附属病院 ・深谷赤十字病院 ・筑波大学附属病院 ・済生会栗橋病院 	<p>北海道外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相澤病院 ・石巻赤十字病院 ・公立学校共済関東中央病院 ・京都医学部附属病院 ・国立病院機構静岡医療センター ・独立行政法人東京医療センター ・東北医科薬科大学病院 ・公益財団法人東京都保健医療公社豊島病院 ・中東遠総合医療センター ・名戸ヶ谷病院 ・ベルランド総合病院 ・松戸市立総合医療センター 	<p>北海道外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖隷横浜病院 ・筑波大学附属病院 ・京都民医連中央病院 ・新百合ヶ丘総合病院 ・船橋市立医療センター ・坂総合病院 ・国立埼玉病院 ・千葉徳洲会病院 ・東京都立墨東病院・千葉大学病院 ・うわまち病院 ・公立西知多総合病院 ・野崎徳洲会病院 ・横浜市立大学医学部付属センター ・西部医療センター ・東部地域病院 ・上飯田病院 	<p>北海道外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SUBARU健康保険組合太田記念病院 ・大阪急性期・総合医療センター ・横浜市立市民病院 ・横浜市立大学附属市民総合医療センター ・国立病院機構災害医療センター ・市立大津市民病院 ・湘南鎌倉総合病院 ・新潟大学医歯学総合病院 ・天理よろづ相談所病院 ・東京慈恵医科大学附属柏病院 ・東京都立多摩南部地域病院 ・板橋中央総合病院 ・名戸ヶ谷病院 ・和泉市立総合医療センター

7.3 保健医療学部

7.3.1 人数内訳



7.3.2 就職・進学先 一覧（看護学科）

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設
<ul style="list-style-type: none"> ・国家公務員共済組合連合会 斗南病院 ・札幌医科大学附属病院 ・北海道立子ども総合医療・療育センター ・社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 ・独立行政法人地域医療機能推進機構 札幌北辰病院 ・独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院 ・KKR札幌医療センター ・留萌市立病院 ・国立がん研究センター 東病院 ・昭和大学横浜市北部病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 ・札幌医科大学附属病院 ・社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 ・社会医療法人北楡会 札幌北楡病院 ・社会医療法人母恋 天使病院 ・KKR札幌医療センター ・公益財団法人地域医療振興協会 飯塚市立病院 ・国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 ・順天堂大学医学部附属 浦安病院 ・東京慈恵会医科大学 附属病院 ・横浜市立大学附属病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人菊郷会 札幌愛育病院 ・札幌医科大学附属病院 ・社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 ・社会医療法人禎心会 ら・かるまセンター訪問看護ステーション禎心会東 ・日本赤十字社 北見赤十字病院 ・北海道大学病院 ・北海道立子ども総合医療・療育センター ・北里大学病院 ・東京医科歯科大学病院 ・東邦大学医療センター 大森病院 ・日本医科大学付属病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯広協会病院 ・札幌医科大学附属病院 ・北里大学病院 ・北見赤十字病院 ・国立がん研究センター 中央病院 ・国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 ・札幌中央病院 ・札幌禎心会病院 ・製鉄記念室蘭病院 ・筑波大学附属病院 ・手稲溪仁会病院 ・東京大学医学部附属病院 ・長野市民病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学附属病院 ・国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 ・さっぽろ香雪病院 ・次年度卒業予定 ・済生会横浜市東部病院 ・道立子ども総合医療・療育センター ・国立国際医療研究センター病院 ・大谷地病院 ・東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター ・札幌禎心会病院 ・日本医科大学付属病院 ・訪問看護ステーション 禎心会東 ・JCHO札幌北辰病院 ・時計台記念病院 ・森山病院
自治体（保健師等）	自治体（保健師等）	自治体（保健師等）	自治体（保健師等）	自治体（保健師等）
<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市 ・苫小牧市 ・北海道立保健所 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市 	<ul style="list-style-type: none"> ・北見市 ・新ひだか町 ・美瑛市 ・稚内市 	なし	なし
進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）
<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学専攻科 公衆衛生看護学専攻 ・札幌医科大学専攻科 助産学専攻 ・天使大学大学院助産研究科 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学専攻科 公衆衛生看護学専攻 ・札幌医科大学専攻科 助産学専攻 ・札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学専攻科 公衆衛生看護学専攻 ・札幌医科大学専攻科 助産学専攻 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学公衆衛生看護学専攻 ・札幌医科大学助産学専攻 ・札幌市立大学助産学専攻科 ・西南女学院大学助産別科 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学公衆衛生看護学専攻 ・札幌医科大学助産学専攻

7.3.3 就職・進学先 一覧（理学療法学科）

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設
<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人社団仁秀会 白石整形外科 ・医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院 ・社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 ・社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 ・Do-clinic ・医療法人社団shindo 旭川 リハビリテーション病院 ・社会福祉法人北海道社会 事業協会 帯広病院 (帯広協会病院) ・市立釧路総合病院 ・船橋二和病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人 札幌円山 整形外科病院 ・医療法人 深仁会 札幌西円山病院 ・医療法人社団shindo 旭川 リハビリテーション病院 ・医療法人社団石史山会 札幌スポーツクリニック ・医療法人社団豊生会 東苗穂病院 ・医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院 ・社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 ・整形外科 北新病院 ・医療法人 悠康会 函館整形外 科クリニック ・北斗グループ ・医療法人社団青嶺会 松戸整形外科病院 ・神奈川リハビリテーション 病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人 札幌円山 整形外科病院 ・医療法人愛全会 愛全病院 ・医療法人社団悠仁会 羊ヶ丘病院 ・医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院 ・社会医療法人医仁会 中村記念病院 ・社会医療法人孝仁会 北海道大野記念病院 ・社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 ・社会医療法人社団カレス サッポロ 時計台記念病院 ・整形外科 北新病院 ・医療法人 喬成会 花川病院 ・医療法人ひまわり会 札幌病院 ・亀田総合病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・羊ヶ丘病院 ・北斗病院・十勝リハ病院 ・ソレイユの森 宮の沢 ・整形外科北新病院 ・新さっぽろ脳外科病院 ・円山整形外科 	<ul style="list-style-type: none"> ・中村記念病院 ・手稲深仁会病院 ・八王子スポーツ整形外科 ・高齢者総合ケアセンター やすらぎ園 ・北斗病院・十勝リハ ・函館整形外科病院 ・函館五稜郭病院 ・勤医協中央病院 ・清田整形 ・東苗穂病院
自治体（保健師等）	自治体（保健師等）	自治体（保健師等）	自治体（保健師等）	自治体（保健師等）
	<ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧市 			
進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）
<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 ・大阪体育大学大学院 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学大学院 ・筑波大学大学院 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学大学院 ・京都大学
その他	その他	その他	その他	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士 研修センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士 研修センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士 研修センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士 研修センター ・株式会社O.H.G 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士

7.3.4 就職・進学先 一覧（作業療法学科）

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
医療関連施設 <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人愛全会 愛全病院 ・医療法人社団 高台病院 ・医療法人社団明日佳 札幌宮の沢脳神経外科病院 ・医療法人社団豊生会 東苗穂病院 ・医療法人北仁会 旭山病院 ・社会医療法人医仁会 中村記念病院 ・社会医療法人医仁会 中村記念南病院 ・社会医療法人友愛会 恵愛病院 ・医療法人風のすずらん会 江別すずらん病院 ・医療法人喬成会 花川病院 ・医療法人社団進和会 旭川リハビリテーション病院 ・医療法人社団一視同仁会 札幌・すがた医院 ・岩見沢市立総合病院 ・社会医療法人北斗 北斗病院 ・社会医療法人こぶし 植苗病院 ・社会福祉法人 美幌療育病院 ・医療法人社団城東桐和会 タムス浦安病院（千葉県） 	医療関連施設 <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 ・医療法人 新さっぽろ脳神経外科病院 ・医療法人 湊仁会 札幌西四山病院 ・医療法人社団大蔵会 札幌佐藤病院 ・医療法人社団研成会 札幌鈴木病院 ・医療法人 徳洲会 札幌東徳州会病院 ・社会医療法人医仁会 中村記念病院 ・社会医療法人 柏葉会 柏葉脳神経外科病院 ・岩見沢市立総合病院 ・社会医療法人こぶし 植苗病院 ・社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター ・社会福祉法人恩賜財団 済生会 みどりの里 ・医療法人社団城東桐和会 タムス市川リハビリテーション病院 	医療関連施設 <ul style="list-style-type: none"> ・IMSグループ医療法人社団 明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院 ・医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 ・医療法人 札幌山の上病院 ・医療法人愛全会 愛全病院 ・医療法人 湊仁会 札幌湊仁会リハビリテーション病院 ・医療法人 湊仁会 定山溪病院 ・医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院 ・医療法人社団 札幌道都病院 ・医療法人社団明日佳 札幌宮の沢脳神経外科病院 ・医療法人社団研成会 札幌鈴木病院 ・社会医療法人 柏葉会 柏葉脳神経外科病院 ・医療法人風のすずらん会 江別すずらん病院 ・医療法人社団一視同仁会 札幌・すがた医院 ・医療法人 翔陽会 滝川脳神経外科病院 ・社会医療法人 孝仁会 星が浦病院 ・独立行政法人労働者健康安全機構 北海道中央労災病院 ・社会福祉法人 多摩済生医療団 多摩済生病院 ・日本医科大学付属病院 	医療関連施設 <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人社団shindo 旭川リハビリテーション病院 ・北海道社会事業協会 帯広病院 ・医療法人北祐会 北海道脳神経内科病院 ・医療法人 札幌山の上病院 ・社会医療法人 柏葉会 柏葉脳神経外科病院 ・医療法人 喬成会 花川病院 ・医療法人 秀友会 札幌秀友会病院 ・社会医療法人医仁会 中村記念病院 ・医療法人社団大蔵会 札幌佐藤病院 ・社会医療法人 北斗 十勝リハビリテーションセンター ・IMSグループ 医療法人社団 明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院 ・岩見沢市立総合病院 ・医療法人ひまわり会 札幌病院 ・医療法人社団明日佳 札幌宮の沢脳神経外科病院 ・医療法人 徳洲会 札幌徳洲会病院 ・社会医療法人社団三草会 クラーク病院 	医療関連施設 <ul style="list-style-type: none"> ・医療法人社団 一視同仁会 札幌・すがた医院 ・社会医療法人 医仁会 中村記念病院 ・医療法人 湊仁会 定山溪病院 ・医療法人ひまわり会 札幌病院 ・医療法人 湊仁会 札幌西四山病院 ・社会福祉法人 恩賜財団 済生会 北海道済生会 みどりの里 ・医療法人 済生会 宮の森記念病院 ・医療法人風のすずらん会 江別すずらん病院 ・医療法人 新新会 多摩あおば病院 ・医療法人 美脳 札幌美しが丘脳神経外科病院 ・医療法人 秀友会 札幌秀友会病院 ・医療法人 札幌山の上病院
進学（大学院等）	進学（大学院等） <ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 	進学（大学院等）	進学（大学院等） <ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学大学院 医学研究科 ・札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 	進学（大学院等） <ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学大学院 保健医療学研究科
その他	その他 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士 研修センター 	その他	その他	その他 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士 研修プログラム ・株式会社LITALICO

8. アンケート結果

8.1 医学部

8.1.1 新入生アンケート調査結果

I. 概要

実施：2023年5月

実施主体：医療人育成センター総合 IR 部門

方法：Qooker を用いた Web 調査

回収率：100% (113/113 名)

II. 結果

① あなたの出身都道府県を教えてください。

北海道内	北海道外
89%	11%

② あなたが入学した入試区分を選択してください。

ATOP-M (一般選抜)	ATOP-M (学校推薦型選抜)	特別枠 (学校推薦型選抜)	一般枠 (一般選抜)	無回答・よくわからない
50%	17%	13%	14%	6%

③ あなたが進路選択をする際に役立つ情報を選択してください (複数選択)

1 大学パンフレット	48%	4 受験雑誌	5%
2 大学ホームページ	37%	5 新聞記事等	1%
3 受験企業等の WEB サイト	5%	6 その他 (高校訪問・YouTube)	1%

④ あなたが本学を知るうえで役立つ情報源を選択してください (複数選択)

1 広告媒体	9%	6 予備校	16%
2 オープンキャンパス	9%	7 家族・親戚	12%
3 入試相談・説明会	14%	8 知人・先輩	10%
4 出前授業	6%	9 その他 (高校訪問、ZOOM、 模擬授業、家庭教師)	1%
5 高校の先生	24%		

⑤ 札幌医科大学への入学決定にあたって、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

1. 入学を希望していた大学である

2. 入学した学部は希望通りの学部である

そう思う	55%	そう思う	95%
どちらかといえばそう思う	34%	どちらかといえばそう思う	4%
どちらでもない	3%	どちらでもない	0%
どちらかといえばそう思わない	3%	どちらかといえばそう思わない	1%
そう思わない	2%	そう思わない	0%
無回答	3%	無回答	0%

⑥ あなたは、高校3年生の9月（昨年9月）頃において、平日に学校等の授業以外で1日平均何時間くらい勉強していましたか。（授業の予復習のほか、予備校、学校での課外の補習・講習を含む）

1 ほとんどしなかった	1%	4 3～5時間未満	38%
2 1時間未満	2%	5 5～7時間未満	25%
3 1～3時間未満	20%	6 8時間以上	3%
		無回答	3%

⑦ あなたは、高校時代の学習において、以下の様な経験をしたことがありますか。

項目	回答			
	ある	ない	わからない	無回答
1 自分から先生に質問や相談に行く	85%	12%	0%	3%
2 自分で設定したテーマについて学習する	79%	13%	3%	4%
3 学習したことについてプレゼンテーションを行う	74%	19%	3%	4%
4 複数の学生で一つのテーマ（課題）に取り組む	84%	10%	3%	3%
5 学生同士でディスカッションを行う	84%	9%	3%	3%

⑧ 札幌医科大学を受験することを決定したのはいつ頃ですか。

1 高校入学前	7%	4 高校3年生4～12月	19%
2 高校1年生	8%	5 高校3年生1月以降	27%
3 高校2年生	15%	6 高校卒業後	23%

⑨ あなたは進学や受験の時に、どんなことを理由に札幌医科大学を選びましたか。

項目	大きな理由になった	少しは理由になった	情報はあったが、理由にはならなかった	情報がなかった・知らなかった	無回答
1 札幌医科大学のブランドやイメージ	31%	47%	12%	3%	7%
2 カリキュラムや授業構成	32%	42%	11%	6%	9%
3 教授・講師陣が充実している	26%	32%	20%	6%	16%
4 入学金・学費などの適切性 (国公立だから、を含む)	23%	65%	6%	3%	3%
5 キャンパスの立地や周辺環境	21%	68%	5%	1%	5%
6 両親や先生から勧め	31%	39%	15%	5%	9%
7 自分の能力レベルに相応	23%	64%	6%	2%	5%
8 通学の利便性	28%	49%	13%	5%	5%

⑩ 札幌医科大学への入学（受験）を決めるにあたり、もっとも重視したのは誰からの意見やアドバイスでしたか。

1 両親	30%	5 親戚や知人	4%
2 兄弟・姉妹	3%	6 本学に在学中の友人や先輩	7%
3 高校の先生	27%	7 特に相談しなかった	13%
4 塾・予備校の先生	16%		

⑪ 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会に参加した際の満足度についてお答えください。

項目	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	参加せず	無回答
1 オープンキャンパス	17%	9%	2%	0%	69%	3%
2 高校で実施された大学説明会	35%	21%	2%	1%	38%	3%
3 塾・予備校で実施された大学説明会	6%	6%	0%	0%	85%	3%
4 一般の会場で実施された大学説明会	4%	3%	0%	0%	89%	3%
5 その他、模擬授業など	6%	3%	0%	0%	88%	3%

⑫ あなたが考える札幌医科大学の魅力についてお答えください。

項目	そう 思う	どちらか といえば そう思う	どちら ともい えない	どちらかと いえばそう 思わない	そう思 わない	わから ない	無回答
1 札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である	49%	30%	9%	3%	2%	4%	3%
2 札幌医科大学の教授陣が魅力的である	37%	22%	21%	3%	3%	10%	4%
3 札幌医科大学の施設・設備が魅力的である	75%	15%	3%	1%	0%	3%	2%
4 札幌医科大学周辺の環境が魅力的である	70%	18%	3%	1%	1%	3%	3%

⑬ あなたは札幌医科大学の建学の精神（「進取の精神と自由闊達な気風」「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」）であることを知っていますか。

聞いたり読んだりしたことがあり、内容のも理解している	56%
聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない	36%
知らない、聞いたり読んだりしたことがない	4%
無回答	3%

⑭ あなたは札幌医科大学医学部のアドミッション・ポリシー（大学がどのような学生を入学者として求めているか明文化したもの）を知っていますか。

聞いたり読んだりしたことがあり、内容のも理解している	63%
聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない	32%
知らない、聞いたり読んだりしたことがない	1%
無回答	3%

⑮ 現時点であなたは、以下の知識・能力についてどの程度備わっていると考えていますか。

項目	充分備わっている	ある程度は備わっている	どちらでもない	あまり備わっていない	全く備わっていない	無回答
1 医療系の専門に係る知識	1%	10%	15%	37%	34%	3%
2 幅広い教養	3%	6%	22%	34%	31%	3%
3 英語（外国語）の運用能力	3%	4%	16%	37%	36%	3%
4 社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力	3%	8%	19%	43%	22%	5%
5 課題を解決するための問題解決力	3%	10%	16%	48%	18%	4%
6 異文化や異なる背景を有する人々に対する理解力	1%	10%	13%	51%	21%	3%
7 他者とのコミュニケーション能力	2%	11%	18%	46%	20%	3%

⑯ 大学生活の中でどのような活動に力を入れたいと考えていますか。

項目	特に力を入れたい	力を入れたい	どちらでもない	力を入れたいと思わない	無回答
1 学部の専門的な勉強	77%	19%	0%	1%	3%
2 語学に関する勉強	48%	35%	3%	5%	9%
3 部活・サークル活動	49%	36%	3%	4%	8%
4 社会活動・ボランティア活動	49%	28%	3%	3%	16%
5 海外への短期留学	32%	24%	3%	19%	21%
6 アルバイト	53%	20%	3%	8%	16%

⑰ 入学後の住まいについて教えてください。

自宅（親所有の家・マンション等）	アパート（賃貸）	下宿・寮	その他
64%	30%	2%	4%

⑱ 入学後の主な通学手段を教えてください。（複数選択可）

徒歩	自転車	地下鉄	バス	市電	その他（JR等）
33%	20%	30%	11%	2%	4%

⑱ 入学にあたって、不安に思っていることを教えてください。(複数回答可)

1 経済的なこと	14%	5 友人などの人間環境	16%
2 住まい・通学などの生活環境のこと	7%	6 卒業後の進路・勤務に関すること	16%
3 健康に関すること	5%	7 特になし	5%
4 学業についての不安	36%		

⑳ あなたは携帯端末を持っていますか。(複数回答可)

持っている (スマートフォン)	持っている (タブレット・pad)	持っていない
99%	58%	1%

㉑ あなたは自分専用あるいは家族で共有しているパソコンを持っていますか。

持っている	持っていない
95%	5%

Ⅲ. まとめ

- ・進路選択に役立つ情報：48%大学パンフレット、37%大学ホームページであった。
- ・入学決定で重視したこと：①両親、②高校・塾の先生、③相談せずの順であった。
- ・高校で実施された大学説明会の満足度が最も高かった。
- ・アドミッション・ポリシーは95%で知られていた。
- ・入学生の属性として、89%が北海道出身であった。
- ・89%が希望した大学、99%が希望した学部であった。
- ・高校では、課題、ディスカッション経験、プレゼンテーションを経験している。
- ・受験を決めた時期：①高校3年1月以降、②高校卒業後、③高校3年生4月～12月であった。
- ・選んだ理由：①カリキュラムや授業構成、②札幌医科大学のブランドやイメージ、③両親や先生からの勧めの順であった。
- ・札幌医科大学の魅力：①施設・設備、②周辺の環境の順であった。
- ・自宅64%、アパート30%から、徒歩33%、地下鉄30%、自転車20%で通学している。
- ・スマートフォン99%、タブレット58%、パソコン95%の所有率である。
- ・力を入れたい内容として：①専門的な勉強、②部活・サークル活動、及び、社会活動・ボランティア活動であった。
- ・不安：①学業、②友人などの人間環境、③卒業後の進路、④経済的なことの順であった。

8.1.2 在学生アンケート調査結果

I. 概要

実施：2023年5月

実施主体：医療人育成センター総合 IR 部門

方法：Qooker を用いた Web 調査

回収率：74% (414/558 名)

① 学年

学年	割合
全体	74% (前年 68%)
2年生	96%
3年生	99%
4年生	100%
5年生	38% (前年 28%)
6年生	40% (前年 26%)

② 性別

性別	男性	女性
割合	67%	33%

③ 入学時年齢

入学時年齢	18歳	19歳	20歳以上
割合	54%	21%	25%

④ 入試枠

入試枠	北海道医療枠	地域枠	特別推薦	一般枠	一般推薦
割合	45%	24%	12%	11%	9%

Ⅱ．結 果

① 居住形態

学年	自宅	下宿、アパート、 学生寮など
全体	61%	39%
2年生	68%	32%
3年生	63%	37%
4年生	61%	39%
5年生	56%	44%
6年生	43%	57%

北海道医療卒	72%	28%
地域卒	66%	34%
推薦入試（特別卒）	50%	50%
一般選抜（一般卒）	62%	38%
一般推薦	72%	28%

② 通学時間（片道）

学年	15分未満	15分以上
全体	51%	49%
2年生	45%	55%
3年生	46%	54%
4年生	54%	46%
5年生	58%	42%
6年生	66%	34%

北海道医療卒	50%	50%
地域卒	45%	55%
推薦入試（特別卒）	56%	44%
一般選抜（一般卒）	53%	47%
一般推薦	50%	50%

③ 部活動・サークルの加入状況

学年	運動+文化系	運動系	文科系	加入していない
全体	15%	61%	12%	12%
2年生	15%	60%	13%	11%
3年生	17%	59%	14%	11%
4年生	13%	63%	10%	14%
5年生	18%	67%	9%	7%
6年生	16%	57%	11%	16%

北海道医療卒	11%	67%	11%	11%
地域卒	11%	59%	11%	18%
推薦入試（特別卒）	24%	60%	8%	8%
一般選抜（一般卒）	24%	53%	4%	18%
一般推薦	11%	67%	11%	11%

④ 部活動・サークルの1週間当たりの活動回数

学年	週1回	週1回以上
全体	19%（前年51%）	81%（前年49%）
2年生	21%	79%
3年生	11%	89%
4年生	20%	80%
5年生	21%	79%
6年生	25%	75%

北海道医療卒	22%	78%
地域卒	20%	80%
推薦入試（特別卒）	17%	83%
一般選抜（一般卒）	11%	89%
一般推薦	22%	78%

⑤ 部活動でどのようなことを得られましたか（複数選択）

	割合
コミュニケーション能力を養えた	66%
人格形成・忍耐・責任感	65%
健康の増進	51%
授業では得られない知識・教養を得た	48%
問題対応能力	36%
実践能力	33%
情報通信技術の能力	12%

⑥ 平日の平均睡眠時間

学年	5 時間未満	5 ～ 6 時間	6 ～ 7 時間	7 ～ 8 時間	8 時間以上
全体	6%	35% (前年 27%)	40% (前年 48%)	16% (前年 17%)	3% (前年 2%)
2 年生	4%	40%	40%	15%	2%
3 年生	10%	30%	44%	16%	5%
4 年生	4%	37%	45%	14%	3%
5 年生	7%	40%	30%	23%	5%
6 年生	5%	41%	39%	16%	0%

北海道医療卒	0%	40%	49%	11%	3%
地域卒	9%	35%	41%	14%	1%
推薦入試（特別卒）	6%	38%	49%	6%	6%
一般選抜（一般卒）	9%	37%	42%	12%	5%
一般推薦	0%	40%	49%	11%	3%

⑦ 食事

学年	3食きちんと食べている	3食は食べないことが多い
全体	64% (前年 78%)	36% (前年 22%)
2年生	65%	35%
3年生	61%	39%
4年生	64%	36%
5年生	64%	36%
6年生	66%	34%

北海道医療卒	72%	28%
地域卒	67%	33%
推薦入試 (特別卒)	68%	32%
一般選抜 (一般卒)	62%	38%
一般推薦	72%	28%

⑧ 1週間当たりのアルバイト時間

学年	3時間以上	3時間未満	していない
全体	69% (昨年 59%)	11% (昨年 10%)	20% (昨年 31%)
2年生	62%	13%	25%
3年生	73%	11%	16%
4年生	78%	8%	14%
5年生	73%	7%	20%
6年生	50%	18%	32%

北海道医療卒	72%	11%	17%
地域卒	66%	12%	21%
推薦入試 (特別卒)	70%	4%	26%
一般選抜 (一般卒)	84%	7%	9%
一般推薦	72%	11%	17%

⑨ アルバイトでどのようなことを得られましたか（複数選択）

	割合
コミュニケーション能力を養えた	64%
人格形成・忍耐・責任感	58%
授業では得られない知識・教養を得た	54%
問題対応能力	51%
実践能力	40%
情報通信技術の能力	11%
健康の増進	7%

⑩ 1日当たりのPC・スマホ・タブレット等でのコミュニケーション時間

学年	使用していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
全体	1%	23% (前年 35%)	44% (前年 41%)	32% (前年 24%)
2年生	1%	25%	47%	27%
3年生	1%	25%	42%	32%
4年生	0%	23%	39%	39%
5年生	0%	16%	51%	33%
6年生	2%	27%	48%	23%

北海道医療卒	0%	25%	56%	19%
地域卒	0%	27%	48%	26%
推薦入試（特別卒）	2%	30%	34%	34%
一般選抜（一般卒）	4%	9%	38%	49%
一般推薦	0%	25%	56%	19%

⑪ 1日当たりのYouTube、Twitter、Instagram等の閲覧時間

学年	1時間未満	1時間～3時間	3時間～5時間	5時間以上
全体	12% (前年 29%)	65% (前年 50%)	16% (前年 12%)	18% (前年 9%)
2年生	14%	58%	18%	9%
3年生	16%	63%	16%	6%
4年生	7%	70%	14%	9%
5年生	9%	64%	24%	2%
6年生	9%	70%	11%	9%

北海道医療枠	14%	64%	17%	6%
地域枠	12%	67%	13%	7%
推薦入試(特別枠)	14%	68%	10%	8%
一般選抜(一般枠)	7%	44%	38%	11%
一般推薦	14%	64%	17%	6%

⑫ 1日当たりの読書(マンガ・雑誌を除く)時間

学年	していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
全体	51% (前年 44%)	31% (前年 28%)	15% (前年 23%)	3% (前年 4%)
2年生	57%	34%	0%	9%
3年生	61%	37%	0%	2%
4年生	63%	34%	0%	3%
5年生	56%	44%	0%	0%
6年生	55%	45%	0%	0%

北海道医療枠	64%	28%	8%	0%
地域枠	53%	27%	16%	4%
推薦入試(特別枠)	44%	40%	14%	2%
一般選抜(一般枠)	44%	29%	20%	7%
一般推薦	64%	28%	8%	0%

⑬ この1年間に、ボランティア活動をしましたか

学年	した	していない
全体	11% (前年 7%)	89% (前年 93%)
2年生	13%	87%
3年生	13%	83%
4年生	6%	94%
5年生	11%	89%
6年生	14%	86%

北海道医療卒	8%	92%
地域卒	9%	91%
推薦入試 (特別卒)	16%	84%
一般選抜 (一般卒)	20%	80%
一般推薦	8%	92%

⑭ 友人 (学内外問いません)

学年	大勢いる	まあまあいる	少しはいる	ほとんどいない
全体	17% (前年 11%)	51% (前年 51%)	29% (前年 31%)	3% (前年 7%)
2年生	20%	57%	21%	3%
3年生	18%	47%	30%	5%
4年生	13%	55%	29%	3%
5年生	18%	42%	40%	0%
6年生	18%	45%	34%	2%

北海道医療卒	14%	64%	22%	0%
地域卒	21%	50%	28%	1%
推薦入試 (特別卒)	22%	50%	26%	2%
一般選抜 (一般卒)	18%	51%	24%	7%
一般推薦	14%	64%	22%	0%

- ⑮ 卒業までに身につけたい能力をどの程度まで獲得できましたか（1 全く身につかなかった 2 あまり見につかなかった 3 ある程度身についた 4 とても身についた）（カッコ内は前年度）

学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
倫理	3.2 (3.3)	3.2 (3.3)	3.3 (3.1)	3.2 (3.4)	3.3 (3.1)
リーダーシップ	2.8 (2.3)	2.8 (2.4)	2.9 (2.5)	3.0 (2.5)	2.8 (2.6)
時間厳守	3.2 (3.2)	3.2 (3.3)	3.3 (3.2)	3.2 (3.4)	3.5 (3.2)
チャレンジ精神	3.0 (2.9)	3.0 (2.9)	3.1 (2.9)	2.9 (2.8)	3.2 (2.8)
専門知識の活用	2.7 (2.9)	2.9 (3.0)	3.0 (3.0)	3.0 (3.1)	3.1 (2.8)
問題分析	3.0 (3.1)	3.1 (3.2)	3.2 (3.0)	3.2 (3.1)	3.2 (3.0)
目標設定、問題解決能力	2.9 (2.9)	3.1 (3.2)	3.0 (3.0)	3.1 (3.3)	3.1 (2.9)
批判的・多面的思考能力	3.1 (2.9)	3.2 (3.1)	3.2 (3.0)	3.0 (3.0)	3.2 (2.9)
人間関係の調整と相互理解	3.1 (3.0)	3.0 (3.0)	3.1 (3.0)	3.2 (3.2)	3.2 (2.9)
医学研究の遂行能力・意欲	2.8 (2.8)	2.9 (2.9)	3.0 (2.8)	3.1 (2.9)	3.0 (2.7)
外国語能力	2.7 (2.5)	2.6 (2.3)	2.5 (2.2)	2.4 (2.1)	2.6 (2.2)
コンピュータ利用能力	2.8 (2.8)	2.9 (3.0)	3.0 (2.7)	3.0 (2.6)	3.1 (2.7)

入試枠	北海道 医療枠	地域枠	推薦入試 (特別枠)	一般選抜 (一般枠)	一般推薦
倫理	3.2	3.2	3.4	3.2	3.2
リーダーシップ	2.9	2.8	2.9	2.8	2.9
時間厳守	3.3	3.3	3.4	3.2	3.3
チャレンジ精神	3.0	3.1	3.1	2.9	3.0
専門知識の活用	2.9	2.8	3.2	2.9	3.0
問題分析	3.1	3.1	3.2	3.0	3.2
目標設定、問題解決能力	3.0	3.1	3.3	2.9	3.1
批判的・多面的思考能力	3.1	3.2	3.3	3.0	3.1
人間関係の調整と相互理解	3.0	3.2	3.3	2.9	3.1
医学研究の遂行能力・意欲	2.9	2.9	3.1	2.9	2.9
外国語能力	2.5	2.6	2.7	2.6	2.5
コンピュータ利用能力	3.0	2.9	3.1	2.8	2.8

⑩ 現在悩みや不安はありますか？

学年	たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない	全くない
全体	11%	31%	36%	14%	8%
2年生	16%	31%	40%	13%	14%
3年生	11%	38%	36%	15%	14%
4年生	10%	28%	45%	17%	6%
5年生	29%	49%	13%	0%	0%
6年生	10%	51%	20%	20%	7%

北海道医療卒	6%	41%	38%	16%	13%
地域卒	11%	29%	46%	13%	10%
推薦入試（特別卒）	13%	38%	33%	17%	4%
一般選抜（一般卒）	18%	25%	48%	10%	13%
一般推薦	6%	41%	38%	16%	13%

⑪ 悩みや不安の内容上位（複数選択可）

	学業	進路	経済状態	対人関係
全体	41%	27%	7%	20%

⑱ 悩みや不安への対処

学年	ほとんど できている	まあまあ できている	どちらとも いえない	あまり できていない	できて いない
全体	9%	47%	30%	11%	3%
2年生	11%	48%	29%	12%	5%
3年生	9%	48%	30%	13%	4%
4年生	74%	53%	26%	14%	3%
5年生	12%	29%	48%	12%	0%
6年生	12%	49%	34%	5%	0%

北海道医療卒	0%	62%	31%	7%	7%
地域卒	11%	55%	28%	6%	3%
推薦入試（特別卒）	18%	33%	38%	11%	4%
一般選抜（一般卒）	12%	29%	37%	22%	2%
一般推薦	0%	62%	31%	7%	7%

⑲ 相談相手上位（複数選択可）

	全体
家族・友人	86%
学担・副学担	3%
学担・副学担以外の教員	3%
学内相談窓口（保健管理センター等）	6%
学外相談窓口	2%
SNS、インターネット等	4%
その他	2%

⑳ 授業料、生活費の支弁者

学年	親・親族	自分自身	全額免除 されている	その他
全体	84%	7%	7%	0%
2年生	90%	7%	4%	0%
3年生	83%	9%	7%	0%
4年生	88%	8%	4%	0%
5年生	84%	4%	11%	0%
6年生	84%	2%	14%	0%

北海道医療卒	92%	6%	3%	0%
地域卒	92%	6%	2%	0%
推薦入試（特別卒）	44%	16%	40%	0%
一般選抜（一般卒）	93%	6%	3%	0%
一般推薦	92%	6%	3%	0%

㉑ 奨学金の受給について

学年	受給していない	受給している
全体	74%	26%
2年生	75%	25%
3年生	78%	22%
4年生	70%	30%
5年生	74%	26%
6年生	74%	26%

北海道医療卒	69%	31%
地域卒	76%	24%
推薦入試（特別卒）	36%	64%
一般選抜（一般卒）	91%	9%
一般推薦	69%	31%

②② 経済的な支援の必要性について

	ある	ない
全体	18%	88%

②③ 学生担当教員（学担・副学担）制度

学年	使って良かった	よく知っている	聞いたことはある	知らない
全体	3%（前年 3%）	20%（前年 12%）	66%（前年 69%）	11%（前年 16%）
2 年生	6%	19%	60%	15%
3 年生	3%	20%	62%	15%
4 年生	3%	19%	67%	11%
5 年生	0%	18%	78%	4%
6 年生	2%	27%	70%	0%

②④ 保健管理センターについて

学年	使って良かった	よく知っている	聞いたことはある	知らない
全体	11%	31%	55%	3%
2 年生	9%	30%	56%	5%
3 年生	10%	35%	51%	4%
4 年生	12%	28%	59%	1%
5 年生	11%	31%	58%	0%
6 年生	11%	32%	55%	2%

②⑤ 学部内のハラスメント相談窓口について

学年	使って良かった	よく知っている	聞いたことはある	知らない
全体	1%	11%	54%	34%
2 年生	0%	8%	47%	44%
3 年生	2%	10%	49%	39%
4 年生	1%	14%	63%	22%
5 年生	0%	13%	64%	22%
6 年生	2%	7%	55%	36%

⑳ 充実を希望する支援内容（複数選択可）

	割合
進路	52%
国家試験対策	50%
学習	49%
キャリア教育	36%
課外活動	27%
就職	22%
経済	18%
留学制度に関する支援	17%
生活	16%

Ⅲ. まとめ

- ・ 5, 6年生からのアンケート回収率の改善が見られた。
- ・ 部活動・サークルの活動回数が増加した（週1回以上が前年49%から81%に増加）。
- ・ 部活動・サークルでコミュニケーション能力、人格形成・忍耐・責任感、健康の増進を得た。
- ・ 平均睡眠時間は減少傾向にある（5～6時間が前年27%から35%に増加している）。
- ・ アルバイト時間が長くなる傾向にある（1週間当たり3時間以上が前年59%から69%に）。
- ・ アルバイトでコミュニケーション能力、人格形成・忍耐・責任感、授業では得られない知識・教養、問題対応能力を得た。
- ・ オンラインコンテンツ閲覧時間は長くなる傾向にあり、読書時間は減少する傾向にある。
- ・ ボランティア活動をしている学生が増加する傾向にある。
- ・ 友人は増加傾向にある。
- ・ 卒業時に獲得すべき能力の自己評価としては、全体に上昇する傾向にある。
- ・ 経済的な支援の必要性があると18%が回答している。
- ・ 「進路」「国家試験対策」「学習」「キャリア教育」などの支援充実を希望している。

8.1.3 卒業生（自己評価）アンケート調査

I. 概要

実施：2024年2月

調査対象：本学教室に関連する本学卒業生

および他学卒業生、卒後6、12、15、18年目にアンケート調査

回収率：25.8% (46/178名)

II. 結果

基本属性（出身都道府県、性別、卒業大学、勤務地、現職、学位有無）

1 出身都道府県

卒業年	北海道内 (n = 36)	北海道外 (n = 10)
2009	6 (16.7%)	1 (10.0%)
2015	8 (22.2%)	2 (20.0%)
2018	10 (27.8%)	3 (30.0%)
2021	12 (33.3%)	4 (40.0%)

2 性別

男性	女性	答えたくない
18 (39.1%)	18 (60.9%)	0 (0.0%)

3 卒業大学 札幌医科大学 46 (100%)

4 勤務地

北海道内	北海道外
42 (91.3%)	4 (8.7%)

到達度評価（学位、役職、自身のコンピテンシーの認識）

5 学位有無

卒業年	学位あり (n = 5)	学位なし (n = 41)
2009	4 (57.1%)	3 (42.9%)
2015	1 (10.0%)	9 (90.0%)
2018	0 (0.0%)	13 (100.0%)
2021	0 (0.0%)	16 (100.0%)

6 現職

卒業年	一般病院 (n = 15)	開業医 (n = 0)	大学 (n = 6)	専攻医・後期研修医 (n = 25)	その他 (n = 0)
2009	4 (57.1%)	0 (0.0%)	3 (42.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2015	8 (80.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2018	3 (23.1%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	9 (69.2%)	0 (0.0%)
2021	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (100.0%)	0 (0.0%)

自身のコンピテンシーの認識

卒業年	高い倫理観	幅広い視野	基本的な医学 知識と技術	現状に潜む 問題点	社会的責任
2008 (n= 7)	3.7	3.3	3.7	3.4	3.7
2014 (n=10)	3.1	3.1	3.7	3.7	3.6
2017 (n=13)	3.3	3.0	3.2	3.3	3.6
2020 (n=16)	3.7	3.4	3.6	3.5	3.8

その他（カリキュラム評価）

卒業年	総合教育	基礎教育	PBL	臨床実習全体	満足度
2008 (n= 7)	2.7	2.7	3.4	3.9	3.1
2014 (n=10)	3.1	3.2	3.6	3.8	4.0
2017 (n=13)	2.7	3.0	3.4	4.0	3.5
2020 (n=16)	3.4	3.7	3.6	3.6	3.6

8.1.4 卒業生（他者評価）アンケート調査結果

1. 趣 旨

JACME 評価基準のうち「卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良すること（Q2.8.1）」を達成するため体系的に情報収集する。

2. 方 法

調査内容：札幌医科大学卒業生を対象とした医学部コンピテンスの到達度に関するアンケート調査

- A. 本学卒業生のコンピテンスの到達度
- B. 本学卒業生のコンピテンス到達度の他大学卒業生との比較
- C. 地域や社会の立場から重点的に教育して欲しいコンピテンス項目、医学部教育科目

調査対象と回答者：

- I. 初期臨床研修医→臨床研修責任者
- II. 後期臨床研修医（初期臨床研修終了後から専門医取得まで）→施設長
- III. 専門医を取得している医師→施設長

対象者個人ではなく、全体的な評価をお願いする。

調査施設（31 施設、順不同）

道内臨床研修施設（都市部）：市立札幌病院、NTT 東日本札幌病院、札幌東徳洲会病院、KKR 北海道医療センター、札幌厚生病院、JCHO 札幌北辰病院、JCHO 北海道病院、手稲溪仁会病院、天使病院、市立函館病院、函館五稜郭病院、函館中央病院、旭川赤十字病院、岩見沢市立病院

道内臨床研修施設（地方部）：製鉄記念室蘭病院、帯広協会病院、帯広厚生病院、王子総合病院、北見赤十字病院、小樽市立病院、砂川市立病院、市立釧路総合病院、日鋼記念病院、苫小牧市立病院、市立室蘭総合病院、釧路赤十字病院、釧路労災病院、倶知安厚生病院、八雲総合病院、北斗病院、深川市立病院

調査方法：依頼文、アンケート用紙を郵送し、返信用封筒にて回収。3種のアンケート用紙はまとめて施設長に郵送とする。

3. アンケート項目と評価

アンケート項目	
項目1：プロフェッショナリズム	医療倫理および生命倫理の原則を理解し、人の命及び健康を守る医師の使命と職責を自覚し行動できていますか。
項目2：医学知識	医学の基礎となる自然科学、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を有し活用できていますか。
項目3：医療の実践	臨床情報を収集、整理して臨床推論から診断を導き、根拠に基づいた医療技術を個々の状況に応じて実践できていますか。
項目4：問題対応能力	既存の知識や技能では対応できない問題を抽出し、問罪解決に向けた情報を収集、分析して構想を示すことができますか。
項目5：コミュニケーション	患者・家族、医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができますか。
項目6：科学的探求	科学的思考に基づいた探究心を持ち、医学研究を遂行する意欲と基礎的素養を有していますか。
項目7：地域医療	地域における医療専門職の役割を理解し、地域社会の健康の向上及び増進に向けた医療を実践できていますか。
項目8：国際貢献	国際的視野に立って医療・保健に関わる知識を活用することができますか。
<p>本学卒業生のコンピテンス到達度</p> <p>1：できていない</p> <p>2：あまりできていない</p> <p>3：標準的にできている</p> <p>4：標準以上にできている</p> <p>5：極めて優れている</p>	<p>本学卒業生のコンピテンス到達度の他大学卒業生との比較</p> <p>○：評価不可能</p> <p>1：劣っている</p> <p>2：同じレベルにある</p> <p>3：優れている</p>

4. 調査対象施設およびアンケート回収率：

調査対象施設

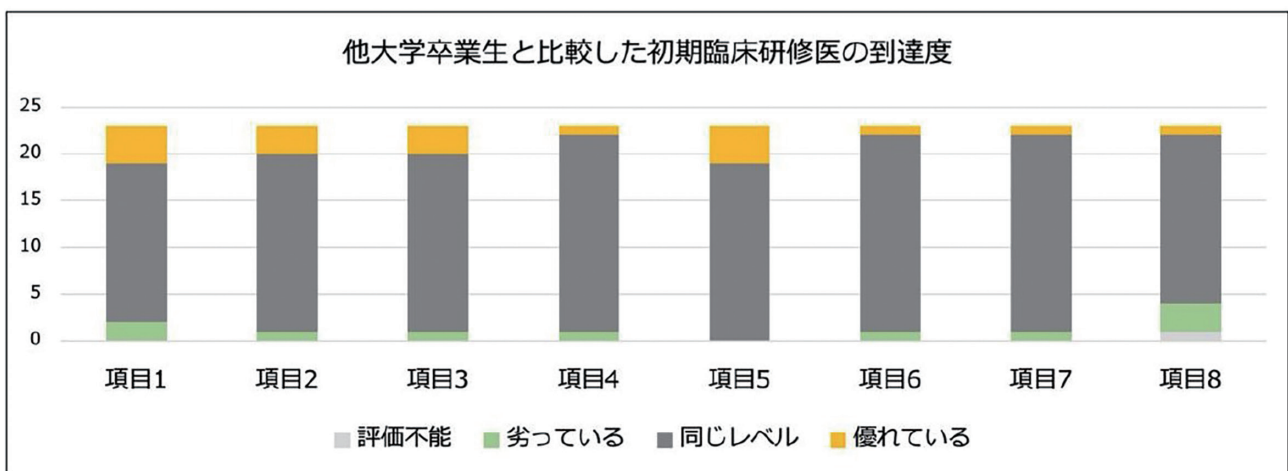
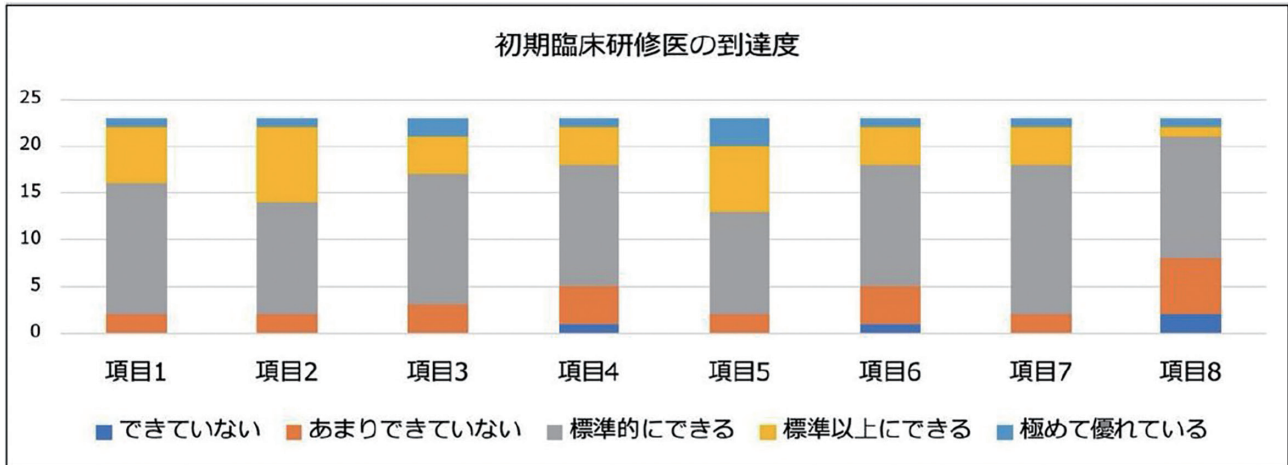
	施設	初期臨床研修医	後期臨床研修医	専門医		施設	初期臨床研修医	後期臨床研修医	専門医
1	旭川赤十字病院	○	X	○	21	手稲溪仁会病院	-	○	-
2	岩見沢市立病院	○	X	X	22	苫小牧市立病院	○	○	○
3	NTT東日本札幌病院	-	○	X	23	日鋼記念病院	○	X	-
4	王子総合病院	-	○	○	24	函館五稜郭病院	○	○	○
5	小樽市立病院	○	○	○	25	函館中央病院	-	○	-
6	帯広協会病院	○	○	○	26	深川市立病院	○	X	-
7	帯広厚生病院	○	-	X	27	天使病院	○	○	○
8	北見赤十字病院	○	○	○	28	北斗病院	-	-	○
9	釧路赤十字病院	○	○	○	29	八雲総合病院	-	-	○
10	釧路労災病院	-	X	-	30	KKR北海道医療センター	○	○	○
11	倶知安厚生病院	○	X	○	31	JCHO北海道病院	○	-	○
12	札幌厚生病院	-	-	○		送付施設数(計)	26	26	26
13	札幌東徳洲会病院	○	X	○					
14	札幌北辰病院	○	X	X					
15	市立釧路総合病院	○	X	X					
16	市立札幌病院	○	○	○					
17	市立函館病院	○	X	○					
18	市立室蘭総合病院	○	○	○					
19	砂川市立病院	○	X	X					
20	製鉄記念室蘭病院	○	○	○					

アンケート回収率

- 初期臨床研修医：23/26 (88.4%)
- 後期臨床研修医：17/26 (65.4%)
- 専門医：21/26 (80.8%)

アンケート回収率は初期臨床研修医 23/26 (88.4%)、後期臨床研修医：17/26 (65.4%)、専門医：21/26 (80.8%) と、前回調査に比較べ大幅な改善がみられた。

5. 初期臨床研修医の評価



各施設のコメント（抜粋）：

▶他大学卒業生と比較して優れている点

- ・チーム医療の一員として行動ができる。
- ・明朗で元気があり、他のメンバーと楽しく一緒に働ける。
- ・地域医療に対する理解。
- ・コミュニケーション能力。自己主導的な学習。
- ・他大学卒業生より真剣に取り組んでいると思う。

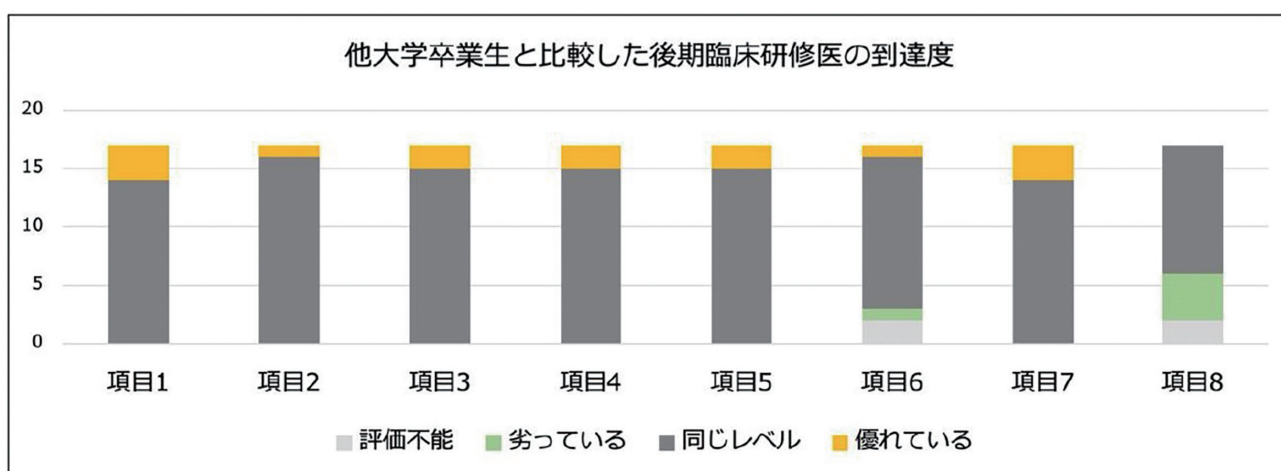
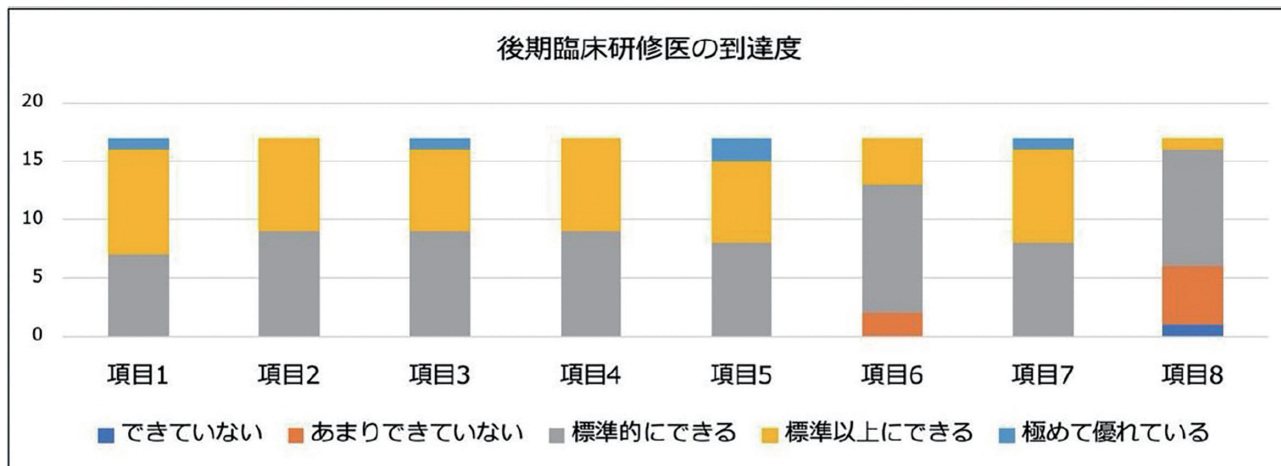
▶他大学卒業生と比較して不足している点

- ・英語、主体性、リサーチに対する興味。
- ・解剖などの基本はなっていない。臨床と基礎が解離している。
- ・人命をあずける責任感をもって自己研鑽を積むこと。
- ・他大学卒業生よりも真面目な分、柔軟性がやや少なめの印象。

▶大学に教育を望む内容

- ・臨床推論、医学英語。解剖・生理と病態理解を関連できるようにして欲しい。
- ・内科外科などを希望するようにして欲しい。
- ・医学知識とともに医療のしくみも学ぶとよい。
- ・マイナーに進む医師が多く、内科や外科などメジャーに進む医師が増えることを希望。

6. 後期臨床研修医の評価



各施設のコメント（抜粋）：

▶他大学卒業生と比較して優れている点

- ・コミュニケーション能力。
- ・協調性に優れていて、チームとしての医療の実践ができています。

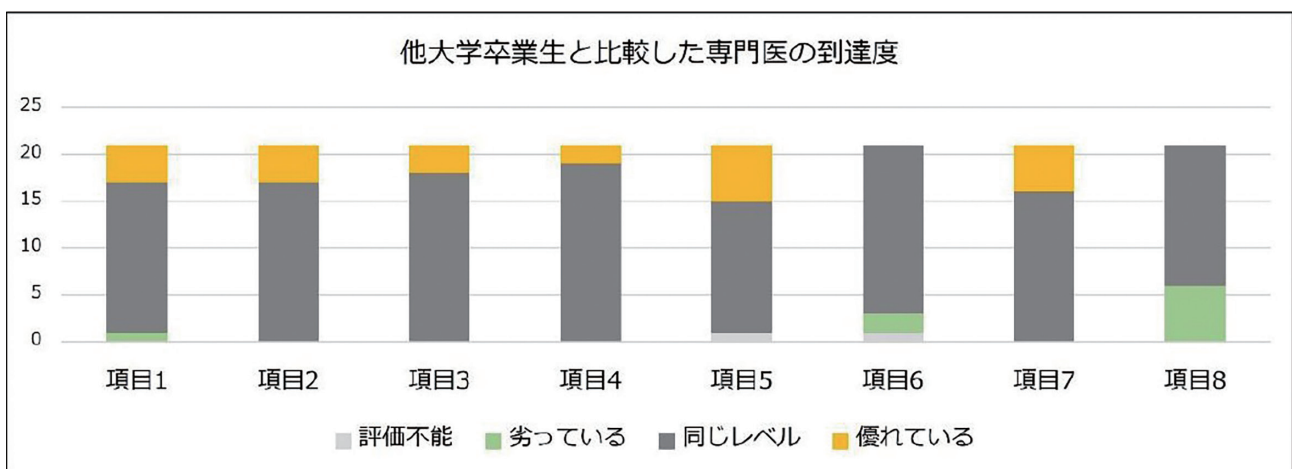
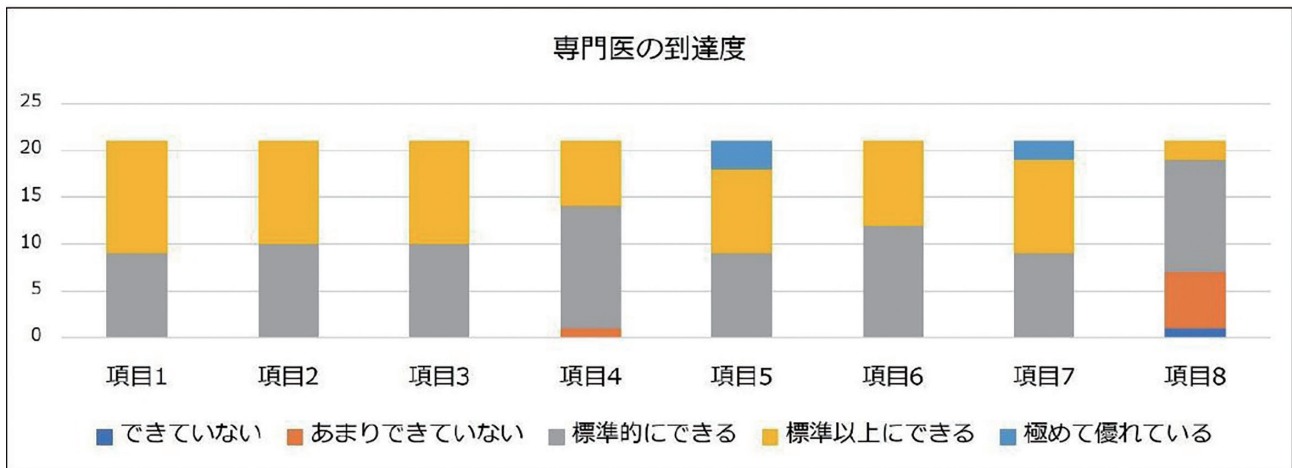
▶他大学卒業生と比較して不足している点

- ・他の大学に劣っているわけではないが、道立大学として道の地域医療を維持発展させることに対しより熱意を持っていただけたら良い。
- ・国際的視野・チャレンジ精神の不足（内向き志向）。
- ・若干推しが弱い。

▶大学に教育を望む内容

- ・専門分野に集中しすぎること無く、総合内科的な知識をベースに持ってほしい。
- ・医学・英会話能力とくにnativeとのdiscussionのトレーニング、国際学会形式での発表トレーニング。
- ・Common diseaseに対する教育、身体所見のとり方の教育、救急医療に対する教育。
- ・人柄の良い人材が欲しい。
- ・プロフェッショナリズム、英語能力。

7. 専門医の評価



各施設のコメント（抜粋）：

▶他大学卒業生と比較して優れている点

- ・地域医療（とくに救急）には十分貢献している。
- ・特になし（札医大として特色は見いだせない）。
- ・患者さんとのコミュニケーションはいい方。
- ・チーム医療ができてい、協調性がある。

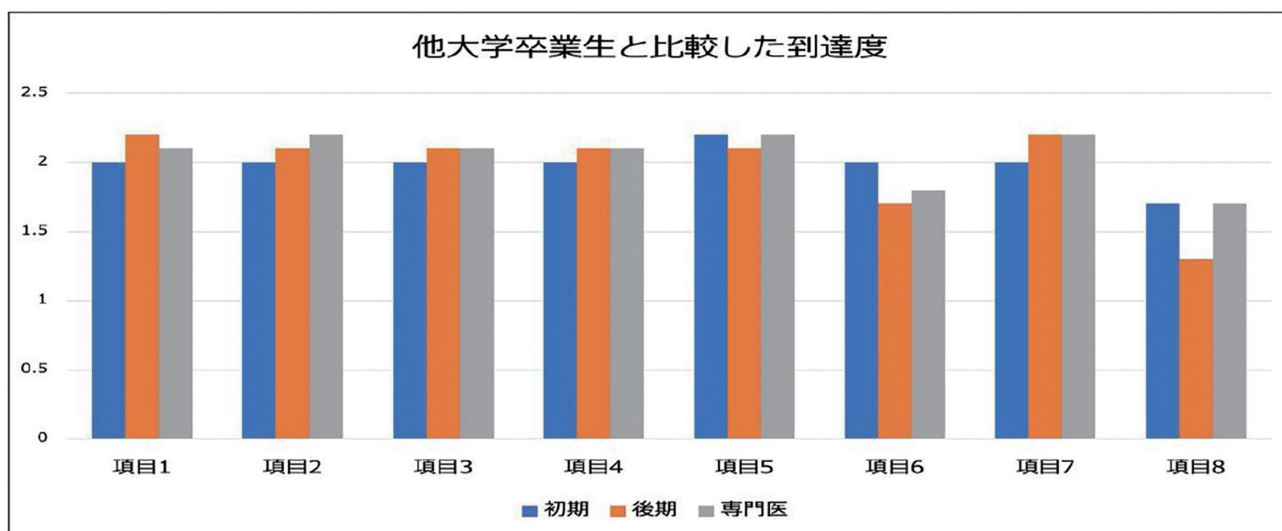
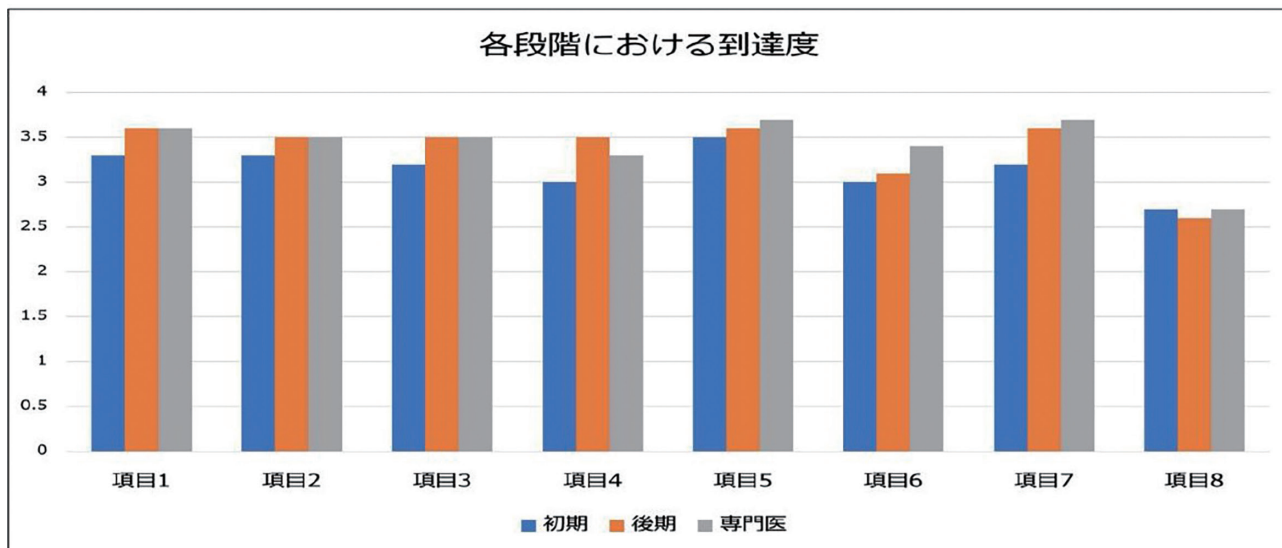
▶他大学卒業生と比較して不足している点

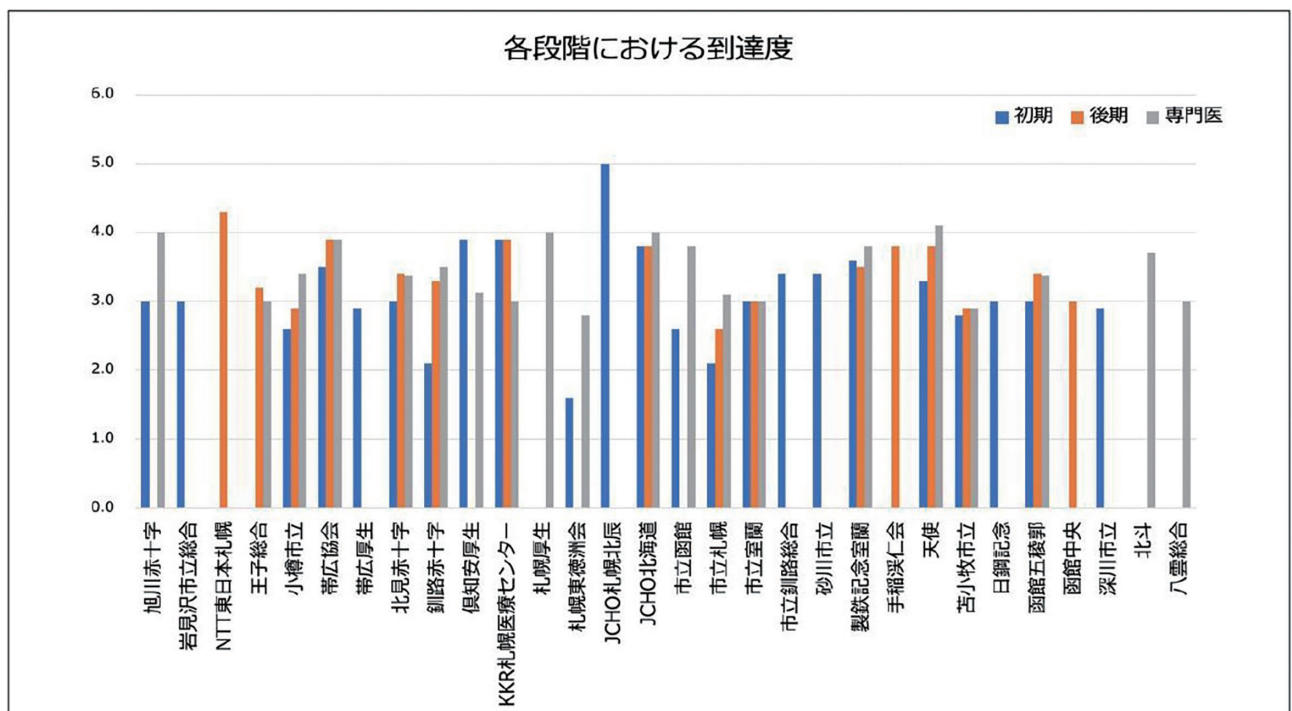
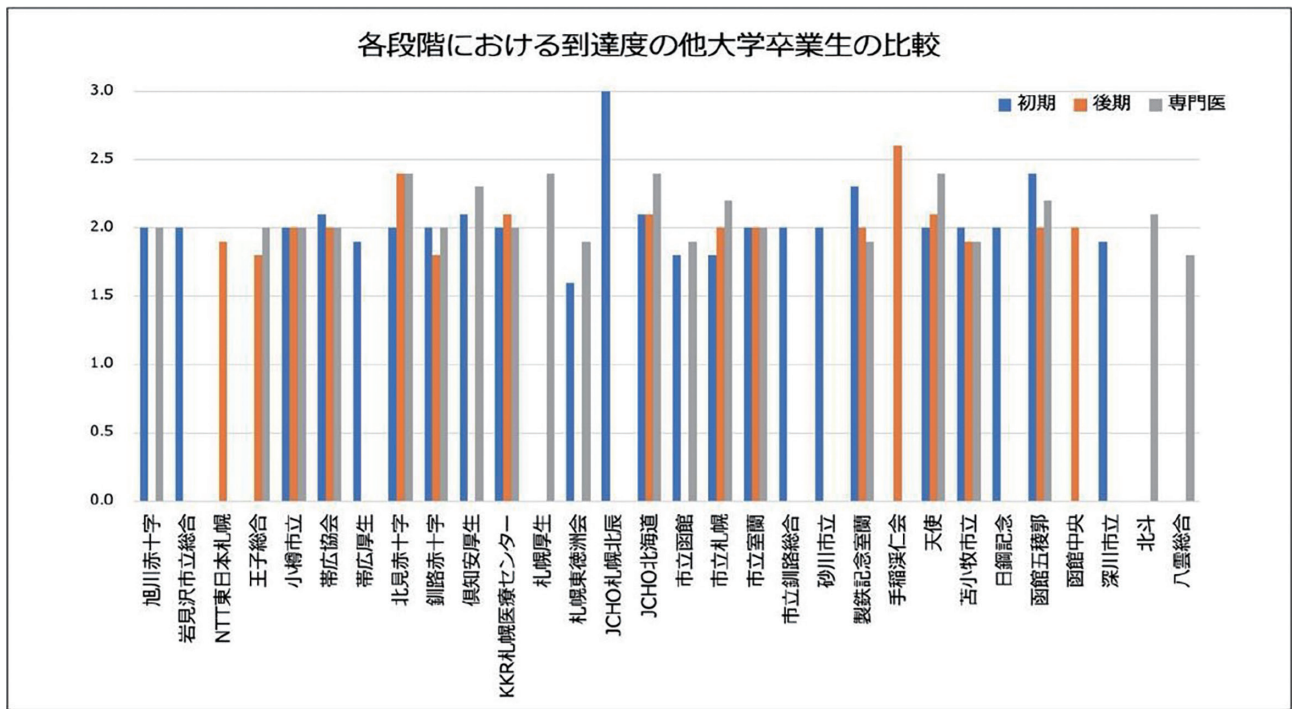
- ・国際的視野、チャレンジ精神が欲しい。
- ・マネジメント。
- ・アカデミアにもっと興味を持ってほしい。

▶大学に教育を望む内容

- ・専門分野を持ちつつ総合診療的な知識をベースに持つ医師となってもらいたい。
- ・医学・英会話能力とくにnativeとのdiscussionのトレーニング、国際学会形式での発表トレーニング。
- ・特に札幌医科大学にということではないが、病気を診るというより病気を持った人を診るということの重要性ややりがいを教育して頂きたい。
- ・医療安全、感染対策、臨床倫理についての教育。
- ・終末期患者及び家族に対するコミュニケーションの基礎。

8. 各段階における到達度評価（項目別、施設別）





9. まとめ

- ▶初期臨床研修医：コミュニケーション能力や協調性は高く評価されていたが、語学力やリサーチマインド、解剖学・病態理解など基礎的領域の研鑽を求められた。
- ▶後期臨床研修医：国際的視野、チャレンジ精神を求められているほか、日常診療の研鑽ともにさらなる語学力の習得やプロフェッショナルリズムを求める傾向にあった。
- ▶専門医：地域医療への貢献とチーム医療の実践について高く評価された一方で、医学知識や国際的視野を持つこと、患者への接し方など後期研修医よりも更に高いレベルに到達することを期待されていた。

8.2 保健医療学部

8.2.1 新入生調査報告書

I. 新入生調査の概要

① 目的

本調査は、医療人育成センター統合IR部門が学部別に実施している調査の一環で、保健医療学部では初めての試みである。本調査は、1年生を対象に入学直後に調査を行うことから、1) 学習、生活、心理面などさまざまな観点から新入生に必要な支援を検討することと、高校生時代に本学を受験することを決定した過程や学習の状況について調査を行い、翌年度以降の2) 入学試験のあり方や各高校／高校生への情報提供や広報のあり方を検討する資料を得ることを目的としている。

② 方法

(1) 調査期間

2023年4月

(2) 調査方法

アプリケーションQookerを用いたインターネット調査

(3) 調査対象

2023年度保健医療学部入学生（1年生）90名

(4) 調査内容

医学部で行われている新入生調査を参考に、医療人育成センター統合IR部門、保健医療学部IR連携WGにて内容を検討し、保健医療学部拡大学科長会議、保健医療学部教務委員会／カリキュラム委員会での審議を経て内容を確定した。

1. 基本属性（居住地、交通手段、PC等の保有）
2. 自身のコンピテンシーの認識
3. 高校生時代の生活、学習、意思決定について（進路選択、学習時間、学習経験）
4. 本学との関わり、認識（オープンキャンパス等への参加、本学の魅力、建学の精神やアドミッションポリシーの認知）
5. 大学生活への期待・不安、抱負

③ 結果・考察

(1) 基本属性（居住地、交通手段、PC等の保有）

入学前の居住地は「札幌市内」と「札幌市外（北海道内）」が約半数であり、「北海道外」（3.7%）はわずかであった（図2）。入学後の居住形態は「自宅（親所有の家・マンション等）」が最も多く（65.9%）次いで、「アパート（賃貸）」32.9%であった（図3）。主な通学手段（複数選択可）は「徒歩」（56.1%）、「地下鉄」（54.9%）が多かった（図4）。作業療法学科は「札幌市外（北海道内）」（64.7%）出身の者が多く（図5）、結果として居住形態は「アパート（賃貸）」（47.1%）での1人暮らしが他学科より多くなっていた（図3）。

情報端末の所有状況は、「PC（自分専用）」の所有率は97.6%であり、「プリンタ」の所有率は

71.6%であった（図6）。遠隔講義による学習は可能な準備状態にあるが、プリンタの必要性については入学前から情報提供を行って、準備を促す必要性がうかがえる。

(2) 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価

高校3年生9月頃における平日の勉強時間は「3～5時間未満」（41.5%）が最も多かったが、それよりも短いまたは長いなど、学生の個人差が認められた（図7）。入学後の学習時間と併せて調査／検討する必要がある。高校時代における能動的な学習について、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」（73.2%）は3/4程度であった（図8）。知識・能力について、備わっていないとの自己評価が多かったのは「パソコンのソフトウェアの操作」（57.3%）、「英語（外国語）の運用能力」（39.1%）であった。保健医療学部のカリキュラムを検討する上で、プレゼンテーション能力の向上も含めて、一般教育科目等の充実を図る必要があると考えられる。

(3) 進路選択に関わる情報収集と意思決定について

札幌医科大学を受験することを決定した時期は「高校2年生」（37.8%）が最も多く、次いで「高校3年生4～12月」（23.2%）であった（図12）。時機を見極めた情報提供が求められる。

進路選択をする際に役立った情報について、「大学パンフレット」（90.2%）と「大学ホームページ」（80.5%）が最も活用されていた（図13）。これらの媒体の内容の充実を図るとともに、他の媒体の有効性について検討する必要がある。

本学を知るうえで役立った情報源（複数回答）は「高校の先生」（48.8%）、「オープンキャンパス」（36.6%）、「入試相談・説明会」（31.7%）、「家族・親戚」（31.7%）が多くなっていた（図15）。入学生における「オープンキャンパス」の参加率は半数強（54.9%）であったが、満足度はほぼ100%だった（表1）（図17）。本学の魅力を伝える有効な手段であるといえる。また、「高校で実施された大学説明会」（62.2%）への参加率も高いため、各高校との連携が今後も重要になると考えられる。

本学への入学（受験）を決めるにあたり意見やアドバイスを最も重視した相手は、「両親・保護者」（34.1%）が最も多く34.1%、「高校の先生」（31.7%）、「塾・予備校の先生」（15.9%）であった（図19）。本学を知る上での情報源も「家族」や「高校の先生」が挙げられていることから、高校生の家族までを視野に入れた情報提供の内容や方法の検討や、高校との連携を継続的にはかっていく必要がある。

本学を選択した理由は、「入学金・学費などの適切性（国公立だからを含む）」（63.8%）が最も多く、次いで「カリキュラムや授業構成」（57.1%）、「教授・講師陣が充実している」（54.5%）、「キャンパスの立地や周辺環境」（53.2%）が多くなっていた（図20）。これらの強みを活かした広報戦略が必要とされる。

(4) 大学入学後の不安・期待、活動について

札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ちとして、入学を希望していた大学／学部であるかどうかは、ほとんどの学生が肯定的な回答をしていたが、学科／年度によってその度合いが異なっていた（図26, 図27）。入学にあたって、不安に思っていることは、「学業についての不安」（62.2%）が最も多く、次いで、「友人などの人間環境」（32.9%）、「経済的なこと」（18.3%）で、作業療法学科では「経済的なこと」（35.3%）、「住まい・通学などの生活環境のこと」（23.5%）等の生活全般に関する不安が多くなっていた（図28, 図29）。各学科の学生の状況をふまえ、学生が相談できる

環境の構築とその周知が肝要と考えられる。

大学生活の中で『特に力を入れたい』の割合が最も高かったのは、「学部の専門的な勉強」(87.8%)、「語学に関する勉強」(36.6%)、「部活・サークル活動」(36.6%)だった(図30)。「海外への短期留学」は、『力を入れたいと思わない』と回答した学生も多く(26.8%)、国際化に向けた啓発が必要と考えられる。札幌医科大学で何を求めどんなことに取り組みたいかについては、「専門的な知識や技術の習得」、「地域医療」や「多職種連携」が挙げられており、これらの教育について一層の充実が望まれる(表3)。

II. 結果・考察

① 基本属性

(1) 入試区分(図1)

入試区分について、「一般選抜」、「学校推薦型選抜」の二肢択一で回答を得た。

その結果、学部全体では「一般選抜」が84.1%であった。学校推薦型選抜の合格者数の変動に応じて、学科・年度による入試区分別合格者の割合は異なっていた。

(2) 入学前の居住地(2月時点)(図2)

出身地について、「札幌市内」、「札幌市外(北海道内)」、「北海道外」の三肢択一で回答を得た。

その結果、「札幌市内」と「札幌市外(北海道内)」が約半数であり、「北海道外」は3.7%(2022年度:1.1%)であった。学科別にみると、作業療法学科は「札幌市外(北海道内)」(64.7%)が他学科と比較して割合が高く、「北海道外」はいなかった。

(3) 入学後の住まい(図3)

入学後の住まいについて、「自宅(親所有の家・マンション等)」、「アパート(賃貸)」、「下宿・寮」、「その他」の四肢択一で尋ねた。

その結果、学部全体では、「自宅(親所有の家・マンション等)」が最も多く65.9%を占めていた。次いで、「アパート(賃貸)」32.9%、「下宿・寮」1.2%という結果であった。学科別にみると、作業療法学科は「アパート(賃貸)」が47.1%と高く、一人暮らしの学生が多いことを反映した結果と推察される。

(4) 主な通学手段(複数選択可)(図4, 図5)

主な通学手段について、「徒歩」、「自転車」、「地下鉄」、「バス」、「市電」、「JR」、「その他」のうち複数選択可で尋ねた。

その結果、最も多かったのは「徒歩」で56.1%を占め、次いで「地下鉄」が54.9%であった。さらに「自転車」、「JR」、「バス」、「市電」の順で回答が多かった。学科別にみると、看護学科は「地下鉄」が多く、作業療法学科は「徒歩」が多い結果であった。これは入学後の住まいが、作業療法学科は「アパート(賃貸)」が最も多いことを反映した結果と推察される。

(5) 情報端末の所有(図6)

情報端末の所有状況として、「タブレット・pad」、「PC(自分専用)」、「プリンタの所有状況」を尋ねた。

その結果、「PC（自分専用）」の所有率は97.6%であり、理学療法学科は全ての学生がPCを所有していた。「タブレット・pad」の所有率は32.9%であり、2022年度の調査に比較して倍増していた。「プリンタ」の所有率は71.6%であり、作業療法学科は62.5%とやや低い結果となった。

今年度より遠隔講義を受講する機会は少なくなったが、ほとんどの学生が4月の時点で自分専用のPCを保有しており、遠隔講義による学習は可能な状態にあると考えられる。一方で、レポートや講義・実習資料の印刷に必要なプリンタを所有していない学生が3割程度いるため、学習のための準備性における課題もうかがえる。

② 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価（図7）

(1) 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）

高校3年生の9月頃における平日の勉強時間について、「ほとんどしなかった」、「1時間未満」、「1～3時間未満」、「3～5時間未満」、「5～7時間未満」、「8時間以上」の六肢択一で回答を得た。その結果、「3～5時間未満」が最も多く41.5%、次いで「1～3時間未満」と「5～7時間」が25.6%であった。「ほとんどしなかった」学生も少ないが存在していた。2022年度と比較すると「3～5時間未満」が減り、「1～3時間未満」が増加していた。学科別にみると、理学療法学科が「5～7時間未満」の割合が他学科より高く、作業療法学科では、「8時間以上」の者が11.8%いた。

(2) 高校時代における能動的な学習の経験（図8，図9）

高校時代における能動的な学習について、「自分から先生に質問や相談に行く」、「自分で設定したテーマについて学習する」、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」、「複数の学生で一つのテーマ（課題）に取り組む」、「学生同士でディスカッションを行う」の経験の有無について回答を得た。

その結果、「複数の学生で一つのテーマ（課題）に取り組む」、「学生同士でディスカッションを行う」、「自分から先生に質問や相談に行く」は90.0%以上が経験していたが、「自分で設定したテーマについて学習する」は81.7%、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」は73.2%であった。

プレゼンテーションの経験が少ないことはコロナ禍における学習の特徴である可能性もあるが、能動的な学習は専門職を目指す本学部の学習において必須であり、経験をもたない学生への意識付け、指導が必要であるといえる。

(3) 現時点（4月）での知識・能力の自己評価（図10，図11）

新入生の知識・能力について、「医療系の専門に係る知識」、「幅広い教養、英語（外国語）の運用能力」、「社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力」、「課題を解決するための問題解決力」、「異文化や異なる背景をもつ人々に対する理解力」、「パソコンのソフトウェアの操作（2023年度調査からの新設項目）」、「SNSを安全に使うためのルール・方法（2023年度調査からの新設項目）」の7項目の内容がどの程度備わっているのか、「充分備わっている」から「全く備わっていない」の五肢択一の回答を得た。

その結果、『あまり備わっていない』と『全く備わっていない』をあわせた回答の割合が高いのは、「医療系の専門に関する知識」（72.0%）、「パソコンのソフトウェアの操作」（57.3%）、「英語（外国語）の運用能力」（39.1%）であった。一方で、「SNSを安全に使うためのルール、方法」は『充分備わっている』または『ある程度は備わっている』と回答した割合が高かった（91.5%）。学科別

にみると、作業療法学科で「英語（外国語）の運用能力」と「異文化や異なる背景をもつ人々に対する理解力」の項目で『充分備わっている』または『ある程度は備わっている』と回答した割合が、それぞれ29.4%、52.9%と他学科よりも自己評価が低くなっていた。

新入生は医療系の専門に関する知識を高校で学修していないため、この結果は妥当である。一方で、「パソコンのソフトウェアの操作」については、高校の情報などの科目で触れられていることが推察されるが、自己評価が低い学生が多くなっていた。英語（外国語）同様に、保健医療学部のカリキュラムを検討する上で、一般教育科目の充実を図る必要性があると考えられる。

③ 進路選択に関わる情報収集と意思決定について

(1) 札幌医科大学を受験することを決定した時期（図12）

札幌医科大学を受験することを決定した時期について、「高校入学前」、「高校1年生」、「高校2年生」、「高校3年生4～12月」、「高校3年生1月以降」、「高校卒業後」の六肢択一で回答を得た。

その結果、「高校2年生」が最も多く37.8%、次いで「高校3年生4～12月」23.2%であった。学科別でみると、作業療法学科において「高校1年生」が41.2%と多いが、「高校3年生1月以降」も17.6%と多く、二極化していた。

高校での履修科目決定時期も踏まえ、できる限り早期に本学の情報提供をしていく必要がある。

(2) 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）（図13, 図14）

進路選択をする際に役立った情報について、「大学パンフレット」、「大学ホームページ」、「受験企業等のWEBサイト」、「受験雑誌」、「大学ポスター」、「新聞記事等」から複数回答可で回答を得た。

その結果、「大学パンフレット」が最も多く90.2%で、次いで「大学ホームページ」が80.5%であった。「受験企業等のWEBサイト」、「受験雑誌」、「大学ポスター」、「新聞記事等」、「その他」については、3.7～14.6%であった。学科別にみると、看護学科は「大学ホームページ」が少なく（74.5%）、受験企業等のWebサイト（19.1%）と受験雑誌（10.6%）が多い傾向が見られた。

大学パンフレットは高校訪問等で冊子を配布している他、大学ホームページに掲載しており、活用のしやすさがあったと思われる。このように受験希望者がいつでも閲覧できる媒体の充実が必要であるといえる。また、大学ポスターや新聞記事等については、入手の有無、進路選択における有用性の有無について検討を行い、より効果的な媒体による情報提供をしていく必要があると考える。

(3) 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）（図15, 図16）

本学を知るうえで役立った情報源として、「出前講座」、「家族・親戚」、「オープンキャンパス」、「高校の先生」、「知人・先輩」、「入試相談・説明会」、「予備校」から、複数回答可で回答を得た。

その結果、「高校の先生」が48.8%と最も多く、次いで「オープンキャンパス」が36.6%、「家族・親戚」と「入試相談・説明会」が31.7%であった。学科別でみると、看護学科は「高校の先生」（53.2%）、「オープンキャンパス」（42.6%）がとくに多かった。作業療法学科は、他の学科に比べて「出前授業」（29.4%）が多く、「オープンキャンパス」（17.6%）「入試相談・説明会」（11.8%）が少ない傾向が見られた。

「高校の先生」は3学科ともに最も多いが、高校生にとって役立つ情報源には学科によって差があるため、各々の内容を充実させ、本学の魅力を発信していく必要がある。コロナ禍においてオンデマンドで配信した「オープンキャンパス」であったが、学生には役立つ情報であったといえる。今

後は、コロナ禍前と同様に来学により教育環境を充分体感できる企画が必要である。

(4) 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率・満足度 (表1, 図17, 図18)

「オープンキャンパス」、「高校で実施された大学説明会」、「塾・予備校で実施された大学説明会」、「一般の会場で実施された大学説明会」、「その他、模擬授業など」の全5項目について、その参加率と満足度の回答を得た。満足度については『満足』、『どちらかといえば満足』、『どちらかといえば不満』、『不満』から四肢択一の回答を得た。

参加率は、「オープンキャンパス」(54.9%)、「高校で実施された大学説明会」(62.2%)への参加率が高い割合を示した。満足度は5項目全てにおいて、『満足』、『どちらかといえば満足』を合わせてほぼ100%に近い満足度であった。「オープンキャンパス」については2022年度(『満足』:62.2%)よりも満足度が高くなっているが、さらに高められる余地があると考えられる。学科別にみると、「オープンキャンパス」については、すべての学科で『満足』と回答した割合が2022年度と比較して上昇していた。

(5) 本学への入学(受験)を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか (図19)

本学への入学(受験)を決めるにあたり、最も重視した意見やアドバイスを受けた人について、「両親・保護者」、「兄弟・姉妹」、「高校の先生」、「塾・予備校の先生」、「親戚や知人」、「本学に在学中の友人や先輩」、「特に相談しなかった」の七肢択一で回答を得た。

その結果、「両親・保護者」が最も多く34.1%、次いで「高校の先生」31.7%、「塾・予備校の先生」15.9%の順であった。学科別にみると、理学療法学科は「両親・保護者」の割合が低く(11.1%)、「特に相談しなかった」の割合が高い(22.2%)のが特徴的であった。

高校生のみではなく、その両親・保護者を視野に入れた情報提供の内容と方法を検討していく必要がある。また、本学を知るうえで役立った情報と同様に「高校の先生」も進路選択の重要な役割を担っており、高校との連携を継続的にはかっていく必要がある。

(6) 札幌医科大学の選択理由 (図20, 図21)

札幌医科大学を選択した理由について、「札幌医科大学のブランドやイメージ」、「カリキュラムや授業構成」、「教授・講師陣が充実している」、「入学金・学費などの適切性(国公立だからを含む)」、「キャンパスの立地や周辺環境」、「両親や先生から勧め」、「自分の能力レベルに相応」、「通学の利便性」の全8項目について、『大きな理由になった』、『少しは理由になった』、『情報はあったが、理由にはならなかった』、『情報がなかった・知らなかった』から四肢択一の回答を得た。

その結果、学部全体として『大きな理由になった』と回答したのは、「入学金・学費などの適切性(国公立だからを含む)」(63.8%)が最も多く、次いで「カリキュラムや授業構成」(57.1%)、「教授・講師陣が充実している」(54.5%)、「キャンパスの立地や周辺環境」(53.2%)が多くなっていた。これらの強みを活かした広報戦略が必要とされる。

学科別にみると、理学療法学科では「カリキュラムや授業構成」(72.2%)、「教授・講師陣が充実している」(70.6%)を理由として挙げている割合が高い傾向にあった。また作業療法学科は、「入学金・学費などの適切性(国公立だから、を含む)」(70.6%)を選択理由とした割合が高い結果であった。

(7) 札幌医科大学の魅力 (図22, 図23)

本学の魅力について、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」、「札幌医科大学の教授陣が魅力的である」、「札幌医科大学の施設・設備が魅力的である」、「札幌医科大学周辺の環境が魅力的である」の4項目について、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』、『どちらともいえない』、『どちらかといえばそう思わない』、『そう思わない』から五肢択一の回答を得た。

「札幌医科大学の施設・設備が魅力的である」、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」について、『そう思う』の回答がそれぞれ84.1%、74.4%と高かった。

学科別にみると、作業療法学科では、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」に『そう思う』(47.1%)と回答する割合が低く、また、理学療法学科と作業療法学科で「札幌医科大学周辺の環境が魅力的である」に『そう思う』と回答する割合がそれぞれ33.3%、47.1%と低かった。

(8) 建学の精神の認知度 (図24)

本学の建学の精神について、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」、「聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない」、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」から三肢択一の回答を得た。

その結果、学部全体及び各学科に共通して、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」と回答した割合が2022年度よりも2023年度で上昇していることから、認知度が上がっていること、また建学の精神を理解した上で入学する傾向が高まっていると言える。一方で、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」と回答する割合が5%前後と一定数いることから、入学時のオリエンテーション等で周知する等の対応が必要と考える。

(9) アドミッションポリシーの認知度 (図25)

保健医療学部のアドミッションポリシーについて、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」、「聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない」、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」から三肢択一の回答を得た。

その結果、建学の精神同様に、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」と回答した割合が2022年度よりも2023年度で上昇していることから、認知度が上がっていること、またアドミッションポリシーを理解した上で入学する傾向が高まっていると言える。

④ 大学入学後の不安・期待、活動について

(1) 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち (図26, 図27)

札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ちとして、「1. 入学を希望していた大学である」、「2. 入学した学部は希望通りの学部である」の2つの質問を設け、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』、『どちらでもない』、『どちらかといえばそう思わない』、『そう思わない』から五肢択一の回答を得た。

その結果、1については、学部全体で『そう思う』(91.5%)、『どちらかといえばそう思う』(8.5%)を合わせて100%であった。とくに看護学科では『そう思う』が95%以上を占めており、第1選択として本学を志望していた。

2については、学部全体で『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』を合わせて95.1%であった。

作業療法学科では、『そう思う』と回答した割合が76.5%（2022年度:50.0%）と、他学科よりも低かった。

(2) 入学にあたって、不安に思っていること（図28, 図29）

入学にあたって不安に思っていることについて、「経済的なこと」、「住まい・通学などの生活環境のこと」、「健康に関すること」、「学業についての不安」、「友人などの人間環境」、「卒業後の進路・勤務に関すること」、「その他」、「特にない」のうち、複数回答可で尋ねた。

その結果、「学業についての不安」が最も多く62.2%であった。次いで、「友人などの人間環境」（32.9%）、「経済的なこと」（18.3%）、「卒業後の進路・勤務に関すること」（15.9%）、「住まい・通学などの生活環境のこと」（11.0%）、「健康に関すること」（9.8%）であった。一方で、「特にない」と答えた学生は18.3%であった。これらの順序や割合は、2022年度調査とほぼ変わらない結果であった。学科ごとにみると、理学療法学科では「卒業後の進路・勤務に関すること」（22.2%）がやや多く、作業療法学科では「経済的なこと」（35.3%）、「住まい・通学などの生活環境のこと」（23.5%）等の生活全般に関する不安が他の学科と比較して多い結果であった。

以上より、各学科の特徴をふまえた、新入生の不安軽減に向けた情報提供やサポート等が必要だと考える。

(3) 現在（4月）困っていること（自由記載）（表2）

現在（4月）困っていることについて自由記述で回答を求めたところ、看護学科6件、理学療法学科2件、作業療法学科1件の回答があった。

具体的には、「ワクチン接種」「持病」などの健康状態に関するものが3件、「履修登録がよく分からない」、「まだ学校の教室の位置を理解できていない」といった学修システムや環境に関するものが2件、「友人ができるか不安」など人間関係のことが2件、「理系科目が苦手なため、勉強についていけるかが不安」といった学業に関するものが1件、「将来像が見えていない」といった将来に関するものは1件であった。

この欄に記載したのは全体の10%であったが、困っていることの内容は多岐に渡っていた。学修システムや環境など、学生生活を積み重ねるにつれて習得する内容もあるが、健康状態や将来像などは学生生活を通して持続的に続く可能性のある困り事であるため、学生自身で問題解決が困難になった場合に相談できる環境を作っていくことが必要である。

(4) 大学生活の中で力を入れたい活動（図30, 図31）

大学生活の中で力を入れたい活動として、「学部の専門的な勉強」、「語学に関する勉強」、「部活・サークル活動」、「社会活動・ボランティア活動」、「海外への短期留学」、「アルバイト」、「一般教育科目の勉強」の7項目について、『特に力を入れたい』から『力を入れたいと思わない』の四肢択一の回答を得た。

その結果、『特に力を入れたい』の割合が最も高かったのは、「学部の専門的な勉強」（87.8%）であり、次いで「語学に関する勉強」と「部活・サークル活動」が36.6%で同率だった。2022年度と比較して、「部活・サークル活動」、「海外への短期留学」について、『力を入れたい』と回答した学生の割合が増え、ポストコロナの生活に対する学生の期待の表れと見て取れる。しかし、「海外への短期留学」については、『力を入れたいと思わない』と回答した学生も26.8%と多く、前向きな学生とそうでは

ない学生に二極化している。

(5) 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか（表3）

札幌医科大学で何を求めどんなことに取り組みたいかについて、自由記載で回答を求めた。

看護学科では27件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「看護師としての専門的な知識や技術」、「コミュニケーション能力の獲得」、「一般教養の学習」などであった。その他に、「専攻科への進学」、「キャリア形成」、「部活動・サークル活動」、「地域医療」や「多職種連携」などが挙げられた。理学療法学科は11件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「スポーツ医学」、「地域医療」、「語学の学習」であった。その他の回答としては、「一般教養の学習」、「専門科目の学習」などが挙げられた。作業療法学科も11件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「コミュニケーション能力の獲得」や「地域医療の学習」であった。その他の回答としては、「リーダーとなるために必要なスキルの獲得」や「専門科目の学習」などが挙げられた。

全体を通して、「専門的な知識や技術の習得」をはじめ、「地域医療」や「多職種連携」が特徴的であり、札幌医科大学に求められる内容だと推察できる。加えて、「キャリア形成」をはじめ、保健医療専門職としての資質を高め、将来的にリーダーシップとなれる人材を養成することも札幌医科大学に求められている役割だと考えられる。

Ⅲ. 図表

図 1. 入試区分

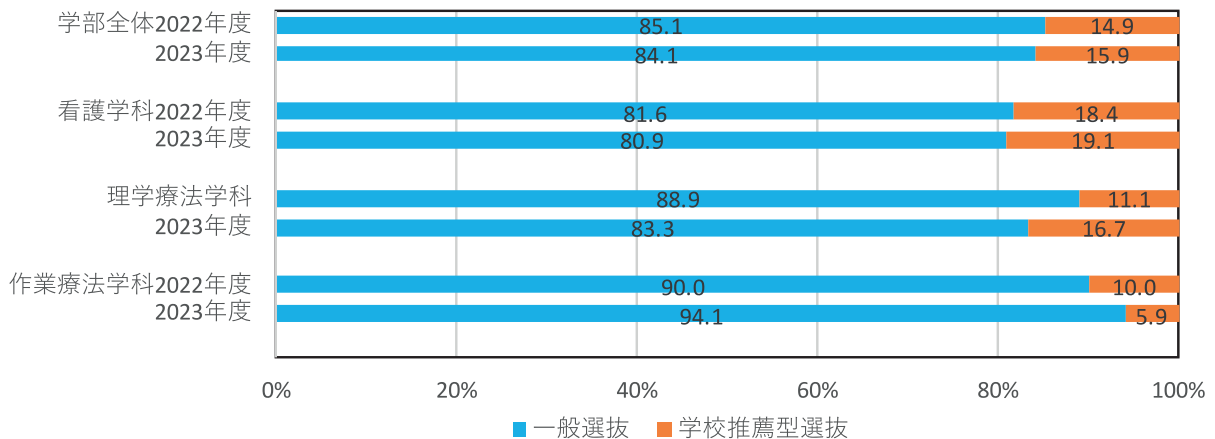


図 2. 入学前の居住地 (2月時点の居住地)

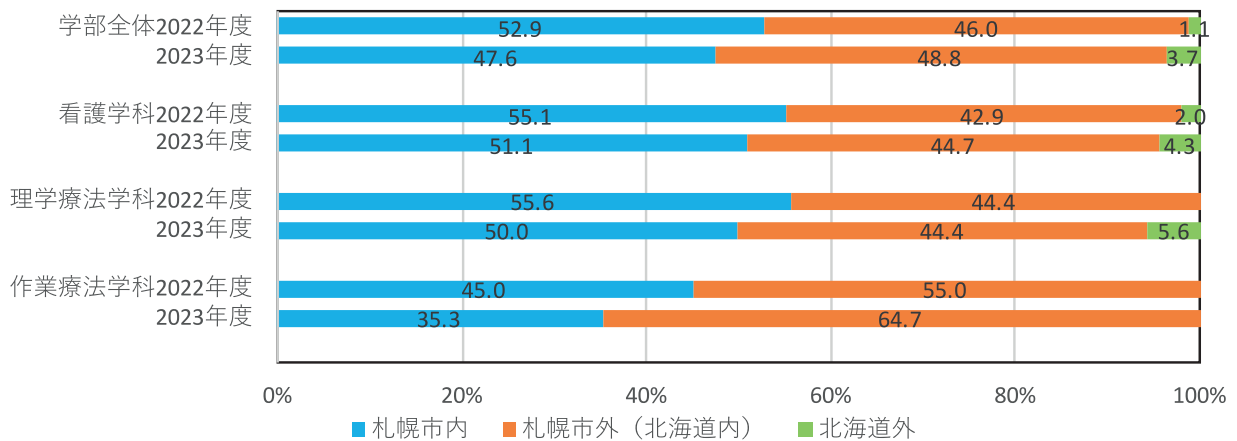


図 3. 入学後の住まい

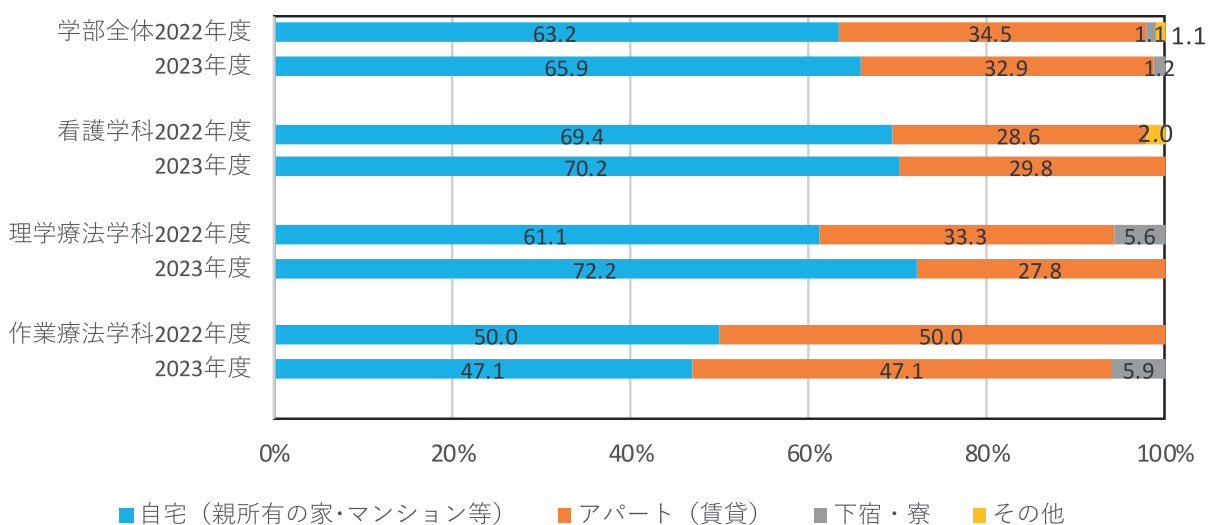


図 4. 主な通学手段（複数選択可）

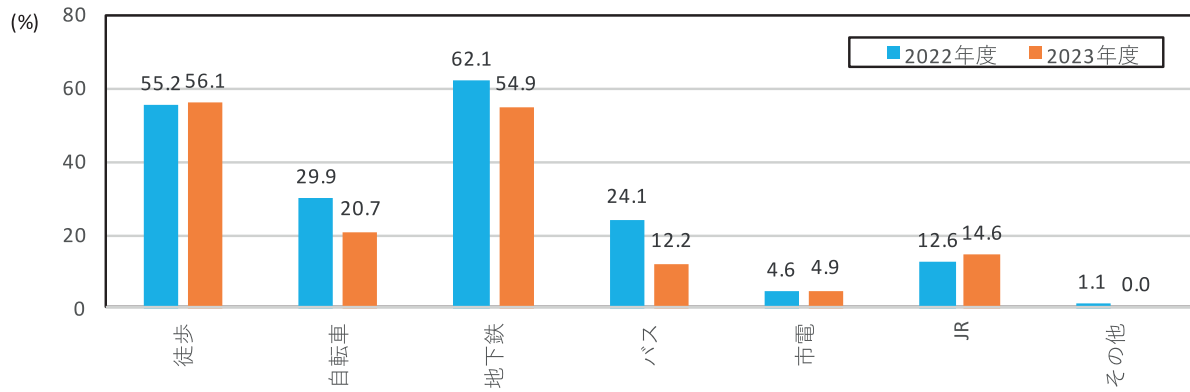


図 5. 主な通学手段（複数選択可）：学科別（2023年度）

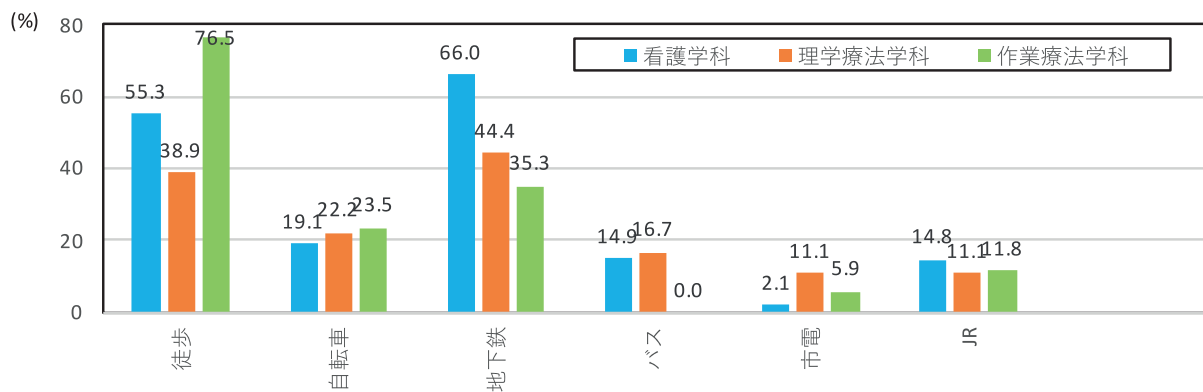


図 6. 情報端末の所有（複数回答可）

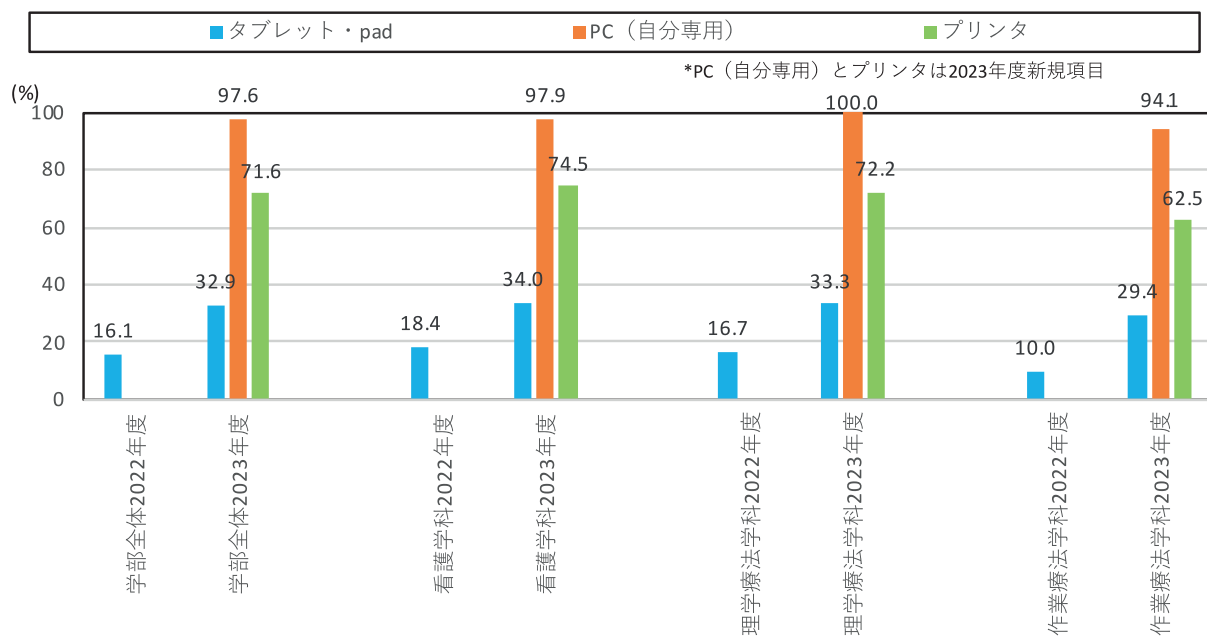


図7. 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）

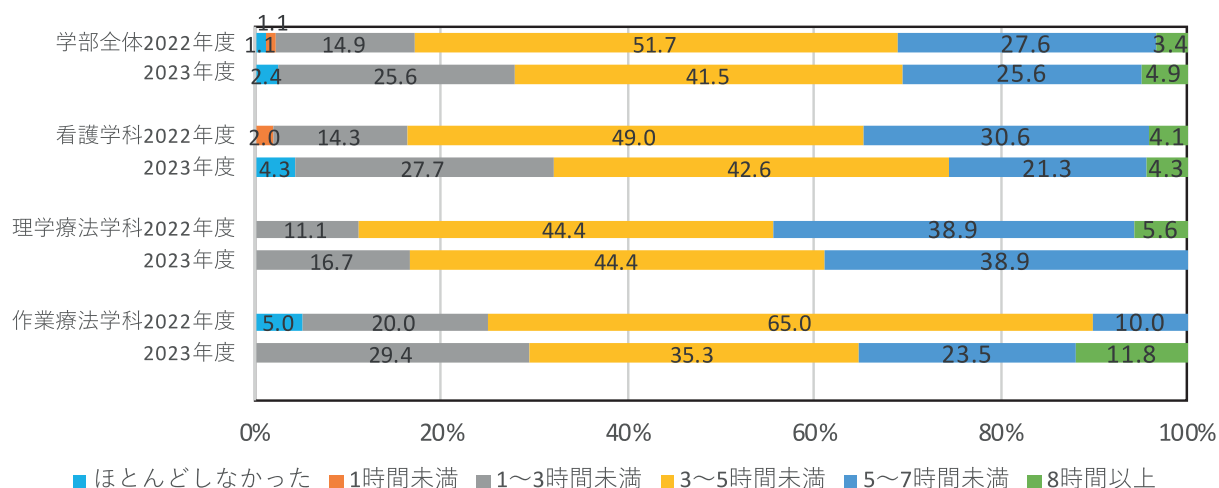


図8. 高校時代における能動的な学習の経験：学部全体

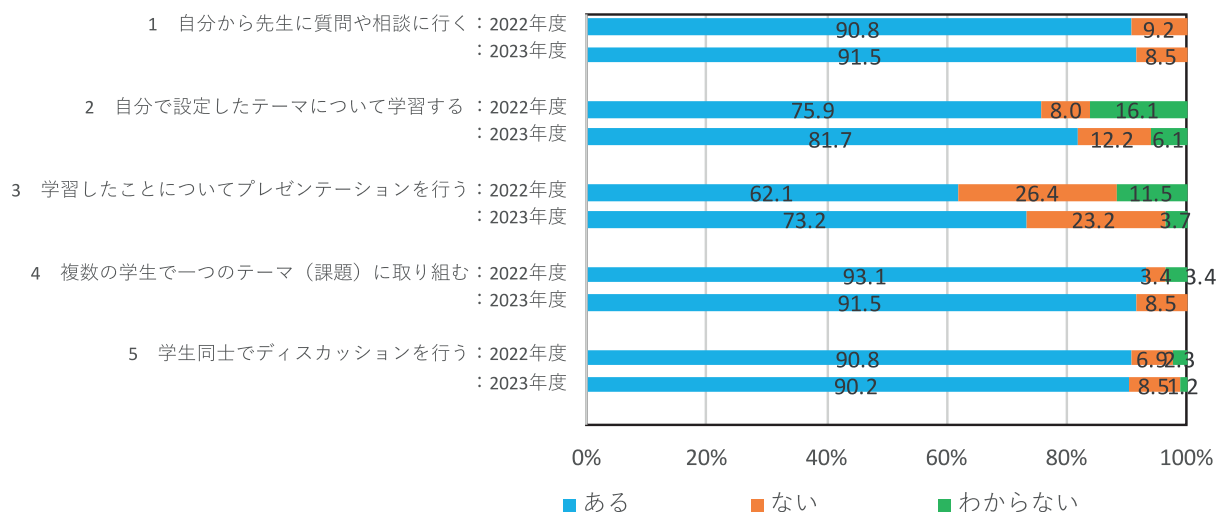


図9. 高校時代における能動的な学習の経験：学科別

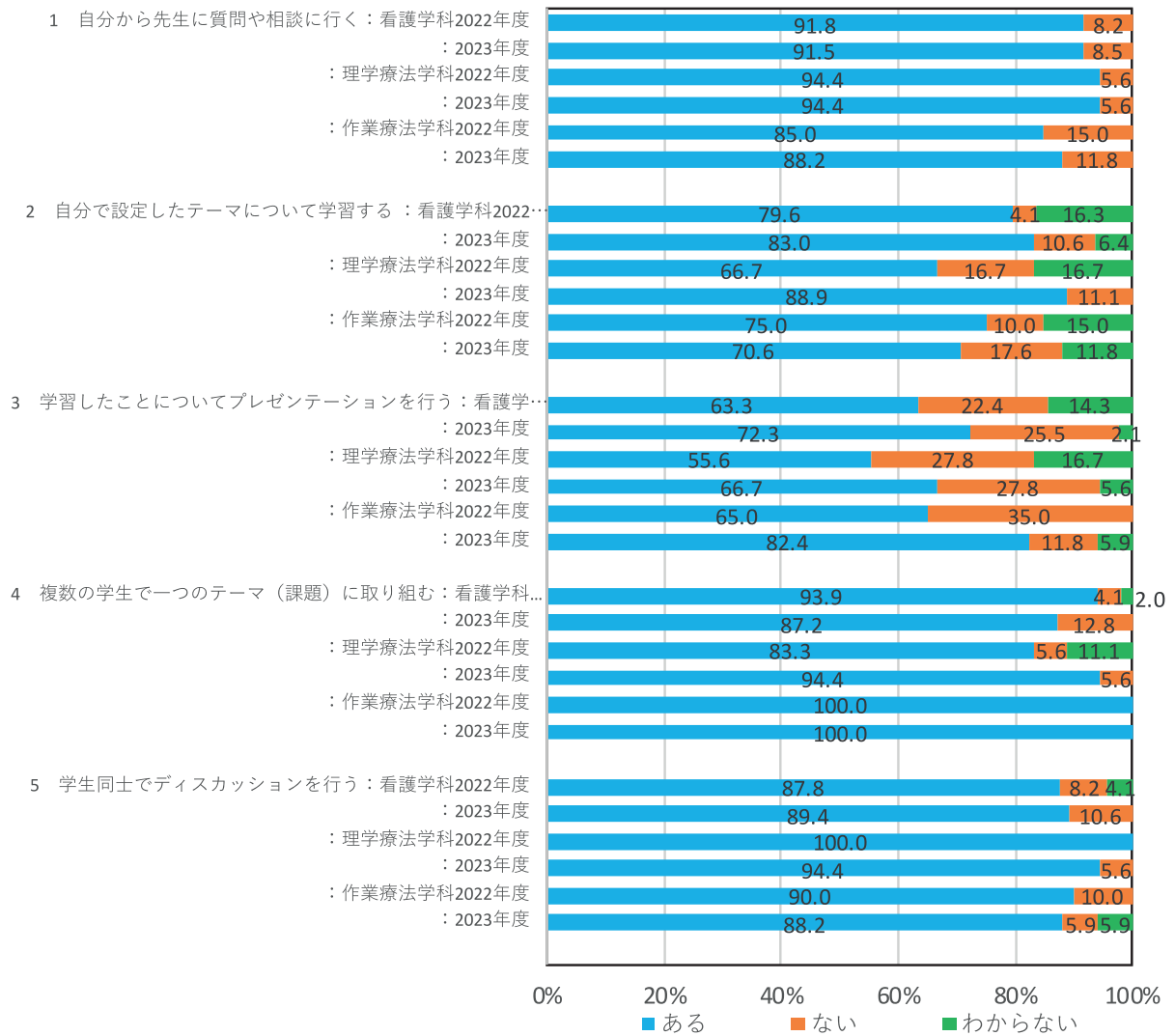


図 10. 現時点（4月）での知識・能力の自己評価

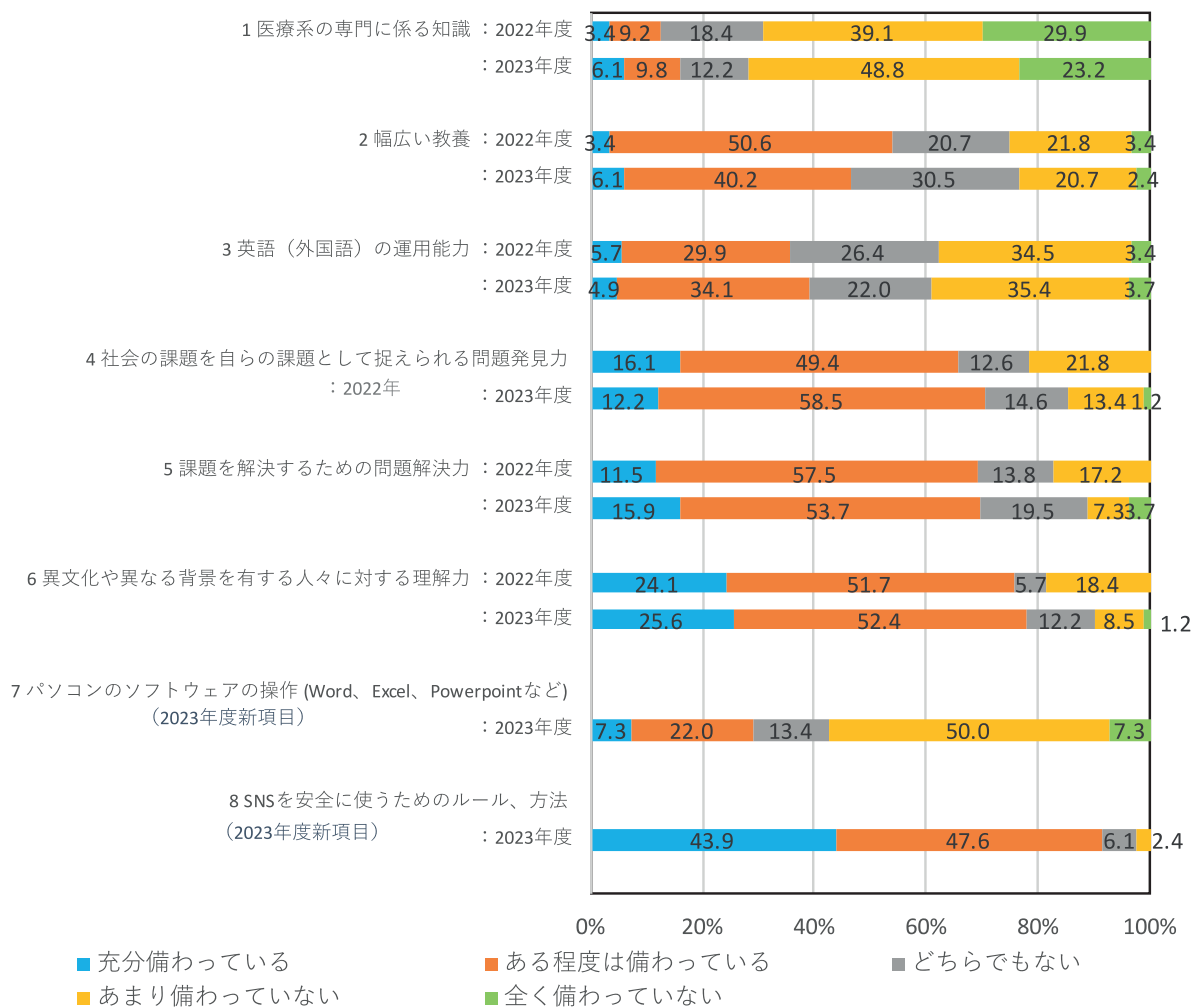


図 11. 現時点（4月）での知識・能力の自己評価（学科別）

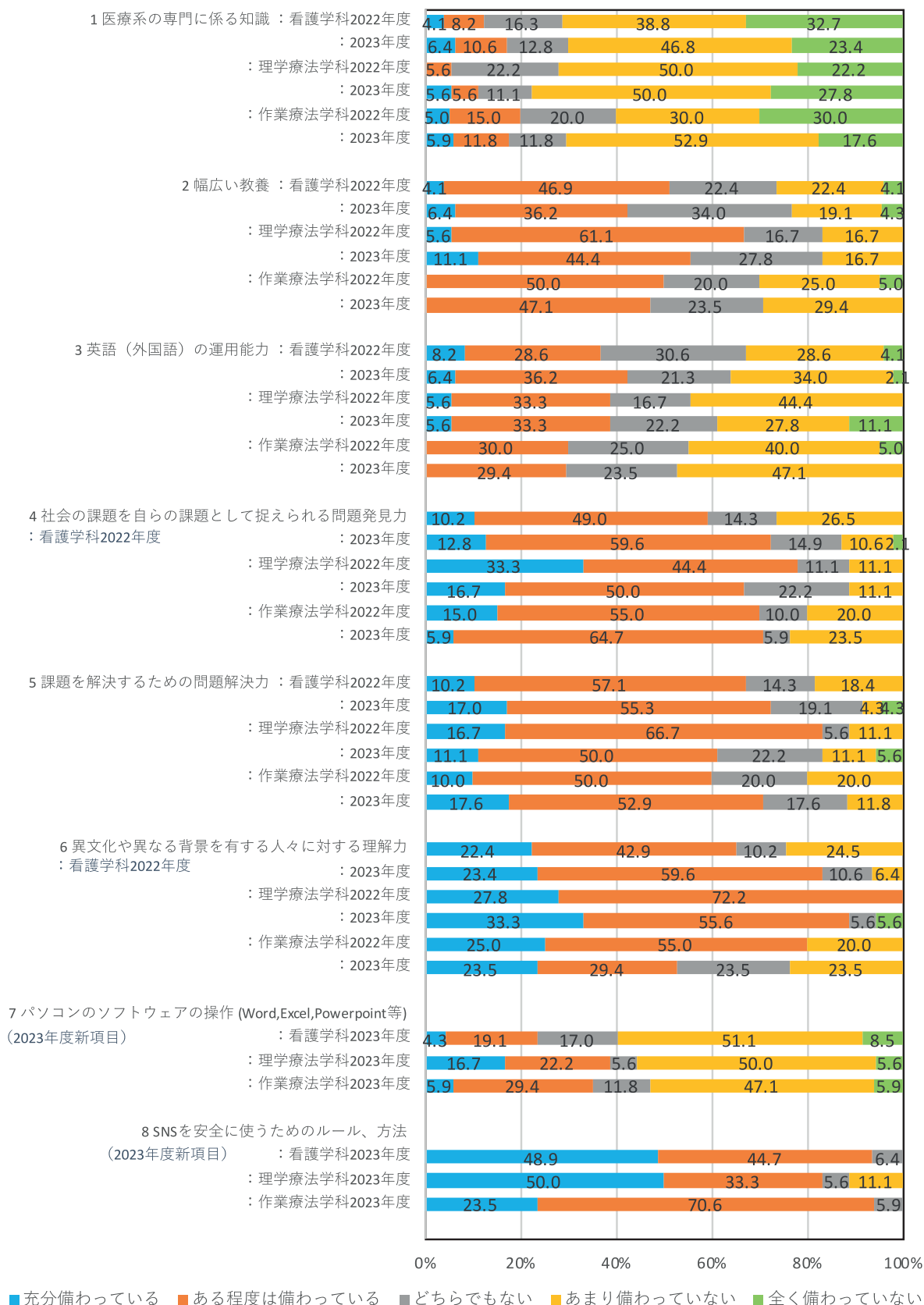


図 12. 札幌医科大学を受験することを決定した時期

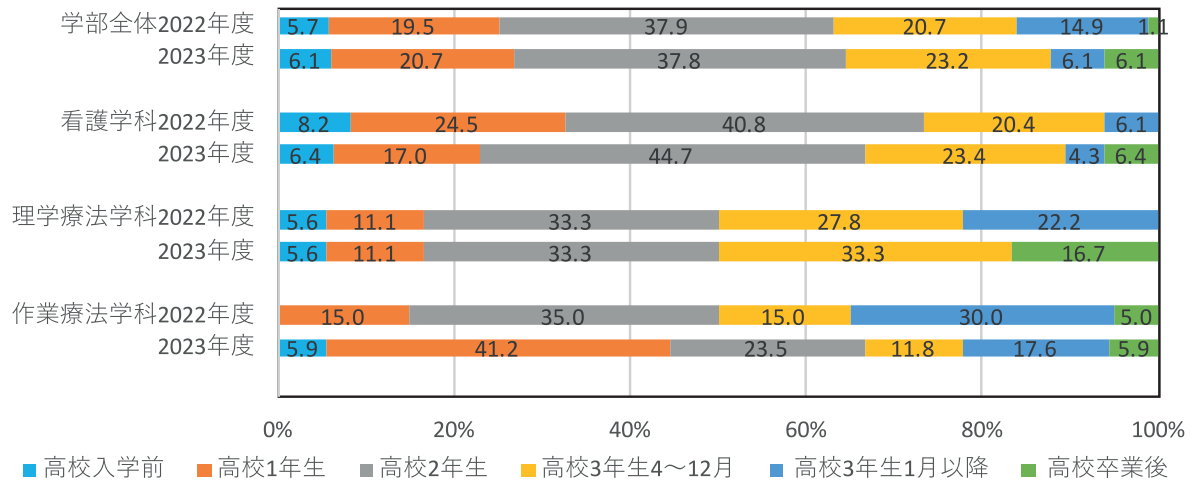


図 13. 進路選択をする際に役立つ情報（複数選択）：学部全体

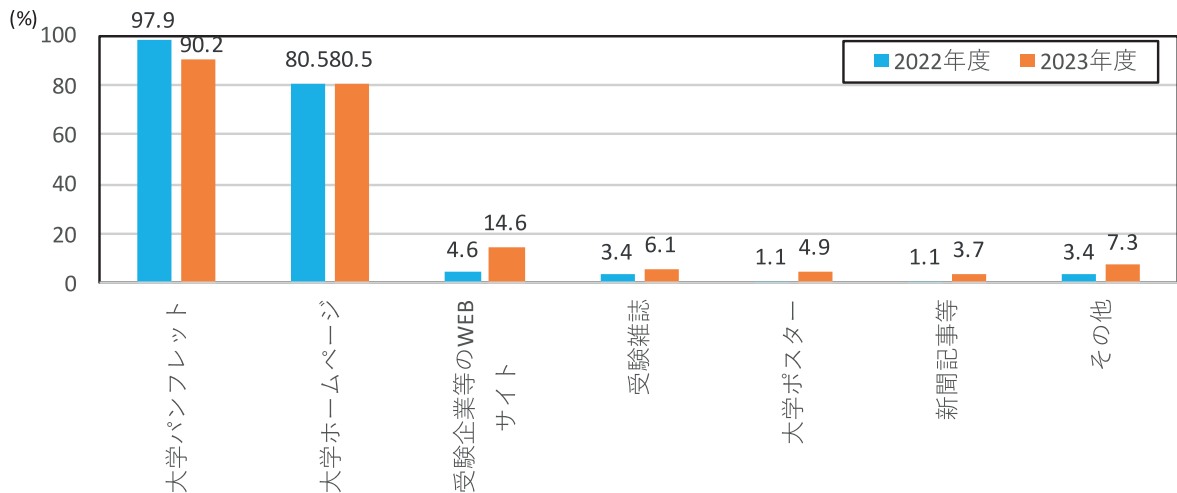


図 14. 進路選択をする際に役立つ情報（複数選択）：学科別（2023年度）

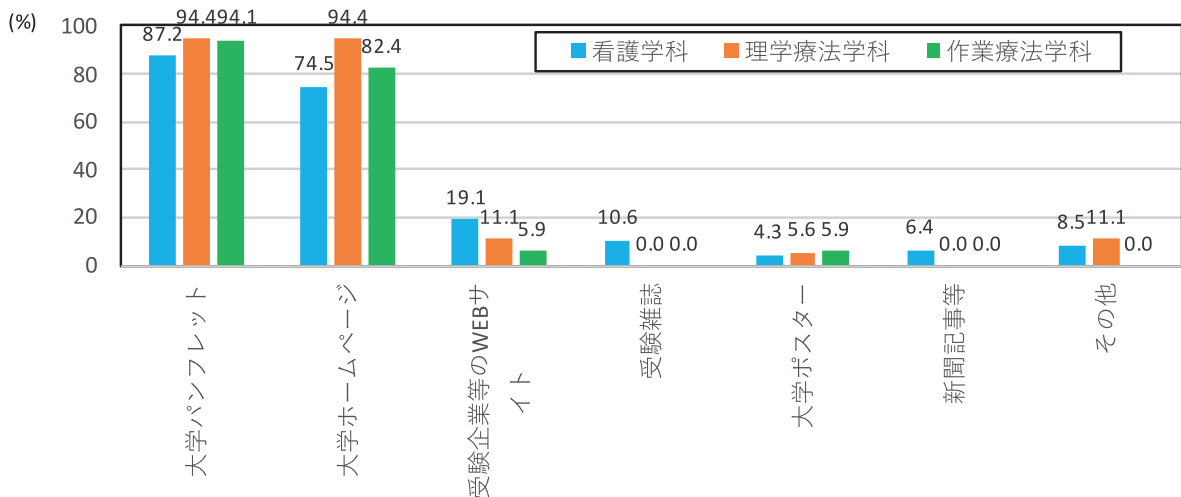


図 15. 本学を知るうえで役立つ情報源（複数選択）：学部全体

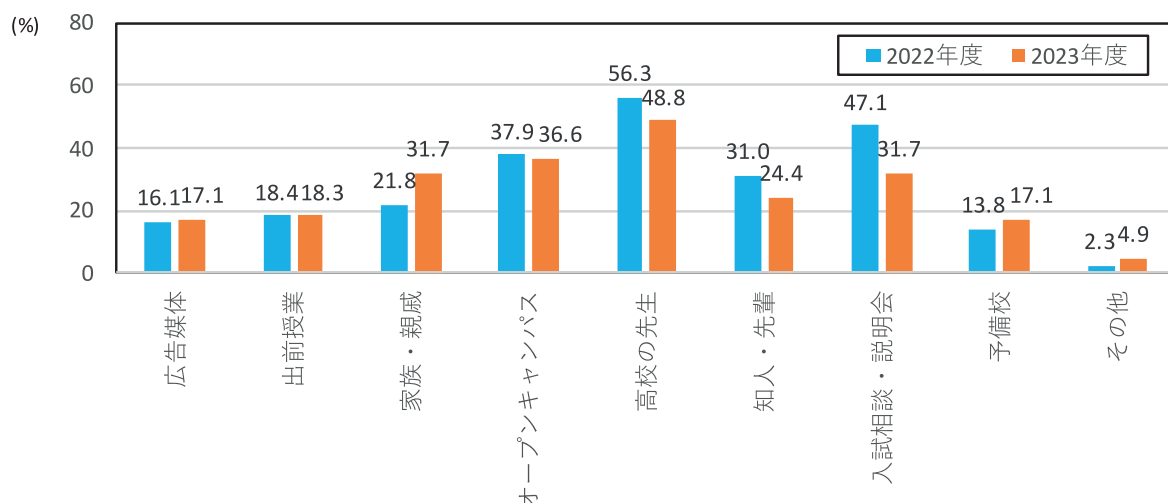


図 16. 本学を知るうえで役立つ情報源（複数選択）：学科別（2023年度）

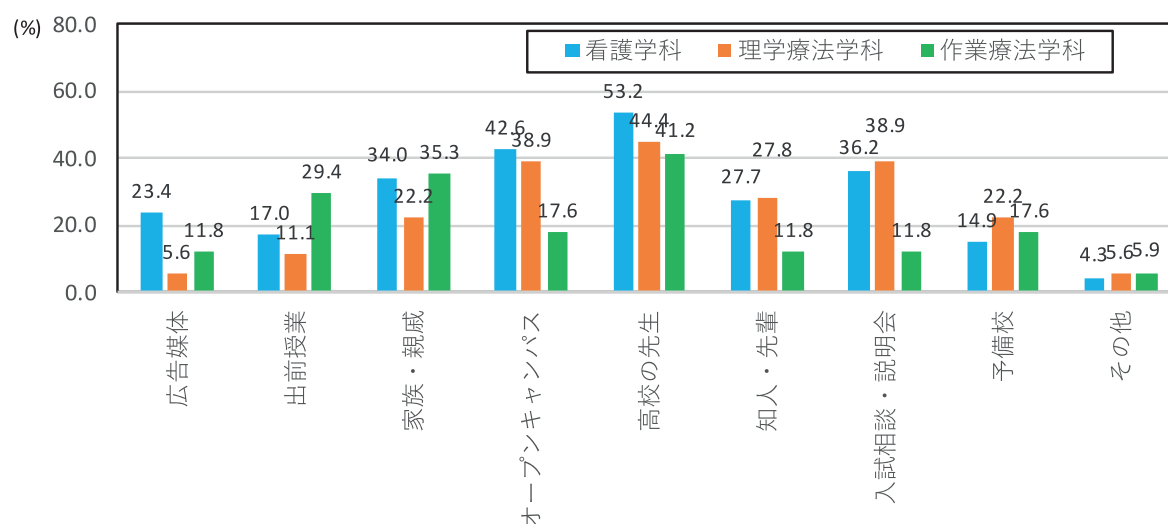


表 1. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率（%）

学科	年度	オープンキャンパス	高校で実施された大学説明会	塾・予備校で実施された大学説明会	一般の会場で実施された大学説明会	その他、模擬授業など
学部全体	2022	51.7	73.6	3.4	6.9	21.7
	2023	54.9	62.2	8.5	11.0	28.0
看護学科	2022	51.0	75.5	2.0	8.2	24.5
	2023	55.3	68.1	8.5	10.6	27.7
理学療法学科	2022	50.0	66.7	5.6	0.0	16.7
	2023	66.7	61.1	5.6	11.1	33.3
作業療法学科	2022	55.0	75.0	5.0	10.0	15.0
	2023	41.2	47.1	1.8	11.8	23.5

図 17. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会の満足度（参加者のみ）

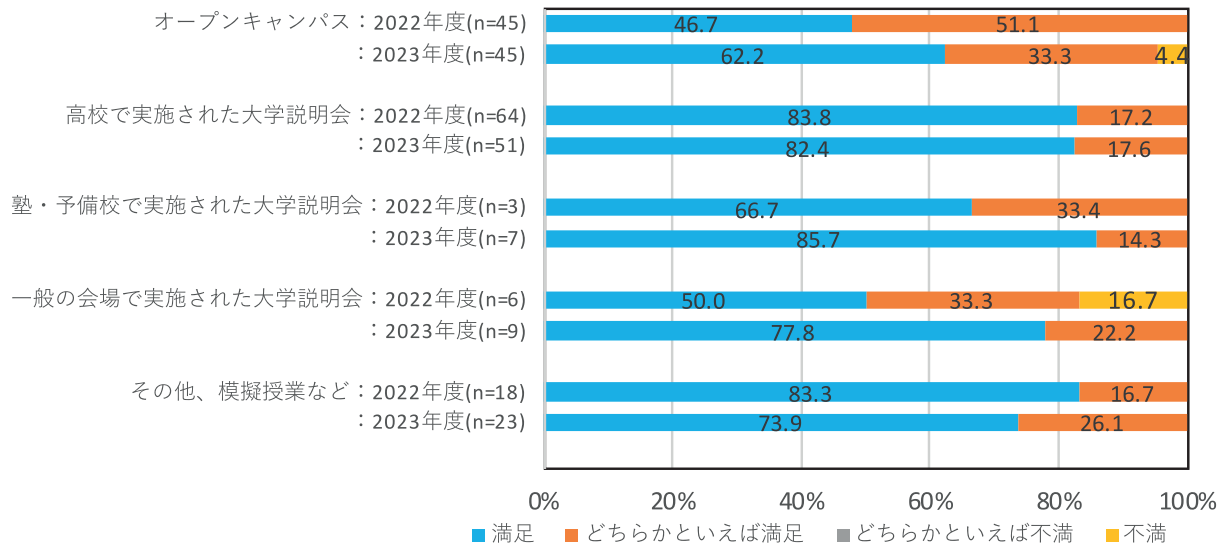


図 18. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会の満足度（参加者のみ）：学科別 * 抜粋

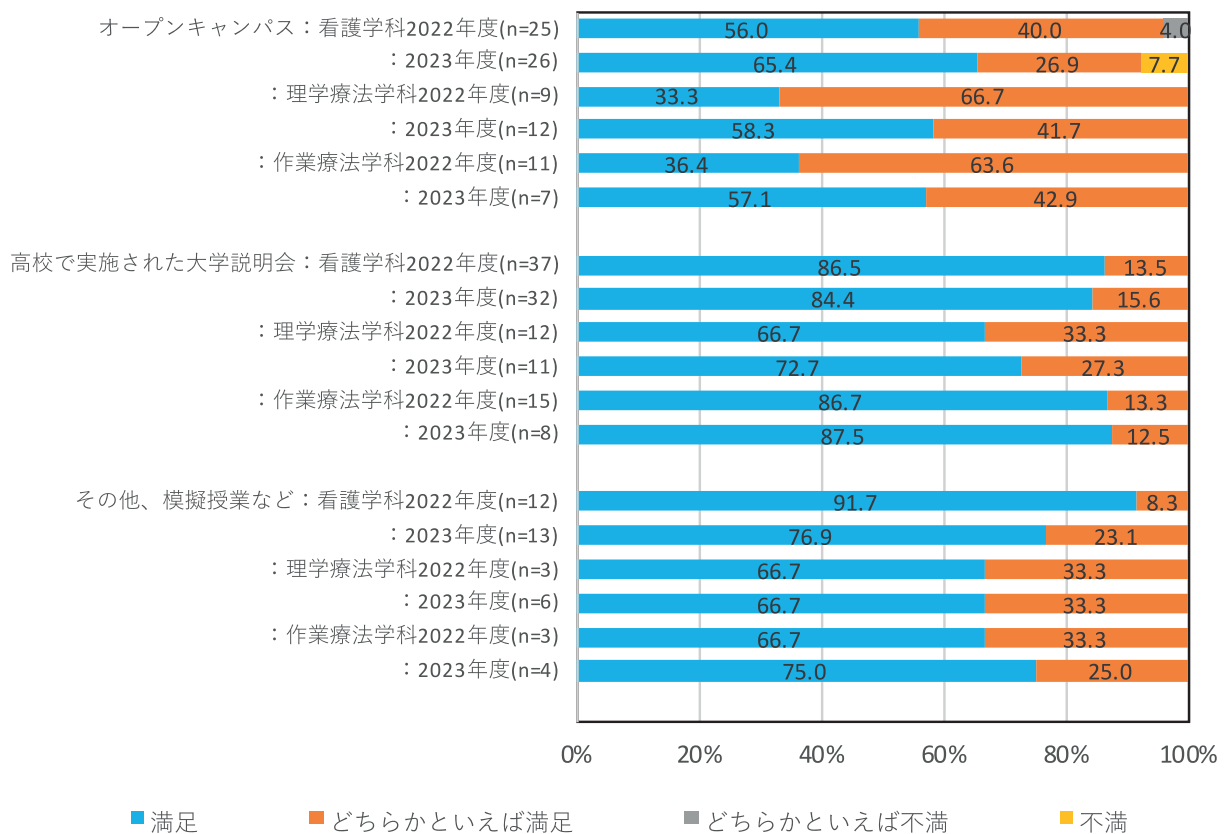


図 19. 本学への入学（受験）を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか

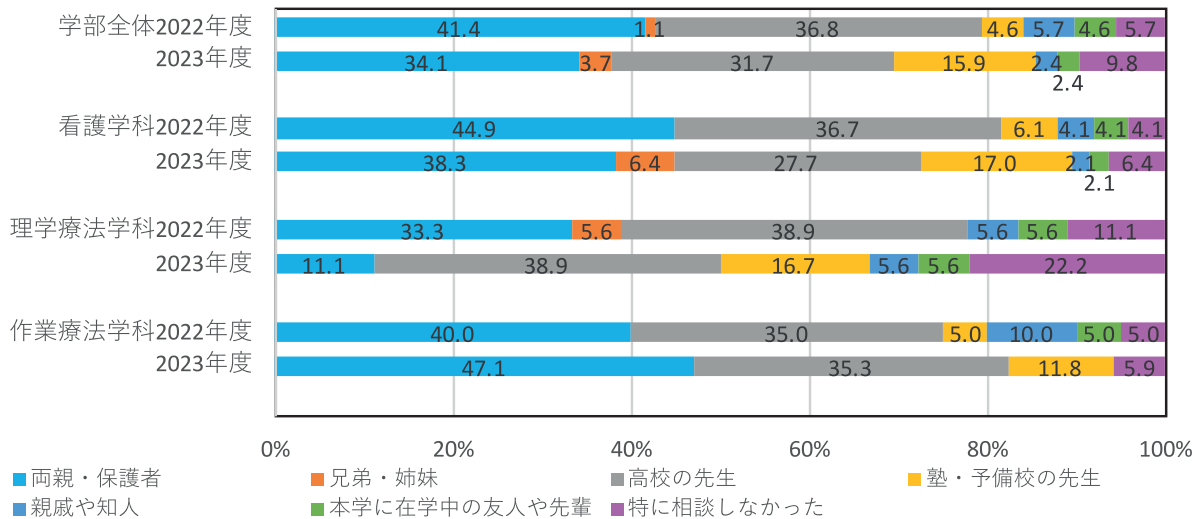


図 20. 札幌医科大学の選択理由（学部全体）

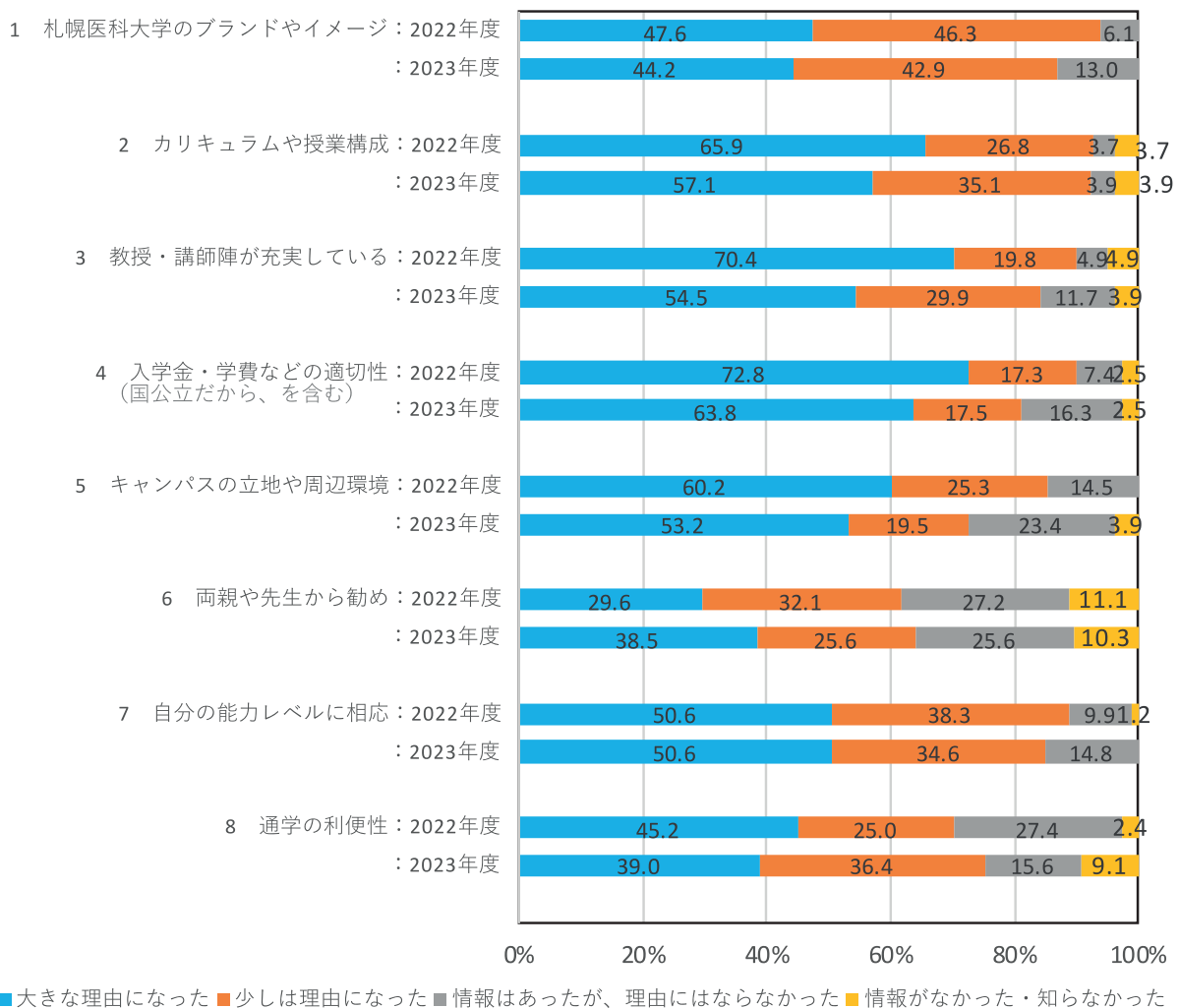
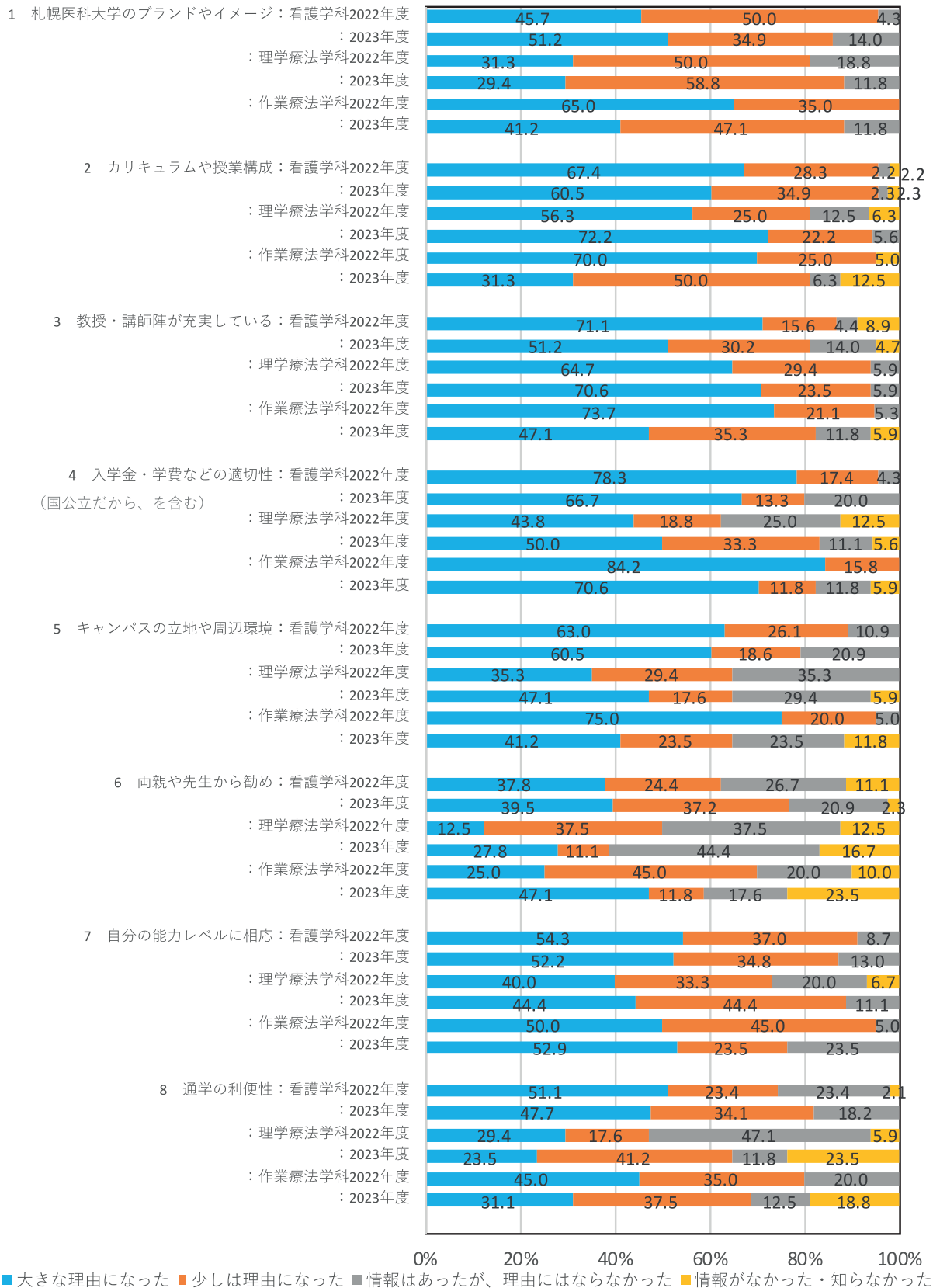


図 21. 札幌医科大学の選択理由（学科別）



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 大きな理由になった ■ 少しは理由になった ■ 情報はあったが、理由にはならなかった ■ 情報がなかった・知らなかった

図 22. 札幌医科大学の魅力

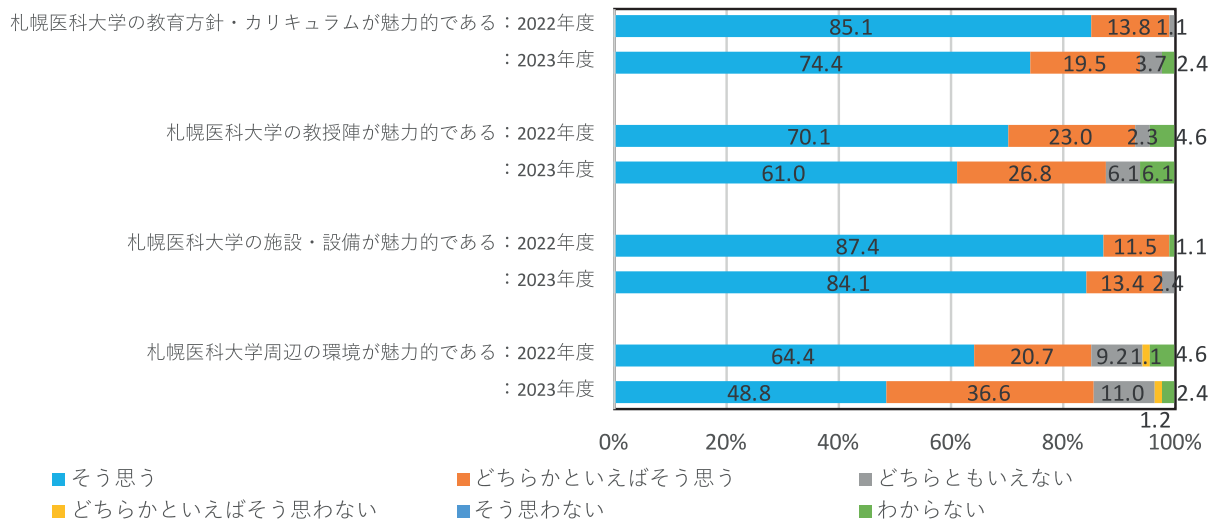


図 23. 札幌医科大学の魅力（学科別）

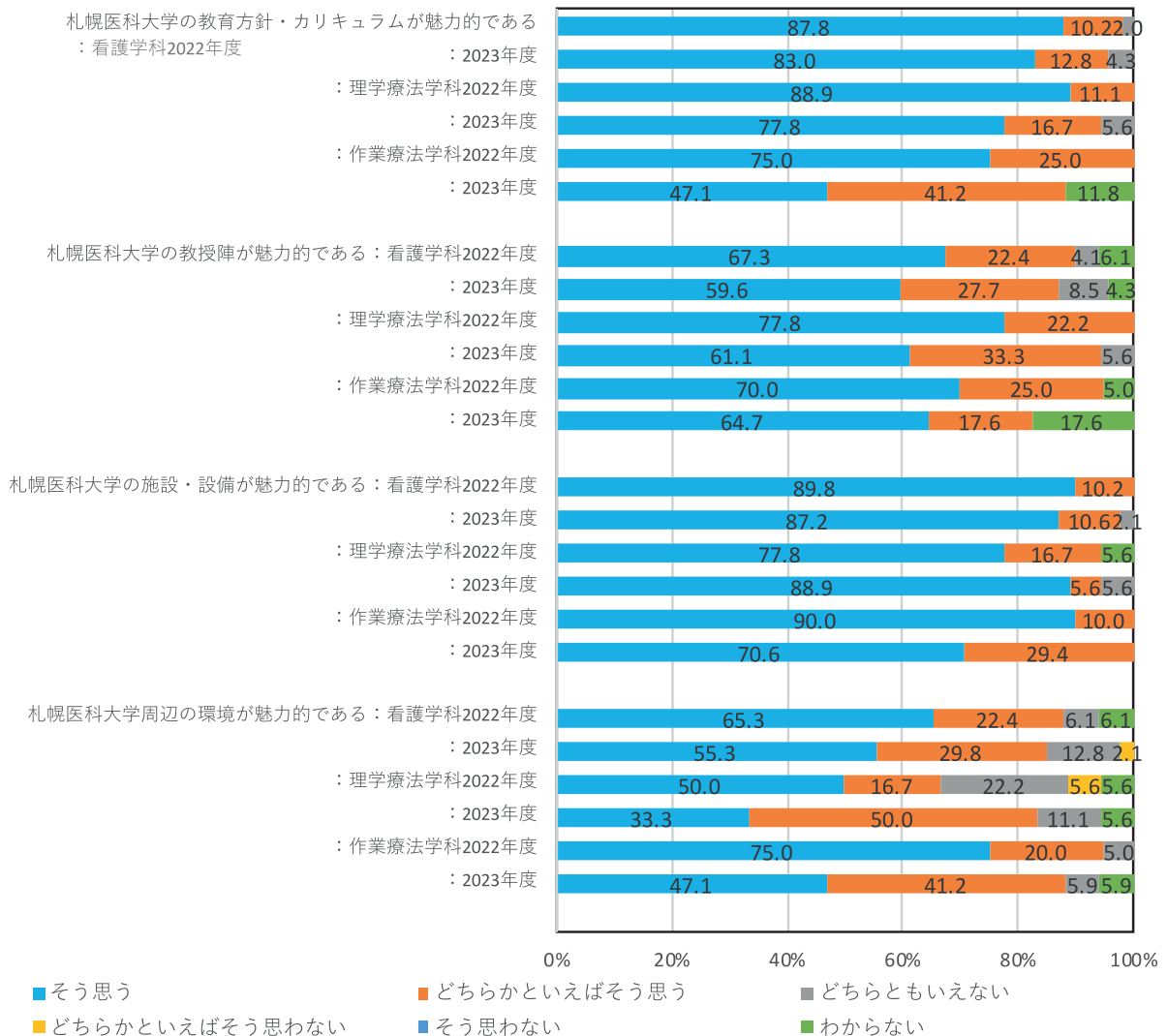


図 24. 建学の精神(進取の精神と自由闊達な気風、医学・医療の攻究と地域医療への貢献)の認知度

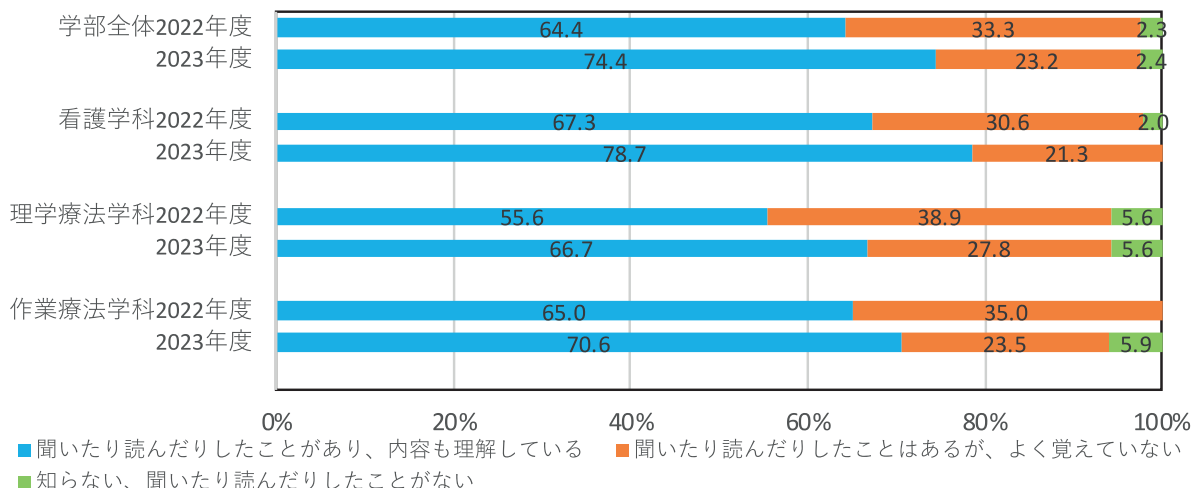


図 25. アドミッションポリシーの認知度

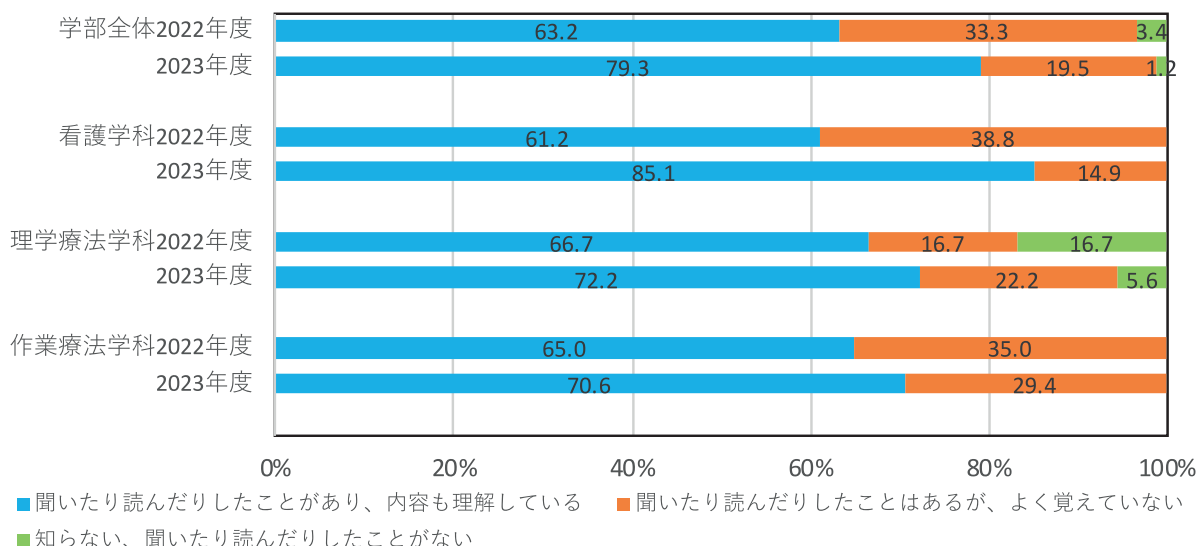


図 26. 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち：1. 入学を希望していた大学である

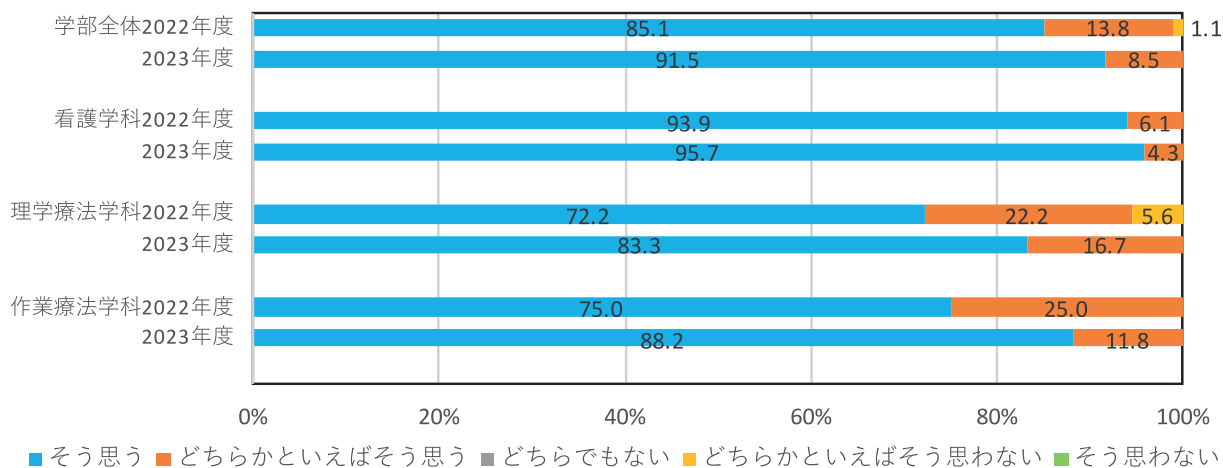


図 27. 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち：2. 入学した学部は希望通りの学部である

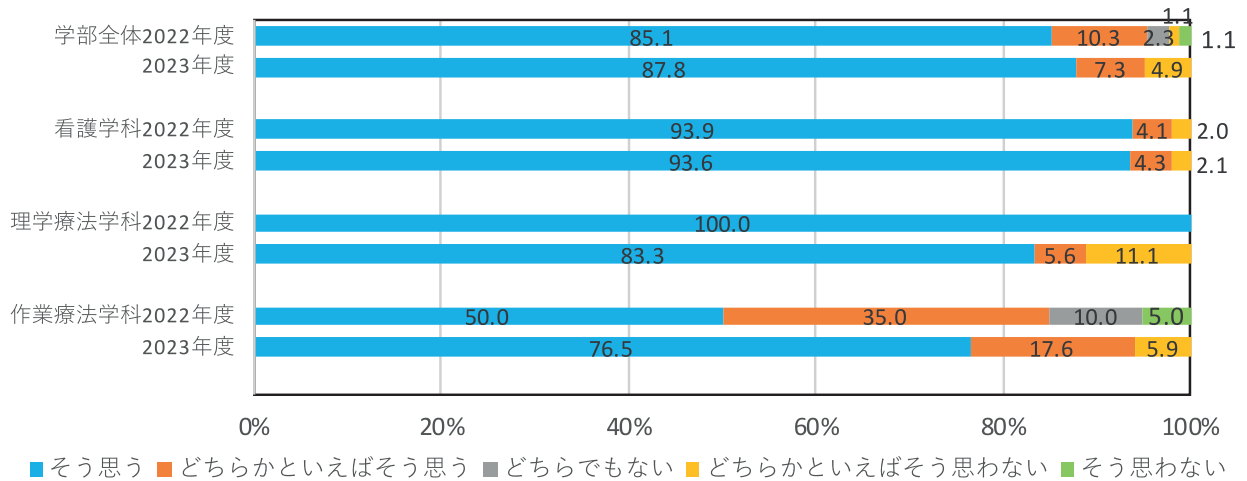


図 28. 入学にあたって、不安に思っていること（複数回答可）

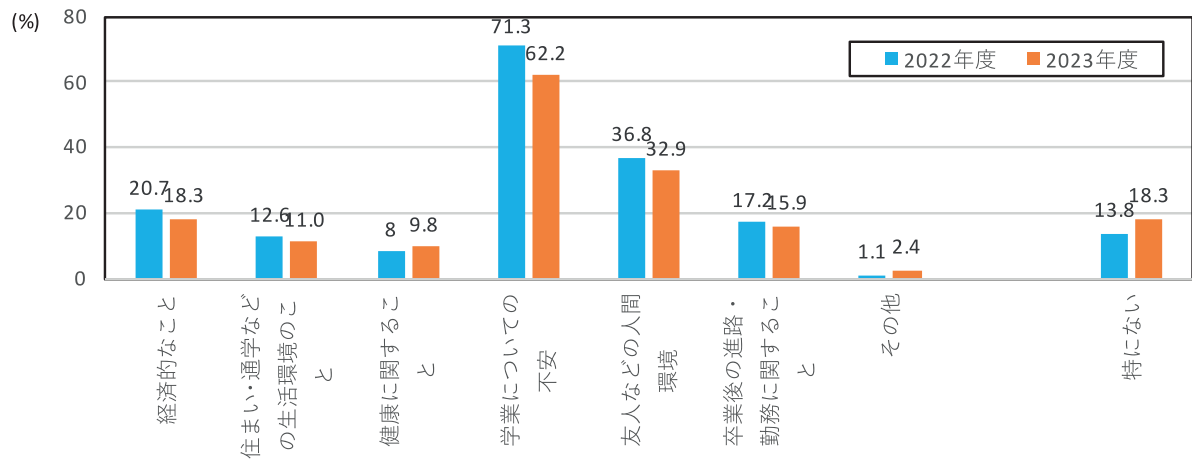


図 29. 入学にあたって、不安に思っていること（複数回答可）：学科別（2023年度）

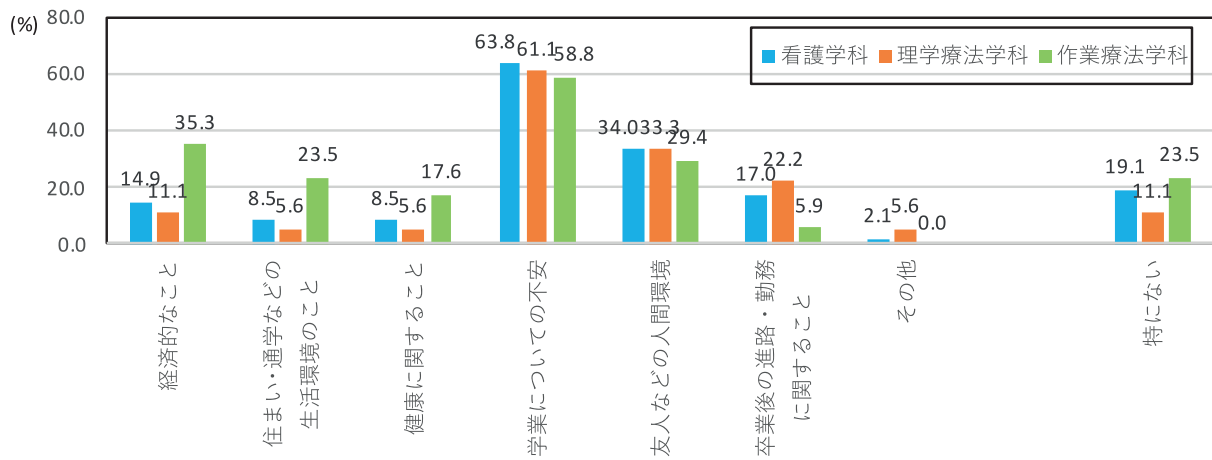


表 2. 現在（4月）困っていること（自由記載）

<看護学科>

- ・理系科目が苦手なため、勉強についていけるかが心配です。
- ・履修登録よく分からないこと。
- ・友達ができるか不安です。
- ・同じ高校から看護学科に来た人が誰もいないので、人間関係がうまく行くか不安です。
- ・ワクチン接種について（*記載改変あり）
- ・持病について（*記載改変あり）

<理学療法学科>

- ・将来像が見えていないことによる不安
- ・まだよく学校の教室の位置を理解出来てない

<作業療法学科>

- ・持病について（*記載改変あり）

図 30. 大学生活の中で力を入れたい活動

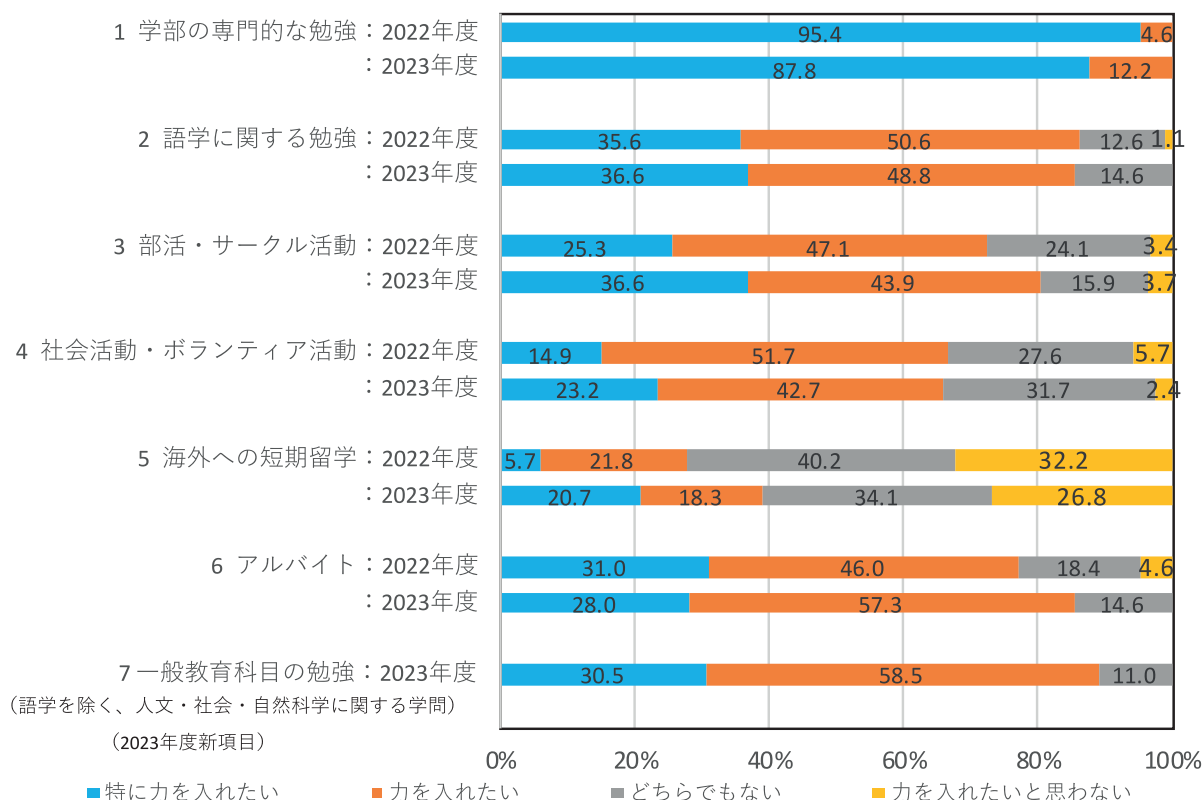


図 31. 大学生活の中で力を入れたい活動（学科別）

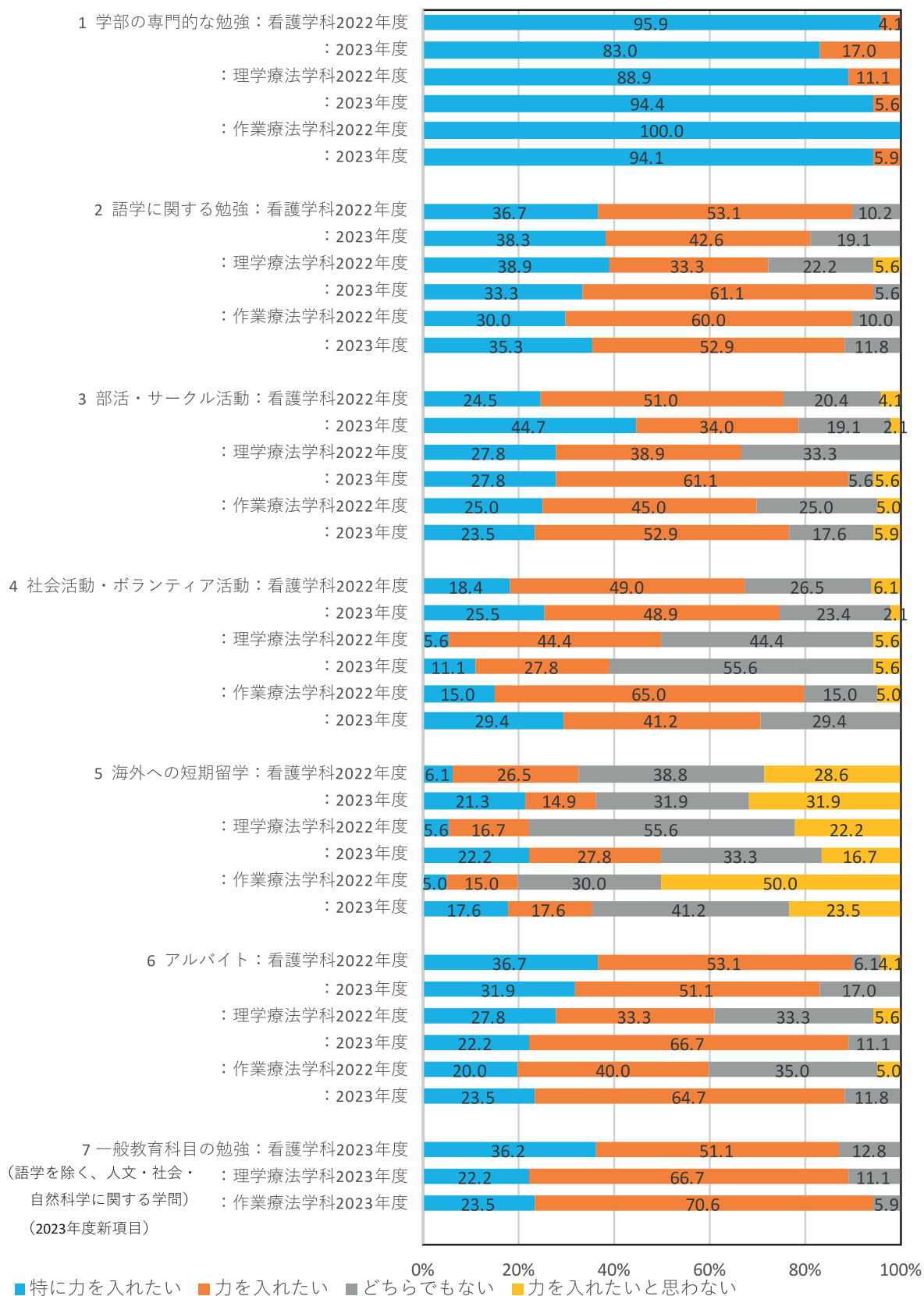


表 3. 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか（自由記載）

<看護学科>

- ・チーム医療についてや救急の知識を身につけたいので普段の講義に力を入れたいです。
- ・医療に関する専門的な知識や、人との関わりなど将来役にたつ知識を身に付けたい。また、1人での生活をしっかりこなして自立し、部活や勉強をしっかり両立させたい。
- ・医療に対する深い知識を身につけたい。部活動などを通して交友関係を広げたい。
- ・医療人としての専門的な知識・技術や、倫理的態度を身につけるため、学習に励みたい。
- ・看護の基礎知識を学ぶとともに、コミュニケーション能力を得るためにサークル活動にも積極的に取り組みたいです。
- ・看護師としての高い知識や技術を身に付けたい。
- ・看護師としての専門的な知識と、他人との良好な関係作りを学びたい。そのために授業の復習を確実にこなすこと、様々な人と関わりたい。
- ・看護師になるために必要なことはもちろんそれ以外の科目の勉強も頑張りたい。看護学部だけではなく他の学科は学部の人とも関わっていききたい。
- ・看護師になるために必要な勉強を頑張りたいです。
- ・基本的なことをきちんと身につけた上で、さらによりレベルの高い知識や技術を得たいので、まずは基本的なことを身につけることを目標に学習に組みたい。また他学科・他学部との交流もたくさんしたい。
- ・札幌医科大学では、自分の理想像としてある看護師の姿を目指すために、一般教育科目や専門科目の勉強は勿論のこと、部活動に取り組んだり友だちとの交流を深めたりして、コミュニケーション能力を育みたい。
- ・札幌医科大学を卒業したあと、専攻科にいきたいので勉強をしっかりとしたい。そのために、色々なことを教えて頂きたい。また、勉強だけでなく部活動にも積極的に参加したい。
- ・私が理想とする同じ職場で働いている方、患者さん、その家族に頼りにされる看護師になるために幅広い知識、確かな技術をもてるように、日々の授業、実習などに全力で取り組みたいです。
- ・自分の意見を持って分かりやすく説明する力を備えていきたい
- ・質問しに言った際に受け入れてくれる姿勢。一つ一つの授業を真剣に取り組みながら、並行してボランティアやサークル活動、アルバイトにも力を入れていきたいです。
- ・充実したカリキュラムでの専門的な学習
- ・将来のキャリアに役立つ専門知識やコミュニケーション能力の向上、リーダーシップの力の育成、そして倫理的態度を身につけることを求めます。学業に集中することと、他職種との関わりが豊富な環境を重宝して様々な活動に組みたいです。
- ・少人数体制や優良なカリキュラムを生かして、少しでも多くの学びを得たいです。看護師になりたいことだけしか将来の目標が定まってないので、勉強しながらどんな看護をしたいのか考えていきたいと思う。
- ・色々な学科の専門性を高めて興味を持てることを探究していきたいです。
- ・深い教養のある医療人になるために勉強を頑張りたいです。
- ・専門知識だけでなく人間として必要な教養も身に付け、人とコミュニケーションを取る力をさらに伸ばしたい。
- ・専門知識と技術を身につけると、一般教養も広く学びたい。部活やサークル活動と両立したい
- ・専門的な学習やサークル活動
- ・専門的な分野のレベルの高い教育を求めています。勉強はもちろんですが、友人との交流や部活動にも組みたいです。
- ・地域医療について
- ・同じ医療従事者を目指す仲間たちと一緒に交流したり授業に取り組み、多職種連携の大切さを学びながら医療の知識を深めていきたいです。さらには私は英語を学ぶことが好きなので積極的に英語を使う場に参加したり、日本語だけでなく外国語のコミュニケーション能力も身につけていきたいです。

- ・保健師になるための学習を深めたい
- ・様々な人に会って、多様な価値観や考え方を知ること。|将来の投資として様々な知識を取り入れること。

<理学療法学科>

- ・スポーツに興味を持っているので専門的な知識を身につけると共に英語の勉強にも励み、大学院に行きたいです。
- ・スポーツ医学について深く学びたいと思っていてそのためには専門の先生の前で学びたい。また、理学療法に関することを多く学びたい
- ・スポーツ医療と地域医療について学びたい。
- ・医学はもちろんですが、海外にも興味があるので言語学や国際社会系の勉強にも取り組んでいきたい
- ・自分の理想とする理学療法士の姿に近づくための学習に取り組むつつ、人間としての幅を広げていきたい。
- ・専門知識についての知識を身に付け、深めていきたい。|また、一般教養についても学べる環境が整っていると思うので幅広い知識を身に付けていきたい。
- ・附属病院があることから様々な症例と出会い、同業者の中でも知識や経験が豊富な理学療法士として現場で働きたいので積極的に授業や実習に取り組んでいきたい。
- ・幅広い教養を身につけることはもちろん、自分が目指す進路を専門としている先生方とコミュニケーションをとっていきたい。また、語学の学習にも力を入れていきたい。
- ・北海道の地域医療について深く学びたい。
- ・地域医療についてとても興味があり、地域医療について学びたいと思い札幌医科大学に入学したため、地域医療合同セミナーに参加したいと思っています。
- ・自分が興味を持つことを見つける。

<作業療法学科>

- ・高度な医療教育に取り組みたい
- ・札幌医科大学では医療人として患者さんと医療関係者の方とも協力してリハビリに励むことができるようにコミュニケーション力を身につけたいです。そのためにサークルなどを通して多くの人間関係を作りたいと思います。また、学問についても最低限のことだけでなく4年間で身につけられる全てのことを吸収するために日々の授業に熱心に取り組みたいです。
- ・将来作業療法のリーダーとなっていけるようなスキルを培うための技術を求め、多くの人と関わり話し合うということに取り組みたいです。
- ・相手と良い関係を作れる作業療法士になるために、コミュニケーション能力を培いたいと思っています。
- ・他の人とは違うより光る作業療法士を目指したい。多くのことに挑戦して経験値を増やしたい。
- ・地域に貢献するために主体的に学びたい、
- ・地域医療合同セミナーに興味があるので、参加したいと考えています。
- ・様々な人との交流を深め、たくさんの経験を積みたい。
- ・他学科の人や年代の離れた人と関わる機会を増やしたい
- ・作業療法に限らず、様々なことについて深く学びたい
- ・良い意味で周りに流されず、自分が興味を持ったことには恐れずに積極的に挑戦したい。

IV. 資料（調査票）

.....
 学籍番号（ ） 氏名（ ）

以下の設問について、選択で回答するものについては、数字に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的に記入してください。

①あなたが高校3年生（2月時点）の時に居住していた地域を教えてください。

1	札幌市内	2	札幌市外(北海道内)	3	札幌市外（北海道外）
---	------	---	------------	---	------------

②あなたが入学した入試区分を選択してください。

1	一般選抜	2	学校推薦型選抜	3	その他（ ）
---	------	---	---------	---	-------------------------

③あなたが進路選択をする際に役立った情報を選択してください（複数選択可）

1	大学パンフレット	2	大学ホームページ	3	大学ポスター
4	受験企業等のWEBサイト	5	受験雑誌	6	新聞記事等
7	その他（ ）				

④あなたが本学を知るうえで役立った情報源を選択してください（複数選択可）

1	広告媒体	2	オープンキャンパス	3	入試相談・説明会
4	出前授業	5	高校の先生	6	予備校
7	家族・親戚	8	知人・先輩	9	その他（ ）

⑤札幌医科大学への入学決定にあたって、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

		そう思 う	どちら かとい えばそ う思う	どちら でもな い	どちら かとい えばそ う思わ ない	そう思 わない
1	入学を希望していた大学である	5	4	3	2	1
2	入学した学部は希望通りの学部である	5	4	3	2	1

⑥あなたは、高校3年生の9月（昨年の9月）頃において、平日に学校等の授業以外で1日平均何時間くらい勉強していましたか。（授業の予復習のほか、予備校、学校での課外の補習・講習を含む）

1	ほとんどしなかった	2	1時間未満	3	1～3時間未満
4	3～5時間未満	5	5～7時間未満	6	8時間以上

⑦あなたは、高校時代の学習において、以下の様な経験をしたことがありますか。

		ある	ない	わからない
1	自分から先生に質問や相談に行く	3	2	1
2	自分で設定したテーマについて学習する	3	2	1
3	学習したことについてプレゼンテーションを行う	3	2	1
4	複数の生徒で一つのテーマ（課題）に取り組む	3	2	1
5	生徒同士でディスカッションを行う	3	2	1

⑧札幌医科大学を受験することを決定したのはいつ頃ですか。

1	高校入学前	2	高校1年生	3	高校2年生
4	高校3年生4～12月	5	高校3年生1月以降	6	高校卒業後

⑨あなたは進学や受験の時に、どんなことを理由に札幌医科大学を選びましたか。

		大きな理由になった	少しは理由になった	情報はあったが、理由にはならなかった	情報がなかった・知らなかった
1	札幌医科大学のブランドやイメージ	4	3	2	1
2	カリキュラムや授業構成	4	3	2	1
3	教授・講師陣が充実している	4	3	2	1
4	入学金・学費などの適切性（国公立だから、を含む）	4	3	2	1
5	キャンパスの立地や周辺環境	4	3	2	1
6	両親や先生から勧め	4	3	2	1
7	自分の能力レベルに相応	4	3	2	1
8	通学の利便性	4	3	2	1

⑩札幌医科大学への入学（受験）を決めるにあたり、もっとも重視したのは誰からの意見やアドバイスでしたか。

1	保護者	2	兄弟・姉妹	3	高校の先生
4	塾・予備校の先生	5	親戚や知人	6	本学に在学中の友人や先輩
7	特に相談しなかった				

⑪札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会に参加した際の満足度についてお答えください

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	参加せず
1	オープンキャンパス	4	3	2	1	0
2	高校で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
3	塾・予備校で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
4	一般の会場で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
5	その他、模擬授業など	4	3	2	1	0

⑫あなたが考える札幌医科大学の魅力についてお答えください。

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
1	札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である	5	4	3	2	1	0
2	札幌医科大学の教授陣が魅力的である	5	4	3	2	1	0
3	札幌医科大学の施設・設備が魅力的である	5	4	3	2	1	0
4	札幌医科大学周辺の環境が魅力的である	5	4	3	2	1	0

⑬あなたは札幌医科大学の建学の精神（「進取の精神と自由闊達な気風」「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」）であることを知っていますか

1	聞いたり読んだりしたことがあり、内容のも理解している	2	聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない
3	知らない、聞いたり読んだりしたことがない		

⑭あなたは札幌医科大学保健医療学部のアドミッション・ポリシー（大学がどのような学生を入学者と求めているか明文化したもの）を知っていますか。

1	聞いたり読んだりしたことがあり、内容のも理解している	2	聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない
3	知らない、聞いたり読んだりしたことがない		

⑮現時点であなたは、以下の知識・能力についてどの程度備わっていると考えていますか。

		充分備わっている	ある程度は備わっている	どちらでもない	あまり備わっていない	全く備わっていない
1	医療系の専門に係る知識	5	4	3	2	1
2	幅広い教養	5	4	3	2	1
3	英語（外国語）の運用能力	5	4	3	2	1
4	社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力	5	4	3	2	1
5	課題を解決するための問題解決力	5	4	3	2	1
6	異文化や異なる背景を有する人々に対する理解力	5	4	3	2	1
7	他者とのコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
8	パソコンのソフトウェアの操作（Word, Excel, Powerpoint など）	5	4	3	2	1
9	SNS を安全に使うためのルール、方法	5	4	3	2	1

⑯大学生活の中でどのような活動に力を入れたいと考えていますか。

		特に力を入れたい	力を入れたい	どちらでもない	力を入れたいと思わない
1	学部の専門的な勉強	4	3	2	1
2	語学に関する勉強	4	3	2	1
3	一般教育科目の勉強（語学を除く、人文・社会・自然科学に関する学問）	4	3	2	1
4	部活・サークル活動	4	3	2	1
5	社会活動・ボランティア活動	4	3	2	1
6	海外への短期留学（短期 は不要では）	4	3	2	1
7	アルバイト	4	3	2	1

⑰入学後の住まいについて教えてください。

1	自宅（親所有の家・マンション等）	2	アパート（賃貸）
3	下宿・寮	4	その他（ ）

⑱入学後の主な通学手段を教えてください。（複数選択可）

1	徒歩	2	自転車	3	地下鉄
4	バス	5	市電	6	その他（ ）

⑲入学にあたって、不安に思っていることを教えてください。（複数回答可）

1	経済的なこと	2	住まい・通学などの生活環境のこと	3	健康に関すること
4	学業についての不安	5	友人などの人間環境	6	卒業後の進路・勤務に関すること
7	特になし	8	その他（ ）		

⑳あなたは携帯端末を持っていますか。（複数回答可）

1	持っている（スマートフォン）	2	持っている（ガラケー）	3	持っている（タブレット・pad）
4	持っていない				

㉑あなたは自分専用あるいは家族で共有しているパソコンを持っていますか。

1	自分専用の PC を持っている	2	家族と共有の PC を持っている	3	持っていない
---	-----------------	---	------------------	---	--------

㉒㉑で回答した PC から印刷できるプリンターがありますか。

1	ある	2	ない		
---	----	---	----	--	--

㉓あなたは札幌医科大学で、何を求め、どんなことに取り組みたいですか。（自由記載）

㉔現在、何か困っていることがあれば教えてください。（自由記載）

※今回のアンケート調査をさらに掘り下げるためにインタビュー調査に協力していただけますか？

協力してもよいという方は数字に○をつけてください

- 1 協力してもよい 2 協力しない

ご協力ありがとうございました。

8.2.2 在学生調査報告書

I. 概要

<目的>

保健医療学部2-4年生を対象に、DP（ディプロマ・ポリシー）の到達度、学生生活（居住環境、経済状況、課外活動、心理状況、健康問題等）の実態、学部の支援体制の有用性を把握することを目的に実施した。

<方法>

調査票を用いた集合調査（看護学科3年生はインターネット調査）により行った。調査時期は2023年11月～2024年1月である。基本的属性、生活状況、学業の成果（DPの評価）、悩みや不安、経済状況、支援制度について調査した。

<結果>

回収率：84.1%（228名回収／271名配付）だった（表1）。看護学科3年生のみインターネット調査であり、回収率が低かった（50.0%）。

基本属性：居住形態については自宅が63.6%、下宿／アパートが36.4%であった（図1）。通学時間は片道30分～1時間未満（33.9%）の学生が最も多く、1時間以上の者も約2割いた（図2）。加入しているサークル・部活動は、何らかの活動をしている学生が64.0%だった（図3）。加入率は以前よりも低下している（表8）。部活動・サークル活動で得たことはコミュニケーション能力が74.0%と最も多く、次いで人格形成・忍耐力・責任感が52.1%であった（図5）。

生活状況：平日の平均睡眠時間は、5～7時間が全体の78.8%を占めていた（図6）。過去の調査と比較すると、5時間未満と回答する学生の割合（10.6%）が増加していた（表12）。食事の頻度については、各学科とも三食きちんと食べているが57.1%であった（図7）。アルバイトの時間は、1週間あたり10時間以上が最も多く62.6%だった（図8）。アルバイトをしていない学生は7.9%で、過去の調査（15%程度）と比較すると、アルバイトをしている学生が増えていることがわかる。アルバイトで得たことについては、コミュニケーション能力、社会人としての基礎力、と回答した学生がともに72.2%、問題対応能力、人格形成・忍耐力・責任感と回答した学生がともに62.2%だった。YouTube、X、Instagram等の閲覧に費やした時間は、1日に1時間～3時間と回答した学生が最も多かったが、5時間以上の者も7.7%いた（図11）。読書に費やした時間は、読書していないとの回答が約6割を占めていた（図12）。ボランティア活動は10.6%の学生しかしていないが（図13）、過去の調査よりも活動している学生が多くなっていた（表22）。

学業の成果（DPの評価）：「建学の精神を実現するための基盤となる能力」は、「人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている」について肯定的な回答が94.3%と最も多く、次いで「他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる」が81.2%であった（図15）。学年別にみると、4年生の得点が全般的に高くなっていた（表25）。「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」では、「対象者の個人情報保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる」の肯定的回答が最も多く（86.3%）、次いで「他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる」が86.0%と多かった（図16）。学年別ではまた、全般的に4年生の得点が高くなっていた。

悩みや不安：現在の悩みや不安はない、と回答した学生が34.2%であった（図17）。悩みや不安の内

容は、進路と回答した学生は50.3%、学業は44.3%、対人関係は31.5%だった(図18)。悩みや不安への対処については、できていると回答した学生は60.8%であった(図19)。現在の悩みや不安の相談相手については、家族・友人と回答した学生が93.1%だった(図21)。

経済状況：授業料、生活費の支弁者は、87.7%が親・親族であり、自分自身(奨学金を含む)が9.2%だった(図21)。奨学金は38.6%の学生が受給していた(図22)。学業を続けていく上での経済的な不安がない学生が80.3%であった(図23)。

支援制度：学生担当教員制度について、「よく知っている」と回答した学生は75.8%だった(図24)。学年が上がるにつれ制度の認知度は上昇し、4年生では82.1%だった(表39)。また、前回調査(2021年)から11.2%増加していた(表40)。保健管理センターは、99.1%の学生が「よく知っている」あるいは「聞いたことがある」と回答した(図25)。ハラスメント相談窓口は、33.8%の学生は認知していなかった(図26)が、前回調査(2021年)より認知度は14.4%増加していた(表44)。今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容としては、進路(47.8%)、国家試験対策(44.7%)、就職(43.4%)が多かった。

<考察>

調査方法については、集合調査が有効であることが確認できたため、回収率とコスト等を考慮した最適な調査方法について継続して検討する必要があると考えられる。

前回調査との比較で、学生の生活状況に大きな変化は認められないが、コロナ禍で部活動・サークル活動への加入者が減り、アルバイトをする学生が増加していることが顕著な変化としてあげられる。それぞれの活動で得られることが異なるため、学習者としての成長に与える影響については注意深く観察していく必要があるだろう。

DPの評価については、コミュニケーション能力や対象者と適切に関わることができる能力、専門職連携能力の評価が高くなっており、また、4年次の自己評価が高いこともあり、医療専門職として必要な能力が積み上げ式に涵養されていることが伺えた。また、保健医療総論等、他学部・学科との合同授業等の成果も認められた。

学生担当教員制度と保健管理センターの認知度は高く、とくに保健管理センターは学生にとって身近な存在として定着していることが推察される。ハラスメント相談窓口については、より認知を広げるための方策を検討する必要がある。

充実させるべき支援内容としては、進路、国家試験対策、就職が多かったが、支援を担当する組織・委員会について検討する必要がある。

II. 目的

本調査は保健医療学部2-4年生を対象に、DPの到達度、学生生活(居住環境、経済状況、課外活動、心理状況、健康問題等)の実態、学部の支援体制の有用性を把握し、今後の学生の大学生活をより豊かなものとする学生の支援体制を構築するために、またカリキュラム評価に用いる資料を得ることを目的とする。なお、学生生活については2004年(平成16年)、2008年(平成20年)、2013年(平成25年)、2016年(平成28年)、2021年(令和3年)に「学生生活基礎調査」として実施されており通算で第6回目の調査となる。これらの過去の調査との比較により、学生生活の変化についても検討を行う。

Ⅲ. 方法

1. 調査方法

保健医療学部 に在籍する 2-4 年生 271 名（休学中の者は除く）を対象に、調査票を用いた集合調査により行った。ただし、看護学科 3 年生は実習中で全体講義等がないため、Qooker を用いたインターネット調査により回答を得た。調査時期は 2023 年（令和 5 年）11 月～2024 年（令和 6 年）1 月である。

2. 調査内容

基本的属性、生活状況、学業の成果（DP の評価）、悩みや不安、経済状況、支援制度について調査した。学生の生活実態は、過去の学生生活基礎調査で行った項目をもとに、医学部と比較が可能な調査内容とした。また、DP の評価については、DP 改定後初めての調査となるため、カリキュラム委員会、教務委員会からの意見を聴取して項目を作成した。

3. 倫理的配慮

調査の実施において、下記の点に留意し、学生には依頼文書を用いて周知し、調査の協力を依頼した。

- 1) 調査協力への同意：本調査への回答をもって、調査への同意と見なす。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はない。
- 3) プライバシー保護：調査は無記名で行う。データは統計学的に処理され、個人が特定されることはない。ただし 2 年生については、入学時に継続的教学情報収集の同意を得ているため、記名式で調査を行う（他の情報と連結して統計的分析を行う可能性がある）。
- 4) 回答は統合 IR 部門が管理するインターネットに接続しない PC またはハードディスクに保管され、厳重に管理する。
- 5) 調査の結果は全学、学部、医療事故情報センター等の学内会議で報告する。
- 6) 予期される危険と費用負担：回答には 15 分程度の時間と作業を要する。費用負担はない。

4. 分析

各項目について度数分布、学科別集計、学年別集計を行った。過去に行われた学生生活基礎調査と調査項目及び選択肢が同一または類似している場合は、経時的変化を考察した。なお、DP の評価については、本年行われた卒業生調査、雇用者調査とも比較が可能な項目（旧 DP の評価と内容が同じである）についてのみ比較検討を行う。

Ⅳ. 調査結果

1. 回答状況

回収率は 84.1%（228 名回収 / 271 名配付）だった（表 1）。学科別では、理学療法学科（100.0%）作業療法学科（98.3%）、看護学科（72.0%）の順で高かった。学年別では 3 年生が低く（72.5%）、4 年生が高くなっていた（95.5%）（表 2）。看護学科 3 年生が実習のためインターネット調査となったことが、学科別、学年別の回収率に大きな影響を与えていた。前回調査（第 5 回：2021 年）においてはじめてインターネット調査を導入したが、大幅な回収率の低下がみられたため、今回は、看護学科 3 年生以外は調査票を用いた集合調査を実施した。その結果、回収率は 84.1% であった。今後も、回収率とコスト等を考慮した最適な調査方法について継続して検討する必要がある。

2. 基本属性

基本属性として「居住形態」「通学時間」「加入しているサークル・部活動」「部活動・サークル活動への参加頻度」「部活動・サークル活動で得たこと」について調査を行った。

「居住形態」については『自宅』が63.6%、『下宿／アパート』が36.4%であった(図1)。学科別にみると理学療法学科、学年別にみると3年生が他と比較して『自宅』の割合が少なかった(表3)。過年度調査との比較では、『自宅』が2021年度より1割弱減少していた(表4)。

「通学時間」は片道『30分～1時間未満』(33.9%)が最も多く、次いで『15分未満』(30.8%)で、『1時間以上』も約2割いた(図2)。2021年度・2016年度より『15分未満』が減少していた。

「加入しているサークル・部活動(複数回答)」は『運動系』が約5割と最も多く、何らかの活動をしている学生は約6割であった(図3)。学年別にみると、2年生が約7割と最も多く加入しており、次いで4年生が6割であった(表7)。2016年度・2021年度との比較では加入率が減少しており、新型コロナウイルスの影響が少なからずあったものと考えられる(表8)。

「部活動・サークル活動への参加頻度」は『週1回』が約4割と最も多く、次いで『週2回』が3割弱であった(図4)。なお、『週5回以上』参加している4年生が1割弱いた(表9)。学年別にみると、学年が上がるにつれて参加頻度が低下する傾向にあった。

「部活動・サークル活動で得たこと」は『コミュニケーション能力』が約7割と最も多く、次いで『人格形成、忍耐力・責任感』が約5割であった(図5)。医療従事者として欠かせない力を養う機会でもありと考えられる。

3. 生活状況

学生の生活状況を把握するために、「平日の平均睡眠時間」「食事の頻度」「アルバイトの時間」「アルバイトで得たこと」「PC・スマホ・タブレット等で他者とのコミュニケーションに費やした時間」「YouTube、X(旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間」「読書に費やした時間」「ボランティア活動」「友人の人数」に関して調査を行った。

「平日の平均睡眠時間」は、各学科とも『5～6時間』『6～7時間』が多かった(表11)。学年別では、3年生が他学年に比べて『5時間未満』の割合が多かった。過年度調査との比較では、2021年度調査は『6～7時間』が最も多かったが、今回は『5～6時間』が最も多かった(表12)。また、2016年度からの過去3回の調査を比較すると、『5時間未満』と回答する学生の割合が増加していた。これは、新型コロナウイルス対策が解除され、通常の生活に戻ったことに加えて、学生のライフスタイルの変化が反映されたものと考えられる。

「食事の頻度」については、各学科とも『三食きちんと食べている』が過半数を占めていた(図7, 表13)。『三食きちんと食べている』と回答した学生は、作業療法学科で63.2%と他学科よりも多く、学年別では3年生で62.5%と他学年よりも多い結果であった。

「アルバイトの時間」は、各学科とも1週間あたり『10時間以上』が最も多く5～6割を占めた(図8, 表14)。『していない』『3時間未満』と回答した学生は、全体の約1割であった。学年別では、2年生で『10時間以上』が7割を超え、3・4年生で『3時間以上-10時間未満』『10時間以上』が合わせて8割を超えていた(表15)。『していない』と回答した割合は、2021年度では2～3割であったのに対して、今回は1割未満と減少していた。新型コロナウイルス対策に伴う行動制限の解除や、部活動・サークル活動の加入者が減少していることが関係していると考えられる。

「アルバイトで得たこと」については、『コミュニケーション能力』『社会人としての基礎力』と回答

した学生が70%以上、『問題対応能力』『人格形成、忍耐力、責任感』とした学生が約60%、『授業では得られない知識・教養』が約50%であった(図9)。学科別では、看護学科で『社会人としての基礎力』とした学生が8割以上と最も多く、理学療法学科と作業療法学科で『コミュニケーション能力』とした学生が6割以上であった(表16)。学年別では、4年生で『社会人としての基礎力』とした学生が8割弱と最も多かった。「アルバイトで得たこと」については、今後の社会生活において必要とされる能力や知識が大多数を占めていたことから、大学生活において、経済的理由によるアルバイト活動というよりも、大学内では学ぶことの出来ない一般的な教養を身につける場として活用していることが窺える。

「PC・スマホ・タブレット等で他者とのコミュニケーションに費やした時間」は、1日あたり『30分～2時間』とした学生が4割と最も多く、次いで『2時間以上』が3割、『30分未満』が2割という結果であった(図10)。学科別では、『2時間以上』と回答した学生は看護学科で最も多く、学年別では、『30分未満』と回答した学生が3年生で最も多い結果であった(表17)。

「YouTube、X(旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間」について、各学科とも『1時間～3時間』と回答した学生が4割から5割と最も多く、『3時間～5時間』『5時間以上』は合わせて3割以上を占めていた(図11, 表18)。学年別では、『5時間以上』と回答した学生は2・3年生で7～8%であったのに対し、4年生では16.5%を占めていた。前回2021年度調査では、1日のインターネット利用時間が『1～3時間』とした割合が最も多く、今回の調査でも『1～3時間』が最も多く前回と同様の結果であった(表19)。一方で、前回の調査で『5時間以上』と回答した学生が15%程度であったのに対して、今回は約7%と半減していた。これは、新型コロナウイルス対策による行動制限解除が要因の一つと考えられる。

「読書に費やした時間」は、各学科・各学年ともに『していない』が最も多く約6割を占め、『30分未満』が全体の約3割、残りの1割が『30分～2時間』『2時間以上』であった(図12, 表20)。

「ボランティア活動」については、全体の9割が『していない』であった(図13)。学科別では理学療法学科と作業療法学科、学年別では3年生で1割以上の学生が『した』と回答しており、何かしらのボランティア活動を行っていた(表21)。前回2021年度の調査では『した』と回答した学生が約4%であったのに対して、今回は10%と増加していた(表22)。

「友人の人数」については、各学科とも『まあまあいる』が約6割と最も多かったが、3年生で『ほとんどいない』と回答した学生が数名いた(図14, 表23)。2004年度からの今回までの過去5回の調査では、『まあまあいる』が半数以上を占めており、同様の傾向が続いている(表24)。一方で、『大勢いる』が前々回2016年度、前回2021年度と引き続き1割程度となっており、学生の社会環境の近年の特徴を表しているものと考えられた。

4. 学業の成果：卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況(DPの評価)

学業の成果を把握するために、卒業までに身に付けたい能力である「建学の精神を実現するための基盤となる能力」「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」に関して調査を行った。

「建学の精神を実現するための基盤となる能力」は、「人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている」について『そうである/まあそうである』の回答が9割を超え最も多く、次いで「他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる」が約8割であった(図15)。『そうである/まあそうである』の割合が最も低かったのは、「保健医療福祉のシス

テム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている」(約4割)であった。学科別の能力獲得平均点に違いはみられなかったが、学年が上がるにつれ点数が上昇していた(表25)。

他者への尊重、コミュニケーションや対人関係の構築については、授業や演習で基本を学び、実習等での対象者への援助、さらに部活動・サークルおよびアルバイトの経験等から獲得されてきたものと推察される。一方、保健医療福祉システム全般の理解、システム促進に向けた思考は難易度が高く、学修の機会を重ね広い視野を持つことで能力の獲得が促進されると考える。4年生の平均点が他項目と比較して低いことから、意図的な教授が必要であるといえる。

「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」は、能力獲得について『そうである／まあそうである』の回答がすべての項目で6～8割であった(図16)。平均点が最も高かったのは「対象者の個人情報の保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる」であり、次いで「他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる」であった。倫理的実践については能力獲得平均点が2年生においても他項目と比較して高く、低学年から学修の機会が充分にあったものと考えられる(表26)。また、他職種との連携については、保健医療総論等、他学部・学科との合同授業等の成果であると推察される。

5. 悩みや不安

学生生活における悩みや不安を把握するために、「現在の悩みや不安」「悩みや不安の内容」「悩みや不安への対処」「悩みや不安の相談相手」に関して調査を行った。

「現在の悩みや不安」の有無について、『たくさんある』と回答した学生は1割弱であった(図17)。『まあまあある』『少しはある』と回答した学生は6割弱を占め、『全くない』『ほとんどない』と回答した学生は3割強であった。作業療法学科は『たくさんある』と回答した学生が最も多く、理学療法学科は『少しはある』と回答した学生が最も多かった(表27)。学年別では3年生が『たくさんある』が最も多く、4年生は『まあまあある』と『ほとんどない』がそれぞれ3割強であった。一方で、4年生の悩みや不安を抱えている学生の割合は、『まあまあある』と『ほとんどない』に二分化する傾向も窺えた。前回調査(2021年度)の結果と比較すると、悩みや不安を抱えている学生の割合には大きな変化は見られていない(表28)。

「悩みや不安の内容」については、『進路』と回答した学生は約5割、『学業』と回答した学生は約4割強、『対人関係(家族／友人／異性)』と回答した学生は約3割、『経済状況』と回答した学生は約2割であった(図18)。『教員との人間関係』と回答した学生は2%にとどまっていた。『進路』を悩みと回答した学生が最も多かったのは3年生、『学業』を悩みと回答した学生が最も多かったのは4年生であった(表29)。

「悩みや不安への対処」については、『ほとんどできている』『まあまあできている』と回答した学生は全体の約6割を占め、『まあまあできている』と回答した学生が最も多かった(図19)。『どちらともいえない』と回答した学生は約3割、『できていない／あまりできていない』と回答した学生は1割弱であった。悩みや不安への対処について、前回調査時と大きく変化は見られなかった(表32)。

「現在の悩みや不安の相談相手」については、『家族・友人』と回答した学生が9割を超えており、『学担・副学担』に相談すると回答した学生は1割弱にとどまっていた(図20)。相談相手について前回調査時と大きく変化は見られなかったが、『学担・副学担』と回答した学生の割合は前回調査より半減しており、相談相手としての優先順位が高くないことが推察された(表34)。

6 経済状況

学生の経済状況を把握するために、「授業料、生活費の支弁者」「奨学金の受給」「学業を続けていく上での経済的な不安」について調査を行った。

「授業料、生活費の支弁者」は、8～9割が『親・親族』であり、次いで『自分自身（奨学金を含む）』が1割程度と続き、『全額免除されている』がごく少数であった（図21）。学科別では、看護学科と作業療法学科の約1割において『自分自身（奨学金を含む）』と回答していた（表35）。

「奨学金の受給」は、約4割の学生が受給していた（図22）。学科別では看護学科、作業療法学科が4割以上であったのに対して、理学療法学科が2割程度の受給であった（表36）。学年別では、回答割合が大きい順に3年生、2年生、4年生の順であった。前回調査（2021年）と比較して、「奨学金の受給」の受給割合も約4割程度であり差はなかった（表37）。

「学業を続けていく上での経済的な不安」について、『ある』が19.7%、『ない』が80.3%であった（図23）。学科別では、『ある』と回答した学生が看護学科、理学療法学科で約2割であったのに対して、作業療法学科では1割であった（表38）。学年別では、2年生で約1割、3年生と4年生で2割以上の学生が『ある』と回答していた。

7. 支援制度

大学の「支援制度」に関する学生の認知度および満足度を把握するために、「学生担当教員（学担・副学担）制度の認知」「保健管理センターの認知」「ハラスメント相談窓口の認知」「今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」に関して調査を行った。

「学生担当教員（学担・副学担）制度の認知」について、『よく知っている』と回答した学生は、学年が進むにつれて増加し、4年生では約8割であった（図24、表39）。学科別では看護学科の認知度が最も高く、理学療法学科、作業療法学科と続いた。2021年度調査と比較すると、『良く知っている』と回答した学生の割合が11.2%増加していた（表40）。後述するように、「今後の学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」（図27）で挙げられている『進路』『就職』などのサポートにおいても、学生担当教員は重要な役割を担う存在であることが窺える。

「保健管理センターの認知」については、ほぼすべての学生が『よく知っている』あるいは『聞いたことがある』と回答した（図25）。2021年度調査においてもほとんど全ての学生が『良く知っている』『聞いたことはある』と回答していた（表42）。保健管理センターが新型コロナウイルス感染症対策において重要な役割を担っていたこと、保健師ならびに臨床心理士が配置され体制が強化されたことなどが要因として挙げられる。保健管理センターは学生にとって身近な存在として定着していることが推察される。

「ハラスメント相談窓口の認知」については、『よく知っている』あるいは『聞いたことがある』が7割弱であり、3分の1の学生は『知らない』と回答した（図26）。2021年度調査より『良く知っている』『聞いたことはある』と回答した学生の割合が14.4%増加し、ハラスメント相談窓口が認知されつつある（表44）。しかしながら、ハラスメント相談窓口の存在を『知らない』と3分の1の学生が回答していることから、その役割や支援内容について、学生に周知する方法を改めて検討する必要があると考えられる。

「今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」としては、『進路』『国家試験対策』『就職』の順に多く、半数弱の学生の回答がみられた（図27）。学担・副学担に加え、各学科教員や科目担当責任者が連携して、これらをサポートする体制の整備が重要となる。

V. 図表

1. 回収率

表1. 回収率：学科別・学年別

% (配布数/回収数)

学科	学年			
	全体	2年生	3年生	4年生
看護学科	72.0 (108/150)	74.0 (37/50)	50.0 (25/50)	92.0 (46/50)
理学療法学科	100.0 (62/62)	100.0 (20/20)	100.0 (21/21)	100.0 (21/21)
作業療法学科	98.3 (58/59)	95.2 (20/21)	100.0 (20/20)	100.0 (18/18)
全体	84.1 (228/271)	84.6 (77/91)	72.5 (66/91)	95.5 (85/89)

表2. 回収率：年度別

調査年度	回収数	%
第2回 2008年 (N=346)	337	97.4
第3回 2013年 (N=358)	291	81.3
第4回 2016年 (N=352)	349	99.1
第5回 2021年 (N=362)	220	60.8
第6回 2023年 (N=)	228	84.1

2. 基本属性と生活状況

1) 居住形態

図1. 全体(2023年度,
n=228)

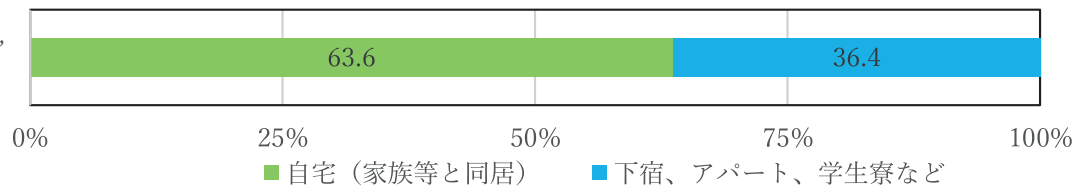


表3. 居住形態：学科別・学年別

(%)

		自宅	下宿 / アパート等
学科別	看護学科 (n=108)	66.7	33.3
	理学療法学科 (n=62)	59.7	40.3
	作業療法学科 (n=58)	62.1	37.9
学年別	2年生 (n=77)	63.6	36.4
	3年生 (n=66)	57.6	42.4
	4年生 (n=85)	68.2	31.8

表4. 居住形態：年度別

(%)

年度	自宅	下宿 / アパート等	学生寮
第1回 2004年 (n=321)	59.7	36.9	4.4
第2回 2008年 (n=337)	57.1	40.5	2.4
第3回 2013年 (n=291)	63.7	31.5	4.8
第4回 2016年 (n=349)	63.0	30.9	6.0
第5回 2021年 (n=220)	71.6	27.9	0.5
第6回 2023年 (n=226)	63.6	36.4	-

2) 通学時間 (片道)

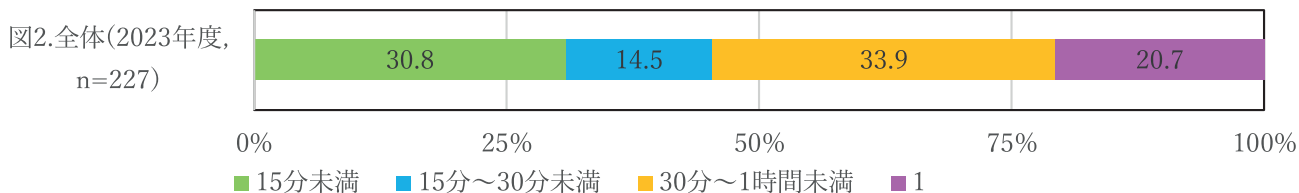


表5. 通学時間：学科別・学年別 (%)

		15分未満	15-30分未満	30分-1時間未満	1時間以上
学科別	看護学科 (n=108)	30.6	11.1	31.5	26.9
	理学療法学科 (n=61)	27.9	19.7	42.6	9.8
	作業療法学科 (n=58)	34.5	15.5	29.3	20.7
学年別	2年生 (n=77)	29.9	15.6	29.9	24.7
	3年生 (n=65)	35.4	16.9	26.2	21.5
	4年生 (n=85)	28.2	11.8	43.5	16.5

表6. 通学時間：年度別 (%)

年度	15分以内	16-30分内	31-45分内	46-60分内	61-90分	91分以上
第4回 2016年 (n=349)	38.9	14.7	12.7	21.3	12.4	
第5回 2021年 (n=220)	33.8	13.0	15.7	23.1	13.4	0.9
年度	15分未満	15-30分未満	30分-1時間未満	1時間以上		
第6回 2023年 (n=226)	30.8	14.5	33.9	20.7		

3) 加入している部活動・サークル (複数回答)

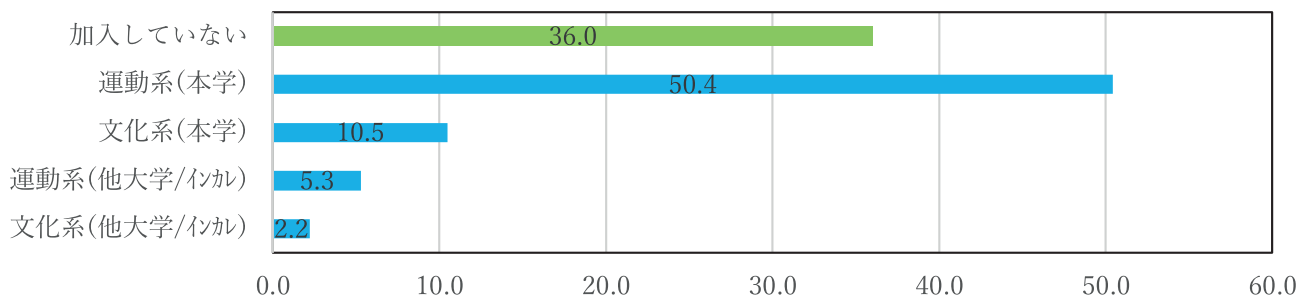


図3.全体における% (n=228)

表7. 加入している部活動・サークル：学科別・学年別 (%)

		加入して いない	運動系 (本学)	文化系 (本学)	運動系 (他大学/インカ)	文化系 (他大学/インカ)
学科別	看護学科 (n=108)	37.0	48.1	9.3	5.6	3.7
	理学療法学科 (n=62)	22.6	67.7	11.3	3.2	0.0
	作業療法学科 (n=58)	48.3	36.2	12.1	6.9	1.7
学年別	2年生 (n=77)	24.7	57.1	11.7	7.8	2.6
	3年生 (n=66)	43.9	42.2	9.1	4.5	3.0
	4年生 (n=85)	40.0	50.6	10.6	3.5	1.2

表 8. 加入している部活動・サークル：年度別

(%)

	加入していない	運動系 (本学)	文化系 (本学)	運動系 (他大学/インカ)	文化系 (他大学/インカ)
第2回 2008年 (n=337)	15.1	-	-	-	-
第4回 2016年 (n=349)	12.7	-	-	-	-
第5回 2021年 (n=220)	21.8	-	-	-	-
第6回 2023年 (n=226)	36.0	50.4	10.5	5.3	2.2

4) 部活動・サークル活動への参加頻度 (1週あたり、加入者のみ)

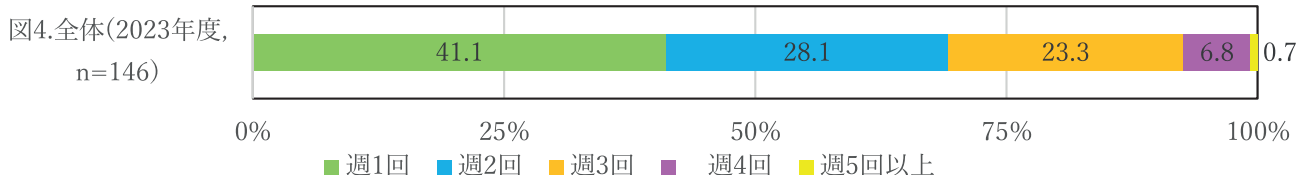
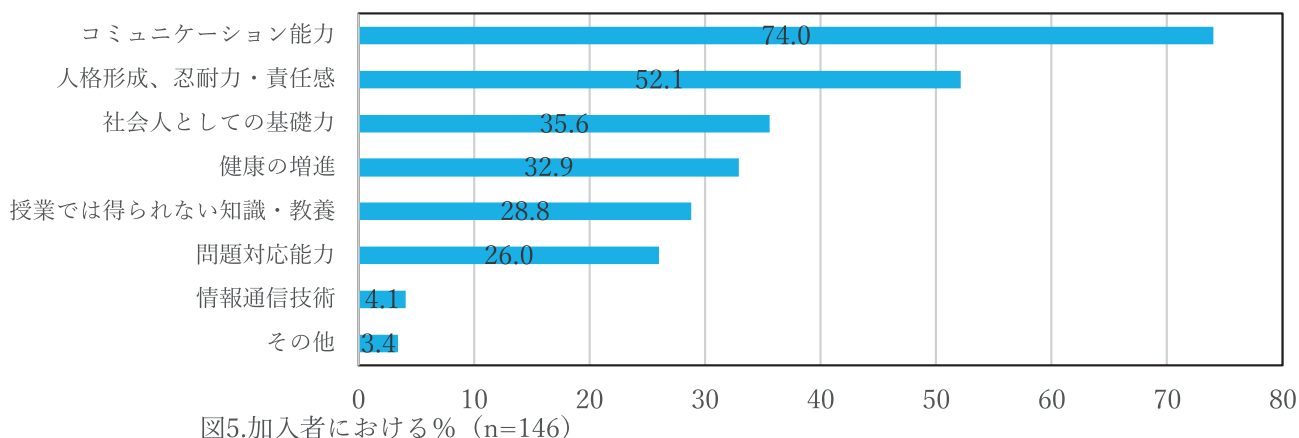


表 9. 部活動・サークル活動への参加頻度：学科別・学年別

(%)

		週1回	週2回	週3回	週4回	週5回以上
学科別	看護学科 (n=68)	44.1	23.5	26.5	5.9	0.0
	理学療法学科 (n=48)	35.4	33.3	18.8	10.4	2.1
	作業療法学科 (n=30)	43.3	30.0	23.3	3.3	0.0
学年別	2年生 (n=58)	29.3	32.8	31.0	6.9	0.0
	3年生 (n=37)	56.8	24.3	16.2	2.7	0.0
	4年生 (n=51)	43.1	25.5	19.6	9.8	2.0

5) 部活動・サークル活動で得たこと (複数回答) (加入者のみ)



* その他：人脈・人間関係の広がり (3件), 他学部・他学科との交流, タイムマネジメント力

表10. 部活動・サークル活動で得たこと：学科別・学年別 (%)

		コミュニケーション能力	人格形成、忍耐力・責任感	社会人としての基礎力	健康の増進	授業では得られない知識・教養	問題対応能力	情報通信技術	その他
学科別	看護学科 (n=67)	74.6	52.2	31.3	17.9	32.8	19.4	3.0	7.5
	理学療法学科 (n=47)	68.1	57.4	34.0	51.1	17.0	25.5	4.3	0.0
	作業療法学科 (n=32)	81.3	43.8	46.9	37.5	37.5	40.6	6.3	0.0
学年別	2年生 (n=58)	79.3	53.4	46.6	31.0	25.9	24.1	3.4	1.7
	3年生 (n=38)	73.7	50.0	31.6	28.9	36.8	28.9	7.9	7.9
	4年生 (n=50)	68.0	52.0	26.0	38.0	26.0	26.0	2.0	2.0

6) 平日の平均睡眠時間

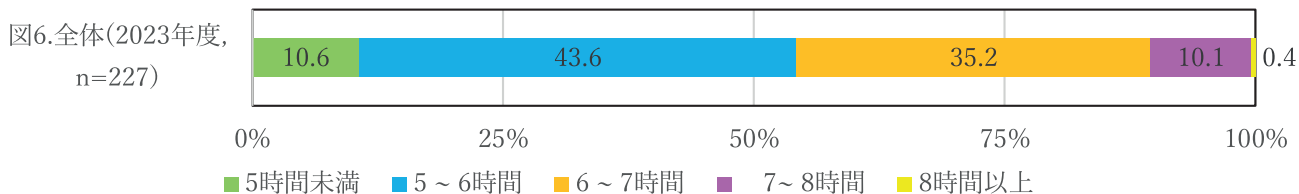


表11. 平日の平均睡眠時間：学科別・学年別 (%)

		5時間未満	5~6時間	6~7時間	7~8時間	8時間以上
学科別	看護学科 (n=108)	15.7	45.4	34.3	3.7	0.9
	理学療法学科 (n=62)	3.2	43.5	37.1	16.1	0.0
	作業療法学科 (n=57)	8.8	40.4	35.1	15.8	0.0
学年別	2年生 (n=77)	10.4	42.9	35.1	11.7	0.0
	3年生 (n=65)	21.5	43.1	27.7	6.2	1.5
	4年生 (n=85)	2.4	44.7	41.2	11.8	0.0

表12. 平均睡眠時間：年度別 (%)

	5時間未満	5~6時間	6~7時間	7~8時間	8時間以上
第4回 2016年 (n=349)	6.9	41.8	39.8	10.9	0.6
第5回 2021年 (n=220)	8.3	35.0	41.0	13.4	2.3
第6回 2023年 (n=224)	10.6	43.6	35.2	10.1	0.4

7) 食事の頻度

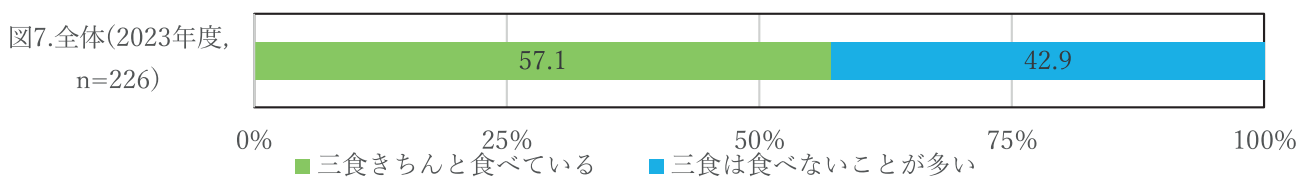


表 13. 食事の頻度：学科別・学年別 (％)

		三食きちんと食べている	三食は食べないことが多い
学科別	看護学科 (n=108)	54.6	45.4
	理学療法学科 (n=61)	55.7	44.3
	作業療法学科 (n=57)	63.2	36.8
学年別	2年生 (n=77)	58.4	41.6
	3年生 (n=64)	62.5	37.5
	4年生 (n=85)	51.8	48.2

8) アルバイトの時間 (1週あたり)

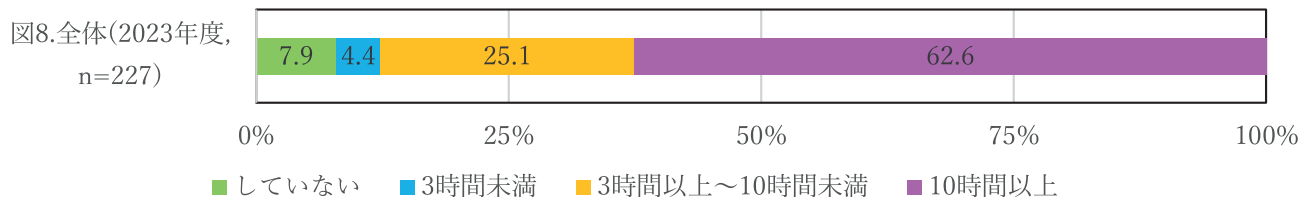


表14. アルバイトの時間：学科別・学年別 (％)

		していない	3時間未満	3時間以上 - 10時間未満	10時間以上
学科別	看護学科 (n=108)	7.4	6.5	18.5	67.6
	理学療法学科 (n=61)	6.6	3.3	29.5	60.7
	作業療法学科 (n=58)	10.3	1.7	32.8	55.2
学年別	2年生 (n=77)	6.5	3.9	18.2	71.4
	3年生 (n=65)	9.2	3.1	30.8	56.9
	4年生 (n=85)	8.2	5.9	27.1	58.8

表15. アルバイトの時間：年度別 (％)

	していない	3時間未満	3時間以上 - 10時間未満	10時間以上
第1回 2004年 (n=321)	17.8	-	-	-
第2回 2008年 (n=337)	13.4	-	-	-
第3回 2013年 (n=295)	22.7	-	-	-
第4回 2016年 (n=349)	15.2	-	-	-
第5回 2021年 (n=220)	16.4	-	-	-
第6回 2023年 (n=225)	7.9	4.4	25.1	62.6

9) アルバイトで得たこと (複数回答) (活動者のみ)

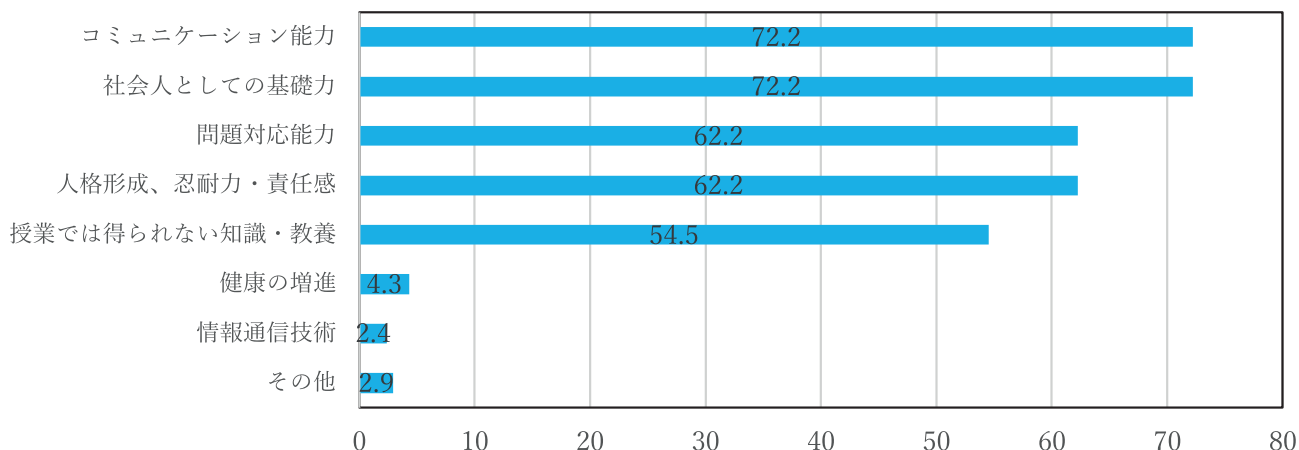


図9.活動者における% (n=209)

* その他：教育能力，タイムマネジメント力，考える力，大学外での他者との関わり，効率を考えた行動，お金

表16. アルバイトで得たこと：学科別・学年別 (%)

		コミュニケーション能力	社会人としての基礎力	問題対応能力	人格形成、忍耐力・責任感	授業では得られない知識・教養	健康の増進	情報通信技術	その他
学科別	看護学科 (n=67)	78.0	82.0	67.0	70.0	61.0	4.0	2.0	4.0
	理学療法学科 (n=47)	66.7	57.9	61.4	47.4	42.1	5.3	0.0	1.8
	作業療法学科 (n=32)	67.3	69.2	53.8	63.5	55.8	3.8	5.8	1.9
学年別	2年生 (n=58)	66.7	73.6	62.5	58.3	52.8	6.9	2.8	2.8
	3年生 (n=38)	74.6	62.7	55.9	54.2	57.6	1.7	3.4	5.1
	4年生 (n=50)	75.6	78.2	66.7	71.8	53.8	3.8	1.3	1.3

10) PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間 (1日あたり：大学の講義で使用した時間は除く)

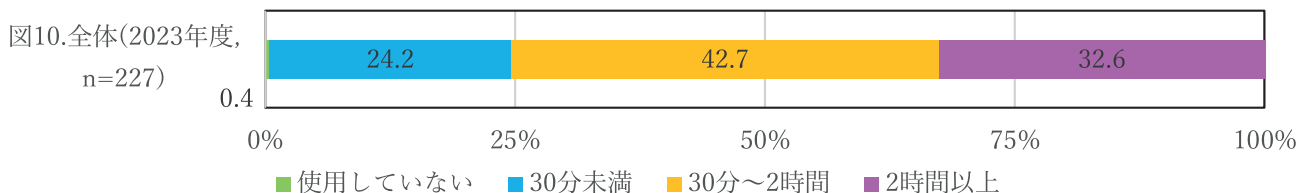


表17. PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間：学科別・学年別 (%)

		使用していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
学科別	看護学科 (n=108)	0.9	21.3	41.7	36.1
	理学療法学科 (n=61)	0.0	24.6	45.9	29.5
	作業療法学科 (n=58)	0.0	29.3	41.4	29.3
学年別	2年生 (n=77)	0.0	19.5	42.9	37.7
	3年生 (n=65)	1.5	30.8	46.2	21.5
	4年生 (n=85)	0.0	23.5	40.0	36.5

11) YouTube、X (旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間 (1日あたり)

図11.全体(2023年度, n=227)

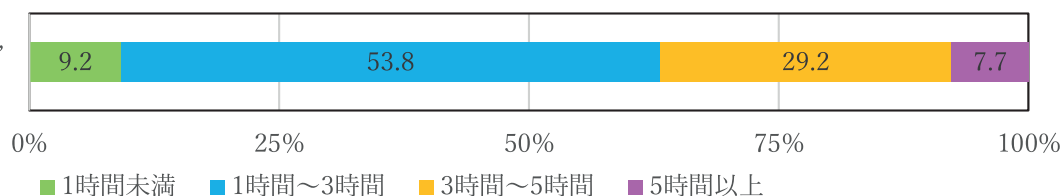


表18. YouTube、X (旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間：学科別・学年別 (%)

		1時間未満	1時間～3時間	3時間～5時間	5時間以上
学科別	看護学科 (n=108)	5.6	56.5	26.9	11.1
	理学療法学科 (n=61)	14.8	42.6	34.4	8.2
	作業療法学科 (n=58)	6.9	51.7	27.6	13.8
学年別	2年生 (n=77)	7.8	57.1	27.3	7.8
	3年生 (n=65)	9.2	53.8	29.2	7.7
	4年生 (n=85)	8.2	44.7	30.6	16.5

表19. YouTube、X (旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間：年度別 (%)

	1時間未満	1時間～3時間	3時間～5時間	5時間以上
第5回 2021年 (n=220)*	12.6	56.0	24.1	15.4
第6回 2023年 (n=225)	9.2	53.8	29.2	7.7

*1日のインターネット利用時間 (検索・サーフィン・動画視聴)

12) 読書 (マンガ・一般雑誌を除く) に費やした時間 (1日あたり)

図12.全体(2023年度, n=227)

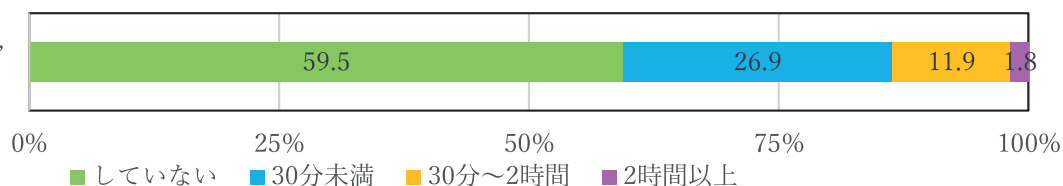


表20. 読書（マンガ・一般雑誌を除く）に費やした時間：学科別・学年別 (%)

		していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
学科別	看護学科 (n=108)	55.6	28.7	13.0	2.8
	理学療法学科 (n=61)	57.4	31.1	11.5	0.0
	作業療法学科 (n=58)	69.0	19.0	10.3	1.7
学年別	2年生 (n=77)	63.6	23.4	11.7	1.3
	3年生 (n=65)	58.5	24.6	15.4	1.5
	4年生 (n=85)	56.5	31.8	9.4	2.4

13) ボランティア活動（この1年間）

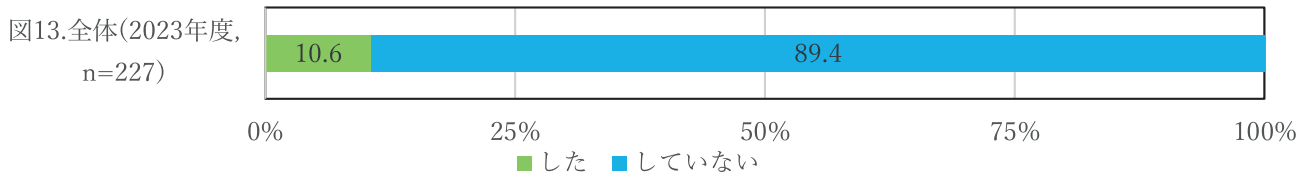


表21. ボランティア活動：学科別・学年別 (%)

		した	していない
学科別	看護学科 (n=108)	6.5	93.5
	理学療法学科 (n=61)	11.5	88.5
	作業療法学科 (n=57)	17.2	82.8
学年別	2年生 (n=77)	6.5	93.5
	3年生 (n=64)	16.9	83.1
	4年生 (n=85)	9.4	90.6

表22. ボランティア活動：年度別 (%)

	した	していない
第4回 2016年 (n=349)	6.0	94.0
第5回 2021年 (n=220)	3.8	96.2
第6回 2023年 (n=227)	10.6	89.4

14) 友人の人数（学内外問わない）

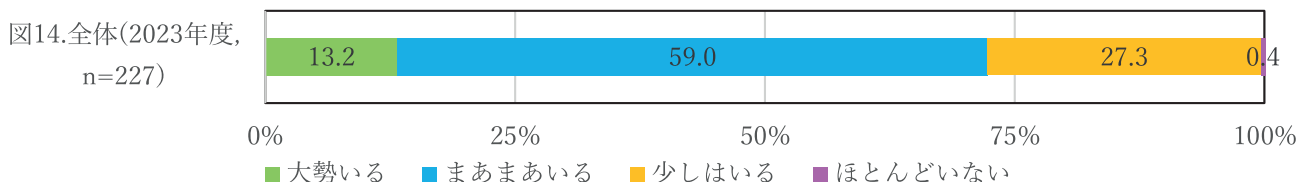


表23. 友人の人数：学科別・学年別 (%)

		大勢いる	まあまあいる	少しはいる	ほとんどいない
学科別	看護学科 (n=108)	15.7	55.6	28.7	0.0
	理学療法学科 (n=61)	8.2	62.3	27.9	1.6
	作業療法学科 (n=58)	13.8	62.1	24.1	0.0
学年別	2年生 (n=77)	14.3	58.4	27.3	0.0
	3年生 (n=65)	20.0	52.3	26.2	1.5
	4年生 (n=85)	7.1	64.7	28.2	0.0

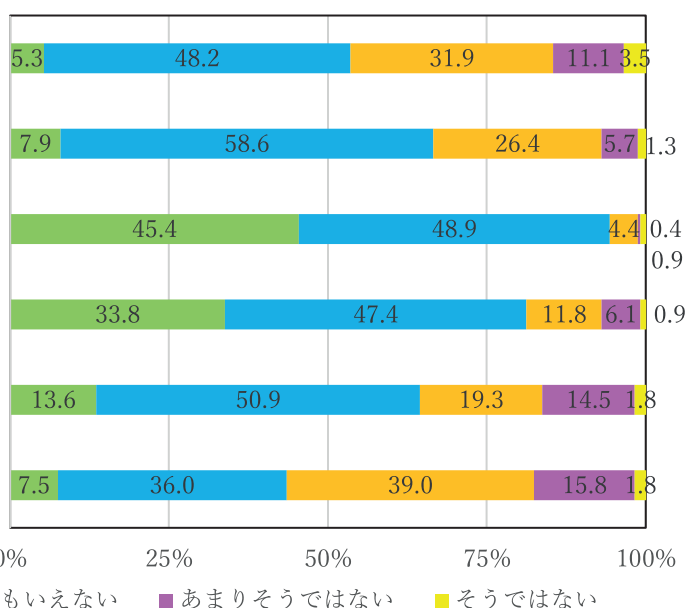
表24. 友人の人数：年度別 (%)

	大勢いる	まあまあいる	少しはいる	ほとんどいない
第1回 2004年 (n=321)	18.1	68.5	12.8	0.6
第3回 2013年 (n=291)	18.2	66.0	14.4	2.1
第4回 2016年 (n=349)	11.2	64.2	22.9	1.7
第5回 2021年 (n=220)	8.4	64.5	25.2	1.9
第6回 2023年 (n=227)	13.2	59.0	27.3	0.4

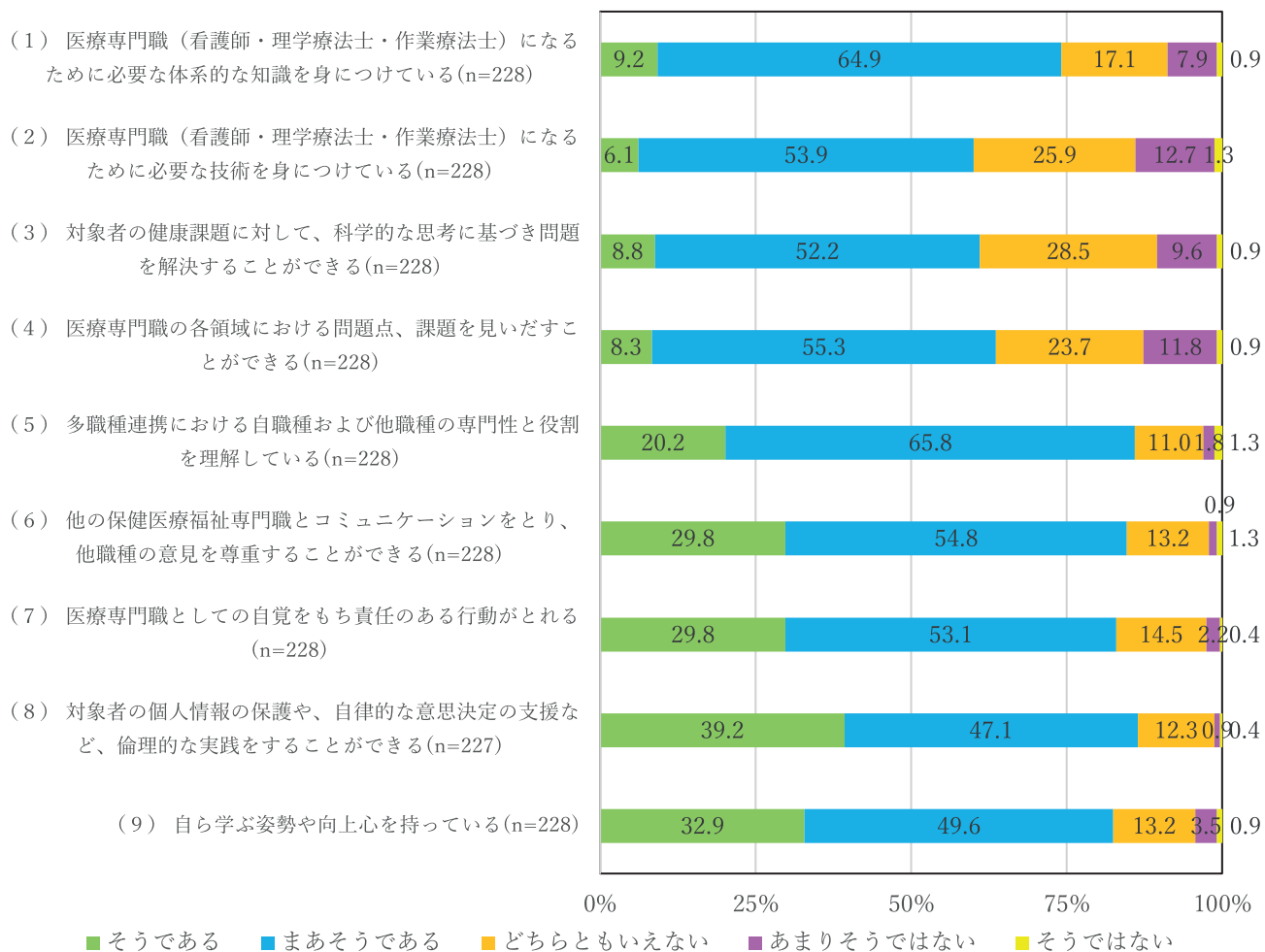
3. 学業の成果（卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況）

1) 建学の精神を実現するための基盤となる能力（図15）

- (1) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている (n=226)
- (2) 保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている (n=227)
- (3) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている (n=227)
- (4) 他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる (n=228)
- (5) 自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる (n=228)
- (6) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている (n=228)



2) 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力 (図16)



3) 建学の精神を実現するための基盤となる能力：学科・学年別平均点（表25）

*範囲1～5（1:そうではない, 2:あまりそうではない, 3:どちらともいえない, 4:まあそうである, 5:そうである）
（平均点*）

	全体	学科別			学年別			参考値	
		看護学科	理学療法学科	作業療法学科	2年生	3年生	4年生	卒業生調査(2023)	雇用者調査(2023)
(1) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	3.41	3.59	3.33	3.15	3.26	3.40	3.55	3.86	3.76
(2) 保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている	3.66	3.72	3.66	3.55	3.75	3.50	3.71	-	-
(3) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	4.38	4.49	4.29	4.24	4.38	4.29	4.44	4.38	4.23
(4) 他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる	4.07	4.24	3.92	3.91	3.90	4.11	4.20	-	-
(5) 自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる	3.60	3.75	3.50	3.43	3.54	3.52	3.73	-	-
(6) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている	3.32	3.35	3.42	3.14	3.28	3.24	3.42	3.45	3.24

4) 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力：学科・学年別平均点（表26）

* 範囲 1～5(1: そうではない, 2: あまりそうではない, 3: どちらともいえない, 4: まあそうである, 5: そうである)
(平均点*)

	全体	学科別			学年別			参考値	
		看護 学科	理学 療法 学科	作業 療法 学科	2年生	3年生	4年生	卒業生 調査 (2023)	雇用者 調査 (2023)
(1) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な体系的な知識を身につけている	3.74	3.85	3.66	3.60	3.62	3.67	3.89	4.14	4.00
(2) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な技術を身につけている	3.51	3.68	3.37	3.34	3.47	3.47	3.58	3.93	3.70
(3) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる	3.58	3.82	3.53	3.19	3.39	3.52	3.80	3.93	3.82
(4) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	3.58	3.76	3.45	3.40	3.41	3.60	3.74	4.07	3.73
(5) 多職種連携における自職種および他職種の専門性と役割を理解している	4.02	4.12	3.90	3.95	3.91	3.91	4.20	-	-
(6) 他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	4.11	4.22	4.06	3.98	4.07	4.00	4.25	4.35	3.96
(7) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	4.10	4.08	4.18	4.04	3.88	4.06	4.32	4.43	4.20
(8) 対象者の個人情報保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる	4.24	4.22	4.30	4.22	4.10	4.26	4.35	-	-
(9) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	4.10	4.26	4.11	3.79	4.07	4.00	4.22	4.31	4.38

4. 悩みや不安、経済的な課題

1) 現在の悩みや不安

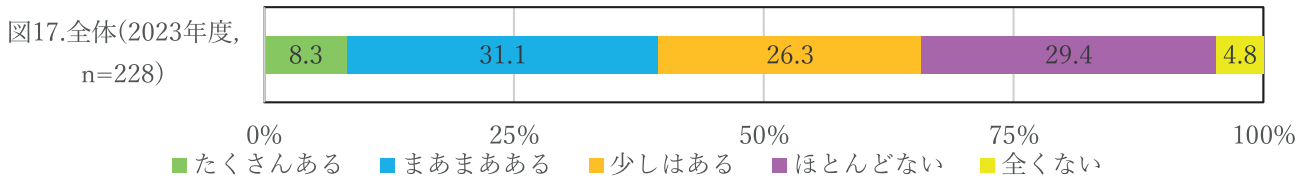


表27. 現在の悩みや不安友人の人数：学科別・学年別 (%)

		たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない	全くない
学科別	看護学科 (n=108)	5.6	32.4	23.1	33.3	5.6
	理学療法学科 (n=61)	9.7	27.4	35.5	24.2	3.2
	作業療法学科 (n=58)	12.1	32.8	22.4	27.6	5.2
学年別	2年生 (n=77)	2.6	31.2	26	32.5	7.8
	3年生 (n=65)	13.6	30.3	36.4	18.2	1.5
	4年生 (n=85)	9.4	31.8	18.8	35.3	4.7

表28. 現在の悩みや不安友人の人数：年度別 (%)

	たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない・全くない	
第1回 2004年 (n=321)	7.5	37.2	41.6	13.7	
第3回 2013年 (n=291)	13.3	45.1	33.8	7.8	
第4回 2016年 (n=349)	8.8	30.7	42.8	17.7	
	たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない	全くない
第6回 2023年 (n=226)	8.3	31.1	26.3	29.4	4.8

2) 悩みや不安の内容（複数回答）（悩み・不安がある者のみ）

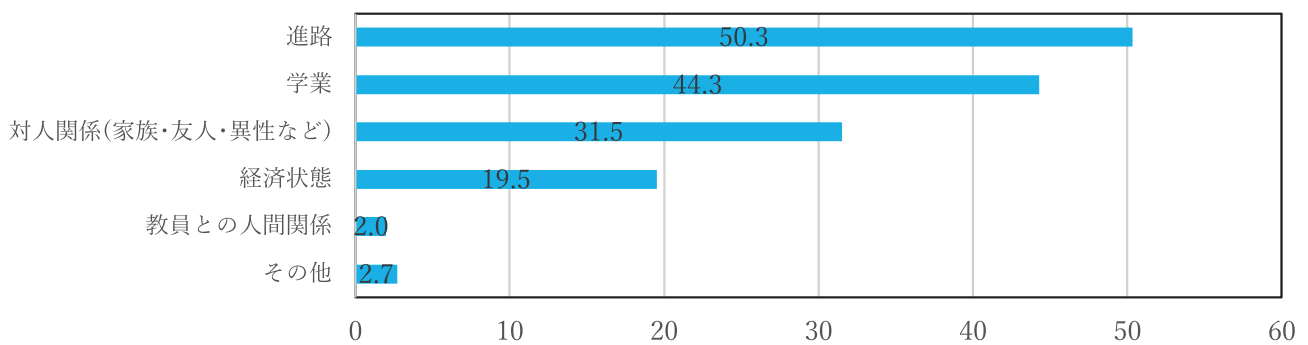


図18.悩み・不安がある者における% (n=149)

* その他：健康，自身のこと，分からない

表29. 悩みや不安の内容：学科別・学年別

(%)

		進路	学業	対人関係 (家族・友人・異性など)	経済状態	教員との 人間関係	その他
学科別	看護学科 (n=65)	47.7	32.3	35.4	20.0	0.0	3.1
	理学療法学科 (n=45)	51.1	40.0	37.8	17.8	0.0	0.0
	作業療法学科 (n=39)	53.8	69.2	17.9	20.5	7.7	5.1
学年別	2年生 (n=45)	53.3	40.0	48.9	15.6	0.0	2.2
	3年生 (n=53)	56.6	41.5	24.5	18.9	1.9	1.9
	4年生 (n=51)	41.2	51.0	23.5	23.5	3.9	3.9

表30. 悩みや不安の内容：年度別

(%)

	進路	学業	対人関係 (家族・友人・異性など)	経済状態	教員との 人間関係	その他
第3回 2013年 (n=253)	60.4	56.5	42.2	39.1	3.0	3.9
第4回 2016年 (n=319)	31.1	40.9	25.3	11.8	0.0	1.0
第5回 2021年 (n=211)	61.2	64.1	31.1	30.1	2.4	8.3
第6回 2023年 (n=147)	50.3	44.3	31.5	19.5	2.0	2.7

3) 悩みや不安への対処 (悩み・不安がある者のみ)

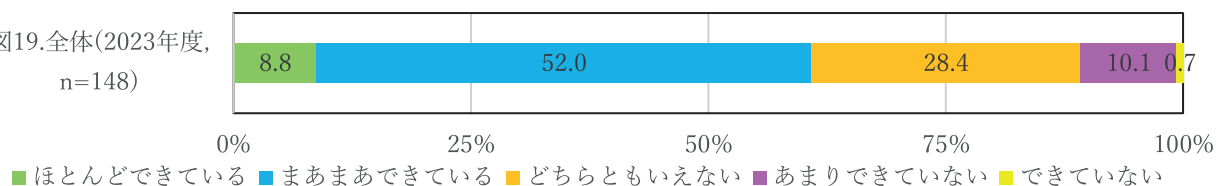
図19.全体(2023年度,
n=148)

表31. 悩みや不安への対処：学科別・学年別

(%)

		ほとんど できている	まあまあ できている	どちらとも いえない	あまり できていない	できていない
学科別	看護学科 (n=64)	6.3	54.7	26.6	10.9	1.6
	理学療法学科 (n=45)	15.6	51.1	24.4	8.9	0.0
	作業療法学科 (n=39)	5.1	48.7	35.9	10.3	0.0
学年別	2年生 (n=44)	9.1	47.7	29.5	11.4	2.3
	3年生 (n=53)	7.5	45.3	39.6	7.5	0.0
	4年生 (n=51)	9.8	62.7	15.7	11.8	0.0

表32. 悩みや不安への対処：年度別

(%)

	ほとんど できている	まあまあ できている	どちらとも いえない	できていない	
第1回 2004年 (n=321)	18.2	52.4	24.3	5.1	
第3回 2013年 (n=291)	9.5	57.7	26.1	6.7	
第4回 2016年 (n=349)	11.4	46.9	35.5	6.2	
第5回 2021年 (n=211)	9.0	49.5	32.9	8.6	
	ほとんど できている	まあまあ できている	どちらとも いえない	あまり できていない	できていない
第6回 2023年 (n=146)	8.8	52.0	28.4	10.1	0.7

4) 悩みや不安の相談相手（複数回答）（悩み・不安がある者のみ）

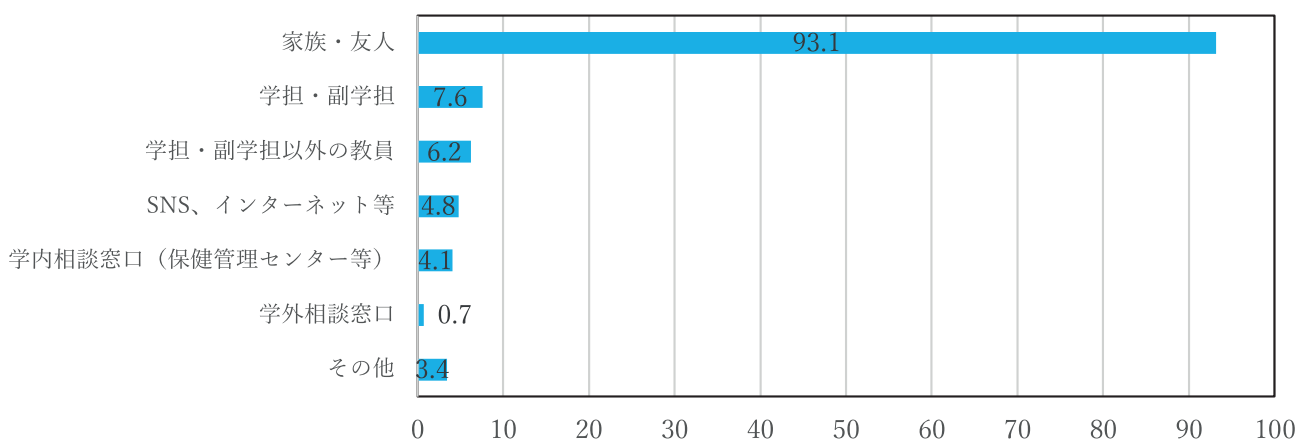


図20. 悩み・不安がある者における% (n=145)

*その他：病院、相談しない(2件)

表33. 悩みや不安の相談相手：学科別・学年別

(%)

		家族・ 友人	学担・ 副学担	学担・副 学担以外 の教員	SNS、 インター ネット等	学内相談窓口 (保健管理 センター等)	学外相談 窓口	その他
学科別	看護学科 (n=65)	93.8	7.7	0.0	0.0	0.0	1.5	3.1
	理学療法学科 (n=43)	88.4	11.6	18.6	9.3	7.0	0.0	4.7
	作業療法学科 (n=37)	97.3	2.7	2.7	8.1	8.1	0.0	2.7
学年別	2年生 (n=44)	97.7	4.5	4.5	0.0	0.0	2.3	0.0
	3年生 (n=51)	88.2	3.9	3.9	0.0	7.8	3.9	3.9
	4年生 (n=50)	94.0	14.0	14.0	2.0	10.0	6.0	10.0

表34. 悩みや不安の相談相手：年度別

(%)

	家族	友人	学担・副学担	学担・副学担以外の教員	SNS、インターネット等	学内相談窓口 (保健管理センター等)	学外相談窓口	その他
第5回 2021年 (n=220)	66.8	81.0	14.7	7.1	-	0.4	-	-
	家族・友人		学担・副学担	学担・副学担以外の教員	SNS、インターネット等	学内相談窓口 (保健管理センター等)	学外相談窓口	その他
第6回 2023年 (n=145)	93.1		7.6	6.2	4.8	4.1	0.7	3.4

5) 授業料、生活費の支弁者（最も負担額が大きい者）

図21.全体(2023年度, n=228)

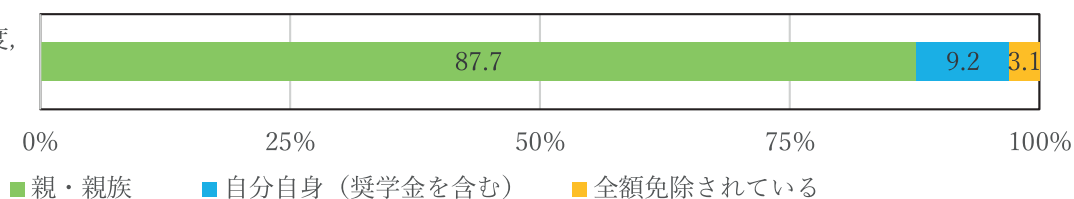


表35. 授業料、生活費の支弁者：学科別・学年別

(%)

		親・親族	自分自身 (奨学金を含む)	全額免除されている
学科別	看護学科 (n=108)	86.1	11.1	2.8
	理学療法学科 (n=62)	91.9	4.8	3.2
	作業療法学科 (n=58)	86.2	10.3	3.4
学年別	2年生 (n=77)	90.9	9.1	0.0
	3年生 (n=66)	89.4	7.6	3.0
	4年生 (n=85)	83.5	10.6	5.9

6) 奨学金の受給

図22.全体(2023年度, n=228)

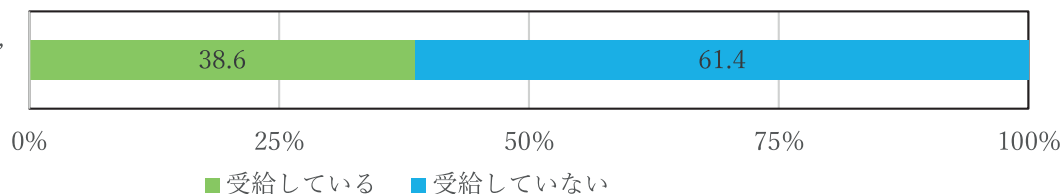


表36. 奨学金の受給：学科別・学年別 (%)

		受給している	受給していない
学科別	看護学科 (n=108)	46.3	53.7
	理学療法学科 (n=62)	19.4	80.6
	作業療法学科 (n=58)	44.8	55.2
学年別	2年生 (n=77)	37.7	62.3
	3年生 (n=66)	42.4	57.6
	4年生 (n=85)	36.5	63.5

表37. 学金の受給：年度別 (%)

	受給している	受給していない
第1回 2004年 (n=321)	29.4	70.6
第2回 2008年 (n=337)	35.6	64.4
第3回 2013年 (n=295)	37.7	62.3
第4回 2016年 (n=349)	47.0	53.0
第5回 2021年 (n=220)	38.1	61.9
第6回 2023年 (n=228)	38.6	61.4

7) 学業を続けていく上での経済的な不安

図23. 全体(2023年度, n=228)

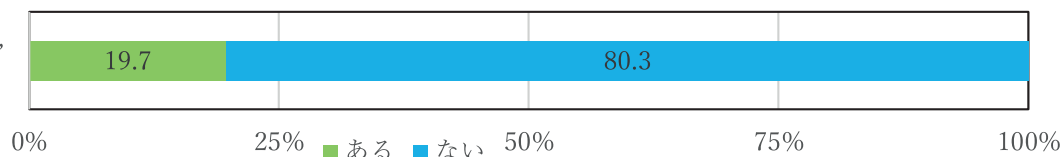


表38. 奨学金の受給：学科別・学年別 (%)

		ある	ない
学科別	看護学科 (n=108)	21.3	78.7
	理学療法学科 (n=62)	25.8	74.2
	作業療法学科 (n=58)	10.3	89.7
学年別	2年生 (n=77)	10.4	89.6
	3年生 (n=66)	27.3	72.7
	4年生 (n=85)	22.4	77.6

5. 支援制度の利用状況

1) 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知

図24. 全体(2023年度, n=227)

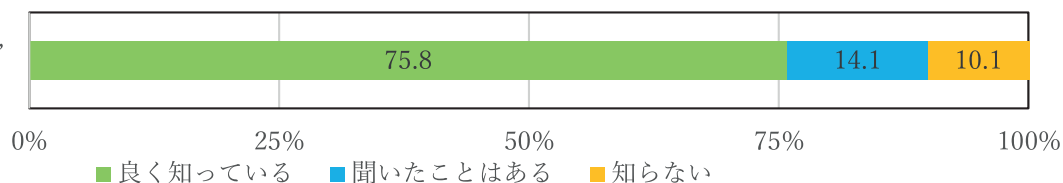


表39. 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知：学科別・学年別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科 (n=108)	78.7	13.0	8.3
	理学療法学科 (n=62)	74.2	14.5	11.3
	作業療法学科 (n=57)	71.9	15.8	12.3
学年別	2年生 (n=77)	67.5	19.5	13
	3年生 (n=66)	77.3	15.2	7.6
	4年生 (n=84)	82.1	8.3	9.5

表40. 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知：年度別 (%)

	良く知っている	聞いたことはある	知らない
第3回 2013年 (n=291)	51.4	38.7	9.9
第4回 2016年 (n=349)	26.9	40.5	32.7
第5回 2021年 (n=220)	64.6	31.6	3.8
第6回 2023年 (n=225)	75.8	14.1	10.1

2) 保健管理センターの認知

図25. 全体(2023年度, n=227)

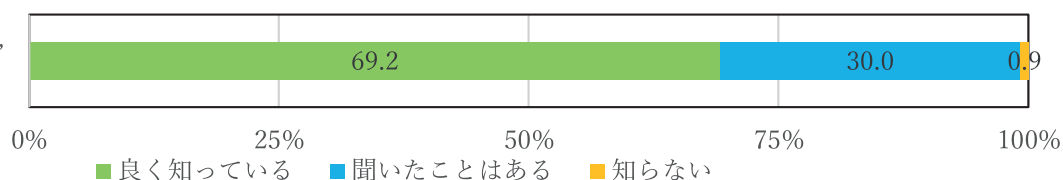


表41. 保健管理センターの認知：学科別・学年別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科 (n=108)	75.0	24.1	0.9
	理学療法学科 (n=62)	61.3	38.7	0.0
	作業療法学科 (n=57)	66.7	31.6	1.8
学年別	2年生 (n=77)	68.8	29.9	1.3
	3年生 (n=66)	71.2	28.8	0.0
	4年生 (n=84)	67.9	31.0	1.2

表42. 保健管理センターの認知：年度別 (%)

	良く知っている	聞いたことはある	知らない
第3回 2013年 (n=291)	8.6	33.8	57.6
第4回 2016年 (n=349)	14.7	52.6	32.7
第5回 2021年 (n=220)	73.9	25.2	0.9
第6回 2023年 (n=227)	69.2	30.0	0.9

3) ハラスメント相談窓口の認知

図26.全体(2023年度,
n=228)

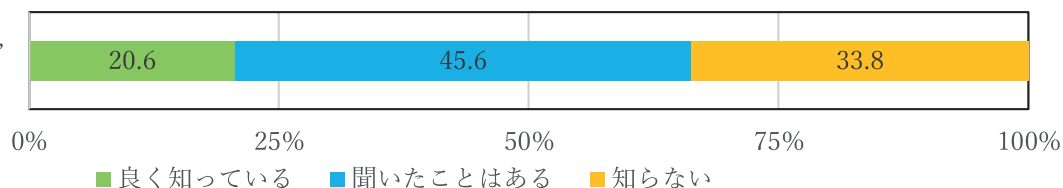


表43. ハラスメント相談窓口の認知：学科別・学年別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科 (n=108)	28.7	41.7	29.6
	理学療法学科 (n=62)	9.7	53.2	37.1
	作業療法学科 (n=58)	17.2	44.8	37.9
学年別	2年生 (n=77)	18.2	36.4	45.5
	3年生 (n=66)	16.7	47.0	36.4
	4年生 (n=85)	25.9	52.9	21.2

表44. ハラスメント相談窓口の認知：年度別 (%)

	良く知っている	聞いたことはある	知らない
第3回 2013年 (n=291)	4.8	35.9	59.3
第4回 2016年 (n=349)	6.4	51.3	42.3
第5回 2021年 (n=220)	19.7	32.1	48.2
第6回 2023年 (n=228)	20.6	45.6	33.8

6. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容（複数回答）

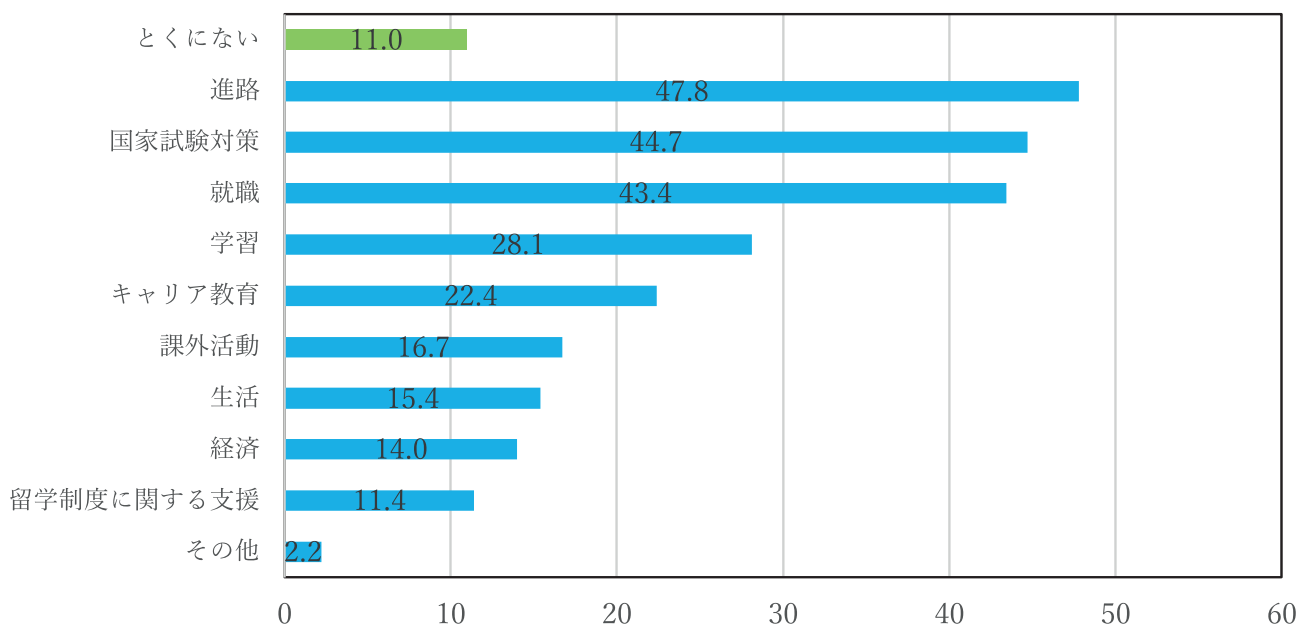


図27.全体における% (n=226)

* その他：駐輪場の整備，サークル等の整備（EVの修理），長期休暇，学務課のサポート

表45. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容：学科別・学年別 (%)

		とくにない	進路	国家試験対策	就職	学習	キャリア教育	課外活動	生活	経済	留学制度に関する支援	その他
学科別	看護学科 (n=108)	12.0	45.4	46.3	40.7	24.1	23.1	13.9	17.6	14.8	11.1	2.8
	理学療法学科 (n=62)	11.3	50.0	37.1	41.9	25.8	22.6	22.6	11.3	14.5	12.9	1.6
	作業療法学科 (n=58)	8.6	50.0	50.0	50.0	37.9	20.7	15.5	15.5	12.1	10.3	1.7
学年別	2年生 (n=77)	6.5	51.9	58.4	42.9	33.8	22.1	16.9	14.3	9.1	11.7	3.9
	3年生 (n=66)	7.6	60.6	48.5	51.5	33.3	19.7	16.7	24.2	27.3	10.6	3.0
	4年生 (n=85)	17.6	34.1	29.4	37.6	18.8	24.7	16.5	9.4	8.2	11.8	0.0

表46. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容：年度別 (%)

	とくにない	進路	国家試験対策	就職	学習	キャリア教育	課外活動	生活	経済	留学制度に関する支援	その他
第3回 2013年 (n=291)	7.6	50.2	49.1	39.5	39.4	11.0	10.0	11.0	15.8	8.6	-
第5回 2021年 (n=220)	8.2	49.5	43.2	44.1	39.5	19.5	18.2	16.8	25.9	10.5	-
第6回 2023年 (n=228)	11.0	47.8	44.7	43.4	28.1	22.4	16.7	15.4	14.0	11.4	2.2
学年別	6.5	51.9	58.4	42.9	33.8	22.1	16.9	14.3	9.1	11.7	3.9

IV. 資料

1. 依頼文書

在学生各位

令和 5 年 12 月 25 日

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価および生活実態に関する調査 ご協力をお願い

北海道公立大学法人 札幌医科大学
保健医療学部 学部長 片寄 正樹
医療人育成センター・統合 IR 部門長 辻 喜久

保健医療学部では、本学で行われている教育の学修成果を総合的に評価することを目的に、在学生、卒業生、および雇用者の方々に対する調査を行っています。この結果をもとに、教育内容の一層の充実を図りたく、調査への協力をお願いいたします。

1. 調査の目的

2020（令和 2）年度カリキュラム及び、保健医療学部ディプロマポリシー（以下、DP とする）のもとで教育を受けている在学生を対象とした調査を行い、在学生の DP の到達度及び生活実態を明らかにします。また、卒業生や卒業生が勤務する施設・自治体・企業を対象に同様の調査を行い、多角的に DP の到達度を評価することにより、現在のカリキュラムの評価及び次期カリキュラム改定に活用します。

2. 対象者

在学生：2020 年度～2022 年度に保健医療学部に入学生した 2～4 年生約 270 名

3. 倫理的配慮

- 1) 調査協力への同意：本調査への回答をもって、調査への同意とみなします。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はありません。
- 3) プライバシー保護：調査は無記名式で行われ、個人のデータが公開されることはありません。データは、統合 IR 部門が管理するインターネットに接続しない PC またはハードディスクに保管します。
- 4) 調査結果の公表：調査結果は全学、学部、医療人育成センターの会議を通じて関係者に報告します。
- 5) 予期される危険と費用負担：回答は 15 分程度の時間を要します。Web 回答の場合は、環境によりインターネット接続費用がかかる場合があります。

4. 調査期間：2023 年 12 月 25 日～ 2024 年 1 月 9 日

5. 調査方法

インターネット調査となります。下記 URL または QR コードからご回答ください

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/hokegakuzaiagakusei/main/>



<問合せ先>

本調査につきご不明な点は、保健医療学部統合 IR 部門連携ワーキンググループの教員へお尋ねください。調査の趣旨をご理解の上、ご協力のほどお願いいたします。

札幌医科大学保健医療学部 統合 IR 部門連携ワーキンググループ

e-mail: iir-desk@sapmed.ac.jp（日中・夜間）

電話：代表 011-611-2111（日中）

担当：山本 武志（看護学科：内線 23780）

横山 和樹（作業療法学科：内線 28870）

岡田 尚美（看護学科：内線 28690）

根木 亨（理学療法学科：内線 29150）

2. 調査票

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価および 生活実態に関する調査

この調査では学部学生の基本属性と生活状況、学業の成果、学生支援のニーズ、及びその利用状況について調査を行い、より効果的な学生支援につなげるための基礎資料を作成することを目的とします。是非ともご協力をお願いします。結果は調査の目的以外には使用いたしませんので、ありのままをご回答下さい。

<各設問について該当する番号をチェックしてください>

I. 基本属性と生活状況（あなたのことについて教えてください）

(1) あなたの学籍番号をお答えください

学籍番号 _____

*回答いただいた情報は、入学時に同意いただいた「教育プログラム改善のための継続的教學情報集」の方針に基づいて管理、集合データとして活用されます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(2) 居住形態

1. 自宅（家族等と同居） 2. 下宿、アパート、学生寮など

(3) 通学時間（片道）

1. 15分未満 2. 15分～30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間以上

(4) 加入している部活動・サークル（複数回答可）

1. 運動系(本学) 2. 文化系(本学) 3. 運動系(他大学/イカ) 4. 文化系(他大学/イカ)
5. 加入していない（→(10)へおすすみください）

(5) 部活動・サークル活動への参加頻度は1週あたりどのくらいですか

1. 週1回 2. 週2回 3. 週3回 4. 週4回 5. 週5回以上

(6) 部活動・サークル活動でどのようなことを得られましたか（複数回答可）

1. 人格形成、忍耐力・責任感 2. 授業では得られない知識・教養 3. 社会人としての基礎力
4. 問題対応能力 5. コミュニケーション能力 6. 情報通信技術 7. 健康の増進
8. その他（ ）

(7) 平日の平均睡眠時間

1. 5時間未満 2. 5～6時間 3. 6～7時間 4. 7～8時間 5. 8時間以上

- (8) 食事はどのようにとっていますか (最も頻度が高いものを選んでください)
1. 三食きちんと食べている
 2. 三食は食べないことが多い
- (9) アルバイトをした時間は1週あたりどのくらいですか
1. していない
 2. 3時間未満
 3. 3時間以上～10時間未満
 4. 10時間以上
- (10) アルバイトでどのようなことを得られましたか (している方のみ回答ください。複数可。)
1. 人格形成、忍耐力・責任感
 2. 授業では得られない知識・教養
 3. 社会人としての基礎力
 4. 問題対応能力
 5. コミュニケーション能力
 6. 情報通信技術
 7. 健康の増進
 8. その他 ()
- (11) PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間は1日あたりどのくらいですか (但し、大学の講義で使用した時間は除く)
1. 使用していない
 2. 30分未満
 3. 30分～2時間
 4. 2時間以上
- (12) YouTube、X (旧 Twitter)、Instagram 等の閲覧に費やした時間は1日あたりどのくらいですか
1. 1時間未満
 2. 1時間～3時間
 3. 3時間～5時間
 4. 5時間以上
- (13) 読書 (マンガ・一般雑誌を除く) に費やした時間は1日あたりどのくらいですか
1. していない
 2. 30分未満
 3. 30分～2時間
 4. 2時間以上
- (14) この1年間に、ボランティア活動をしましたか
1. した
 2. していない
- (15) 友人はどのくらいいますか (学内外問いません)
1. 大勢いる
 2. まあまあいる
 3. 少しはいる
 4. ほとんどいない

II. 学業の成果 (卒業時まで身に付けたい能力をどの程度まで獲得できているか)

【1】建学の精神を実現するための基盤となる能力

- (16) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである
- (17) 保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである
- (18) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである

(19) 他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(20) 自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(21) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

【2】保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力

(22) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な体系的な知識を身につけている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(23) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な技術を身につけている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(24) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(25) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(26) 多職種連携における自職種および他職種の専門性と役割を理解している
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(27) 他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(28) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(29) 対象者の個人情報の保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

(30) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

Ⅲ. 悩みや不安、経済的な課題について（学生支援の必要性について聞かせてください。）

(31) 現在悩みや不安はありますか

1. たくさんある 2. まあまあある 3. 少しはある 4. ほとんどない 5. 全くない
→35 へお進みください

(32) あなたの悩みや不安について最もあてはまるものを選んで下さい（ある方のみ回答ください）

1. 学業 2. 進路 3. 経済状態 4. 対人関係(家族・友人・異性など) 5. 教員との人間関係
6. その他（ ）

(33) 悩みや不安に対して自分なりに対処できていますか（ある方のみ回答ください）

1. ほとんど 2. まあまあ 3. どちらとも 4. あまり 5. できていない
できている できている いえない できていない

(34) 悩みや不安は誰に相談しますか？（ある方のみ回答ください。複数回答可。）

1. 家族・友人 2. 学担・副学担 3. 学担・副学担以外の教員 4. 学内相談窓口（保健管理センター等）
5. 学外相談窓口 6. SNS、インターネット等 7. その他（ ）

(35) 授業料、生活費の支弁者は誰ですか（最も負担額が大きい者）

1. 自分自身（奨学金を含む） 2. 親・親族 3. 全額免除されている 4. その他（ ）

(36) 奨学金の受給について

1. 受給している 2. 受給していない

(37) 学業を続けていく上での経済的な不安

1. ある 2. ない

Ⅳ. 支援制度の利用状況について（学生支援が十分提供されているのか聞かせてください。）

(38) 学生担当教員（学担・副学担）制度を知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(39) 保健管理センターを知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(40) 学部内にハラスメント相談窓口があることを知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(41) あなたが今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容を選んで下さい（複数回答可）

1. とくにない 2. 学習 3. 進路 4. キャリア教育 5. 国家試験対策 6. 就職
7. 経済 8. 生活 9. 課外活動 10. 留学制度に関する支援 11. その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

8.2.3 卒業生・雇用者調査報告書

I. 卒業生・雇用者調査の概要

1. 目的

2017（平成29）年度カリキュラム及び、2013年度に策定した保健医療学部ディプロマポリシー（以下、DPとする）のもとで教育を受けた、本学卒業生と卒業生が勤務する施設・企業・自治体の管理職を対象とした調査を行い、多角的に本学卒業生のDPの到達度を評価する。また、調査の結果を旧カリキュラムの評価と次期カリキュラム改定に活用する。

2. 方法

調査は2023年7月～8月に行った。

卒業生調査は、2017・2018・2019年度に入学した卒業生266名で、卒業時に大学に届け出のあった住所に調査票と依頼文書を郵送し、調査協力を依頼した。回答・回収方法は郵送およびWeb入力（Qooker）の併用とした。

雇用者調査は、上記卒業生が就職した施設の各部門責任者119名で、各施設の部門責任者宛に調査票と依頼文書を郵送し、調査協力を依頼した。回答・回収方法は郵送のみとした。

3. 調査内容

本調査は、教育目標、教育研究評議会で承認されたDP（2013年版）、カリキュラムポリシーと2018年に行われた総合教育評価（教務委員会）の調査項目を参考に、医育センター統合IR部門、保健医療学部IR連携WG、拡大学科長会議を通じて調査項目を作成した。調査内容は基本属性（性別、入学年度、現在の職種、勤務形態、勤務地、職場の施設種別）、DPの評価・到達度（18項目）、カリキュラムの評価（一般教育科目8項目、専門教育科目9項目、統合学習3項目、本学の特徴4項目）で構成されている。

4. 回収率

	学科名	入学年度	学生数	調査対象者数*	回収数	有効回収率(%)
・卒業生調査	看護学科	2017	50	49	17	34.7
		2018	50	49	13	26.5
		2019	49	49	12	24.5
		小計	149	147	42	28.6
	理学療法学科	2017	18	16	4	25.0
		2018	20	20	7	35.0
		2019	20	20	6	30.0
		小計	58	56	17	30.4
	作業療法学科	2017	20	17	7	41.2
		2018	20	19	4	21.1
		2019	19	19	4	21.1
		小計	59	55	15	27.3
	学部全体	合計	266	257	74	28.8

*調査依頼の封書及びe-mailの双方が不達の卒業生を除いた数とする。

	学科名	学生数	対象組織数 (附属病院内)	調査組織数* (附属病院内)	回収数	回収率(%)
・雇用者調査	看護学科	149	57 (24)	56 (23)	30	53.6
	理学療法学科	58	24 (1)	24 (1)	16	66.7
	作業療法学科	59	38 (2)	38 (2)	25	43.1
	学部全体	266	119 (27)	118 (26)	71	60.2

*協力不可（調査対象者が長期不在のため等）の対象組織を除いた数とする

5. 結果概要

(1) 調査方法の検討（回収率）

卒業生266名に対して、卒業時に登録した住所（郵送）もしくはe-mailに調査票が届いたのは257名（96.6%）だった。2017年度入学生で未達の割合がやや高かったが、卒後3年目程度であれば、卒業時の登録住所・e-mailを活用した方法が有効であることがわかった。回収方法については、web回答が68件（91.9%）、郵送回収が6件（8.1%）で多くはweb回答であったが、郵送回収も貴重なデータであることから、web回答に限定した調査方法への変更には検討を要する。有効回収率は28.8%と低調だった（2018年の卒業生Lineを用いた調査の回収率は54.1%）ため、次回の調査においては、謝礼の提供なども含めて回収率を上げる対策を講じる必要がある。

(2) DPの評価・到達度（卒業生調査・雇用者調査）

卒業生の自己評価では、18項目中16項目において“4. まあそうである”が多く、概ね肯定的であった（図1，表1）。なかでも評価がとくに高い項目は、項目11[患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる（平均値=4.46）]と、項目7[医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる（平均値=4.43）]だった。相対的に評価が低いのは、項目5[国際的な視野を有している（平均値=2.80）]と、項目6[保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている（平均値=3.45）]であった。

一方、雇用者による卒業生のDPの評価・到達度では、18項目中16項目において“4. まあそうである”または“5. そうである”が多く、他者評価も概ね肯定的であった（図5，表5）。その中で評価がとくに高い項目は、項目11[患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる（平均値=4.27）]、項目14[自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている（平均値=4.38）]で、相対的に評価の低い項目は、項目5[国際的な視野を有している（平均値=2.99）]と、項目6[保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている（平均値=3.24）]だった。卒業生の自己評価と雇用者の他者評価を比較すると、評価の高い・低い項目はほぼ一致しており、これにより本学の教育における強み／弱みが明確にされたことと、卒業生が自身の能力評価を適切に行う力が養われていることが明らかにされた。

今回の調査結果と2018年調査を比較すると、卒業生調査では全ての項目で今回の調査が前回調査の得点を上回っていた。雇用者調査においても、12項目で今回の調査の得点のほうが高くなっていたが、変化は小さく「微増」と言える。卒業生調査は前回調査と比較して回収率が低く、標本における選択バイアスが生じている可能性（自己評価の高い学生に調査協力が偏っている）もあり、以前よりも学生の能力が伸長していると結論づけることはできない。雇用者調査においては、項目9[医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）として従事するために必要な技術を身につけている]は（2018

年平均値=3.91, 2023年平均値=3.70) は得点が大きく下落しており、コロナ禍での教育の結果として、卒業生の実践力が低下している可能性も考えられる。

学科別にみると、卒業生調査では、看護学科の得点(平均値=4.24)が理学療法学科(平均値=3.86)、作業療法学科(平均値=3.91)に比較して高くなっていた。一方で、雇用者調査では作業療法学科の得点(平均値=4.11)が、看護学科(平均値=3.79)、理学療法学科(平均値=3.77)よりも高くなっていた。自己評価と他者評価に過大な乖離が生じないように、学生の自己評価の認識のありかたを指導していくことが必要かもしれない。

(3) カリキュラム(専門教育科目・一般教育科目・統合学習等:卒業生調査)

卒業生による一般教育科目の評価は、8項目中6項目で“4.まあそうである”が多く、概ね肯定的な評価をしていた(図2,表2)。その中でも、項目8[学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた(平均値=3.96)]、項目4[人間を総合的に理解するための学習内容が充実していた(平均値=3.95)]が他の項目より高い評価であった。一方、項目7[学習量の負担が大きかった(平均値=2.81:逆転項目)]と項目5[教育内容の重複や不足している点があった(平均値=2.84:逆転項目)]は評価が低かった。また、2018年度調査との比較では、全ての項目において2023年度調査の得点が高くなっていた。

卒業生による専門教育科目の評価は、9項目中8項目において肯定的な回答が得られ、とくに項目1[興味や関心のある科目が設定されていた(平均値=4.32)]、項目9[学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた(平均値=4.30)]の得点が高くなっていた(図3,表3)。逆に、項目7[学習量の負担が大きかった]では同意する回答が46.0%と多く、学生は負担として感じていた。学科別の比較では、作業療法学科で評価の低い項目が多く、とくに項目2[コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた(平均値=3.60)]、項目4[人間を総合的に理解するための学習内容が充実していた(平均値=3.87)]の評価が低かった。一方で、項目7[学習量の負担が大きかった]は作業療法学科の得点が低く(平均値=2.33)(負担を感じていない)、看護学科で同意する意見が多くなっていた(平均値=3.86)。2018年度調査との比較では、全ての項目において評価が向上していたが、より一層の改善が望まれる。

卒業生による統合学習(保健医療総論・地域医療合同セミナー)および本学の教育の特徴に関する評価については、全体的に“4.まあそうである”が多く、肯定的な回答が得られた(図4,表4)。とくに項目4[少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った]は“5.そうである”が半数弱(48.6%)であり、本学部の特徴である少人数教育の有効性が学生の実感としても表現される結果となった。また、地域医療合同セミナーについては、必修選択化される以前のカリキュラムであり履修者は少ないが、肯定的回答が86.4%と多かった。また、2018年度調査との比較では、全ての項目(項目6を除く)において評価が向上していた。

II. 卒業生調査:卒業生による自己評価

1. DPの評価・到達度(図1,表1)

DPの評価・到達度については、18項目中16項目において“4.まあそうである”が多く、概ね自己評価は肯定的であった。自己評価がとくに高い項目は、項目11[患者(利用者・住民)と良好な対人関係を築くことができる(平均値=4.46)]と、項目7[医療専門職としての自覚をもち責任のある行動が

とれる（平均値=4.43）]であった。一方、項目5 [国際的な視野を有している（平均値=2.80）]と、項目6 [保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている（平均値=3.45）]は、“3.どちらでもない”“2.あまりそうではない”の回答が多く、他の項目より評価が低くなっていた。

学科別にみると、看護学科（平均値=4.24）が、理学療法学科（平均値=3.86）、作業療法学科（平均値=3.91）に比較して得点が高くなっていた。なかでも、項目16 [他職種の技術や専門性を理解している（平均値=4.55）]、項目9 [医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）として従事するために必要な技術を身につけている（平均値=4.21）]が、他の学科の得点よりも高くなっていた。

同じ調査項目で行われた2018年の調査と今回の調査を比較すると、得点の高いまたは低い項目の傾向は概ね同じであったが、全ての項目において今回の調査の得点が2018年調査の得点を上回っていた。とくに、項目13 [医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる（2018年平均値=3.63, 2023年平均値=4.07）]は得点が大きく上昇していた。

2. カリキュラムの評価

(1) 一般教育科目の評価（図2, 表2）

一般教育科目の評価は、8項目中6項目で“4.まあそうである”が多く、全体的に概ね肯定的な評価が得られた。その中でも、項目8 [学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた（平均値=3.96）]、項目4 [人間を総合的に理解するための学習内容が充実している（平均値=3.95）]が他の項目より高い評価であった。一方、項目7 [学習量の負担が大きかった（平均値=2.81：逆転項目）]と項目5 [教育内容の重複や不足している点があった（平均値=2.84：逆転項目）]は、“3.どちらともいえない”の回答が他の項目よりも多く、相対的に低い評価となっていた。

学科別にみると、看護学科の卒業生は、作業療法学科・理学療法学科の卒業生より高い評価をしていた。ただし、項目7 [学習量の負担が大きかった]の項目については、看護学科で同意する回答が多く、作業療法学科で同意する回答が少ないなど、学科による回答の差がみられた。また、作業療法学科では、項目5 [教育内容の重複や不足している点があった]への同意が、他の学科よりも多くなっていた。

2018年度調査との比較では、全ての項目において2023年度調査の得点が高くなっていた。相対的に評価の低い項目5 [教育内容の重複や不足している点があった]、項目7 [学習量の負担が大きかった]についても、前回調査に比較して肯定的な回答の増加が認められた。

自由回答では、「経済等の社会的な内容」、「歴史（対象理解のためには時代背景を学ぶことも重要）」、「普段身に付けることのできない社会や英語」等の科目の充実を求める意見がみられた。

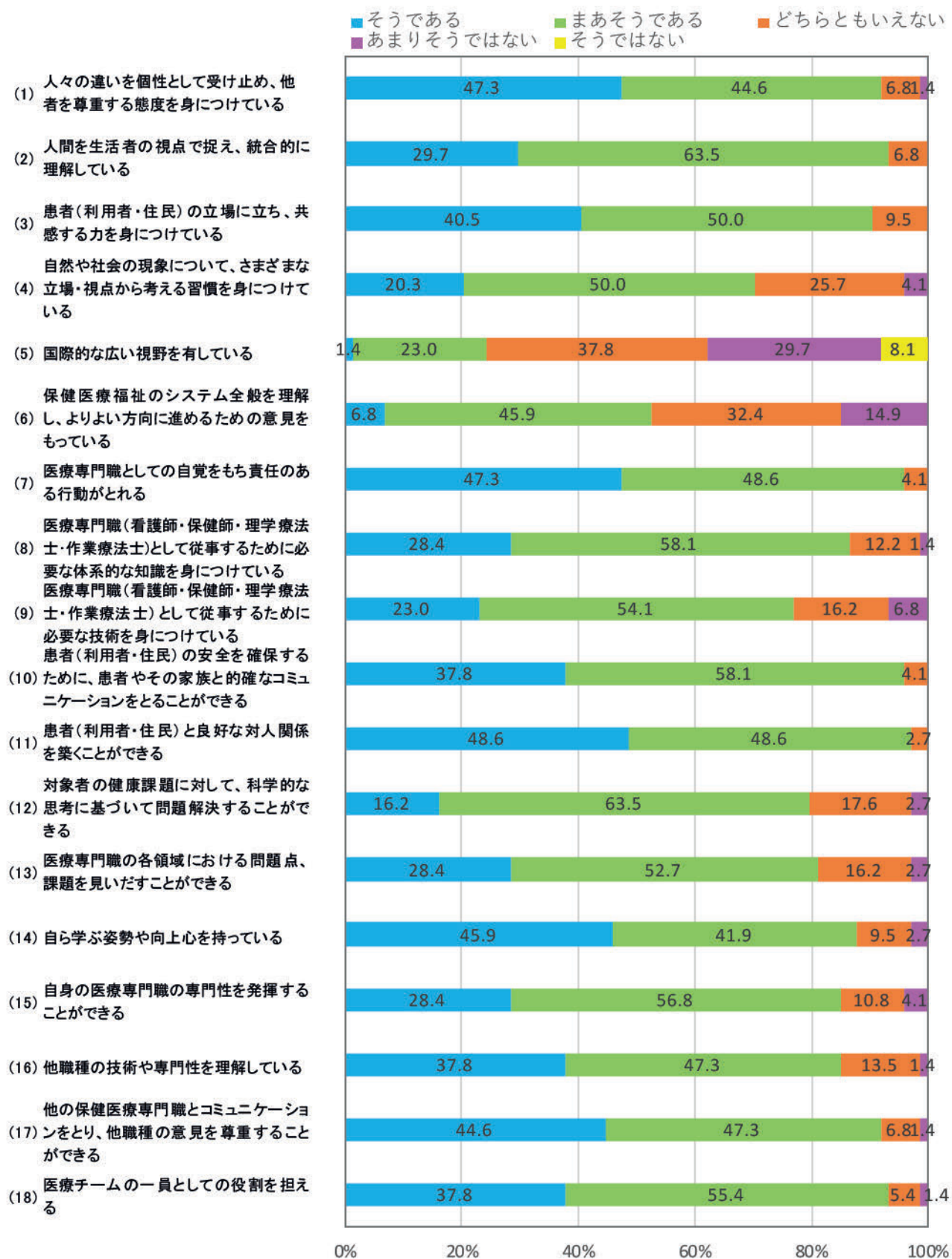


図1. 卒業生による DP の評価・到達度

表 1. DP の評価・到達度（学科別・年度別）

	卒業生 (2023)				卒業生 (2018)
	全体 (n=74)	看護学科 (n=42)	理学療法学科 (n=17)	作業療法学科 (n=15)	全体 (n=129)
(1) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	4.38	4.45	4.29	4.27	4.26
(2) 人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している	4.23	4.31	4.12	4.13	4.06
(3) 患者（利用者・住民）の立場に立ち、共感する力を身につけている	4.31	4.43	4.18	4.13	4.20
(4) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	3.86	3.95	3.88	3.60	3.67
(5) 国際的な広い視野を有している	2.80	2.88	3.00	2.33	2.76
(6) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている	3.45	3.52	3.12	3.60	3.08
(7) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	4.43	4.60	4.18	4.27	4.24
(8) 医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）として従事するために必要な体系的な知識を身につけている	4.14	4.31	3.88	3.93	3.77
(9) 医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）として従事するために必要な技術を身につけている	3.93	4.21	3.53	3.60	3.57
(10) 患者（利用者・住民）の安全を確保するために、患者やその家族と的確なコミュニケーションをとることができる	4.34	4.50	4.12	4.13	4.10
(11) 患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる	4.46	4.57	4.29	4.33	4.29
(12) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる	3.93	4.07	3.82	3.67	3.68
(13) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	4.07	4.26	3.76	3.87	3.54
(14) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	4.31	4.43	4.12	4.20	3.99
(15) 自身の医療専門職の専門性を発揮することができる	4.09	4.31	3.82	3.80	3.72
(16) 他職種の技術や専門性を理解している	4.22	4.55	3.59	4.00	3.94
(17) 他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	4.35	4.57	3.82	4.33	4.12
(18) 医療チームの一員としての役割を担える	4.30	4.45	4.00	4.20	3.92
平均得点	4.09	4.24	3.86	3.91	3.83

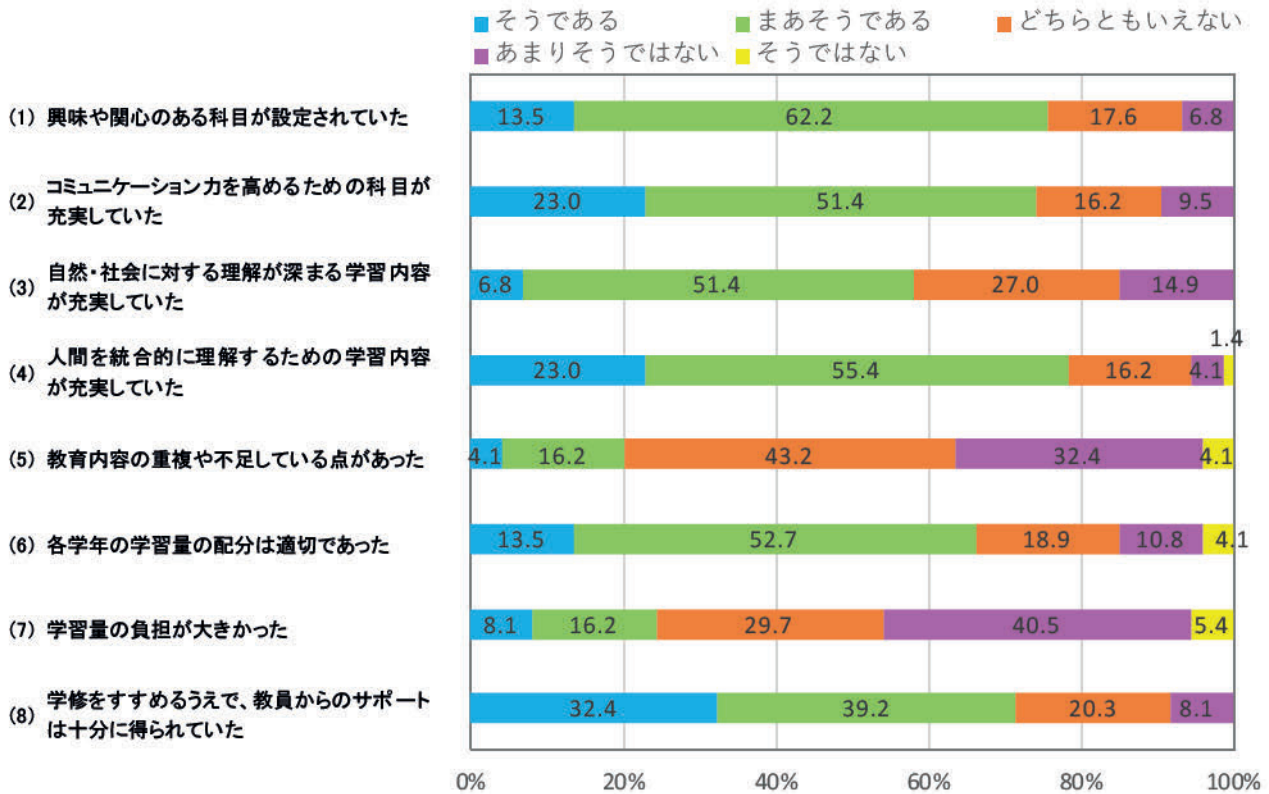


図 2. カリキュラムについて：一般教育科目

表 2. カリキュラムについて：一般教育科目（学科別・年度別）

	卒業生 (2023)				卒業生 (2018)
	全体 (n=74)	看護学科 (n=42)	理学療法学科 (n=17)	作業療法学科 (n=15)	全体 (n=129)
(1) 興味や関心のある科目が設定されていた	3.82	4.00	3.65	3.53	3.56
(2) コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた	3.88	4.19	3.53	3.40	3.49
(3) 自然・社会に対する理解が深まる学習内容が充実していた	3.50	3.55	3.47	3.40	3.19
(4) 人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた	3.95	4.14	3.71	3.67	3.54
(5) 教育内容の重複や不足している点があった (逆転項目)	2.84	2.79	2.76	3.07	3.19
(6) 各学年の学習量の配分は適切であった	3.61	3.52	3.82	3.60	3.22
(7) 学習量の負担が大きかった (逆転項目)	2.81	3.10	2.59	2.27	3.03
(8) 学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた	3.96	4.17	3.71	3.67	*2023年からの追加項目
平均得点 (逆転項目は逆転後の得点を利用)	3.63	3.71	3.57	3.49	3.25

(2) 専門教育科目の評価 (図3, 表3)

専門教育科目の評価では、9項目中8項目において肯定的な回答が得られ、とくに項目1 [興味や関心のある科目が設定されていた (平均値=4.32)]、項目9 [学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた (平均値=4.30)] の得点が高くなっていった。逆に、項目7 [学習量の負担が大きかった] では、同意する回答が46.0%と多く、学生の負担として感じられていた。

学科別の比較では、作業療法学科において評価の低い項目が多く、とくに項目2 [コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた (平均値=3.60)]、項目4 [人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた (平均値=3.87)] などの項目が、他の学科に比べて得点が低くなっていった。一方で、項目7 [学習量の負担が大きかった] は作業療法学科の得点 (平均値=2.33) が低く (負担を感じていない)、看護学科 (平均値=3.86) で同意する意見が多くなっていった。

2018年度調査との比較では、全ての項目 (項目9は新項目のため非該当) において評価が向上していた。とくに項目4 [人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた]、項目5 [教育内容の重複や不足している点があった]、項目6 [各学年の学習量の配分は適切であった] については、その変化 (評価の向上) が大きくなっていった。

自由回答については下記の意見・評価の記述があった (記載は加工済み)。

<看護学科>

- ・ 附属病院があるため、職種や地域の枠を超えた事例に触れながら学習することが出来た (専門職としての目標を持って前に進むことに繋がっている)。
- ・ 実習や日々の看護の学習において、特にレポートや記録物の分量がとても多く負担が大きかった。
- ・ 2年から3年へのステップアップの幅が大きすぎる (特に看護過程の学習)。
- ・ 1年生と3年生での課題の負担。手書きでの提出のため時間がかかり身体的な負担も大きかった。
- ・ 授業の感想及び質問等その場で記載するもの以外のレポート等は、手書きではなく、修正しやすさを加味しても電子入力可にして欲しかった。
- ・ 課題が多いと思っていましたが、その経験が知識・技術につながっており、感謝している。
- ・ 2名の学生で1名の患者を担当するとき、学生の記録のあり方について配慮してほしい。
- ・ アセスメントの書き方を、例示を見せてからさせてほしい。グループワークにおいても学生全員のなんとなくの意見で看護の方針を決めていた。
- ・ 学習効果が期待できないような学習法 (ノートの取り方の指定や枠内に文字をたくさん書く提出物)。

<理学療法学科>

- ・ 段階ごとに学習できてよかった。
- ・ 教員からのサポートが得られやすかった。
- ・ 少人数のため、講師との距離が近い状況で学習できた。
- ・ キャリアデザインを受講したかった。

<作業療法学科>

- ・ 充実していて、臨床に出てとても活きている。
- ・ ケース報告や評価のテストはやっていてよかった。
- ・ 人間関係やコミュニケーションの面で適応できていない人へのサポートや面談が不十分な点があり、就職後に非常に苦労しているケースがある。

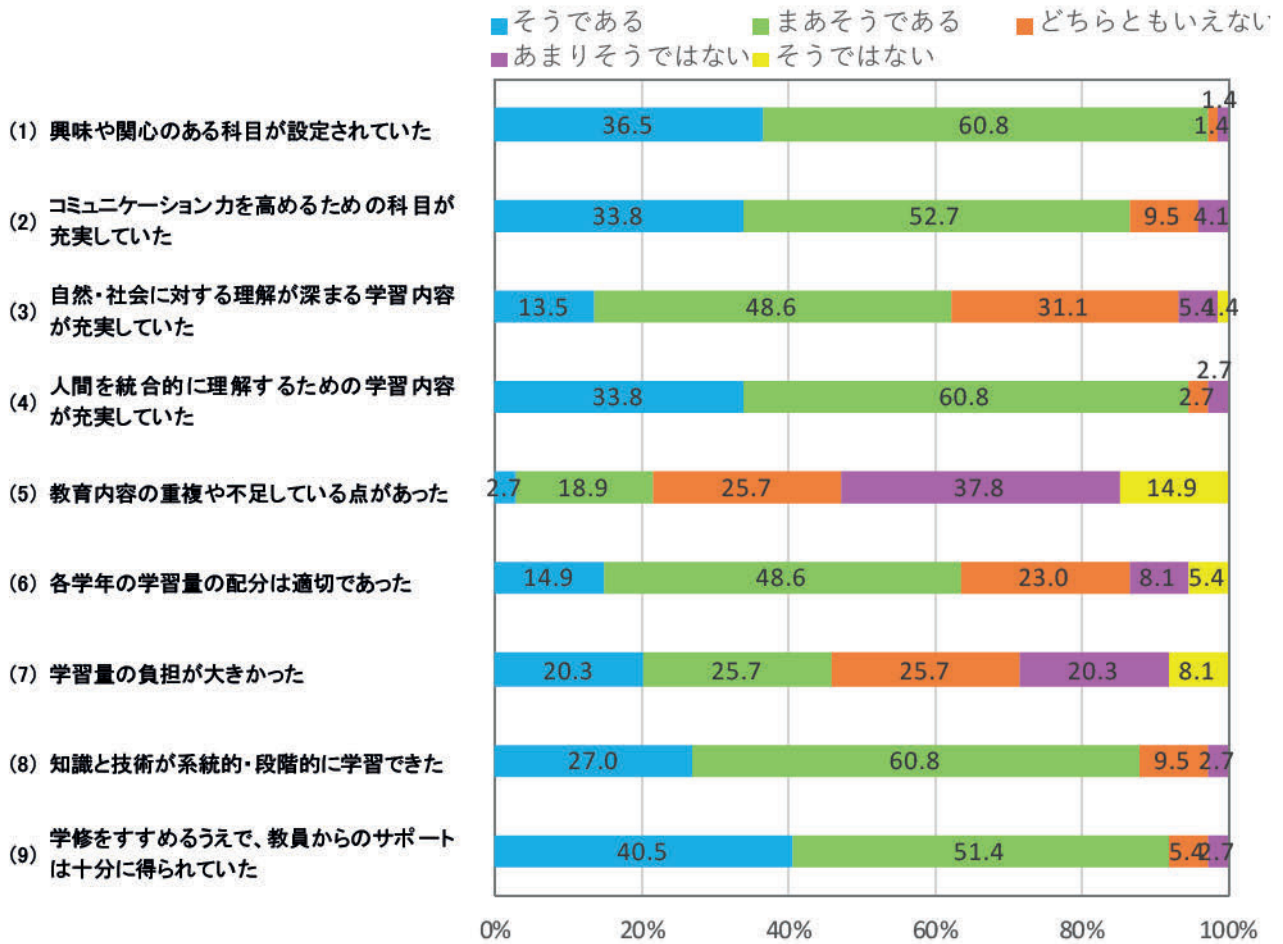


図 3. カリキュラムについて：専門教育科目

表 3. カリキュラムについて：専門教育科目（学科別・年度別）

	卒業生 (2023)				卒業生 (2018)
	全体 (n=74)	看護学科 (n=42)	理学療法学科 (n=17)	作業療法学科 (n=15)	全体 (n=129)
(1) 興味や関心のある科目が設定されていた	4.32	4.40	4.35	4.07	4.24
(2) コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた	4.16	4.40	4.06	3.60	3.96
(3) 自然・社会に対する理解が深まる学習内容が充実していた	3.68	3.76	3.71	3.40	3.39
(4) 人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた	4.26	4.45	4.12	3.87	3.86
(5) 教育内容の重複や不足している点があった (逆転項目)	2.57	2.48	2.59	2.80	3.10
(6) 各学年の学習量の配分は適切であった	3.59	3.52	3.94	3.40	3.14
(7) 学習量の負担が大きかった (逆転項目)	3.30	3.86	2.76	2.33	3.34
(8) 知識と技術が系統的・段階的に学習できた	4.12	4.26	4.06	3.80	3.86
(9) 学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた	4.30	4.33	4.41	4.07	*2023年からの追加項目
平均得点 (逆転項目は逆転後の得点を利用)	3.84	3.87	3.92	3.67	3.50

(3) 統合学習および本学の教育の特徴の評価（図4，表4）

統合学習および本学の教育の特徴の評価では、全体的に“4. まあそうである”が多く、とくに項目4 [少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った] は“5. そうである”が半数弱（48.6%）であり、本学部の特徴である少人数教育の効果が、学生の実感としても表現されていた。また、地域医療合同セミナーについては、必修選択化される以前のカリキュラムであるため履修者は少ないが（複数年の受講者5.4%、単数年の受講者24.3%）、卒業生からの肯定的回答は86.4%と高かった。

学科別の評価では、作業療法学科において、項目1 [保健医療総論の内容が充実していた（平均値=3.67）]、項目4 [少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った（平均値=3.87）]、項目6 [学内での学習と臨地・臨床実習は段階的・有機的に展開されていた（平均値=3.47）] の項目の得点が低く、項目2 [地域医療合同セミナーの内容が充実していた（平均値=4.60）] の得点が高かった。看護学科では、項目5 [授業の予習・復習内容が提示され、自発的・継続的に学ぶことができた] の得点が他の学科よりも高くなっていた（平均値=4.05）。

2018年度調査との比較では、全ての項目（項目6を除く）において評価が向上していた。

自由回答については下記の意見・評価の記述があった（記載は加工済み）。

<保健医療総論>

- ・医療チームとして動く意識をつける上で重要な科目だと思う。集団での動き方への考え方を評価指導していただけたらもっと良かったと思う。
- ・異なる職種の現場で実習でき勉強になった。
- ・3年生で他職種のシャドーイングを行う実習は他の科目では得られない学びがあり非常に役立った
- ・他職種の役割や専門性について見学を通して学ぶことができ、理解が深まった。
- ・職業理解に役立った。
- ・それぞれの視点の違いも学ぶことができ、とても勉強になった。
- ・翌年に多職種の視点から事例検討できるので発見も多かった。
- ・小グループでの討論を行うことで、他職種と対等に討論を行うことができると感じました。
- ・他学科の人との交流が生まれていたのもそこはとてもよかった。
- ・他学科とコミュニケーションを図る良い機会であったと思う。
- ・コロナ禍におけるオンラインでの意見交換が難しかった。
- ・カンファレンスの仕方から学習させて、意見を出せる状態を整えて欲しい（患者の支援方針について意見を合わせる学習について）。
- ・医学部との関わりもあると、さらにチーム医療について学ぶことができたのではないと思う。
- ・開講時期については疑問。

<地域医療合同セミナー>

- ・地域医療に興味があり、取りたい気持ちはあったが、単位に反映されないことが気になった（単位と認められれば複数年受講してもよいと思った）。
- ・単位がない科目は興味があっても受けない。受ける余裕がない。
- ・他学部と知り合い、交流のきっかけとなった。現在も交流があり有用だった。
- ・卒業単位に参入されない点で少々勿体無いと感じる。医学科と合同で学習できるのは貴重だと思うので、もう少し受講しやすければと感じる（今となっては4年間選択すればよかったと思っている）。

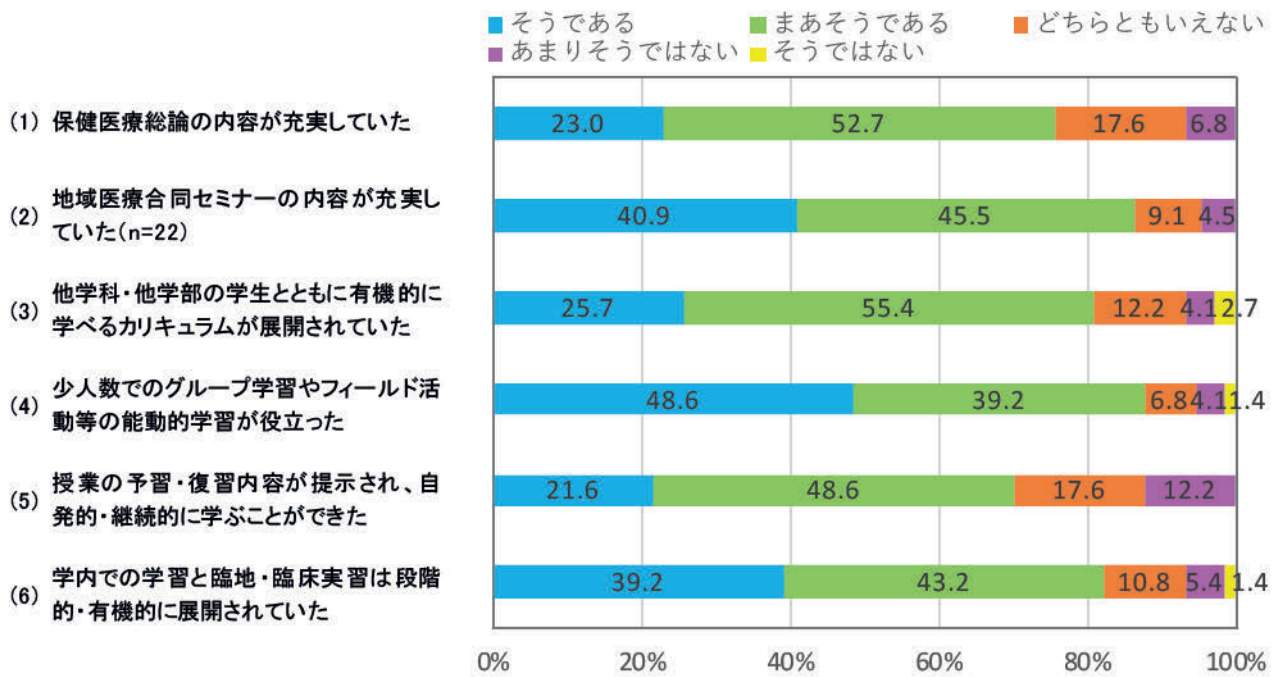


図 4. 統合学習・本学の教育の特徴の評価

表 4. 統合学習・本学の教育の特徴の評価 (学科別・年度別)

	卒業生 (2023)				卒業生 (2018)
	全体 (n=74)	看護学科 (n=42)	理学療法学科 (n=17)	作業療法学科 (n=15)	全体 (n=129)
(1) 保健医療総論の内容が充実していた	3.92	4.00	3.94	3.67	3.59
(2) 地域医療合同セミナーの内容が充実していた (n=22)	4.23	4.13	4.00	4.60	3.19
(3) 他学科・他学部の学生とともに有機的に学べるカリキュラムが展開されていた	3.97	3.98	4.00	3.93	3.68
(4) 少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った	4.30	4.43	4.35	3.87	4.14
(5) 授業の予習・復習内容が提示され、自発的・継続的に学ぶことができた	3.80	4.05	3.53	3.40	3.39
(6) 学内での学習と臨地・臨床実習は段階的・有機的に展開されていた	4.14	4.33	4.24	3.47	*2023年からの追加項目
平均得点	4.06	4.15	4.01	3.82	3.60

(4) 本学で学んだことの中で、卒業後とくに有用であったこと

<看護学科>

- ・グループワークが多かったため、様々な意見を聞きながらまとめ、結論づける体系が身についた
- ・看護を行う上での思考過程。グループワークの中で考える力が身につき、職場での実践に活かすことができていると感じる。
- ・グループワーク後に先生方からの考えや意見をもらい、学びが深まった。視野が広がり患者の個別性を捉えようとするところに繋がられている。まだまだ経験が浅いため、引き出しを増やせる機会が大学で得られるのは大きかったと感じる。
- ・グループワークが多かったことで職場のカンファレンス等にすぐ馴染むことができ、年齢や立場関係なく自分の考えをしっかりと伝える姿勢が身についたのでよかった。
- ・グループワークがとて多くコミュニケーション能力を培うことができたと感じている。就職後も学生時代と同様に自分の意見を伝えることと相手の意見を聞き入れる力が必要であり、その力を学生時代に知らず知らずのうちに身につけることができていたんだと思う。
- ・専門教育科目や保健医療総論、地セミなどの多くの科目の授業・実習でグループで取り組む形式は、仕事をするうえでも糧になっていると感じる。
- ・患者のアセスメント能力や、それを先輩に伝え必要な支援を得るための能力はかなり養われた。
- ・各領域でのアセスメントを重点的に学ぶことができたため、臨床でも日々のアセスメントを行うことをあまり苦に感じなかった。
- ・自分の考えを言語化して伝えたり、周りの意見を聞きながら方向性を定めてまとめていく過程で、コミュニケーション力を培ったり、複数の情報を自分の中に理解して落とし込み、実践に活かす過程に役立っているように思う。
- ・患者を総合的に捉える視点や多職種連携について学べたこと
- ・他職種とのコミュニケーション方法や繋がり。職場に卒業生がいたことで、業務が円滑に進んだ経験が何度もあった。
- ・同期とのつながり。
- ・日頃の課題や実習などの「わからないことを、どう調べるか」という学ぶ姿勢を作れたこと。
- ・基礎看護学の演習のテストで実技練習をたくさんしたこと。
- ・看護の技術演習
- ・医学的な知識を学ぶことができたのは就職してからもかなり役に立った。特に解剖生理や疾病の機序等は、支援の根拠につながる部分であり、就職してからの学び直しも楽だった。
- ・ボディメカニクスの授業
- ・手書きでたくさん課題があったこと。
- ・複数の課題に取り組む力も身につけられ、仕事の優先順位を立てるのに役立っている。
- ・附属病院に就職したため電子カルテの使用方法を覚えやすかった。

<理学療法学科>

- ・理学療法分野の評価に関する知識・技術
- ・実習で経験した問題点の統合解釈は現在の臨床でも有用である。
- ・PBLなど、症例の統合と解釈を少人数で深める活動は、卒後も自分の考察を深めて治療介入を検討するきっかけになったと思う。

- ・臨床実習を通して学んだ一連の理学療法プロセス
- ・保健医療総論で他職種の役割や多職種でのケア方法について学べた。
- ・研究についての知識
- ・ゼミでの英文抄読

<作業療法学科>

- ・人脈や卒後学習グループの紹介がありがたかった。
- ・基本的な知識・技術が学べたことは、卒業後の研鑽の中で専門性を高めていくために役立っていると感じる。
- ・基礎医学（特に解剖学）や評価学における知識、経験。
- ・MMT、ROMのテスト、解剖実習、臨床実習後のケース報告や検討が臨床に出て特に活着していると実感している。

Ⅲ. 雇用者調査：雇用者による卒業生の他者評価

1. DPの評価・到達度（図5，表5）

雇用者による卒業生のDPの評価・到達度については、18項目中16項目において“4. まあそうである”または“5. そうである”が多く、他者評価は概ね肯定的であった。その中でとくに評価が高い項目は、項目11 [患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる（平均値=4.27）]、項目14 [自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている（平均値=4.38）] だった。一方、項目5 [国際的な視野を有している（平均値=2.99）]と、項目6 [保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている（平均値=3.24）] は“3. どちらでもない”の回答が多く、相対的に評価が低くなっていた。

学科別にみると、作業療法学科の得点（平均値=4.11）が、看護学科（平均値=3.79）、理学療法学科（平均値=3.77）に比較して高くなっていた。なかでも、項目2 [人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している（平均値=4.21）]、項目12 [対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる（平均値=4.12）] において他の学科よりも得点が高くなっていた。

同じ調査項目で行われた2018年の調査と今回の調査を比較すると、得点の高いまたは低い項目の傾向は概ね同じであった。得点の変化については、12項目において今回の調査の得点が前回の得点を上回っていたが、変化は小さく「微増」と言える。しかしながら、項目4 [自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている（2018年平均値=3.50，2023年平均値=3.76）] は得点上昇の度合いが大きく、項目9 [医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）として従事するために必要な技術を身につけている（2018年平均値=3.91，2023年平均値=3.70）] は得点下降の度合いが大きくなっていた。

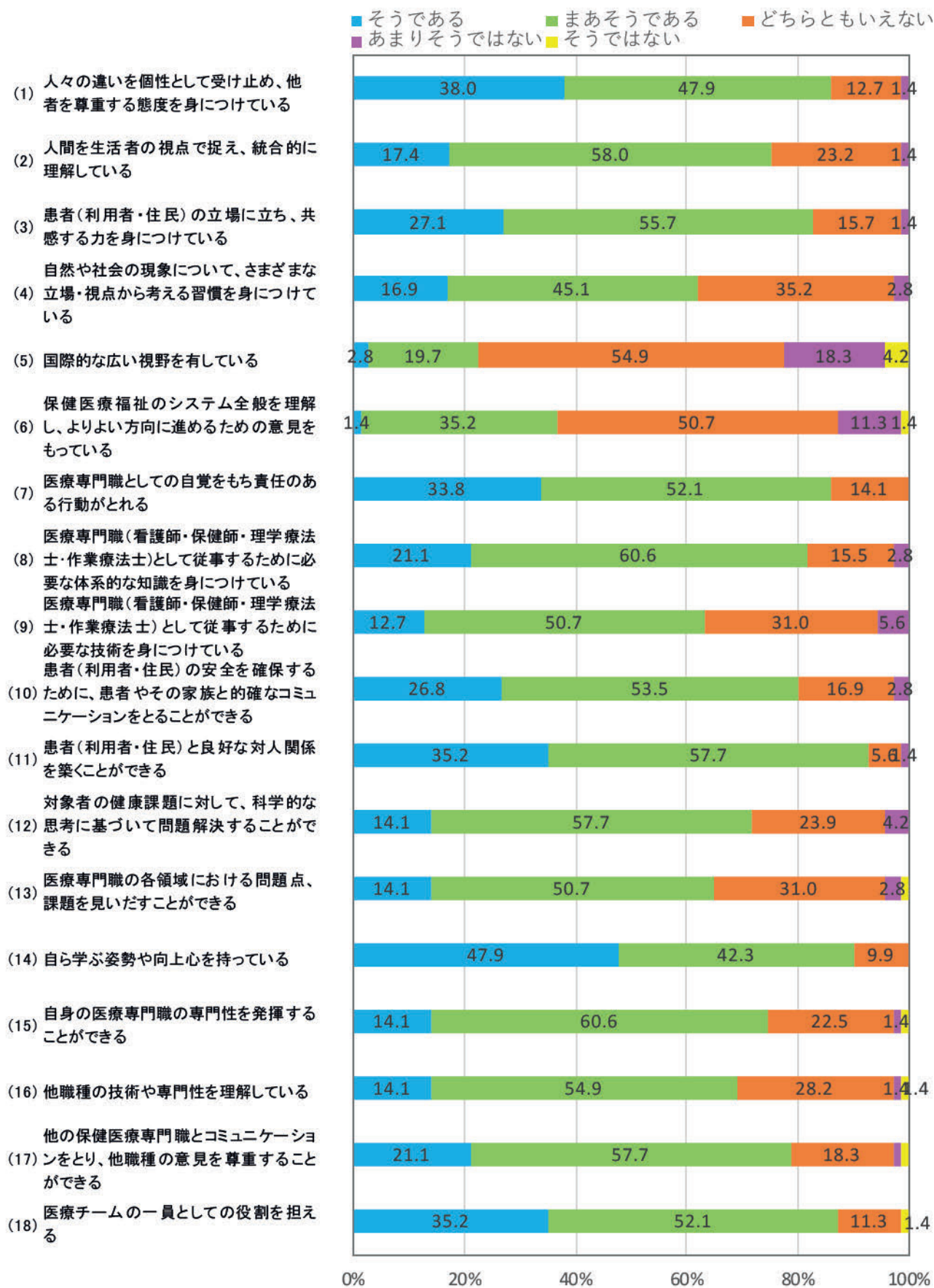


図 5. 雇用者による卒業生の DP の評価・到達度

表 5. 雇用者による卒業生の DP の評価・到達度 (学科別・年度別)

	卒業生 (2023)				卒業生 (2018)
	全体 (n=71)	看護師 (n=30)	理学療法士 (n=16)	作業療法士 (n=25)	全体 (n=58)
(1) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	4.23	4.03	4.25	4.44	4.15
(2) 人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している	3.91	3.79	3.69	4.21	3.88
(3) 患者(利用者・住民)の立場に立ち、共感する力を身につけている	4.09	4.03	4.06	4.17	4.09
(4) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	3.76	3.70	3.44	4.04	3.50
(5) 国際的な広い視野を有している	2.99	2.80	3.00	3.20	2.98
(6) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている	3.24	3.27	3.06	3.32	3.29
(7) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	4.20	4.20	4.00	4.32	4.14
(8) 医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な体系的な知識を身につけている	4.00	3.83	3.94	4.24	4.07
(9) 医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な技術を身につけている	3.70	3.67	3.44	3.92	3.91
(10) 患者(利用者・住民)の安全を確保するために、患者やその家族と的確なコミュニケーションをとることができる	4.04	3.97	3.88	4.24	3.93
(11) 患者(利用者・住民)と良好な対人関係を築くことができる	4.27	4.20	4.06	4.48	4.29
(12) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる	3.82	3.70	3.56	4.12	3.75
(13) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	3.73	3.60	3.56	4.00	3.63
(14) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	4.38	4.37	4.19	4.52	4.27
(15) 自身の医療専門職の専門性を発揮することができる	3.85	3.63	3.81	4.12	3.91
(16) 他職種の技術や専門性を理解している	3.79	3.67	3.81	3.92	3.77
(17) 他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	3.96	3.73	3.94	4.24	3.79
(18) 医療チームの一員としての役割を担える	4.20	4.03	4.13	4.44	4.05
平均得点	3.90	3.79	3.77	4.11	3.86

2. 雇用者による卒業生の評価（自由回答：加工済み）

<本学の卒業生が特に優れているもの：看護学科>

- ・積極的に学ぼうとする姿勢がある。
- ・事物を謙虚に受け止め、自ら進んで様々なことに取りくもうとする姿勢がある。
- ・自己研鑽能力、学ぶ姿勢、基本的な能力
- ・学習する力
- ・学習能力が優れている。思考能力が優れている。
- ・学ぶ力
- ・学習の能力・論理的に考える力・発信する力
- ・個人差が大きいので全員ではないが、論理的思考が優れていると感じることがある。
- ・知識がしっかり身についている。
- ・基礎学力が高い人が多いように感じる。
- ・基礎学力は他大学の卒業生よりも高い。学習をつみかさねて、最終的なゴールへ向かうので、理解するまでに多少時間がかかっても、将来的にはのびていく印象がある。
- ・多角的な視点からアセスメントをすること、考える力は優れている。
- ・物事の本質を見ようとする力・考察力
- ・利用者や家族に寄り添う気持ちを持っている。
- ・保健師として、住民・地域を対象に看護や支援を実施するという役割をしっかりと認識できている。
- ・他職種と積極的にコミュニケーションがとれる。

<本学の卒業生が特に優れているもの：理学療法学科>

- ・分からないことがあれば、自ら調べた上で上司・先輩等に相談することが出来る。
- ・他の養成校の卒業生に比べ、学術的な事への理解があり医師とのコミュニケーションにおいて、理解が早い。
- ・基礎的な知識は十分持っており、指導されたことや自ら学ぶことなどの学習能力が高い。
- ・基礎知識の高さ
- ・論理的思考、プレゼンテーション、理解力
- ・基本スペックは高い。考える力や処理能力のレベルが高い。
- ・物事へ取り組む効率性
- ・興味がある分野への思いが強い。
- ・共感と考察力が優れている。
- ・周りの状況を把握し、対応することが出来る。
- ・同僚や患者様に対して気配りができる。

<本学の卒業生が特に優れているもの：作業療法学科>

- ・基礎的な学力が高い
- ・一定の学力的な担保
- ・知識が確かである。
- ・疾患の知識、臨床や治療知識にすぐれている。

- ・自ら課題に気づき、改善していこうという姿勢があり、教育する上で安心感がある。
- ・知識や技術を向上させようという意志がある。
- ・学ぼうとする意欲
- ・知識が豊富で研究心が強い。
- ・知識・技術の探求心が高い。
- ・全般的に能力が高く、向上心なども持ち合わせている方が多い。
- ・常に学ぶ姿勢と意欲
- ・学ぶ姿勢がとてもあり、自分で調べものをしたり、先輩や上司に対して助言やSV（スーパービジョン）を求めたり、患者のために動ける卒業生だと思う。
- ・物事を理論的に考えて行くことができる。
- ・課題を理解し、思考することができる。
- ・指導した内容の理解が早く、業務効率が良い印象があります。
- ・思考の整理・文章構成能力・言葉を適切に用いまとめる力
- ・同僚、多職種との協調性
- ・スタッフ間の人間関係の作り方がとても上手（新卒スタッフの中でも優れている）
- ・周囲の状況を理解して動き、自分から相手のカバーに入れる。
- ・患者中心に物事を考えること。
- ・患者に対して真摯に向き合い対応している。
- ・何事もまず行動に移すことができる。
- ・自身の意見をしっかりと持っている。
- ・謙虚な姿勢
- ・PC操作にすぐれている。

<本学の教育について、さらに力を入れてほしいことや課題：看護学科>

- ・他者と協働して課題を解決するためのマネジメント力
- ・看護は処置をすることではないことを教えてもらいたい。
- ・メンバーシップ、リーダーシップ
- ・長期的なキャリアUPについての意欲
- ・対人能力
- ・最低でも5年継続とスキルUPし、教育、指導、リーダーシップがとれるようになってほしい。
- ・メンタル面が強くない人が多いかもしれない。
- ・患者や特に家族の方とのコミュニケーションがなかなかうまく取れない方がいるように感じる。
- ・先輩や他職種とのコミュニケーションについて、自分から発信することが少なく課題となっている方が多々いる。
- ・他職種（他学科）との連携など広い視野をもった学生（卒業生）になるよう教育してほしい。

<本学の教育について、さらに力を入れてほしいことや課題：理学療法学科>

- ・組織マネジメント、リーダー教育。
- ・技術面
- ・学生同士で健常者を触れ計測できるようにさらに経験を積んできて欲しい。

- ・興味のあることには突き進むが、やや視野が狭くならないか心配な面がある。
- ・自分の興味、関心以外のことにも目や耳を向けられる広い視野、心を持ったセラピストを育成してほしい。
- ・積極性

<本学の教育について、さらに力を入れてほしいことや課題：作業療法学科>

- ・他者（同僚等）への優しさ、理解といった情緒的側面。
- ・知識が自分より少ない人や自分と意見が異なる人等も尊重できる人間性。
- ・就職後の教育、相談先として学校にも支援していただけると非常に助かる。
- ・学生の自己認識を育むこと。自己理解が低いために職場で不適応を起こす場合がある。自分の欠点を認めること、他者に手伝って欲しいと相談できること、どうしたら解決できるかを考えて努力していくことなど人としての成長。
- ・学術的な取り組みで全体をリードしてほしい。
- ・プレゼンテーション能力
- ・人の気持ちに寄り沿う心が大切（よくやってくれている）。
- ・卒後教育：卒業生に如何に学びを継続させるか。
- ・専門職としての患者の全体像をみる力が年々低下している様に思う。1つ1つの評価はできてもなかなか統合することが難しく、卒後教育の重要性を感じる（担うのは現場か?）。
- ・文献を読む力や習慣

IV. 卒業生による自己評価と雇用者による他者評価の比較

雇用者による他者評価と卒業生による自己評価を比較すると、16項目において卒業生の得点が高くなっていた。とくに、項目16 [他職種の技術や専門性を理解している] と、項目17 [他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる] の2項目は、雇用者と卒業生の得点の乖離が特に大きくなっていた。項目5 [国際的な視野を有している] と、項目14 [自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている] は、雇用者の得点が卒業生の得点より高くなっていた。

V. 資料

1. 教育目標、ディプロマポリシー（2013年度策定）

(1) 教育目標

- 1 人間の生命や人権を尊重し、様々な背景を有する人々を生活者の視点で全人的に捉え、共感をもって接することのできる人材を育成する。
- 2 文化や価値の多様性を認識し、社会的な視座で諸事象を捉えることのできる人材を育成する。
- 3 保健・医療・福祉の支えを要する個人・家族・地域社会に対して、対象の特性に応じた専門性の高い実践を行うための知識・技術の基礎・基本を高いレベルで有する人材を育成する。
- 4 専門職としての自覚と責任に基づいて、地域社会に内在する保健・医療・福祉の諸課題に向き合い、現状の改善・改革のために創造的に思考し積極的に行動できる人材を育成する。
- 5 保健・医療・福祉における自らの役割・機能を深く認識し、他職種を含む様々な立場の人々と連携・協働できる人材を育成する。
- 6 専門的能力の維持・開発に継続的に取り組むとともに、高い自己学習力と向上心をもって看護学・理学療法学・作業療法学の発展に寄与する姿勢を有する人材を育成する。

(2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

札幌医科大学保健医療学部は、学部の共通方針のもとに各学科が定める所定の単位を修得し、将来の地域医療を担う看護師・保健師、理学療法士、作業療法士に求められる専門性と実践力を兼ね備えた、以下の能力を有する学生に学位を授与します。

1. 建学の精神を実現するための基盤となる能力

- 1) 人権・人格・個性を尊重する能力
- 2) 自然や社会の様々な現象を多角的にとらえ、論理的に思考する能力
- 3) 国際的視野に立ち社会的な諸課題を見つめ、主体的に物ごとに参画する能力
- 4) 私たちが暮らす社会の保健・医療・福祉の改善を志向し、行動する能力

2. 保健・医療・福祉の実践を担う専門職としての能力

- 1) 看護師・保健師・理学療法士・作業療法士それぞれの専門領域に求められる体系的な知識と技術
- 2) 対人関係を築き、発展させるためのコミュニケーション能力
- 3) 専門領域における課題を明確化し、科学的な思考に基づいて問題解決する能力
- 4) 保健・医療・福祉にかかわる様々な人々と連携・協働する能力

(3) 教育目標、ディプロマポリシーと調査項目の対応

設問 番号	調査項目	対応する教育目標 (教)・ディプロマ ポリシー (D)
1	人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	教1, D1-1
2	人間を生活者の視点で捉え、総合的に理解している	教1, D1-1
3	患者（利用者・住民）の立場に立ち、共感する力を身につけている。	教1, D1-1
4	自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	教2, D1-2
5	国際的な広い視野を有している	教2, D1-3
6	保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている	教4, D1-4
7	医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	教4, D1-4
8	医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な体系的な知識を身につけている	教3, D2-1
9	医療専門職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な技術を身につけている	教3, D2-1
10	患者（利用者・住民）の安全を確保するために、患者やその家族との確なコミュニケーションをとることができる	教3, D2-2
11	患者（利用者・住民）と良好な対人関係を築くことができる	教3, D2-2
12	対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいた問題解決することができる	教3, D2-3
13	医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	教4, D2-3
14	自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	教6, D2-3
15	自身の医療専門職の専門性を発揮することができる	教3, D2-4
16	他職種の技術や専門性を理解している	教5, D2-4
17	他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	教5, D2-4
18	医療チームの一員としての役割を担える	教5, D2-4

2. 依頼文書・調査票：卒業生調査

卒業生各位

令和 5 年 8 月 4 日

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価に関する調査
ご協力をお願い

北海道公立大学法人 札幌医科大学
保健医療学部 学部長 片寄 正樹
医療人育成センター・統合 IR 部門長 辻 喜久

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

保健医療学部では、本学で行われている教育の学修成果を総合的に評価することを目的に、在学生、卒業生、および雇用者の方々に対する調査を数年に一度行っております。この結果をもとに、教育内容の一層の充実を図りたく、ご多忙の中恐縮ですが、下記の通り、調査へのご協力をお願い申し上げます。
敬具

1. 調査の目的

2017（平成 29）年度カリキュラム及び、2013 年度に策定した保健医療学部ディプロマポリシー（以下、DP とする）のもとで教育を受けた卒業生を対象とした調査を行い、卒業生の DP の到達度を評価します。また、在学生や卒業生が勤務する施設・自治体・企業を対象に同様の調査を行い、多角的に DP の到達度を評価することにより、現在のカリキュラムの評価及び次期カリキュラム改定に活用します。

2. 対象者

卒業生：2017 年度～2019 年度に保健医療学部に入学者、卒業した約 270 名

雇用者：2017 年度～2019 年度に保健医療学部に入学者、卒業した約 270 名が就職した施設・企業・自治体の各部門責任者（看護部長・リハビリテーション部門長など）

在学生：2020 年度～2022 年度に保健医療学部に入学者 2～4 年生約 270 名

3. 倫理的配慮

- 1) 調査協力への同意：本調査票の提出をもって、調査への同意とみなします。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はありません。
- 3) プライバシー保護：調査は無記名で行います。データは統計学的に処理され、個人が特定されることはありません。データはインターネットに接続しない PC またはハードディスクで管理します。
- 4) 調査結果の公表：調査結果は、全学、学部内、医療人育成センター内の会議を通じて関係者に報告されます。
- 5) 予期される危険と費用負担：回答は 15 分程度の時間を要します。Web 回答の場合は、環境によりインターネット接続費用がかかる場合があります。

4. 調査期間：2023 年 8 月 4 日～2023 年 8 月 20 日

5. 調査方法

郵送法とインターネット調査の併用となっています。同封の調査票にご記入いただき、郵送で返送するか、右記の QR コードから Web 入力による回答のいずれかをご選択ください。 質問紙は全 4 ページ、回答に要する時間は 15 分程度です。



(<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/hokegakusotsugyou/main>)

6. その他

DPを含む本学の教育ポリシーは、<https://web.sapmed.ac.jp/jp/summary/03bqho000022u2hy.html>
(または右記の QR コード) で確認することができます。



本調査につきご不明な点は、保健医療学部統合 IR 部門連携ワーキンググループの教員へお尋ねください。調査の趣旨をご理解の上、ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

<問合せ先>

札幌医科大学保健医療学部 統合 IR 部門連携ワーキンググループ

e-mail: iir-desk@sapmed.ac.jp (日中・夜間)

電話：代表 011-611-2111 (日中)

担当：山本 武志 (看護学科：内線 23780)

横山 和樹 (作業療法学科：内線 28870)

岡田 尚美 (看護学科：内線 28690)

根木 亨 (理学療法学科：内線 29150)

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価に関する調査

本調査へのご協力をいただきありがとうございます。本調査は、

- (1) 下記にご回答いただき郵送で提出する
 - (2) 右記 QR コードから Web 入力により回答して提出する
- の 2 通りの方法でご回答いただけます。いずれかの方法を選択してください。



1. はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます。あてはまるところに○をつけ、空欄には該当する文言を記入してください。

(1) 性別

1. 男性 2. 女性 3. 回答しない・左記に該当しない

(2) 入学年度（学籍番号）について、あてはまるところに○をつけてください

- 看護学科： 1. 17N 2. 18N 3. 19N 4. その他（ ）
理学療法学科： 1. 17P 2. 18P 3. 19P 4. その他（ ）
作業療法学科： 1. 170 2. 180 3. 190 4. その他（ ）

(3) 現在の職種（*複数回答可）

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師
4. 理学療法士
5. 作業療法士
6. その他の医療関係職種（ ）
7. 医療関係以外の職種（ ）
8. 学生（大学院生、専攻科学生など）
9. 無職
10. その他（ ）

(4) 勤務形態（仕事をしているかたのみお答えください）

1. フルタイム 2. パートタイム・非常勤 3. 産休・育休などを取得中

(5) 現在の勤務地（又は居住地）

1. 札幌市内 2. 札幌市外（北海道内） 3. 北海道外

(6) 職場の施設種別

1. 医療機関 2. 福祉施設 3. 行政機関 4. 教育機関 5. 民間企業
6. その他（ ）

2. 保健医療学部のディプロマポリシーに関する以下の項目について、現在のあなたの状況に最もあてはまるところに○をつけてください。

No	<共通項目>	そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	5	4	3	2	1
2	人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している	5	4	3	2	1
3	患者(利用者・住民)の立場に立ち、共感する力を身につけている	5	4	3	2	1
4	自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	5	4	3	2	1
5	国際的な広い視野を有している	5	4	3	2	1
6	保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている	5	4	3	2	1
7	専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	5	4	3	2	1
8	看護師・保健師(理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な体系的な知識を身につけている	5	4	3	2	1
9	看護師・保健師(理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な技術を身につけている	5	4	3	2	1
10	患者(利用者・住民)の安全を確保するために、患者やその家族と的確なコミュニケーションをとることができる	5	4	3	2	1
11	患者(利用者・住民)と良好な対人関係を築くことができる	5	4	3	2	1
12	対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる	5	4	3	2	1
13	専門領域における問題点、課題を見いだすことができる	5	4	3	2	1
14	自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	5	4	3	2	1
15	自身の専門性を発揮することができる	5	4	3	2	1
16	他職種の技術や専門性を理解している	5	4	3	2	1
17	他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	5	4	3	2	1
18	医療チームの一員としての役割を担える	5	4	3	2	1

3. 本学のカリキュラムについてうかがいます。最もあてはまるところに○を、空欄には設問に対して自由に記述してください。

(1) 一般教育科目についてうかがいます

No		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	興味や関心のある科目が設定されていた	5	4	3	2	1
2	コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた	5	4	3	2	1
3	自然・社会に対する理解が深まる学習内容が充実していた	5	4	3	2	1
4	人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた	5	4	3	2	1
5	教育内容の重複や不足している点があった	5	4	3	2	1
6	各学年の学習量の配分は適切であった	5	4	3	2	1
7	学習量の負担が大きかった	5	4	3	2	1
8	学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた	5	4	3	2	1

(2) 専門教育科目（専門基礎科目、専門科目、統合学習、臨地・臨床実習）についてうかがいます

No		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	興味や関心のある科目が設定されていた	5	4	3	2	1
2	コミュニケーション力を高めるための科目が充実していた	5	4	3	2	1
3	自然・社会に対する理解が深まる学習内容が充実していた	5	4	3	2	1
4	人間を統合的に理解するための学習内容が充実していた	5	4	3	2	1
5	教育内容の重複や不足している点があった	5	4	3	2	1
6	各学年の学習量の配分は適切であった	5	4	3	2	1
7	学習量の負担が大きかった	5	4	3	2	1
8	知識と技術が系統的・段階的に学習できた	5	4	3	2	1
9	学修をすすめるうえで、教員からのサポートは十分に得られていた	5	4	3	2	1

(3) 一般教育科目、専門教育科目の学習について良かった点、改善してほしい点について自由にご記入ください

--

(4) 統合学習の科目についてうかがいます

No		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	保健医療総論の内容が充実していた	5	4	3	2	1
2	地域医療合同セミナーを受講した (あてはまる場所に○→)	複数年 ・ 1年間だけ ・ 受講 受講した 受講した しなかった				
3	(地域医療合同セミナーを受講した方に伺います) 地域医療合同セミナーの内容が充実していた	5	4	3	2	1

(5) 保健医療総論の内容、方法について意見があれば自由にご記入ください

--

(6) 地域医療合同セミナーの内容、方法について意見があれば自由にご記入ください

--

(7) 本学の教育の特徴についてうかがいます

No		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	他学科・他学部の学生とともに有機的に学べるカリキュラムが展開されていた	5	4	3	2	1
2	少人数でのグループ学習やフィールド活動等の能動的学習が役立った	5	4	3	2	1
3	授業の予習・復習内容が提示され、自発的・継続的に学ぶことができた	5	4	3	2	1
4	学内での学習と臨地・臨床実習は段階的・有機的に展開されていた	5	4	3	2	1

(8) 本学で学んだことの中で、卒業後とくに有用であったことは何ですか？自由にご記入ください

--

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れてご返送ください。

3. 依頼文書・調査票：雇用者調査

各位

令和 5 年 7 月 24 日

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく
*****学科卒業生の学修成果の評価に関する調査 ご協力をお願い

北海道公立大学法人 札幌医科大学
保健医療学部 学部長 片寄 正樹
育成センター・統合 IR 部門長 辻 喜久

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
保健医療学部では、本学で行われている教育の学修成果を総合的に評価することを目的に、在学生、卒業生、および雇用者の方々に対する調査を数年に一度行っております。この結果をもとに、教育内容の一層の充実を図りたく、ご多忙の中恐縮ですが下記の通り、調査へのご協力をお願い申し上げます。
敬具

1. 調査の目的

2017（平成 29）年度カリキュラム及び、2013 年度に策定した保健医療学部ディプロマポリシー（以下、DP とする）のもとで教育を受けた本学理学療法学科卒業生が勤務する施設・企業・自治体の管理職を対象とした調査を行い、本学卒業生の DP の到達度を評価します。また、在学生や卒業生を対象に同様の調査を行い、多角的に DP の到達度を評価することにより、現在のカリキュラムの評価及び次期カリキュラム改定に活用します。

2. 対象者

雇用者：2017 年度～2019 年度に保健医療学部に入学者、卒業した約 270 名が就職した施設・企業・自治体の各部門責任者

卒業生：2017 年度～2019 年度に保健医療学部に入学者、卒業した約 270 名

在学生：2020 年度～2022 年度に保健医療学部に入学者 2～4 年生約 270 名

3. 倫理的配慮

- 1) 調査協力への同意：本調査票の提出をもって、調査への同意とみなします。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はありません。
- 3) プライバシー保護：調査は無記名で行います。データは統計学的に処理され、個人が特定されることはありません。データはインターネットに接続しない PC またはハードディスクで管理します。
- 4) 調査結果の公表：調査結果は、全学、学部内、医療人育成センター内の会議を通じて関係者に報告されます。
- 5) 予期される危険と費用負担：回答は 5 分程度の時間を要します。Web 回答の場合は、環境によりインターネット接続費用がかかる場合があります。

4. 調査期間：2023 年 7 月 24 日～2023 年 8 月 7 日

5. 調査方法

郵送法とインターネット調査の併用となっています。同封の調査票にご記入いただき、郵送で返送するか、右記の QR コード（または URL）から Web 入力による回答のいずれかをご選択ください。質問紙は全 2 ページ、回答に要する時間は 5 分程度です。

(<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/hokegakukoyoupt/main/>)



6. その他

DP を含む本学の教育ポリシーは、<https://web.sapmed.ac.jp/jp/summary/03bqho000022u2hy.html>
(または右記の QR コード) で確認することができます



本調査につきご不明な点は、保健医療学部統合 IR 部門連携ワーキンググループの教員へお尋ねください。調査の趣旨をご理解の上、ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

<問合せ先>

札幌医科大学保健医療学部 統合 IR 部門連携ワーキンググループ

e-mail: iir-desk@sapmed.ac.jp (日中・夜間)

電話：代表 011-611-2111 (日中)

担当：山本 武志 (看護学科：内線 23780)

横山 和樹 (作業療法学科：内線 28870)

岡田 尚美 (看護学科：内線 28690)

根木 亨 (理学療法学科：内線 29150)

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価に関する調査

本調査へのご協力をいただきありがとうございます。本調査は、
 (1) 下記にご回答いただき郵送で提出する
 (2) 右記 QR コードから Web 入力により回答して提出する
 の2通りの方法でご回答いただけます。いずれかの方法を選択してください。



1. 2021年3月～2023年3月の3年間に札幌医科大学保健医療学部*****学科を卒業し、貴施設に就職した*****はおおよそ何人いますか？（既に退職した者も含みます）

a. 0人 b. 1人 c. 2-4人 d. 5人-9人 e. 10人以上

→ 「a. 0人」の場合は、以上で回答終了となります。ご協力ありがとうございました。

2. 以下の各項目を読んで、2021年3月～2023年3月の3年間に札幌医科大学保健医療学部*****を卒業し、貴施設に就職した1年目-3年目の*****（既に退職した者も含みます）の平均的な素養や臨床能力として最もあてはまるところに○をつけてください。

No		そうで ある	まあ そうで ある	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	5	4	3	2	1
2	人間を生活者の視点で捉え、統合的に理解している	5	4	3	2	1
3	患者(利用者・住民)の立場に立ち、共感する力を身につけている	5	4	3	2	1
4	自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	5	4	3	2	1
5	国際的な広い視野を有している	5	4	3	2	1
6	保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見をもっている	5	4	3	2	1
7	医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	5	4	3	2	1
8	医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な体系的な知識を身につけている	5	4	3	2	1
9	医療専門職(看護師・保健師・理学療法士・作業療法士)として従事するために必要な技術を身につけている	5	4	3	2	1

No		そうである	まあそうである	どちらともいえない	あまりそうではない	そうではない
10	患者(利用者・住民)の安全を確保するために、患者やその家族と的確なコミュニケーションをとることができる	5	4	3	2	1
11	患者(利用者・住民)と良好な対人関係を築くことができる	5	4	3	2	1
12	対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づいて問題解決することができる	5	4	3	2	1
13	医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	5	4	3	2	1
14	自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	5	4	3	2	1
15	自身の医療専門職の専門性を発揮することができる	5	4	3	2	1
16	他職種の技術や専門性を理解している	5	4	3	2	1
17	他の保健医療専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	5	4	3	2	1
18	医療チームの一員としての役割を担える	5	4	3	2	1
19	<p>本学の卒業生が特に優れているものはありますか？自由にご記入ください</p>					
20	<p>本学の教育について、さらに力を入れてほしいことや課題について、自由にご記入ください</p>					

3. おわりに、あなたご自身のことについてうかがいます。あてはまる場所に○をつけ、空欄には該当する職種・職位を記入してください。

(1) 職種

1. 看護師 2. 保健師 3. 理学療法士 4. 作業療法士 5. その他 ()

(2) 職位

1. 施設管理者・経営者 2. 部長・科長職以上 3. 師長 4. 副師長・主任
5. その他 ()

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れてご返送ください。

9. IR活動年間スケジュール

日程	Data Book	新入生 アンケート	在学生 アンケート	卒業生 アンケート (自己評価)	卒業生 アンケート (他者評価)
5月	学務課と総務課 から Data 取得	調査実施			本調査実施
6～7月		解析・報告書 作成		予備調査	
8～9月	初版作成・修正	報告書作成		本調査実施	
10～11月		教務・運営委 報告	調査実施		第一版作成
12～1月			解析・報告書 作成	第一版作成	最終版作成
2～3月	最終版確定・ 教務委員会提出		教務・運営委 報告	最終版作成	

10. 分野別作成担当者リスト

データブック

鵜飼*、篠崎、高塚、加藤、小山、小川、横山、根木、深川

継続的情報収集の同意書取得・修正

鵜飼*、三原

(医) 新入生、在学生アンケート

三原*、篠崎、木村、佐藤、鵜飼

(医) 卒業生アンケート (自己評価、他者評価)

小山*、篠崎、鵜飼

(保) 新入生、在学生、卒業生アンケート

山本*、篠崎、横山、深川、根木

*責任者

(専 任)

鵜飼涉

(兼 任)

三原弘、高塚伸太郎、篠崎淳、小山雅之、山本武志、小川宰司、木村心南、
佐藤直、深川周平、横山和樹、根木亨

(部門長)

辻喜久

11. あとがき

大学のIR (Institutional Research) 組織として、2023年度の年次報告書をまとめさせていただきました。報告書では、本学の医学部と保健医療学部の基本的情報、入学生情報、在学生の学修状況、そして卒業生の能力発揮状況等についてデータを集積・分析結果を記載致しています。教員データ、教員学生比、入試、在学生、国家試験、卒業状況、卒業生の自己評価、就職先の上司からの評価等を含め、できる限り幅広く、多角的な分析を目指しました。

これらのデータを集める目的は、本学の入学試験の改革、教育プログラムの改善による在学生の学修効果の向上と、それによる卒業生の社会での活躍と貢献力を最大限に高める方策につなげていくことです。本報告書が、学内のそれぞれの部門が直面している現状の課題を把握、共有し、大学全体として教育改善のための具体的なアクションプランを継続的に策定、進めていくことの基盤材料になればと願っています。

特に、本学の教育プログラムにおいて、卒業時まで獲得する能力（コンピテンシー）と、卒業後の能力の発揮について、学修者本人と、就職先の管理者からの継続的な評価に力を入れ、卒業生の課題と、卒業生の社会での貢献を支えている獲得スキルを把握し、本学の教育改善に積極的にフィードバックすることに重点を置いています。これらは、アンケート調査に対する卒業生と多くの関係の方々のご協力の賜物です。一方で、組織内でのデータの共有・有効活用、大学院生に対するアンケート調査や、アンケートの調査の回答率など、まだまだ不十分な点も多くあります。さらに、学内組織間での多角的なデータ分析や、Web公開上での分析結果のより分かりやすい可視化なども、今後の課題となっています。

最後に、報告書の作成にあたり、ご協力いただきましたすべての教職員、学生、卒業生、および就職先管理者等、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。今後も、大学の教育、臨床、研究の質向上を図り、地域と社会に貢献する意欲的な医療者を育成するために、皆様と共に取り組んでいきたいと思っております。

敬具

札幌医科大学医療人育成センター統合 IR 部門 鵜飼 渉

索引

ST 比, 10
あしがき, 169
アンケート調査, 43, 49, 63, 65, 168
入試, 11, 168
共通テスト, 20
初期研修先, 36, 38
卒後, 34, 35, 36
卒業率, 27
卒業生, 34, 35, 63, 65, 136, 168, 169
合格率, 13, 15, 19, 32
国家試験, 28
在学生, 22, 49, 168, 169
奨学金, 26
女子学生比率, 12, 23
女性教員比率, 7
定員充足率, 24
就職・進学先 一覧（作業療法学科）, 42
就職・進学先 一覧（理学療法学科）, 41
就職・進学先 一覧（看護学科）, 40
巻頭, 5
年齢, 8
性別, 6, 11, 36
教員, 6, 7, 9, 10, 169
新入生, 43, 72, 168
既卒, 17, 29, 30, 32, 33
現役, 17
現役学生比率, 18
留年, 25
若手教員, 9
道内出身者比率, 15
道内外, 14, 34
道内比率, 35